





田島神社無之  
 阿蘇神社無之  
 國造神社  
 山上神社  
 草部神社  
 甲佐神社  
 健軍神社  
 田島神社  
 金凝神社  
 宮部神社  
 住吉神社  
 住吉神社  
 海神社  
 濱殿御子神社  
 乳母神社  
 行先殿神社  
 〇國幣小社  
 砥鹿神社  
 三宮社  
 小國神社  
 與勢戶神社  
 永無神社  
 水無神社  
 駒形神社  
 岩木神社  
 出羽神社

合八社

一社

合三社

合二社

合二社

一社

湯殿山神社  
 白比咩神社  
 金山社  
 笠筒中宮社  
 佐羅早松社  
 岩本社  
 別宮社  
 度津神社  
 大神山神社  
 日御社  
 日御社  
 宗像神社  
 荒魂神社  
 經島神社  
 物部神社  
 後部神社  
 若宮神社  
 沼名神社  
 御守神社  
 渡守神社  
 玉祖神社  
 滋宮御祖神社  
 事比羅宮  
 英彦神社  
 高木神社  
 中津神社  
 知室神社  
 高住神社

合五社

合四社

合二社

合二社

一社

合七社



幣																			
熱田神宮	三島神社	鹿島神社	香取神社	安房神社	氷川神社	廣田神社	生國魂神社	住吉神社	大鳥神社	枚岡神社	丹生川上神社	龍田神社	廣瀬神社	春日神社	石上神社	大和神社	大神神社	稻荷神社	平野神社
三十一社	十一社	六社	無社	一社	三社	四社	一社	四社	四社	一社	無社	二社	一社	七社	無社	無社	十三社	二社	一社
十三社	七社	七社	九社	一社	四社	五社	無社	四社	四社	一社	二社	一社	七社	三社	二社	十社	二社	一社	

官				本社號		從前攝社數		改正攝社數	
松尾神社	男山八幡宮	賀茂御祖神社	賀茂別雷神社	一社	二社	五社	七社	二社	八社
官國幣社改正及攝社增減表				合三社		合十三社			

杖聞社 足摩社 手摩社 素或社 都農社 天拜社 大尖社 和泉社 宰相社 老松社 福部社 神子社 神子社 神子社 神子社 神子社 天穗日命社 太宰府神社 下津宮神社 玉屋神社



國															社 格 別				
若狹彦神社	月山神社	大物忌神社	志波神社	伊佐須美神社	都都古別神社	二荒山神社	貫前神社	諏訪神社	南宮神社	玉前神社	寒川神社	甲淺間神社	河淺間神社	取國神社	東照宮	豐國神社	建勳神社	湊川神社	談王神社
二社	無	十四社	二社	五社	一社	十五社	五社	八十九社	二十八社	十二社	三社	三社	六社	二社	無	無	無	無	無
二社		三社	三社	二社	無	一社	四社	十六社	九社	無	無	一社	九社	二社					

社																			
社 小		社 中																	
談山神社	鷯戸神社	札幌神社	北野神社	吉田神社	大原野神社	貴船神社	梅宮神社	井伊谷宮	鎌倉宮	水無瀬宮	赤間宮	白峯宮	鹿兒島神社	八坂神社	霧島神社	宇佐神社	出雲大社	日吉神社	日吉神社
二社	七社	無	五社	三社	無	無	二社	無	二社	無	無	無	十二社	無	無	十八社	九社	二十九社	十七社
一社	無		六社	二社			二社	二社	二社				一社		四社	九社	十五社	三社	十二社



社																			
小																			
白山比咩神社	湯殿山神社	出羽神社	岩木山神社	駒形神社	水無神社	小國神社	砥鹿神社	海神神社	登住吉神社	宮崎神社	阿蘇神社	田島神社	西塞多神社	高真神社	香椎宮	宗像神社	土佐神社	大山祇神社	田村神社
七社	無	二社	無	無	無	九社	四社	無	一社	二社	十三社	無	無	無	二社	八十四社	六社	九社	無
五社	一社					二社	二社	三社	無	一社	八社			一社	二社	五社	三社	四社	

幣																			
中																			
大麻比古神社	忌部神社	伊弉諾神社	熊野座神社	門住吉神社	嚴島神社	吉備津神社	安仁神社	中山神社	海神神社	水若酢神社	出熊野神社	宇倍神社	出石神社	籠神神社	出雲神社	彌彦神社	射水神社	氣多神社	氣比神社
四社	八社	三社	四社	三社	三社	四社	無	三社	一社	無	八社	二社	無	一社	二社	六社	四社	十二社	十社
三社	四社	一社	六社	二社	三社	三社	四社	一社	無		九社	無		一社	二社	六社	三社	十社	十社



表	概	社	攝	社										
				度津	大神	日御	物部	沼名	玉祖	事比	英彦	太宰	都農	枚聞
合	國幣	官幣	從前	一	十二	三十四	三	三	二	無	九	二十二	六	無
計	社	社	數	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社	社
七百	四百	二百	改正	無	無	四	二	二	一	七	十三	三	三	三
八	九十六	十二	數	無	無	四	二	二	一	七	十三	三	三	三
社	社	社	數	無	無	四	二	二	一	七	十三	三	三	三
三百	百八十九	百六十七	比較	無	無	四	二	二	一	七	十三	三	三	三
五十六	社	社	數	無	無	四	二	二	一	七	十三	三	三	三
社	三百	四十五	減	無	無	四	二	二	一	七	十三	三	三	三
社	五十七	社	數	無	無	四	二	二	一	七	十三	三	三	三
三百	七	社	數	無	無	四	二	二	一	七	十三	三	三	三
五十二	社	社	數	無	無	四	二	二	一	七	十三	三	三	三
社	社	社	數	無	無	四	二	二	一	七	十三	三	三	三

内務省何十年二月十三日  
官國幣社攝末社修繕費ノ儀ニ付過八年十一月相何御指麾ノ趣候處右攝社改選更定方元教部省ニ於テ調  
査ノ上本年政始ノ節及上奏候通相定官國幣社ヘモ相違置申度此段更ニ相何候也  
指令十年三月六日  
何之通  
法制局議案十年二月二十二日  
別紙内務省何官國幣社所屬攝社更定ノ儀審案候處抑官國幣社所屬攝末社ノ區別タルヤ各社創建ノ原因  
ヲ異ニシ或ハ稱呼費費ニ仍リ其制一ナラスト雖モ概テ本社祭神ニ緣故ノ厚キモノヲ攝社トシ其他該社

ノ管スルモノヲ末社トス然ルニ經年ノ久シキ或ハ衰頽ヲ極メ或ハ兵燹ニ罹リ社頭ノ記録ヲ喪ヒ其甚シ  
キ名實紊亂祀典叙ヲ失フモノ亦尠シトセス故ニ教部省ニ於テ古書ニ據リ攝社改正ノ作リ及上奏候程  
ノ儀ニ付上申ノ趣至當ノ儀ト存候仍テ御指令案調査供高裁候也

社寺明細帳式ニ檢査テ  
加テ開申セシム  
十五年十一月内務省達乙  
第五十九號但書ヲ以テ神  
社寺明細帳式ニ神宮  
住職ノ項ヲ加ヘ且境外遷  
拜所招魂社祖靈社ノ書式  
ヲ廢シ社寺書式ニ據リシ  
ム神社創立再興ノ條ニ載  
ス十年内務省達乙第六十  
九號ハ佛寺ノ目ニ載ス

内務省達 十二年六月二十八日  
乙第三十一號府縣神祇課  
各管下神社寺院明細帳ノ儀最前進達ノ分脱誤不少候條別紙書式ニ照準更ニ精密取調且境外遙拜所招魂  
社祖靈社明細帳ヲモ調製本年六月三十日ノ現況ヲ以テ取調同十二月限り可差出此旨相達候事  
但眞宗寺院明細帳ノ儀ハ十年當省乙第六十九號達ノ趣候處今般取調ニ付テハ各宗寺院同様取調差出  
スヘキ事(東京府丙第八十七號)  
紙別社明細帳書式  
△印ハ朱書

何縣管下何國何郡何村何字何  
社格何  
某 神社

- 一 祭神
- 一 由緒
- 一 社殿間數
- 一 境内坪數并地種
- 一 境内神社幾社
- 某神社
- 祭神
- 由緒
- 建物
- 一 境内某遙拜所



十五年十一月内務省達乙  
第五十九號ヲ以テ神宮住  
職ノ項ヲ加フ神社創立再  
興ノ條ニ載ス

- 一 境內招魂社 由緒 建物
- 一 境內祖靈社 由緒 建物
- 一 境外所有地 共有人員
- 一 耕地段別 地價金額 何町字何
- 一 山林段別 地價金額 何町字何
- 一 宅地段別 地價金額 何町字何
- 一 氏子戶數
- 一 管轄廳迄ノ距離里數
- 以上 寺院明細帳書式

何縣管下何國何郡何村字何  
總本山或ハ本寺又ハ某寺末

某 寺

- 一 本尊 何宗何派
- 一 由緒
- 一 堂宇間數
- 一 境內坪數并地種
- 一 境內佛堂幾宇 某堂
- 一 本尊
- 一 由緒
- 一 建物
- 一 境內庵室幾宇 某庵
- 一 本尊
- 一 由緒
- 一 建物
- 一 境外所有地 何町字何
- 一 耕地段別 何町字何
- 一 地價金額 何町字何
- 一 山林段別 何町字何
- 一 地價金額 何町字何
- 一 宅地段別 何町字何
- 一 地價金額



十五年十一月内務省達乙  
第五十九號ヲ以テ境外遙  
拜所明細帳書式ヲ廢シ總  
テ社等書式ニ據ラシム神  
社創立再興ノ條ニ載ス

一 檀徒人員  
一 管轄廳迄ノ距離里數  
以上

境外遙拜所明細帳書式

何縣管下何國何郡何町字何

某神社遙拜所

一 由緒  
一 建物間數

一 境内坪數并地種  
一 信徒人員  
以上

境外招魂社明細帳書式

何縣管下何國何郡何町字何

招魂社

一 由緒  
一 建物

一 共有人員  
以上

境外祖靈社明細帳書式

何縣管下何國何郡何町字何

祖靈社

一 由緒

一 建物間數  
一 境内坪數并地種  
一 共有人員  
以上

明細帳取調方心得

一 明細帳ハ神社寺院境外遙拜所招魂社祖靈社ノ五種ニ分チ神社寺院ハ每郡各册ニ編製シ表紙ニ何國何郡寺院明細帳ト署記ス一部ニシテ他府縣ニ跨ル者ハ何郡ノ内ト記シ又一部一册内ハ町村ヲ以テ次叙シ同町村内ノ神社ハ社格寺院ハ宗派ヲ以テ區別シ且册首ニ町村名目錄ヲ附スヘシ境外遙拜所以下ハ每國各册ニ編製シ表紙ノ署記并ニ目錄ハ前ニ準スヘシ  
一 用紙ハ美濃十三行界紙ヲ用ヒ一社寺毎ニ各紙ニ相認ムヘシ  
但攝末社ノ名義ヲ問ハス神社境外ニ在ル者ハ總テ一社トシ各紙ニ認ムヘシ  
一 神宮官國幣社并同境内神社社格ノ有無ハ取調ニ及ハス  
一 山野路傍存置ノ神祠并衆庶參拜ヲ許可セシ人民私邸内ノ神祠ハ并ニ一社トシ其神社境内ヘ移轉セシ者ハ境内神社ノ項下ニ記スヘシ  
一 遙拜所招魂社祖靈社并ニ寺院ノ別院支坊末庵等ハ公許共有ニ係ル者ノミヲ取調フヘシ  
但官祭招魂社并ニ建物無之遙拜所ハ記載ニ及ハス  
一 由緒ハ創立公稱廢合再興復舊移轉及ヒ社格等許可ノ年月并ニ該社寺ニ關スル緣由沿革ヲ詳記スヘシ  
一 社寺境内地ノ社寺名受ニ非ル者ハ名受人ノ姓名私有共有ノ別ヲ地種ノ下ニ登記スヘシ  
一 社寺境内ニ社堂外ノ建物教院ノ類アラハ社堂間數ノ次ニ並ヘ擧クヘシ  
一 祭神由緒不詳ト雖モ古老ノ口碑等ニ存スル者ハ其旨ヲ記シ境内遙拜所等無之者ハ其項ヲ除クヘシ  
一 社寺ニ氏子檀徒無之向ハ信徒購中ノ類ノ人員ヲ記スヘシ  
一 明細帳取調濟ノ後府縣限リ處分セシ事件ニシテ明細帳ヲ改正シ又ハ記入スヘキ者ハ每月末取纏メ本

十九年九月内務省令第十  
七號ヲ以テ半報ニ改ム  
雜載ノ目ニ載ス



省へ届出ヘシ

但從前届出方ノ成規アル者ハ格別ナリトス尤向後新ニ明細書ヲ出スモノハ總テ此書式ニ準スヘシ  
 社寺局ヨリ内務省へ伺十二年五月五日  
 神社寺院明細帳ノ儀ハ明治十二年閏十月二十八日ノ御布告并五年七月舊教部省第八號達書等ニ依リ各府  
 藩縣ヨリ取調進達致候處當時地方多事倥傯ノ際取調方自然行届カス脱漏誤認指撥ニ違アラス且當時調  
 書ノ條款編製ノ體裁等今日ニ在テハ不充分ノ際取調方自然行届カス脱漏誤認指撥ニ違アラス且當時調  
 乙第五十七號御達書取調進達ノ儀ハ前條ニ依リ完全無誤ノ事務悉皆地方官ニ被任候上ハ本省ニ於テハ其大  
 體ヲ統ヘ要領ヲ攬リ以テ報告ニ應候儀ニ付完全無誤ノ事務悉皆地方官ニ被任候上ハ本省ニ於テハ其大  
 最緊要ニ有之候然ニ現今ノ明細帳ハ前條ノ如ク實際ト吻合セザル取調ニ付明細帳ノ實益ヲ損ハシ難キハ  
 勿論其ガ爲メ煩ニ地方ト往復ニ及ヒ彼我共ニ無益ノ煩勞ヲ致シ實ニ不都合ノ儀有之候就テハ今般更ニ  
 府縣ニ御達相成從前取調ノ如キ不要ノ事項ヲ省キ現今ニ必用ナル條件ノミ爲調出確實精密ナル明細帳  
 御備置相成候ハハ事務調出上許多ノ便利可有之存候當今各府縣中群馬岡山和歌山高知等數縣ハ既ニ  
 明細帳ヲ更製シ本省へ差出候向モ有之新帳改製ノ儀ハ獨リ本省ノ都合ノミナラス府縣ニ於テモ必然便  
 利ニ可有之ト被察候且祖靈社遙拜所招魂社ハ是迄明細帳差出無之ニ付今般社寺同僚調製方御達相成可  
 然存候因テ御達案并明細帳書式取調方心得共取添此段相伺候也  
 内務省書記官通達十二年十月二十日  
 重縣愛知縣靜岡縣山梨縣長野縣新潟縣富山縣石川縣福井縣滋賀縣岐阜縣愛知縣靜岡縣山梨縣長野縣  
 西縣大分縣熊本縣鹿兒島縣各通ニ被送候也  
 本年當省乙第三十一號ヲ以テ神社寺院等明細帳改製ノ儀御達相成候處山野路傍ニ存置ノ佛堂并人民私  
 邸内等ニテ衆庶參拜ヲ許可セシ者及一寺ト公認セザル道場庵室等ニテ佛堂并人民私  
 有セザルモノハ舊式中敷地幾坪ト記載候儀ト御心得有之度此段及御達案御出有之度尤モ別ニ境内ヲ  
 追テ本年當省乙第三十一號達書明細帳取調方心得ノ末項ニ明細帳ヲ改正シ又ハ記入スヘキモノト有之  
 ハ社殿堂宇ノ再建并社寺附地所買得ノ類ヲ指稱候儀ト御承知有之度此段爲念中添候也  
 本年當省乙第三十一號ヲ以テ神社寺院等明細帳改製ノ儀府縣ニ相達置候處寺院境外佛堂山野路傍ニ存置  
 ノモノ并人民私邸内等ニテ衆庶參拜ヲ許可セシ者及一寺ト公認セザル道場庵室等ニテ佛堂并人民私  
 庶參拜スルモノノ類ノ儀モ寺院明細帳書式ノ振合ヲ以テ毎國別冊ニ明細帳調製可差出旨今般府縣ハ及  
 通達條御使ニ於テモ右様御承知有之度此段申進候也  
 追テ云云(各縣ニ送)  
 内務省ヨリ沖繩縣ニ達十五年十二月二十八日  
 其縣管内神社寺院佛堂之儀別紙書式ニ照準シ明細帳調製可差出此旨相達候事  
 社寺取調兩局議案十五年十二月十五日

内務省達 十二年六月三十日

八年三月教部省達書第四號寺院僧尼現數并ニ増減表及ヒ九年十二月同第三十五號神社并ニ神官員數表  
 別紙雛形ノ通り改正并ニ社寺官有地境内木竹伐採員數表別紙ノ通り相定候條總テ雛形ニ照準半年毎ニ  
 取調翌一月七月兩度ニ可差出付テハ寺院住職進退并ニ八年三月教部省達書第五號祠官掌進退ノ儀今後  
 届出ニ不及候尤事故有之罰免候向ハ從前ノ通り其都度可届出此旨相達候事  
 但本年前期ノ分ハ來ル八月三十一日限り差出スベシ  
 △用紙美濃紙 堅七寸横五寸 管轄數國ニ涉ルモノハ每國一表ヲ作ル  
 △印ハ朱書

明治何年前期何國寺院佛堂并住職員數表

種別	寺						天	台	眞	言	淨	土	臨	濟	曹	洞	黃	葉	眞	日	進	時	融	佛	通	合	計	佛	境	外						
	創	再	復	公	改	移																									增		減		無	
																															増	減	増	減	増	減
區	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別	別						
前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後							
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何							
國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國	國							
寺	院	佛	堂	并	住	職	員	數	表																											

社寺及ヒ神官僧尼現數  
 去并ニ境内木竹伐採  
 ヲ改正ス  
 十八年七月内務省布達甲  
 第二十三號ヲ以テ送山  
 限ヲ改ム  
 十四年十月内務省達乙第  
 五十五號ヲ以テ境外佛堂ノ  
 下へ境内佛堂ノ一欄ヲ増  
 ス佛寺ノ日ニ載ス















ハ一月ヨリ十二月迄ヲ以テ一年度トス年報ハ七月ヨリ翌年六月迄ヲ以テ一年度トス且教導職試補以上ナラデハ僧尼ト公認セサル公達アリシ上ハ別ニ僧尼ノ數ヲ調査ニ及ハサルヲ以テ之ニ換ルニ任職ヲ以テシ又九年十二月同上第三十五號神社并神官表ノ儀モ是迄ノ雛形ヲ今一層簡明ニシ且私祭招魂社ヲモ相加ヘ兩表トモ改正致度且社寺官有境内木竹伐採ノ儀モ是迄總計ノ報告無之調査上不都合不鮮候ニ付此際一同取調方御達相成候様致度然ル上ハ府縣社以下祠官堂及寺院住職進退取調差出ニ不都合不鮮候ニ付テハ大ニ手帳ヲ省キ本局ニ於テモ調査ノ便ヲ得一舉兩全ト相考候條公達案并ニ雛形取調左ニ相伺候也

別紙乙第三十三號ノ通府縣ニ相達候條同様御心得有之度此段申入候也

熊本縣ヨリ内務省ヘ何十三年六月三日

明治十二年御省乙第三十三號御達神社寺院員數表雛形中合併欄内ヘ存名廢名ノ區別有之候處例ヘハ八幡神社ヘ菅原神社ヲ合併スルトキハ兩社名稱ヲ異ニスルモノニ付菅原神社ノ名稱ヲ存シ一社兩社ヲ附シテ存名ノ部ニ算入シ甲菅原神社ヘ乙菅原神社ヲ合併スルトキハ兩社同社ニ付乙菅原神社ノ名稱ハ自ラ消滅スルモノトシ廢名ノ部ニ算入シ自他佛堂ノ分モ右ニ準シ取調ヘキヤ相伺候也

内務省指令十三年七月一日

書面之趣ハ名稱ノ異同ニ關セス社名存置之情願ナキモノハ廢名ノ欄内ヘ算入候儀ト可心得事

京都府ヨリ内務省ヘ何十五年二月十日

第一條 御省十二年乙第三十三號寺院佛堂等取調心得ニ寺院并ニ佛堂ハ素ヨリ既ニ公許共有ニ屬セルモノヲ記載ス可シ但シ佛堂ハ山野路傍并ニ人民邸内ニ在テ一寺ニ列セサルモノヲ云フ有之然ルニ九年舊教部省第三十八號ヲ以テ人民邸内ニ自祭スル神祠佛堂ヘ衆庶參拜停止ノ旨御達有之候ニ付テハ爾來人民邸内ノ神祠佛堂ハ更ニ共有之筋ヲ以テ公許願出許可候モノノ外ハ人民一己ノ私有一己私祭公認スヘキモノニ無之ト存候處右心得書中ノ人民邸内ノ佛堂トハ如何ノモノヲ指スカ人民一己私祭ノ神祠佛堂ニシテ衆庶參拜公許セサルモノト雖モ神祠佛堂ト見做スモノハ取調記載スル儀ニ候哉

第二條 九年舊教部省第三十七號達ニ一般社寺ニ比シ難ク且平素監守者無之モノハ總テ最寄社寺ヘ合併又ハ移轉可爲致云云有之右移轉合併之儀ハ一應其旨及說諭可爲願出モノト存候處其說諭ヲ不承服ニテ不願出時ハ暫ク其儘ニ相存置候モ不苦儀哉果シテ然ラハ永續方法等不相立間ハ渾テ公認セサルモノトナシ員數表明細書等ニ相存置候モ不苦儀哉

右之條條即今取調中ニ付爲心得相伺候至急何分ノ御指揮相成度候也

内務省指令十五年四月二十五日

書面之趣左之通可相心得事

第一條

公許共有ニ係ルモノノ外ハ取調ニ及ハス

第二條

但公稱出願之節ハ渾テ當省ヘ伺出候儀ト心得ヘシ

縣社以下ト雖モ神宮ノ名稱アル者ハ從來ノ稱ニ從ハレム

熊本縣ヨリ内務省ヘ何十二年九月二十五日

社號名稱之儀ニ付管下神道事務分局副長ヨリ別紙寫之通伺出右ハ先年天神七世地神五世以下天孫相承御歷代ヲ奉祀スルモノヲ何何神宮トシ神代諸神且皇太子親王及人臣ヲ祭レルモノヲ何何神社トシ應天皇ヲ祭レル社ニ限リ何何入幡宮ト稱スヘキ旨御達有之タル哉ニ相考候間篤ト取調候得共不相見就テハ斷然難及指圖如何相心得可然哉且目今明細帳更正ニ關シ候儀ニ付至急何分ノ御指揮有之度候也

内務省指令十二年十月二十日

書面社號之儀ハ一定之條規無之候條渾テ從來ノ稱呼ニ任セ不苦儀ト可心得事

(別紙)

神宮ノ名稱ニ付伺

神宮ノ名稱ノ事伊勢大神宮ハ勿論ニテ官幣大社ニテハ香取神宮鹿島神宮熱田神宮宇佐神宮霧島神宮同中社ニテハ鹿兒島神宮同小社ニテハ鶴戶神宮ヨリ外無之國幣中社ニテハ西塞多神社ハ祭神入幡大神同小社ニテハ枚聞神社ハ祭神彦火火出見尊ニ有之候共總テ神社ト稱來候テ官幣社數多有之内官幣社ノニ神宮ト號シ國幣社ニハ一社モ神宮ト稱ヘ候向無之候處於當縣内ハ鄉村社ニ至迄神宮ト號候儀無謂事ニ候得共官ヨリモ其名稱ニ從ハレ表立候改正帳杯ニモ御記載ニ相成候儀何程ニ可有之候御歷代ト雖モ其社格ニ應シ神社ノ名稱ニテ聊差間有之問敷仍テ速ニ御改號ニ相成可然奉存候此段不願管見相伺候也

神道事務分局副長

少講義吉山直内印

同副長

大講義中島廣定印

明治十二年九月十三日

熊本縣令富岡敬明殿

社寺局職案十二年十月九日

官社社號ハ官ニ於テ宣定セラレ、ニ付當否ノ差別アルヘキト雖モ縣社以下民祭ノ分ハ右區別素成規モ無之且行政上強テ與カルヘキ事件ニモ非ラサル儀ニ付慣習ニ爲任可然乎

内務省社寺局ヨリ石川縣ヘ通牒 十四年十月五日

延喜式内社等確定方之儀ニ付去八年三月三日附同七月二十二日附ヲ以各神社考證等相添元教部省ヘ御伺出相成猶又九年六月二十日附ヲ以同省ヘ御再伺之趣有之候處從來式内ノ稱呼有之社ハ自今渾テ從前ノ慣稱ニ一任シ官ニ於テ干涉セサル筈決定相成依テ別段指令不相成候條右様御承知有之度此段申入候也

式内ノ神社ト稱シ來レル者ハ姑ク其慣稱ニ從ハレム



追テ本文ノ如ク從前ノ慣稱ニ爲任候儀ニハ候得共或ハ舊來式社號ヲ稱シ候モ一旦其號ヲ廢シ外稱呼ニ改候向更ニ式社號復舊之儀願出候ハ、檢地帳水帳ノ類ニ就キ從來稱呼ノ證御取調十一年乙第五十七號達第二條ニ準シ其都度御照會有之度此段申添候也

社寺局職案十四年九月三十日  
石川縣ヨリ延喜式内社寺確定方之儀ニ付伺  
右ハ舊款部省ヘ三度伺查差出有之候然ニ式内外決定之儀ハ不容易事ニ付多年遷延相成居候趣ニ候處近來式内社紛亂可否之儀ニハ官ニテ干渉不致事ニ相定リ候ニ依リ左案ノ如ク申入ニテ處分相成可然歟

東京府達 十八年五月二十二日  
丙第六十六號 神官住職廟堂受持人  
社寺明細帳書式別紙ノ通更正候條本年五月三十一日之現況ヲ以テ右ニ照準取調來ル六月三十日限り區ハ區役所郡ハ戶長役場島ハ村役場ヘ差出スヘシ  
右相達候事

△用紙美濃紙

△印ハ朱書

東京府何國何郡何町字何何番地

社 格 某社外末社ナレハ社格ノ下ニ  
某社外末社ト記スヘシ

某 祠神外末社ト記スヘシ  
字社

- 一 祭神 某尊  
△緣由等不詳ト雖モ古老ノ口碑等ニ存ス  
ルモノハ其旨ヲ登記スヘシ
- 一 由緒 問口何問  
與行何問
- 一 本社 同
- 一 拜殿 同
- 一 境内坪數及地種  
△其他ノ建物アレハ潭テ次項ヘ名稱間數ヲ並記スヘシ若  
シ屈曲シタルハ其ノ地坪數ヲ舉クルモ妨ケナシ若  
△當社ノ名受ニ非サルモノハ名受人ノ姓名私共有ノ別  
ヲ地種ノ下ニ記スヘシ
- 一 境内立木 幾本

内

目通一尺以上五尺未滿 幾本

同 五尺以上一丈未滿 幾本

同 一丈以上 幾本

一 什器  
△古來所傳ノ什器及兼座ノ寄附物等ヲ登記スヘシ且寄附年月日及ヒ  
人名等ヲモ併セ記スヘシ以下潭テ此ニ倣ヘ

一 永續資金  
若干 若シ公債證書ナレハ左ノ如ク列記スヘシ

金何圓 何號 何番 何枚 記名

一 境内末社 幾社

某 神社 潭テ本社ニ準シ取調フヘシ

祭神

由緒

建物

境内某遙拜所

△述物ナキ分ハ記載ニ及ハス

由緒

建物

一 境内招魂社又ハ祖靈社

由緒

建物

共有人員



一 境外所有地 △一筆毎ニ列記スヘシ但寄附ニ係ルモノハ其年月人名ヲモ登記スヘシ  
 田畑山林宅地段別 何町字番號  
 地價金額  
 一 氏子又ハ信徒・幾戸又ハ幾員  
 一 管轄廳迄 幾里  
 右之通相違無之候也

右神社 △或ハ某神社祠官掌務ト記スヘシ  
 祠官 何 某印  
 氏子又ハ信徒總代 △三名以上連署スヘシ  
 何 某印  
 △別ニ境内略圖ヲ添フヘシ用紙美濃紙  
 但シ建物ヘハ其名稱ヲ附記スヘシ

△用紙美濃紙

△印ハ朱書

東京府何國何郡何町字何何番地  
 本山本寺或ハ某寺末  
 何宗何派 某 寺院  
 佛堂  
 一本尊  
 一由緒 △緣由等不詳ト雖モ古老ノ口碑等ニ存スルモノハ其旨ヲ登記スヘシ  
 一本堂 △其他ノ建物アラハ渾テ次項ヘ名稱間數等ヲ並記スヘシ若シ風曲シタルモノハ其ノ建坪數ヲ舉クルモ妨ケナシ  
 一庫裏 △問口何間 與行何間 同

一 境内坪數及地種 △該寺ノ名受ニ非サルモノハ名受人ノ姓名私有ノ別ヲ地種ノ下ニ記スヘシ  
 一 境内立木 幾本  
 内  
 目通一尺以上五尺未満 幾本  
 同 五尺以上一丈未満 幾本  
 同 一丈以上 幾本  
 一 什器 △古來所傳ノ什器及衆庶ノ寄附物等ヲ登記スヘシ且寄附年月日及ヒ人名ヲモ併セ記スヘシ以下渾テ此ニ倣ヘ  
 一 永續資金 若干 △若シ公債證書ナレハ左ノ如ク列記スヘシ  
 金祿公債證書  
 金何圓 何號 何番 何枚 記名  
 一 境内佛堂 幾宇  
 某堂 △渾テ本寺ニ準シ取調フヘシ以下同シ  
 本尊  
 由緒  
 建物  
 一 境内庵室 幾宇  
 某庵  
 本尊  
 由緒  
 建物



一 境外所有地  
 田畑山林宅地段別  
 地價金額  
 一 檀徒又ハ信徒 員數  
 一 管轄廳迄 幾里  
 右之通相違無之候也

△一筆毎ニ列記スヘシ但寄附ニ係ルモノハ  
 其年月人名ヲモ登記スヘシ  
 何町字番號

右寺住職 △又ハ某寺院住職兼任職ト  
 記スヘシ 何 某印  
 檀信徒總代 △三名以上連署スヘシ  
 何 某印

別ニ境内略圖ヲ添フヘシ 用紙美濃紙  
 但建物ヘハ其名稱ヲ附記スヘシ

東京府達 丙十八年五月二十二日  
 第六十七號郡區役所戸長役場伊豆七島役所伊豆七島村役場

社寺明細帳ノ儀ニ付別紙丙第六十六號ノ通相違候條其區役所戸長役場村役場於テ遺漏ナク取纏メ郡ハ  
 郡役所島ハ島役所ヲ經テ差出スヘシ  
 右相違候事

内務省布達 甲十八年七月二日  
 第二十三號府廳

明治十二年當省乙第三十三號達神社寺院并神官住職員數表及社寺官有地境内木竹伐採表十七年同乙第  
 三十七號達神佛敎務所說敎所現數調自今兩度差出ニ及ハス候條每年十二月三十一日ノ現數ヲ取調翌一  
 月三十一日限り當省ヘ可差出此旨相違候事

社寺及神官僧尼員數表  
 外二件ノ届出期限ヲ改  
 △十九年九月内務省令第十  
 七號ヲ以テ報告例ヲ定メ  
 (支署門記録紙表ノ目ニ  
 變ス)二十年一月内務省

訓令第四號ヲ以テ社寺官  
 有地境内木竹伐採表報告  
 例ヲ改メ下ノ境内區分ノ條  
 ニ載ス

人民ノ私邸ニ社寺ヲ造  
 立スルコトヲ許ス

有栖川宮御守社造立ヲ  
 許ス

新創立ヲ許スモ限代  
 ハ下付セズ

内務省社寺局議案 十八年六月二十三日  
 社寺神官住職及木竹伐採并神佛敎務所說敎所及敎師僧侶現數調前期分進達方廢止ノ件  
 右調書前期六月三十日 進達ノ儀ハ年報材料取調ノ都合ニ有之候處昨十七年報書編製方法歷年調ニ改  
 正相成隨テ前期分ハ不用ニ屬シ候ニ付本年分ヨリ御廢止相成度公達案取調左ニ相伺候也(丁第二號ヲ以テ社)

度會府ヨリ神祇官ヘ照會元年十月二十八日  
 一筆申入候然者今般太郎館豐主ト申者ヨリ別紙ノ通願出候ニ付御打合申候右昔神ノ社ハ從來私宅ニ有  
 之此節配享願ノ趣意一ト通取調候處全土地人心奮起爲致度誠實ノ所存ニテ聊モ奸私ニ出候儀ニハ無之  
 候間此旨御辨解宜預御差圖度候右御打合申度如此候也

神祇官ヨリ度會府ヘ回答 元年十一月五日  
 別紙太郎館豐主願出ノ趣御取調有之候處昔神祇社者從來居宅地ニ有之配祭ノ儀モ全ク誠實ノ志願ニ候由  
 然者願ノ通御聞届有之候テ不苦筋ニ候右御答如此候也

大神宮權禰宜太郎館豐主ヨリ度會府ヘ願元年十月日  
 私居住境内ニ從來管公ノ社安置仕罷在候處今般改テ崇忠祠ト稱シ和氣清麻呂補正成ヲ和殿配享仕別ニ  
 荷田東麻呂加茂真淵本居宜長平田篤胤ヲ末社ニ祭リ申度奉存候然處私ニ祭リ置候テハ人心ノ崇仰モ薄  
 ク可有御座候間乍恐蒙 官許土地人心奮發ノ一助ニモ仕度奉存候何卒景慕ノ微志御憐察ヲ以右ノ通御  
 許容被爲成下候者ハ難有奉存候依テ此段奉懇願候以上

有栖川宮御守社 二年三月十三日  
 有栖川宮御守社今度御拜領ノ御地所ヘ造立相成候依テ是迄舊地ニ鎮座有之候通新ニ勸請被致度付テハ  
 神祇官ヘ宜御沙汰ノ儀奉願候以上  
 指令 二年三月日

御勸請ノ儀ハ下御靈社前神主出雲路大和守ヘ申付候事

教部省 同六年四月五日  
 新治縣下ノ者共ヨリ神武天皇ノ新創建致度別紙之通願出候段同縣ヨリ伺出候右ハ人民共議ヲ以私有



地等へ造營致候ハ差支ノ筋モ無之儀ニ付願ノ通許可致度尤神體相渡候儀ハ難和成事ト存候依テ指令案  
相添此段相伺候也

於私有地等新社造立ノ儀ハ不苦候條開届可申事  
但神體渡方ハ不相成候事

指令 六年四月十日

伺之通

新治縣ヨリ教部省へ伺六年三月二十五日  
來四月七日神武天皇御祭日ニ付今般縣下土浦町之者共一同中合近傍清淨ノ便地ヲ選ニ新社勸請致度尤  
本年ノ儀ハ榎舎ヲ設ケ當日近郷人民普ク參拜セルノ引續本殿新營每年奉祀致度段舉テ出願有之候間不  
苦儀ニ候ハ、至急御許可之上御神體御渡方御指令有之度此段相伺候也

教部省伺 六年十月十日

淺間神社宮司松岡時懋外一名ヨリ於東京猿田彦大宮寶兩神遙拜所建設ノ儀ニ付別紙之通東京府添書ヲ  
以テ願出候處右ハ私祭之儀ニテ差障ノ筋モ無之候條開届可申存候仍テ此段相伺候也

指令 六年十月十八日

伺之通開届候事

但追追諸神社勸建願人有之候處後來祭祀及補理ノ目途モ無之一時私利ヲ圖ルノ舉ニ出テ候モ有之哉  
ニ相聞却テ敬神ノ御趣意ニ戻リ候條向後出願之節ハ篤ト永續之方法等相糾漫ニ取揚申聞敷事

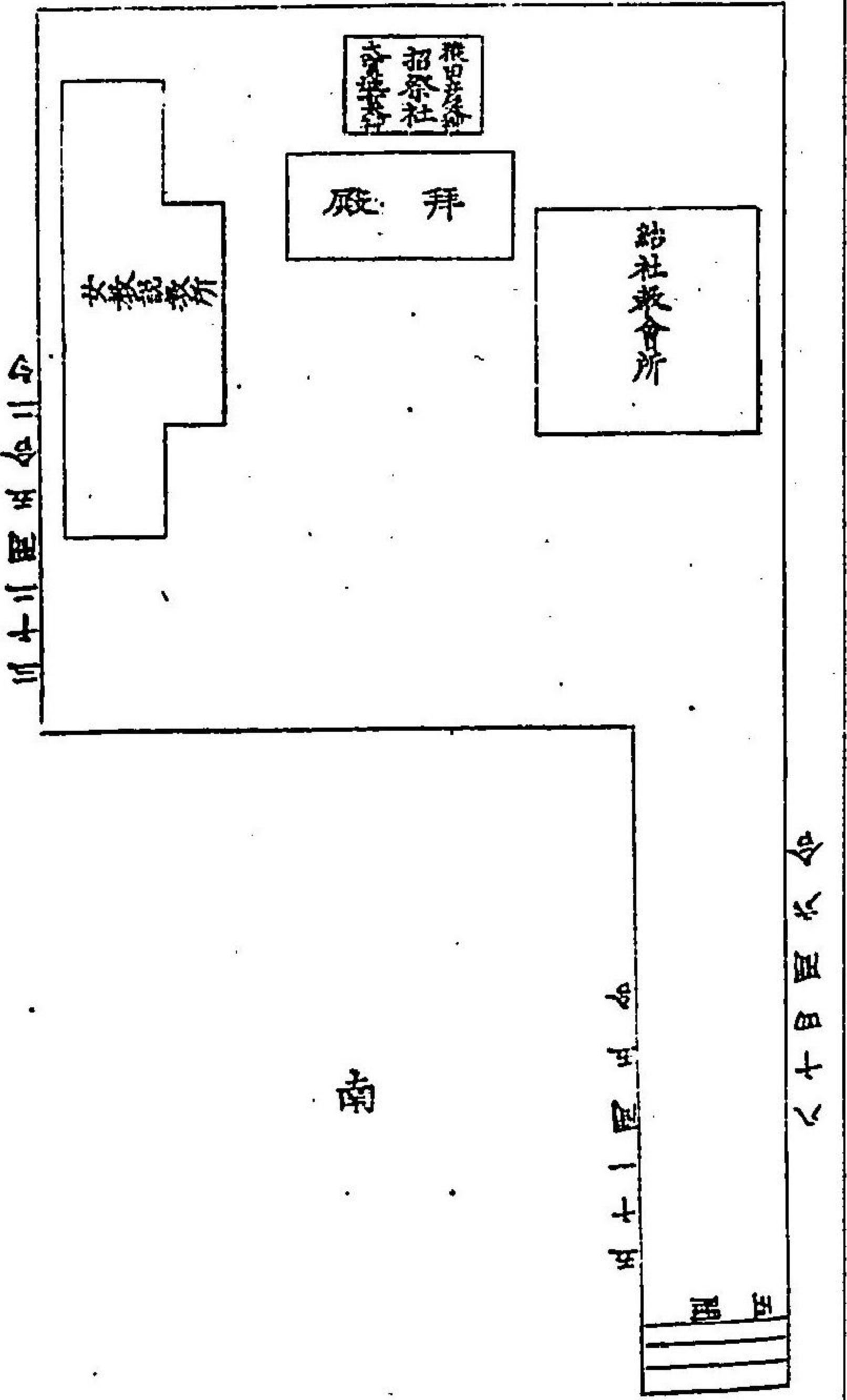
東京府ヨリ教部省へ伺六年九月十日

甲斐淺間宮司松岡時懋儀下谷西町所持地面へ遙拜所并說教所共取設ケ度旨別紙願差出候右ハ地所差支  
無之候間則御廻シ申候條可然御指令有之度候也

甲斐淺間神社宮司ヨリ東京府へ願六年九月十日

今般庚申講宮備講教會結社教部省許可相蒙リ候ニ付第五大區六小區下谷西町二番地華族從四位立花鑑  
寬邸中ノ内千九十四坪二合買受地へ猿田彦大神大宮寶大神遙拜社女教說教所結社教會所建設仕度奉存  
候依テ爲御見合別紙建坪圖并沽券相添御許可奉念願候以上

遙拜所及ヒ說教所等ヲ  
建ルコトヲ許スト雖モ  
永續ノ方法立テル者ハ  
許可セズ



庶務課議案 六年十月十日

教部省伺淺間神社宮司松岡時懋外一名ヨリ東京ニ於テ猿田彦大宮寶兩神遙拜所并女說教所等建設之儀審案  
致候處所持地私祭ノ神社ハ是迄類例モ多分有之且說教所ハ固ヨリ市中一般有之地所ニ於テモ差支無之  
旨東京府ヨリ申出候上ハ伺之通御許可相成可然被存候然ル處近來士民所持地内へ神社遙拜所等建設願  
次第御許允相成候ヘトモ多クハ一己ノ私利ヲ圖ルノ舉ニ出テ後來祭祀修補理ノ目途モ無之徒ラニ諸  
神ヲ侮設シ却テ神德ヲ冒瀆スルニ至リ敬神ノ御趣意ニ戻リ最不可然儀ニ付左之通御指令相成候方可然  
裁依テ御指令案取調相伺候也

(備考) 教部省伺 六年五月二十五日

淺川神社宮司折田年秀ヨリ於東京同社遙拜所創建ノ儀別紙之通願出候所右ハ全ク私祭ノ儀ニテ差支無  
之筋ニ付開届可申存候仍此段相伺候也

指令 六年六月四日

伺之通

淺川神社宮司折田年秀ヨリ教部省へ願六年五月二十二日  
乍恐以書面奉懇願候近來朝政御一新萬機開化ノ御盛運ニ當リ贈正三位左近衛中將楠公戰死ノ地ニ社壇  
御造營ニ和成 敕號ヲ淺川神社ト下シ賜ヒ祀典ニ被列候ハ元弘ノ古逆徒悖亂朝廷ヲ蹂躪仕候ヲ公眇々



ノ驅ヲ以テ大義ヲ天下ニ首唱シテ天日既墜ノ機運ヲ挽回シ遂ニ忠魂ヲ湊川ニ留候其誠忠ヲ御追賞被遊從  
 今天下ノ臣子ヲシテ悉ク楠公ノ精忠義訓ニ服膺セシメントノ御聖意ト深ク奉感候然ルニ今般年秀不  
 宵ノ身ヲ以テ不圖宮司兼大講義ノ命ヲ奉拜誠ニ以テ恐惶難有次第奉存候速ニ西下社務勉勵可仕ノ處熟  
 方今開化ノ形勢ヲ相考候ニ西洋日新ノ學人研究仕精理窮格有用ノ教ニハ候ヘ共一體皇國ノ儀ハ御歷  
 代綿綿聖統ヲ被爲繼四海内外比類無之御國體ニ御坐候然ル處西學萬一悖逆誤解仕共和遷替等相唱候類  
 御坐候ヲハ以テ外ノ事ニテ窮ニ洪歎悲泣仕候次第御坐候尤古來人心ヲ正シ風俗ヲ移シ候事ハ神明ヲ  
 祈リ候典額ニ付今般有志ノ徒ヲ募リ禁殺ノ下ニ楠公遙拜所ヲ經營仕元弘延元以來誠忠殉國ノ將士王事  
 ニ勞セシ忠魂ヲ配祀仕度候左候ヘハ教化ノ一助ニモ相成可申奉存候ニ付別紙相添ヘ御差圖奉伺候當今  
 聖世ニ當リ右様ノ儀言上仕候段恐入候ヘトモ治不忘亂安不忘危ト申ス古語モ候ヘハ歷代世運ノ變遷ヲ  
 鑑ミ方今開化ノ事實ヲ慮リ時勢ニ依テ挽回仕度不願斧鉞ノ誅此段奉言上候何卒年秀等區區ノ誠  
 心御辨察被成下可然御評議御採用ノ程奉願候以上  
 但地所ノ儀ハ第一大區十三小區濱町二丁目牧野康民賜邸内讓受候ニ付形行ヲ以テ東京府へ相附奉願  
 候處御差支無之旨奉承知候間此段奉言上候以上

寶 勤王 上末社  
 諸將 元弘至元中忠臣烈士諸靈  
 遺物 一大牌面ニ鑄リ靈代トス

本 小楠公 下末社  
 楠公 楠正季以下  
 殿 一族郎等戰死靈 同 安政至明治勤王殉難諸靈

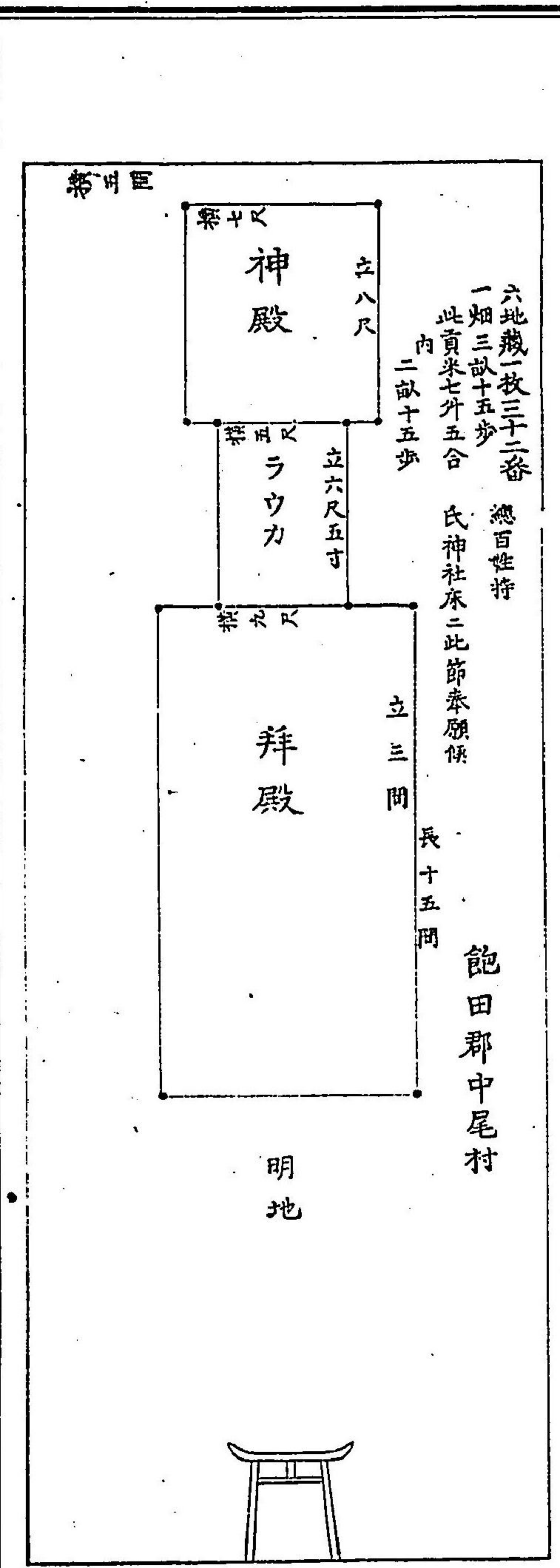
湊川神社宮司折田年秀ヨリ東京府へ願六年五月十七日  
 第一大區十三小區濱町二丁目  
 十一番地牧野康民賜邸内  
 六百七十坪  
 今般般部省へ相附奉願趣有之則讓受候地所へ楠公遙拜所造營仕度御座候間御差支不被爲在候ハ、御許容  
 被下度此段奉願候也  
 但讓受候記証相添置申候也  
 指令六年五月日  
 書面願之趣開届候事  
 湊川神社宮司折田年秀ヨリ教部省へ願六年五月二十二日

神社ヲ影祀シテ一社ヲ  
 建ルコトヲ許ス

右ハ先般御指令ノ趣ヲ以東京府へ願立候處別紙寫之通御開届罷成候就テハ更ニ別紙書面ヲ以奉願候間  
 御採用被下度此段奉願候也

教部省伺六年十一月二十五日  
 白川縣管下肥後國飽田郡中尾村ノ儀ハ從來村中別ニ神社無之候ニ付今般一村共有地ニ於テ一社創建錫  
 山神社分祀致度同所人民願出候旨同縣ヨリ具狀致シ候右ハ素ヨリ氏神ト尊崇致候儀ニテ永續ノ目途モ  
 可有之候條願之趣開届申度此段相伺候也  
 指令六年十二月九日

伺之通  
 白川縣ヨリ教部省へ伺六年十一月四日  
 當縣管下飽田郡池田郷中尾村ノ儀ハ昔加藤氏肥後守タリシ時菩提寺本妙寺へ寄附以來寺領ト成リ人民  
 氏神無之本妙寺塔中ニ建設有之候地敷ヲ氏佛ト致來候處御一新後氏子改ノ御布令ニ寄右之由緒モ有之  
 差寄錫山神社ノ氏子ニ附居候處右神社ハ村落ヨリ里餘距離仕居不便ヨリ尊崇モ自粗略ヲ生候様  
 成行候テハ御趣意ニモ相悖右村中へハ外神社無之候間村總持ノ稅地へ別紙圖面ノ一小社建設錫山神社  
 祭神ヲ齋鎮仕度段所稱人民共ヨリ願出候處事實尤ノ儀ニ候間御許容被成下度此段相願申候以上





庶務課議案六年十一月二十九日  
別紙教部省伺白川縣管下錦山神社分祀ノ儀右ハ事實無餘備相聞候間伺之趣御許可相成可然哉御指令案  
相候也

教部省布達

八年一月二十四日

諸神社分祀又ハ遙拜所建設出願之節ハ向後必ス其本社ノ承諾書相副永續方法ヲモ相認差出候儀ト可心  
得此旨布達候事

(備考)

大分縣ヨリ内務省へ伺十三年九月二十九日  
神社分祀願ハ去ル八年舊教部省布達第一號之通本社承諾書ヲ要スル成規候處右承諾書ハ該神官ニ於テ  
本社支店ナキヲ證認スルニ止リテ氏子總代者等連署ヲ要セサル儀ト心得可然哉此段相候也  
内務省指令十三年十月二十五日  
書面伺之通

教部省伺八年六月十七日

熊谷縣下ニ於テ神葬祭ノ者祖靈社設立ノ儀別紙ノ通同縣ヨリ及具狀候右ハ可聞届存候へ共爲念此段相  
伺候也

伺之趣聞届候事

熊谷縣ヨリ教部省へ伺八年六月五日

御一新以來佛葬ヲ止メ一村舉テ神葬ニ相改メ毎歲二時墳墓接續ノ陸地ニ於テ祭主打密リ祖靈鎮魂執行  
候へ共招魂場ニ差支ノ趣ヲ以テ廢寺跡荒地御拂下相願祖靈社設立永世毎戸ノ靈合祀致シ度趣ニテ地  
所御拂下願出候者有之候處右社宇建造及ヒ祖靈合祭等ノ儀差支無之儀ニ候哉否至急御指揮有之度此段  
相候也  
内務課議案八年六月十九日

別紙教部省伺熊谷縣下祖靈社設立ノ儀ハ何等故障モ無之趣ニ付左ノ通御指令相成可然哉仰高裁候也

教部省伺九年二月二十日

諸神社ノ分祀及ヒ遙拜  
所ヲ設ル者ハ本社ノ承  
諾書ヲ副テ出願セシム  
九年三月教部省達書第八  
號ヲ以テ分祀遙拜所ノ區  
別ヲ判然取附出願セシム  
又其四月達書第十六號ヲ  
以テ諸社遙拜所創設ニ限  
リ承諾書ヲ副テ出願セシム

祖靈社ヲ設立スルコト  
ヲ許ス

諸社ノ遙拜所建設ノ許  
否ヲ教部省ニ委ス

諸神社遙拜所建設ノ儀是迄其都度相伺來候へトモ右ハ衆庶共信仰ノ神靈ヲ該地ニ於テ遙拜致候ノミニ  
テ分靈鎮祭致候譯ニ無之神社創建ノ部分ト徑庭有之儀ニ付右遙拜所建設ノ節ハ篤ト調査ノ上名實祖靈  
無之向ハ自今當省限許可致度此段相伺候也  
指令 九年三月三日

伺ノ趣管廳ヲ經テ願出事實差支無之分ニ限り許可不苦候事

第二科議案九年二月二十五日

別紙教部省伺遙拜所ノ件右ハ悉皆民費ニ屬シ且地租減免ノ支障等無之全ク民願ニ係ル遙拜所ノミ該省  
限リ許可致度トノ事ニ有之旨該省主任者口演ノ趣モ有之候間伺ノ通御聞届相成可然哉尤モ地方廳ヲ經  
テ直チニ該省へ願請ニ及ヒ候者有之節其マ、差許候様ニテハ順序不宜候條左ノ通御指令案取調此段相  
伺候也

教部省達

九年三月十二日

諸神社分祀等建設之儀ニ付往往伺出有之處分社ト遙拜所之差異不明瞭向不少不都合候條神殿ヲ建築シ  
本社之分靈ヲ鎮祀致候者ヲ分社トシ拜所ノミヲ設テ遙拜式執行致候者ヲ遙拜所ト爲相心得自今出願之  
節右區別判然取調建物模樣并地面坪數等ニ至迄詳細繪圖面相添其他昨八年一當省布達第一號之通相心  
得可伺出此旨相達候事

(備考)

内務省伺十年十一月十三日  
兵庫縣下島上町長谷川保兵衛外六名ヨリ攝津國兵庫郡市逆瀬川町へ住吉神社分祀建設出願ノ趣ヲ以テ  
伺縣ヨリ伺出取調候處事實無餘儀相聞永續方法モ有之儀ニ付可聞届存候仍テ書類相添此段仰御指揮候  
也  
指令十年十一月二十日

伺ノ趣聞届候事

兵庫縣ヨリ内務省へ伺十年十月十日

當縣下攝津國第二區兵庫郡市逆瀬川町於テ住吉神社分祀建設致度旨崇敬人總代同所島上町長谷川保兵衛  
外數名連署別紙願出候處差支筋無之且永續方法ヲモ和立候儀ニ付願意聞届可然哉本社承諾書并ニ繪圖  
面相添此段相伺候也亦當省附圖面呈之  
信仰人總代長谷川保兵衛外十四人ヨリ兵庫縣へ願十年九月三日  
當港各社ノ嚴然トシテ列立シ人民ノ崇祭スル日ヲ逐ヒ駭駭タル景況ニ有之候就中該港ノ地形タルヤ海  
ニ濱シ萬國ノ船舶輻輳スル皇國中第一等ト稱スヘキ瓦港ナリ其海路ニ關スルモノ住吉ノ大神ヲ尊崇ス



ル一層ヲ加フ然ルニ其社ノ未ダ該港ニ設立ナク人民ノ失望スル所ナル以テ信從ノ者寡ク一社ヲ建立セ  
ント行望致シ候折柄頃年新川堀割成功該港ノ一便利ヲ生スト雖モ新墾ノ地タル稍モスレハ再ヒ荒蕪ニ  
歸スルノ恐レアリ此際ニ當リ該地ニ於テ別紙圖面ノ通住吉神社分社崇祭致シ土地繁榮商業開運ノ祈念  
ヲ凝シ度協働仕候處信從ノ徒油然興起シ亟成ヲ仰ク事大早ノ雲霓ニ類シク依之本社ニ照會ニ及候處別  
紙ノ通答書有之候ニ付何卒特別ノ御除讓ヲ以テ右願ノ趣御採用被爲成下度此段俱連署ヲ以奉懇願候  
也

但永世保存ノ方法ハ別紙仕譯書ノ通本港米商及諸商業其他信從ノ者蓄積金ヲ以テ祭典修繕等ノ諸費  
ニ相充候也

一金百二十圓 永續方法ノ凡積  
是ハ信仰ノ者百名ヨリ一箇月金十錢宛積金利一箇年合金高

年分社費凡積

一金十圓 年分日供

一金十圓 祭典同斷凡十二月分

一金十圓 同油蠟燭

一金十圓 同社用費

一金十圓 同登籍常備

一金三十圓 同奉仕人給與分

一金二十五圓 同臨時雇人給與分

一金二十圓 備金

如高

右年分社費凡積前顯信仰者ノ積金ヲ以テ之レニ充テ爾尙經年總修繕ノ如キハ信仰ノ者出金ヲ以テ修補  
ノ事

書記官議案十年十一月十五日

別紙內務省伺兵庫縣下兵庫郡南逆瀬川町へ住吉神社分社建設ノ儀ハ類例モ有之ニ付左ノ通御指令可相  
成哉相伺候也

別紙教部省伺

內務省へ達 九年四月二十二日

別紙教部省伺祖靈社建設ノ儀朱書ノ通及指令候條爲心得此旨相達候事

教部省伺 九年四月十二日

神葬祭ノ者祖靈社建設ノ儀別紙甲印ノ通奈良縣ヨリ伺出候所右ハ情願無餘儀相聞へ乙印熊谷縣伺濟  
ノ例モ有之候ニ付聞届可申存候且是等ノ類ハ社寺境外ニ候モ當省事務章程上款第五條社寺ノ創建ト

ハ異リ候條向後當省限り處分致シ可然哉此段併テ相伺候也 別紙乙印熊谷縣伺  
指令 九年四月二十二日

伺ノ趣聞届候事

甲印 奈良縣ヨリ教部省へ伺 九年三月十八日

當縣下宇陀郡今井村小林源三郎外四十五名ヨリ別紙ノ通祖靈社建設ノ儀願出候ニ付取調候處事實相違  
無之儀ニ付聞届候テ可然哉此段相伺候至急御指揮被下度候也

小林源三郎外四十五名ヨリ奈良縣へ願 九年三月十五日

一私共宗門ノ儀元來融通念佛宗ニ御座候所明治六百年中伺濟ノ上唯一神道ニ歸シ非儀ハ勿論祖先ノ祭  
祀等給テ神祭ニ施行仕其都度鄉村社受持ノ祠官祠掌ヨリ祭式悉皆相勤來候ニ付テハ今般別紙給圖面

ノ通當村松田文三居宅地ヨリ一町餘ヲ相隣リ候場所へ宅地ト稱シ罷在候同人所有ノ地所十八歩ヲ借  
地ニ仕祖靈社ヲ建築シ祖先ノ神靈ヲ安置シ永世盛祭祀修行仕度奉存候間此段連印ヲ以テ奉願候尤右

敷地地租ノ儀ハ年年無滯上納可仕候何卒右ノ段御採用被成下度伏シテ奉願上候也

第二科議案 九年四月十四日

別紙教部省伺祖靈社建設ノ儀審案候所既ニ熊谷縣伺濟ノ先例モ有之原意無餘儀相聞候間御許可相成可  
然哉且向來是等ノ儀ハ同省限り處分致シ度旨何等支障ノ儀モ無之候間左ノ通り御指令案取調此段相伺  
候也

教部省達 九年四月二十六日

諸神社分社遙拜所建設方區別本年當省第八號達書之趣候處自今遙拜所創建之向ニ限り本社承諾書不及  
爲相副候條此旨更ニ相達候事

但從前遙拜所ノ名義ヲ以テ取設候內本社祭神ヲ分祀シ其實全ク分社ニ異ナラサル向ハ更ニ取調繪  
圖面相添來ル七月限り改テ當省へ可申出事

東京府達 乙第十年六月八日 區區戸長

社寺境内及ヒ人民所有地ニ於テ神佛分社遙拜所出張所設教所講社等設置ノ分ハ夫夫相達シ別紙書式ニ  
倣ヒ爲取調本月三十日限り取纏メ可差出此旨相達候事

東京府下ノ神佛分社遙  
拜出張所設教所講社等  
新設ノ圖式ヲ定ム



但自今受持人交替ノ都度届出ヘキ旨相達置ヘシ

用紙美濃紙

東京府第何大區何  
小區某村何番地

某社境內

設置

何某邸內

何年何月何日於內務省允許  
舊教部省

某縣府使  
某國某郡某村

某社  
某宗某寺

分社

遙拜所

出張所

說教所

某講社

某縣府使  
某國某郡某村何番地

受持 教導職名 何 某

右ノ通相違無之候也

某社  
某寺住持

願人 教導職名 何 某

第何大區何小區戶長

何 某

年月日

東京府知事 某殿

神祠ヲ新設スルノ手續  
ヲ令ス

十一年九月内務省達乙第  
五十七號ヲ以テ社寺創建  
ノ手續ヲ定ム社寺取扱  
條ニ載ス  
五年七月教部省達第十號  
平民居宅設テ作ハ教規  
ノ日ニ載ス

愛知縣ヨリ内務省ヘ伺十一年二月二十八日  
一 神祠新規設立ノ儀ハ建物ノ大小及現在神社境内外ノ論ナク悉皆不相成候儀ニ有之候哉  
一元教部省明治五年七月第十號ヲ以テ地方ノ模様ニ依リ平民ノ居宅ヲリトモ示談ノ上相對テ以借受  
致可致儀モ可有之云云違シ相成居候ニ付テハ教職ノ自宅又ハ士民ノ控家借受豫テ說教所ニ設ク置候  
分モ右ニ照準縣廳限リ聞届可然哉  
右二箇條相伺候條即今出願ノ向モ有之候ニ付至急指揮有之度候也三月七日  
内務省指令 十一年三月八日

書面ノ趣ハ左ノ通可相心得事

第一條 人民願書及地所建物坪數永續方法書等相添其都度伺出ツヘシ  
第二條 伺ノ通

社堂ノ創建再興ニ際シ  
伺出心得方ヲ定ム

岡山縣ヨリ内務省ヘ伺十一年五月三日

第一條 容年十一月中縣下美作國真島郡仲間村字湯真賀温泉所ヘ守護神勸請ノ儀人民情願ノ次第ヲ以  
テ許否ノ儀相伺候處同十二月三日附ヲ以テ小社創建ノ儀ハ難聞届旨御指揮有之因テハ爾來小社小堂  
等創建出願ノ分ハ右御指揮ニ準據シ縣限リ指令ニ及ヒ置候儀ニ有之右ハ其社殿堂宇等稍大ナル分ハ  
其都度經伺ノ上處分可致筋ニ候哉又ハ別段深キ由緒無之分ハ社堂ノ大小ヲ問ハス總テ創建不相成儀  
ニ可有之哉  
第二條 寺院境外ニシテ該寺所有ノ地内ニ佛堂創建或ハ中古廢絶ノ分再興等願出候向往往有之右ハ假  
令寺院所有地ヲリトモ創立等不相成儀ニ候哉又ハ其都度經伺可致筋ニ有之候哉  
右兩條相伺候也

内務省指令 十一年五月十六日

書面之趣社堂共創建ハ地所百坪再興ハ同三十坪俱ニ建物二坪以上ニシテ共有ニ係リ且相當永續方法有  
之モノニ候ハ、書類相副其都度可伺出事



合併セシ神社ヲ分テ更ニ一社ヲ建ルノ許否ヲ内務省ニ咨ス  
教部省事務章程ハ官廳門官制ノ目ニ載ス

内務省何十一年五月十日  
靜岡縣下遠江國長上郡天王村社大藏神社へ合社八幡宮ヲ分祀一社創建ノ儀ニ付今般別紙ノ通伺出候處永續方法其他不都合ノ際無之ニ付則情願ニ任セ聞届申度且社寺創建ノ儀ハ舊教部省事務章程上款第五條ノ旨モ有之其都度相伺來候處元來官社ノ外一般社寺ノ儀ハ專ラ人民ノ意向ニ任スヘキ筋ニ付創建ノ儀モ其地方ニ於テ無差障且永續ノ見認等有之分ハ可抑制儀ニ無之就テハ其都度經裁候モ却テ冗務ニ屬シ候哉ト相考候ニ付自今通常ノ創建ハ不經伺當省限リ處分候様致度此段併テ仰御指揮候也  
指令 十一年六月十一日

伺之通

但自今社寺通常ノ創建其省限リ處分ノ儀ハ追テ何分ノ可及沙汰事

靜岡縣ヨリ内務省へ何十一年四月十日  
當縣下遠江國長上郡天王村鎮座村社大藏神社へ合祀八幡宮信仰ノ聲ニ於テ今回前書八幡宮神靈ヲ部分シ元三浦神社舊社地へ社殿ヲ創建シ三浦八幡宮ト稱シ參拜致度云云別紙ノ通及出願候ニ付地所建物及永續積金等夫夫取調候處不都合ノ儀モ無之ト存候願旨聞届可然哉御指揮有之度書類相添此段相伺候也  
法制局議案十一年五月二十九日  
別紙内務省伺神社分祀ノ儀并自今社寺通常ノ創建ハ内務省限リ處分ノ儀取調候處本案神社分祀ノ儀ハ御聞届相成可然候ヘトモ自今ハ社寺通常ノ創建内務省限リ處分ノ儀ニ付テハ地方官内會議ノ趣モ有之退テ何分ノ御決定モ可有之候ニ付左ノ通御指令相成可然哉仰高裁候也

秋田縣ヨリ内務省へ何十一年十月二日  
管下羽後國秋田郡寺内村へ三吉神社遊拜所建設致度旨別紙之通願出事實相違無之ニ付願意聞届可然哉書類相添此段相伺候也  
内務省指令 十一年十月十六日

書面之趣ハ本年當省乙第五十七號達第一條ニ準シ取調處分可致事

(別紙) 遊拜殿新設願  
私共儀從來ヨリ三吉神社ト號シ五十名結社秋田郡太平山三吉神社信仰罷在候處本社之儀ハ殆ト十里程

ニシテ且過半ハ山岳峨峨トシテ平常ト雖モ容易ニ登山參詣仕難シ況ヤ降雨暴風積雪之際ニ於テヲヤ故ニ五里程ニシテ太平山麓ナル木曾吉ニ遊拜所アリ又二里半程ニシテ赤沼ニ遊拜所アリ然リト雖モ往歸シ依之寺内村中川キセ持地へ建築致朝暮信仰仕度候祭日之儀ハ請持神官相頼勤務可爲致候間御障モ無御座候ハ願之通被仰付度此段奉願上候也  
寺内村 中川 七  
太平山三吉神社  
草川 畝 彦  
外土崎港町總代 名 四

明治十一年九月三十日

秋田縣令石田英吉殿  
前書之通相違無之依テ與印仕候也

戶長 小貫山平右衛門  
第一大區七小區  
下汐田町  
事務所戶長代理  
書記役 竹内精之助

添書  
一金五十圓也  
右ハ永續資本金備置候ニ相違無之候也  
明治十一年九月  
圖而略ス

(備考)

島根縣ヨリ内務省へ何十一年十二月十二日  
客年六月神社遊拜所建設之儀伺書へ同年十一月五日付テ以書面之趣難聞届最寄神社境内へ建設願出候ハ、更ニ可伺出旨御指令有之就テハ其後神社境外へ建設願出候分ハ該御指令ニ準據本縣限差停候積ニ有之候處右ハ過般御達相成候社寺取扱概則中社寺創建之條ニハ難比筋ニテ假令永續ノ方法相具候モノト雖モ神社境外ハ一切御允準不相成儀ニ候哉且神社境内ノ設置ト雖モ其都度經伺候儀ニ可有之儀爲念此段相伺候也 決判 十月二十日



概則八十一月九日内務省  
達乙第五十七號ヲ以テ定  
ムル所ナリ社寺措置ノ條  
ニ載ス

内務省指令十一年十二月二十日  
書面之趣ハ神社境内外ヲ問ハス概則第一條ニ準據處分不苦儀ト可心得事  
神社遊拜所建設伺  
右參照書ノ如ク指令濟オレトモ概則達シノ上ハ左ノ通ニテ可然歟  
(參照)  
島根縣何神社遊拜所建設之儀  
右軌レモ永續金繰少社地狹隘ノミナラス借地へ建設ノ儀ニ付左之通  
指令十一年十一月五日  
書面之趣難聞屆候事  
但最寄神社院内へ建設願出候ハ、更ニ可伺出事

遊拜所建設ノ許否ヲ地  
方官ニ委ス

岡山縣ヨリ内務省ヘ何十二年四月二十六日

神社遊拜所ノ儀ニ付左ノ件更ニ相伺候

第一條 遊拜所建設願處分方ノ儀ニ付テハ明治十年十月御省ヘ相伺候次第有之候處右ハ其都度經伺

ノ上處分可致旨同月三十日付ヲ以テ御指揮有之然ルニ昨十一月御省乙第五十七號ヲ以テ被相達候

社寺取扱概則中社寺建設ノ儀御委任相成候上ハ無論遊拜所ノ如キハ右ニ準據處分致シ可然歟

第二條 明治十年十二月縣下上房郡津井村外ニ箇村民有地へ遊拜所建設ノ儀出願ニ依リ願書取添

相伺候處十一年一月二十九日付ヲ以テ願書御開屆難相成旨且神社境内へ建設願出候ハ、更ニ可伺出

段御指令有之右ハ假令民有地ニシテ當然永續維持ノ目途相立願出ルモ神社境外へ建設ノ儀ハ一切難

相成儀ニ可有之哉

右ハ即今出願ノ向モ有之候ニ付至急何分ノ御指揮有之度候也

内務省指令十二年五月八日

書面ノ趣左ノ通可相心得事

第一條 伺ノ通

第二條 境外トイヘトモ概則第一條ニ準シ處分スヘシ

社寺局議案十二年五月三日

遊拜所建設ノ儀伺

右審查候處一昨十年同伴ノ儀ニ付該縣ヘノ指令ニ據レハ別紙御參照ノ通經伺ノ上御許可可相成筋ニ候  
得共社寺取扱概則達ノ上ハ地方官ヘ任セラル可然歟

社寺創立再興復舊等ノ  
員數増加ニ係ル者ハ内  
務省ニ許否ス

達十三年十二月十三日(附門地方官)

明治十一年七月第二十二號達府縣官職制府縣ノ事務主務ノ省ヘ稟請シテ後處分スヘキ條件中左ノ一項増

補候條此旨相達候事

第二十五 社寺創立再興復舊等員數増加ニ係ル願ヲ許否スル事

内務省伺十三年十一月四日

社寺創立ノ儀ハ舊教部省事務章程上款第五條并舊府縣官章程上款第四條ニ掲ケラレ一社一寺ヲトモ  
創立ニ係ルモノハ其都度太政官ヘ稟請ノ上許否致來候處去十一年三新法ノ制定ニ引續キ同年七月第三  
十二號ヲ以テ府縣官職制改定相成俄然右事項削除セラレニヨリ同年九月當省ヨリ乙第五十七號ヲ府縣  
ヘ相達取扱概則ヲ示シ以テ照準處分爲致來候處爾來既ニ二年有餘ノ星霜ヲ經過セシヲ以テ追追各府縣  
ヨリ處分請申候モノニヨリ今試ニ去十二年七月ヨリ十三年六月迄一周年ノ景況ヲ檢案スルニ神社ノ  
創立再興ニ係ルモノ二百二十公稱ニ係ルモノ八十九寺院ノ創立再興ニ係ルモノ六百六十三公稱ニ係ル  
ノ二十六通計四百九十八寺院ニ係ルモノ九百九十九個ノ増加ヲ致セリ是皆信仰ノ篤ニ於テハ一切新規建立停止ノ禁令  
ニ流レ溢立ノ弊居多ナルヨリ生スル所ト存候仰社寺ノ儀ハ舊幕府ニ於テハ一切新規建立停止ノ禁令  
ルニヨリ人民却テ在來ニ就キ保護ヲ慎ノ情厚キヨリ自然大社巨刹古社名山等ハ勿論其他ニ至ルマテ衰  
微ヲ招クノ憂甚ク甚ナカリシ處去十一年一朝俄ニ府縣ニ委セラレヨリ歲月尙淺キモ既ニ多ク増加  
古社寺ニ就テハ兼テ厚キ御趣意モ有之既ニ歲額二萬圓ノ保護金ヲモ先般伺定候程ニ有之然ルヲ今日ノ  
如ク遷立ノ形跡ヲ現スルニ於テハ其廢滅モ亦自然ニ起カサルヲ得スニテ其影響古社寺ニ及ヒ  
衰微ヲ來スノ基ト相成結局保護ノ道難行届且元來社寺ハ數導職相待不離モノニ候處現今教導職ニ就  
ハ既ニ定員ノ制限ヲ設クヘキ場合ナルヲ此上無數ノ社寺増加候儀ニテハ有限ノ教導職ヲ以テ無限ノ社  
寺ニ應シ難キ次第ニ立到可申旁不都合不候條自今左ノ一項府縣官職制主務ノ省ヘ稟請シテ後處分  
ヘキ條件中へ増補相成嗣後府縣ヨリ伺出候節ハ創立ハ勿論再興復舊タリトモ於當省篤ト取調更ニ各宗  
派ノ公議ヲ採リ不得止事由有之モノニ限り聞屆候様致度依テ御達案并當省達案共爲御參看相副此段相  
伺候也  
指令十三年十二月十三日  
何ノ趣聞屆第六十一號ヲ以テ相達候事  
内務部議案十三年十一月二十五日  
別紙内務省伺社寺創立ノ儀ヲ案スルニ社寺院創建再興處分ノ儀ハ既ニ一旦地方官ニ委任相成居候儀ニ  
付今更關涉ヲ要セサル儀ニ候ニ共該省具狀ノ如ク今日ノ形況ヲ以テ考量セハ將來社寺院遷立ノ弊害ナ  
シト云ヘカラス而シテ古社寺保存ノ如何ニモ亦多少ノ影響ヲ生スルハ自然ノ勢ト存候間伺ノ通御裁可  
相成可然歟仰高裁候也



(備考)  
 社寺取調兩局立案十三年十月十五日  
 社寺創建之儀ハ去明治十一年七月第三十二號公達ヲ以府縣官職制事務章程改正相成俄然府縣へ委任セ  
 ラレニヨリ同年九月當省ヨリ乙第五十七號達ヲ以取扱概則ヲ示シ以テ照準處分セシメラレ候處爾來  
 既ニ二年有餘ノ星霜ヲ經過セルヲ以テ今如何ナル結果ヲ生ゼシ哉ヲ調査スルニ頗ル夥多ノ増數ヲ致殆  
 ト遺立ノ弊ヲ微スルニ足レリトス今ニシテ之カ處分ヲ爲サ、レハ逐年增多遂ニハ古社寺ノ保護ト教導  
 職制限ニ關シ大ニ不都合ヲ可生ト存候依テ左案取調仰高裁候也  
 參照

明治十二年自十二月神社大小比較表

縣名	創立		再興		復舊	
	社殿并拜殿等アル者	社殿ノミノ者	社殿并拜殿等アル者	社殿ノミノ者	社殿并拜殿等アル者	社殿ノミノ者
愛知	一	一	四	一三		
青森	一			五		
長野	九		二	一		
堺			一	一		
靜岡	二		七	一六		
山口	二		三			
長崎			一			
岡山	二		一			
茨城	一		二			
和歌山		二				
山形						一

愛媛	巖手	兵庫	三重	埼玉	栃木	滋賀	岐阜	熊本	合計
二			一		二	一		一	十八
									十一
				二					三十五
	五	一							四十八

明治十二年自十二月寺院大小比較表

府縣名	本堂并ニ庫裏アル者					本堂ノミノ者				
	天台眞言	淨土	臨濟	曹洞	黃檗眞	天台眞言	淨土	臨濟	曹洞	黃檗眞
東京	一									
大阪				二						
兵庫			四				二			
栃木										一
三重										一







但シ社殿方六尺以下ト雖モ幣殿拜殿等有之社ハ六尺以上ニ算入ス

社格	方一尺以内	方二尺以内	方三尺以内	方四尺以内	方五尺以内	方六尺以内	方六尺以上	總計
社殿	一	二	二	一	一	一	一	九
村社	四	二	二	一	一	一	一	二
無格社	五	二	二	一	一	一	一	二
合計	五	二	二	一	一	一	一	二

明治十二年茨城縣常陸國楮置願神祠大小比較表

神殿方六尺以下ト雖モ幣殿并ニ拜殿有之社ハ六尺以上ニ算入シ社殿無之分及ヒ石祠等ハ欄外ニ抄記ス

社格	方一尺以内	方二尺以内	方三尺以内	方四尺以内	方五尺以内	方六尺以内	方六尺以上	總計
無格社	一一	一四	一一	七	三	五	五二	一一

外ニ

方一尺二寸石祠 一

社殿無之分 一

熊本縣ヨリ内務省ヘ伺十三十二月二十六日  
 今般第六十一號公達相成候増補之一項員數増加ニ係ル云云ト有之右ハ官民地ニ設立スルモノト雖モ員數増加ハ區別無之儀ニ付明治十一年御省乙第五十七號社寺取扱概則第一條ハ自ラ消滅候モノト相心得可然哉此段相伺候也  
 内務省指令十四年一月二十四日  
 但第三條モ消滅候儀ト心得ヘシ  
 和歌山縣ヨリ内務省ヘ伺十三十二月二十三日  
 本年太政官第六十一號御達ニ依リ左之條件相伺候條何分之御指揮相仰候也  
 第一條 社寺創建再興復舊等増加ニ係ル分ト云フ上ハ官民有地ニ不拘自今渾テ御省ヘ稟請之上處分可致儀ニ候哉  
 第二條 前條伺之通ニ候ハ、明治十一年御省乙第五十七號御達中縣限允許云云ノ旨趣ハ勿論消滅候儀

ト相心得可然哉

第三條 堂庵ヨリ寺院號ヲ公稱スルモ増加ニ係ルモノト看做シ可然哉

第四條 社寺移轉廢合并改稱又ハ堂庵寺院號ヲ創立及邸内祠堂へ衆庶參拜等ハ右公達ニ關セス御省乙第五十七號御達ニ照準縣限リ處分シ毎月末可及御届ハ從前之通ト心得可然哉

内務省指令十四年三月十日

吾面之趣左ノ通可心得事

第一條 第二條 第三條

何之通

第四條

移轉廢合改稱ハ當省乙第五十七號御達第二條ニ準シ其縣限リ處分スヘク堂庵創立及邸内祠堂へ衆庶參拜等ハ即チ社寺増加ニ係ル儀ニ付伺出ノ上處分スヘシ

但境内社堂等境外へ移轉建設スル者モ伺出處分スヘシ

神奈川縣ヨリ内務省ヘ伺十三十二月十七日

今般第六十一號ヲ以公達之通府縣官職制之事務主務之省へ稟請シテ後處分スヘキ條件中へ社寺創立再興復舊等員數増加ニ係ル願ヲ許否スル一項ヲ増補相成候就テハ御省十一年乙第五十七號社寺取扱概則御達ハ自然消滅候儀ト相心得可然哉此段相伺候也

内務省指令十四年二月十日

吾面之趣社寺取扱概則第二條第四條ハ消滅セサル儀ト心得事

但神社境内攝末社等ヲ境外へ移轉之向ハ伺出處分スヘシ

内務省達乙第十三年十二月十七日

今般第六十一號公達ノ趣有之ニ付テハ自今社寺創立再興復舊等出願有之節ハ從來ノ手續ニヨリ取調尙左ノ條件精査ノ上當省ヘ可伺出此旨相達候事

一 社寺創立再興復舊等ヲ要スル理由及ヒ建設後施行ノ目的

但再興復舊ハ當初廢絶合併ノ年月并ニ次第共

一 社殿堂宇諸建物坪數繪圖面并ニ目論見仕樣ノ事

一 永續資本ノ財產 員數ヲ詳記スヘシ 并ニ發願者 事ニ關係スヘキモノノ總人員

一 境内地坪數及ヒ社寺名受若クハ人民共有名受ノ別

同上ノ出願手續ヲ定ム  
十五年十一月内務省達乙  
第五十九號創立再興復舊分  
ノ件下條案ヲスヘシ



岡山縣ヨリ内務省へ同十三年十月十四日  
民有ノ地所へ共有ノ祖靈社建設ノ儀神職ノ受持ヲ定メ願出候ハ、縣限リ閉届候上月未取總明細書相添  
ヘ可及御届筋ニ候哉且神社境内へ建設ノ儀ハ地ノ官民有ヲ問ハス總テ難届筋ニ候哉社寺取扱概則中  
明文無之ニ付爲心得此段相伺候也

内務省指令十四年一月十二日

書面ノ趣昨年當省乙第五十二號達ニ準テ取調伺出候儀ト可心得事

但神社境内へ建設ハ不相成儀ト心得ヘシ  
大分縣ヨリ内務省へ同十四年一月二十二日

明治十三年十一月十二日御省乙第五十二號社寺創立再興復舊等ニ係ル御達第一項中建設後施行ノ目的トハ何等  
ノ事ヲ指シ候哉了解難致候條御明示有之度此段相伺候也

内務省指令十四年二月十九日

書面ノ趣ハ前報報罪儀法會ノ類各自執行ノ目的ヲ達セシムル儀ト可心得事

山口縣ヨリ内務省へ同十四年一月十日  
社寺創立再興復舊ノ儀ニ付昨年乙第五十二號御達ニ付左ニ  
一 共有堂庵并掛所道場寺院引直及邸内神祠公稱出願ノ節モ一應可伺出儀ニ候哉  
一 社寺堂庵移轉廢合及ヒ佛堂創立再興復舊并邸内佛堂公稱等ハ從來ノ手續ニ依リ縣廳限届可然哉  
一 在來ノ神社佛堂へ新ニ神靈佛像申請殿内へ合祭願出ルモノハ前條同様相心得可申哉

内務省指令十四年三月九日

書面ノ趣左ノ通可心得事

第一三項  
伺ノ通

第二項  
社寺堂庵移轉廢合ハ伺ノ通其他ハ伺出ノ上處分スヘシ  
但境内社堂庵等境外へ移轉建設スルモノハ伺出處分スヘシ

靜岡縣ヨリ内務省へ同十四年三月九日  
明治十三年第六十一號公達及同年御省乙第五十二號御達ニ依リ社寺創立再興復舊等員數增加ニ係ル願ヲ請否スル儀ハ總テ經伺可致  
詳取調經伺之上可致處分等ニ有之候得共山野路傍ノ神祠佛堂存置并邸内自祭之祠堂衆庶參拜或ハ明細  
帳ニ脱漏ノ社寺ヲ該帳へ登記ノ場合等總テ從前設置ノ分ニ付公許之儀出願有之候節ハ從來ノ手續ニ據  
リ逐調査不都合無之モノハ地方廳限届其淫祠ニ紛數モノト認定候モノハ難届届旨及指令置聽届候分  
ハ追テ及御届候テ可然哉差掛候儀モ有之候間速ニ御指揮相成度此段相伺候也

内務省指令十四年六月四日

書面ノ趣員數增加ニ係ルモノハ淨テ經伺處分之儀ト可心得事  
但從前設置公認ヲ得タル社寺ニシテ明細帳脱漏之モノハ此限ニアラス

大分縣ヨリ内務省へ同十四年五月十九日  
明治十三年第六十一號公達ニ依リ社寺創立再興復舊等員數增加ニ係ル願ヲ請否スル儀ハ總テ經伺可致  
等ニ候處明治十一年御省乙第五十七號及十三年乙第五十二號御達ノ條項ニ照較精査シ共條項ニ適合セ  
サル分ハ當縣限リ難届届旨指令可然哉此段相伺候也

内務省指令十四年六月十一日

書面伺ノ通

熊本縣ヨリ内務省へ同十四年六月八日  
社寺存置合併移轉之儀ニ付九年秋部省第三十七號ニ基キ夫取纏メ當テ社寺明細帳へ直ニ記入進達濟  
ニ候處未タ無願ノモノ有之續續存置願出然ルニ右三十七號ハ臨時之達ニテ既ニ十一年御省乙第五十七  
號ヲ以テ社寺取扱規則被設候ニ付テハ該則第三條ニヨリ處分スヘキ處第一條第三條ハ自ラ消滅候旨露日  
御指令有之就テハ伺ヲ經處分可致儀ニ候哉

一 私邸内社堂衆庶參拜願之儀ニ付過々十一年第三十八號ヲ以相伺候處同年乙第五十七號第十三條ニヨ  
リ處分可致旨御指令有之候得共前同様一三條消滅ニ付而ハ是又可伺出儀ニ候哉

右兩件相伺候條至急御垂示有之度候也

内務省指令十四年六月二十九日

書面兩條共伺之通

廣島縣ヨリ内務省へ同十四年十月四日  
一 神社之内旅所ト唱へ本社ヲ隔ルノ地ハ或ハ社殿建設神幸之節該所へ安置神事執行等致シ度願出候者  
モ有之右ハ氏子及信徒共協議之上隣地故障等モ無之永續維持之方法相立出願致シ候得ハ當縣限リ開  
届不苦哉

但明細帳ハ某神社旅所ト記入可然哉

一 社寺創立等増員ニ係ルモノハ御省へ經伺スヘキ成規之處佛堂ノ類該所民有地新立之儀人民崇敬永遠  
維持方法相立出願候得ハ二人以上之共有ニ係ルモノハ建物廣狹ニ拘ハラズ開届不苦哉

右兩項共至急何分御指揮被下度此段相伺候也

内務省指令十四年十月三十一日

書面之趣左之通可相心得事

第一項  
伺之通

但一社ト看認メスト雖モ地所建物坪數取調明細書相添其都度届出ヘシ

第二項  
佛堂ト雖モ増員ニ係ルモノハ客年當省乙第五十二號達ニ據リ經伺處分スヘシ  
福島縣ヨリ内務省へ同十三年十二月二十五日  
今般第六十一號府縣官職制中一項増補公達相成候處右ハ祖靈社及ヒ境内佛堂等ノ如キモ一般社寺ニ準  
シ御省經伺ノ上處分可致ハ勿論ノ儀ト思量候得共爲念一應此段相伺候也

九年秋部省達第三十七號  
ハ山野路傍ニ散在セル神  
祠佛堂處分ノ件改正ノ條  
ニ載ス  
十一年内務省達乙第五十  
七號社寺取扱規則ハ社寺  
措置ノ條ニ載ス



十二年內務省第三十一號達ハ社寺明細帳調査申ノ件改正ノ條ニ載ス

十四年十月內務省達乙第五十號ハ寺院佛堂住職表取調心得方中增加ノ件佛寺ノ日ニ載ス

内務省指令十四年六月十一日  
書而祖靈社ノ儀ハ何ノ通境内佛堂ハ其縣限リ處分ノ上十二年當省乙第三十一號達ニ準シ明細帳取調差出候儀ト可心得事

福島縣ヨリ内務省ヘ伺十四年七月二十二日  
昨明治十三年七月社寺境内貧渡ノ儀相伺候際第二條ニ社堂及ヒ石佛等新設ノ儀官有境内ノ分ハ其都度伺出ノ上處分ス可キ旨御裁令ノ趣敬承夫夫取振來候未客歲第六十一號公達ノ趣有之ニ依リ復ヒ祖靈社及境内佛堂取扱方云云同年十二月相伺候處客月十一日付境内佛堂ハ其縣限リ處分云云御指令相成右ノ趣ニヨリ前後ノ御指令ヲ對照スルニ彼是恰當セサル様聊カ疑義ニ涉リ了解致兼候條尙一應何分ノ御指示ヲ仰度此段相伺候也

追テ本年四月中日蓮宗一寺創建ノ儀相伺候處客月二十九日付難開屆旨御指令相成候得共該件ノ儀ハ何等御成例ニ反セシ様ニモ不相見候得共外ニ不適合ノ廉有之儀ニモ候哉全體客歲六月御省乙第二十八號御達中本堂庫裏トアルハ各箇其棟ヲ別異セシテ指稱ニシテ一棟ノ中ヲ分劃庫裏本堂トセシモノハ所謂具備セシモノトハ見做カシキモノニ可有之哉判決兼候條爲念此段ヲモ添テ御指示ヲ仰候也  
内務省指令十四年十一月四日  
書而祖靈社乙第五十號達以後ハ境内佛堂ト雖モ伺出候儀ト可心得事

社寺取扱上伺御指令ノ儀ニ付伺  
右取調候處十一年乙第五十七號達中地方官ニテ創建等ノ允可スルヲ得ルハ民有地ニ限ル譯ニ付官有境内社堂ト雖モ伺出旨十三年八月御指令相成候處同年十二月第六十一號公達ヲ以テ伺出ノ件ハ員數增加ニ係ルモノニ限レル等ニ有之而シテ境内佛堂ノ儀ハ十二年乙第三十三號達中掲載セサルハ員數增加ト看認難シ仍テ先般ノ指令相成候處今般右表ヘ掲載掲載候様乙第五十號達有之上ハ自然疑義了解可致ト存候仍テ左案相伺候也

社寺局ヨリ福島縣ヘ通稱十四年十一月四日  
社寺取扱上伺御指令ノ儀ニ付去七月二十二日附御出別紙朱番指令相成候處追書御伺出ノ趣一寺創建等ノ儀ハ境内地ヲ始メ夫夫十分不相備ヲハ許可難相成儀ニテ本件ノ如キハ信徒八員并建坪少數且永續財產モ充分ナラス旁證疎不相成次第ニ有之候尤建坪ノ都合ニ依リテハ一棟ノ内ヲ分畫シ庫裏本堂ト爲スモ差支無之候此段爲御心得申入候也  
但境内佛堂ノ儀ハ十二年當省乙第三十三號達中掲載セサルハ員數增加ト難看認ニ付御縣限リ御處分ノ儀先般指令相成候得共今般乙第五十號掲載ノ儀達相成候上ハ員數增加ニ係ル儀ニ付朱番ノ通指令相成候條此段爲御心得申添候也  
岐阜縣ヨリ内務省ヘ伺十四年十一月十二日  
社寺創立再興復舊等員數增加ニ係ル願處分方之件明治十三年十二月太政官第六十一號公達之趣并同年同月御省乙第五十二號御達之旨モ有之候處社寺堂境内ニテ其主タル社殿佛宇及附屬建物之外同境内ニ

更ニ矮小之無格社并佛堂ヲ創建スヘキ分處分方右御達面ニ區別不相見候右ハ境内ニ在セシメントスル積末之社堂ニ至テハ前記乙第五十二號御達各條件之内匹敵難致分モ有之候付適宜取調本縣限及處分追テ該明細書及御届候テ可然哉即今願出候分モ有之候付此段相伺候至急御指揮下度候也  
内務省指令十四年十二月五日  
書而之趣境内社堂ト雖モ増加ニ係ル向ハ乙第五十二號達ニ準據經伺處分候儀ト可心得事  
靜岡縣ヨリ内務省ヘ伺十四年十二月一日  
社寺増數ニ係ル處分方之儀ニ付テハ客年御省乙第五十二號御達之趣モ有之候處社寺境外ノ民有地ヘ社寺建坪所建設之儀ハ地方應限許否致シ可然哉將一社ト同ク右御達ニ依準可致哉相伺候條何分ノ御指揮相伺候也  
内務省指令十四年十二月二十一日  
書而後段伺之通

内務省達 十五年一月二十三日  
昨十四年戊第三號ヲ以て院院教會所說教所等ニ於テ葬祭ヲ執行シ衆庶ニ參拜セシムル等ノ儀不都合ノ旨相達候處自今神道教導職奉教ノ主義ヨリ其主神ヲ鎮祭シ其教徒ノ葬儀ヲ執行スル等ノ爲祠宇建設ヲ要スル向ハ左ノ條件ヲ詳記シ其地方應ヘ出願スヘシ此旨相達候事

- 一 祠宇建設ヲ要スル理由
  - 一 諸建物坪數繪圖面目論見仕様并境内地坪地種名受共
  - 一 永續資本ノ動不動財產并葬儀ヲ托スルモノ及信徒ノ員數
- 内務省達 十五年一月二十三日  
今般祠宇建設ノ儀別紙戊第一號之通相達候條該教導職并教徒信徒ヨリ出願候ハ、十三年乙第五十二號達ノ振合ヲ以廉廉精査ノ上當省ヘ可伺出此旨相達候事

内務省達 十五年九月十三日  
明治九年教部省第十六號達廢止候條自今迄拜所願出之節ハ八年同省第一號布達ニ準スヘキ儀ト可心得此旨相達候事

神道教導職奉教ノ主義ヲ以テ祠宇建立ノ出願手續ヲ定ム

十四年內務省達戊第三號ハ教規ノ日ニ載ス  
十七年十月內務省達戊第三號ヲ以テ祠宇并寺院ノ廢立頭ハ官長ニ添書セシム教規ノ日ニ載ス

十七年內務省達乙第三十七號ヲ以テ祠宇并寺院創立再興復舊引直修繕聯合及附屬ノ建物等ニ關スル諸願ハ官長ニ添書セシム教規ノ日ニ載ス

遊理所ノ建設出願方法ヲ從前ノ例ニ復ス



社寺局ヨリ内務省へ伺十四年十一月二十二日  
 分社遷拜所ハ後來本分ヲ混亂シ新古之爭ヲ醸ス等種種之弊アルニ付八年教部省第一號ヲ以テ必ス其本  
 社之承諾書ヲ要スル旨ヲ達アリ其後九年四月第十六號ヲ以テ遷拜所ハ本社承諾ニ及ハス云云達アリト雖  
 モ府縣ヘノ達ニ屬シ布達之効ヲ有セス且之レヲ存セハ管ニ益ナキノミナラス本分新古之紊亂ヲ來タシ  
 八年第一號布達之精神ヲ害スル甚シキモノニ付自今廢止セラレ遷拜所モ必ス本社之承諾書ヲ要スル方  
 可然哉御達案其他取調相伺候也

創立再興復舊等ノ處分  
 方ヲ定ム

十九年九月内務省令第十  
 六號ヲ以テ但書ヲ廢ス

内務省達 乙第五十九號府縣  
 各府縣管内神社寺院等創立再興復舊許可之分ハ今後滿二年以内ニ建設セシムヘシ其建物巨大ニシテ工  
 事數年ニ渉ル可キ者ハ更ニ狀ヲ具シ伺出許可ヲ受ル者トス其他在來ノ社寺ニシテ變災ニ遭ヒ建物悉皆  
 烏有ニ歸スル者ハ滿五年ニ再建セシメ何レモ毎月未取纏メ當省ニ可届出若シ右期限ヲ過キ建設セザル  
 者ハ一面許可ヲ停メ一面社寺明細帳ヲ削除更ニ届出候儀ト可心得此旨相達候事  
 但十二年當省乙第三十一號達社寺明細書式中神官住職ノ項ヲ加ヘ且境外遷拜所招魂社祖靈社ノ書式  
 ナ廢シ都テ社寺書式ニ據リ取調フヘシ

社寺取調兩局議案十五年十月十八日  
 神社祠宇寺院佛堂等創立再興復舊ノ儀願出各府縣何濟ノ未建設不致モノ有之且十二年乙第三十一號達  
 ニ付社寺明細帳差出候内地所建物無之社寺稱號而已存スルモノ往往有之名實相協ハス不都合候條左ノ  
 通御達相成可然歟  
 但十二年乙第三十一號達中不備ノモノ有之此際加除御達相成候方歟  
 新潟縣ヨリ内務省へ伺十五年十一月二十二日  
 御省本年乙第五十九號達中左之條條相伺候條至急御指揮相成度候也  
 第一條 達中一面許可ヲ停メ一面社寺明細帳削除トアルハ創立再興復舊及在來之社寺ヲ論セス期限ヲ  
 過キ建設セザルモノハ其社寺號消滅ニ屬シ候儀ニ可有之哉  
 第二條 期限ヲ過キ建設セザルハ期限內全ク著手セザルモノト相心得可然哉  
 第三條 前條ノ通ニ候ハ、限内著手スルモノ工事等ノ都合ヨリ落成限外ニ涉ルト見認ムルモノハ更ニ狀  
 ヲ具シ御省へ伺出儀ニ候哉  
 第四條 社寺建設落成ノ上ハ毎月未該社寺明細帳及建物給圖面相添御省へ可届出儀ニ候哉  
 内務省指令十五年十二月二十二日  
 書面伺ノ趣左ノ通可心得事

第一條 創立再興等ニ對シテハ許可ヲ停メ在來ノ向ハ明細帳削除ト心得ヘシ  
 第二條 期限內落成サセルモノヲ云フ  
 第三條 伺ノ通  
 第四條 伺ノ通  
 但給圖面差添ニ及ハス

滋賀縣ヨリ内務省へ伺十五年十一月二十七日  
 第一條 今般御省乙第五十九號御達中神社寺院等創立再興復舊許可ノ分ハ今後滿二年以内ニ建設セシ  
 ムヘシト有之右ハ無論境内神社寺院又ハ掛所道場佛堂遷拜所招魂社祖靈社等ニ至ル迄其祭神本尊  
 所在ノ建物ニ限リ候儀ト相考候果シテ然ラハ拜殿庫裏其他附屬ノ建物ニ至テハ一社寺ノ名義ニ關セサ  
 ルモノニ付其期限ヲ要スルニ不及儀ト相心得可然哉  
 第二條 在來ノ社寺ニシテ變災ニ遭ヒ建物悉皆烏有ニ歸スル者ハ滿五年ニ再建セシメ云云ト有之然ル  
 ニ當管下延曆寺ノ如キ巨大ノ境内ニシテ類ハ高岳ニ散在シタル寺院ハ屢風雪ニ破潰シ建物取壊ノ未敷  
 十年建設セザル寺院六十餘モ有之此等ノ部類ハ今般管内ヘ布達ノ日ヨリ起算シ右五年ノ期限ヲ過キ  
 建設セザルトキハ文明十八年以前ノ創立ニ係ル者ト雖モ社寺局ヘ照會ニ及斷然廢社寺タル旨神官  
 氏子住職檀徒等ヘ相達シ然ル後明細帳ヲ削除シ更ニ御届ノ上成規ノ通跡地處分可致儀ト相心得可然  
 哉

第三條 十二年乙第三十一號達社寺明細帳書式中ニ神官住職ノ一項ヲ加ヘ云云ト有之右ハ十二年六月  
 現在ニ拘ラス即今在職ノ者ヲ取調ヘ致職年齡及神官住職拜命ノ年月ヲ顯シ姓名ヲ取纏メ一昨年致上  
 申置候明細帳ヘ御加入相成候運ニ取計ヒ進達スヘキ儀ト相心得可然哉  
 但神官住職ノ一項ハ氏子檀徒ノ次項ニ挿入相成ル儀ト相心得可然乎并兼務又ハ副住職モ同様記載  
 スヘキ儀ニ候哉而シテ神官住職ハ屢轉任又ハ辭職死亡等之右ハ毎月異動上申スヘキ儀ニ候哉  
 第四條 無格社又ハ支坊掛所道場佛堂ノ類ハ祠堂住職無之ト雖モ更ニ受持神官僧侶ノ姓名ヲ取調ヘ記  
 入スル儀ニ候儀亦ハ不及其儀候哉  
 第五條 境外遷拜所招魂社祖靈社ノ書式ヲ廢シ都テ社寺書式ニ據リ取調ヘシト有之右ハ神社ノ部分ト  
 見做シ受持神官取調メ記入ノ上更ニ明細帳訂正上申スヘキ儀ト相心得可然哉而シテ遷拜所ノ祭神ハ  
 遙祭神何神又ハ何天皇ト登錄シ祖靈社ハ祭神某ノ靈ト記シ招魂社ノ祭神ハ職殺ノ總人名ヲ悉ク記載  
 スヘキ儀ニ候哉  
 右件件相伺候條至急仰何分ノ御指揮候也  
 内務省指令十五年十二月二十三日

書面伺之趣左ノ通可心得事  
 第一條 神社寺院等創立再興復舊許可ノ分ハ社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裏トモ其期限內ニ建設セシム  
 ヘシ他ハ伺ノ通  
 但掛所道場創立等公許ノ限ニアラス  
 第二條 伺ノ通



第三條 從前ノ向ハ取調ニ及ハス  
但神官住職ハ境外所有地ノ次項ニ記載シ兼務副住職モ同様タルヘシ異動ハ届出ニ及ハス

第四條 前条ノ通  
第五條 從前ノ向ハ取調ニ及ハス違以後ノ祭神等記載方何之通  
熊本縣ヨリ内務省ヘ何十五年十一月七日

今般社寺創立等之儀ニ付乙第五十九號御達但書ニ十二年乙第三十一號明細帳書式申官住職ノ項ヲ加ヘテ候處右ハ自今取調可致進達又ハ嘗テ上申相濟タル明細帳ノ分モ各社神官住職名面取調追加御届可致且當縣ニ於テ無格社ノ儀ハ縣郷村社ニ屬セシメ自然ト其祠官祠堂之受持ニ定メ置候儀ニ付別段無格社明細帳ニハ名面記載セサル心得ニ有之且縣郷村社及寺院神官住職關員之分ハ其人體ヲ選ムテ最寄神官住職ヨリ兼務候者ニ付明細帳ニハ登記セシメテ可然哉ト被相考候得共爲念此段相伺候也

内務省指令十五年十二月二十三日

書面伺之趣達以前ノ分ハ取調ニ不及以後ニ係ルモノハ受持兼務ニ別ナク渾テ記載候儀ト心得ヘキ事

大分縣ヨリ内務省ヘ何十六年三月二十日

一昨十五年十一月乙第五十九號御達申移轉ノ明文無之候得共右許可ノ社寺ニシテ滿二箇年以内移轉セサルモノハ創立再興等ニ準シ取扱可然哉

一在來ノ社寺變災ニ遭ヒ建物悉皆烏有ニ歸シタルモノ若其工事巨大ニシテ五箇年以内再建爲シ能ハサルモノ有之時ハ創立再興許可ノモノニ準シ狀ヲ具シ稟請可致儀ニ候哉

一在來ノ社寺ニシテ天災ニ罹リ建物悉皆或ハ幾分烏有ニ歸シタル場合ニ於テハ總テ其時開申可致儀ニ候哉

右相伺候也

内務省指令十六年四月十六日

書面伺之趣左ノ通可心得事

第一項 該達ニ包含セスト雖モ適宜年月ヲ限り許可スルハ苦シカラス

第二項 第三項 何之通

函館縣ヨリ内務省ヘ何十六年八月十三日

明治十五年十一月七日御省乙第五十九號御達申在來ノ社寺變災ニ遭ヒ建物烏有ニ歸スル者ハ滿五箇年ニ再建セシメ何レモ毎月末届出等シ右期限ヲ過キ建設セザル者ハ一面許可ヲ停メ明細帳削除届出云云ト有之候處右在來ノ社寺風火災等ニ罹リ本堂ハ退テ建設ノ積リヲ以拜殿庫裏ノミヲ建設シ届出ノ向ハ許可ヲ停ルノ限ニ無之儀ト相心得可然哉此段相伺候也

内務省指令十六年九月二十五日

書面伺之趣祭典法用ニ差支ナキモノハ何之通

福島縣ヨリ内務省ヘ何十八年六月四日

十五年十一月御省乙第五十九號ヲ以テ御達相成候社寺創立再建期限ノ儀ハ則同年同月ヨリ起算スヘキ勿論ノ儀ト考置候果シテ然ラハ變災ニ遭ヒ神社ハ本社寺院ハ本堂ノ類ノミ烏有ニ屬シ右期限ヲ過ルモノ

建設不行届社ハ拜殿ヲ以テ本社ニ替ヘ寺ハ庫裏ヲ以テ本堂ニ兼用スルモノノ如キハ明細帳中其罹災ニ歸シタル一部分ノミ事由ヲ記載シ削除候儀ト心得可然哉爲念此段相伺候也

内務省指令十八年六月十七日

書面伺ノ通

社寺局ヨリ福島縣ヘ通牒十八年六月十七日

別紙ノ通指令相成候處十五年當省乙第五十九號達ハ本殿拜殿本堂庫裏等悉皆烏有ニ歸スルモノヲ削除ノ儀ニ付建物ノ一部存在祭祀法用差支無之分ハ明細帳異動ノ點ヲ以テ御届出相成度此段申進候也

社寺局議案十八年六月十五日

右ハ左ニ御指令ノ上申入御附加ノ積リヲ以テ左ノ通取調候也

靜岡縣ヨリ内務省ヘ何十八年五月十八日

第一條 變災ニ罹リ建物等悉皆烏有ニ歸シタル社寺滿五年以内ニ再建セザレハ社寺明細帳ヲ削除スヘキ旨明治十五年御省乙第五十九號ヲ以テ御達相成候處右ハ其以前既ニ烏有ニ屬セシメ其年限ハ該發達即チ明治十五年十一月ヨリ起算致シ可然哉

第二條 前條ノ如ク明細帳ヲ削除スル場合ニ於テハ廢絶ト見做シ減數ニ取調尙其境内モ廢合址地處分ノ例規ニ據リ可然哉

第三條 明細帳ヲ削除シタル社寺復ヒ建造セントスル時ハ再興ノ手續ヲ續サシムヘキ儀ト相心得可然哉

第四條 社寺建物現存スト雖モ維持難致旨ヲ以テ十年乃至五十年間他ノ社寺ニ合併シ右期限内維持資ニ據リ處分致シ可然哉

但本文ノ如ク期年ノ合併ナルニ付建物ハ其證據保管致度旨願出ル時ハ聞届官有ノ境内ナレハ之ヲ官有地第三種ニ編入ノ上該社寺ヘ貸下相當ノ借地料ヲ收入スヘキ儀ト相心得可然哉

内務省指令十八年七月一日

第一條 第二條 第三條 何ノ通

山口縣ヨリ内務省ヘ何十八年十一月七日

第四條 渾テ普通合併ノ例ニ據リ處分スヘシ

十五年御省乙第五十九號ヲ以テ神社寺院等創立再興復舊許可ノ分ハ今後滿二年以内ニ建設シ在來ノ社寺ニシテ變災ニ遭ヒ建物悉皆烏有ニ歸スルモノハ滿五年ニ再建セシムヘキ件ニ付御達相成候處該御達中左項ノ通聊疑團ヲ生シ候ニ付至急何分御指揮有之度此段相伺候也

一遊拜所堂座說教所等ヲ社寺ニ引直シ并社寺移轉等モ許可ノ後滿二年以内ニ建設セシム可届出儀ニ候哉

一神殿本堂ハ期限内ニ建設ヲ得サルモ其境内ニ神佛體ヲ置ク可キ建物有之已上ハ社寺明細帳削除ニ不

及儀ニ候乎

一建物悉皆風災等ニ轉覆シタル類ハ烏有ニ歸スルモノト同様滿五年ニ再建セシム可キ儀ニ候乎

内務省指令十八年十二月十九日



書面何ノ趣左ノ通可心得事

第一項 第三項 伺ノ通

第二項 期限内建設セサルハ明細帳削除スヘシ

社寺局議案第十八號十月十四日  
右考案候處第二項神祇本堂ハ神佛安置ニ必用ノ建物ニシテ之ニ拜殿庫裏ヲ加ヘ社寺ノ體ヲ具フルモノトスルハ十三年當省乙第二十八號達ノ通ニ付他ノ建物ノ有無ニ拘ハラヌ十五年當省乙第五十九號達ニ據ラシムヘキ筋ト存候其他第一項第三項ハ伺ノ通ニテ可然被考候ニ付左案ヲ具シ相伺候也  
東京府布達 甲第十七號一月二十一日

神社寺院祠宇佛堂創立再興復舊移轉等自今許可ヲ得タルモノハ滿二年以内ニ建設シ在來ノ社寺祠堂ニシテ變災ノ爲メ建物悉皆烏有ニ歸シタルモノハ滿五年以内ニ再築スヘシ

但是迄許可ヲ得テ未タ建設セサルモノ及ヒ罹災後未タ再築セサルモノハ本年二月一日ヨリ起算シ本條ノ期限ヲ與フルモノトス且建物巨大ニシテ期限内竣功シ難キモノハ更ニ狀ヲ具シ延期ヲ乞フヘシ  
前條期限ヲ過キ建設セサル時ハ其許可ヲ取消シ及ヒ社寺明細帳ヲ削除スヘシ  
右布達候事

內務省達節錄 乙十七年十月三十日(全文ハ後載ス)

一 祠宇并寺院創立再興復舊引直移轉廢合及附屬ノ地所建物什物抵當賣買其他賣物古文書等財產ニ關スル諸願ハ法類連署 管廳ノ添書ヲ要スヘシ  
右相達候事

(備考)

新潟縣ヨリ內務省ヘ伺 十八年十月十五日  
御省明治十七年乙第三十七號御達第二項ニ祠宇并寺院創立云云及附屬ノ地所建物什物抵當賣買其他賣物古文書等財產ニ關スル諸願ハ管長ノ添書ヲ要スヘシトアリテ總テ賣買共爲願出候上許可スヘキ筋ト被認候處當ニ新潟縣西本成寺村本成寺地所賣買願ニ付伺ニ對シ十五年七月六日附ヲ以社寺地所買得之儀ハ出願ヲ要セス總テ爲願出候儀ト可心得旨御指令有之候ニ就テハ地所ニ限リ買得并寄附候儀ハ出願ヲ要セス關係ノ者連署之上寺院祠宇ハ管長添書ヲ以爲願出候儀ト相心得可然哉此段相伺候也

社寺創立再興復舊引直移轉廢合等ノ願出方ヲ定ム  
二十年五月二十一日內務省訓令ヲ以テ移轉廢合ノ下ニ及祠宇寺院內ニ設テ者ノ數字ヲ加フ數額ノ條ニ載ス

內務省指令 十八年十月二十七日  
書面何ノ通

社寺局議案 十八年十月二十日  
右ハ十七年乙第三十七號御達第二項ニ地所建物什物抵當賣買其他賣物古文書等財產ニ關スル諸願ハ管長添書ヲ要スヘシト有之御參照十五年御指令ニハ買得ハ出願ヲ要セス總テ爲願出云云ニ付買得之字御指令ト矛盾ト疑義伺出候儀ニ可有之候得共買得之儀ハ該縣ヘ御指令ノミナラス外縣ヘモ同様御指揮相成候類例モ有之無論伺出之通ニテ可然筋ト存候條左ニ御指揮相成可然哉相伺候也  
(參看)  
新潟縣ヨリ內務省ヘ伺 十五年六月十六日  
縣下新潟郡西本成寺村本成寺附地賣買之儀別紙之通願出右ハ許否如何相心得可然哉此段相伺候也  
內務省指令 十五年七月六日  
書面社寺地所買得之儀ハ出願ヲ要セス總テ爲願出候儀ト可心得事

內務省令節錄 十九年三月十二日(全文ハ官廳門地方第一號府縣沖繩縣ニ關スル)

自今左ニ掲ル條件ハ稟請ヲ要セス處分シテ後報告スヘシ但報告期限ハ別ニ之ヲ定ム  
一 社寺由緒アル地所建物處分ノ事  
一 社寺創立再興等建設延期ノ事

內務省訓令 二十年十月二十一日  
社寺ニシテ若シ其社殿堂宇等祭祀法用ニ必要ナル部分公賣處分ヲ請タル場合ニ於テハ該處分ノ日ヨリ百日以内ニ再建ノ方法ヲ立テ關係者連署寺院ハ管長副書ヲ以テ届出ルモノニ限リ建築ノ爲メ滿二箇年間ノ猶豫ヲ與フヘシ百日ヲ經テ再建ノ方法ヲ不申出又ハ滿二箇年間ニ建築セサルモノハ明細帳ヲ刪除スヘシ

達 元年四月十九日(全文ハ財政門條)  
王政御一新ニ付テハ宮公卿諸侯并神社寺院等領地高之儀御改正可被 仰付候間是迄舊幕府ヨリ受封之

社寺建物及ヒ創立再興等ハ府縣ニ委シテ處分セシム

社殿堂宇ノ公賣處分ヲ受ケタル者再建出願方

社寺ノ領地改正ニ付舊幕府ヨリ受封ノ建物ヲ提出セシム  
元年六月二十八日各府縣



縣ニ屬スル社家寺院ヨリ判物差出方ヲ定ム次項ニ見ユ  
元年十二月十三日寺院領地等不入ノ場所ヲ査核セシム寺院ノ目ニ載ス

諸藩管下ノ社寺領及縣扶持米等ヲ査核錄上セシム  
四年正月五日社寺領境内ノ外一般上知セシム

社寺現在ノ境内ノ除クノ外一般上知セシム  
四年六月十七日寺院領制ヲ定ム(傳ノ目ニ載ス)  
四年七月四日社寺領制ヲ定ム(傳ノ目ニ載ス)

社寺境内六箇年ノ物成ヲ平均シ祭費社用及ヒ社人家祿等ノ任付ヲ錄上セシム

判物急急御用有之候間内國事務局へ差出候様被 仰出候事  
鎮臺府ヨリ社寺民政市政三局并各藩へ達 元年六月二十八日(全文ハ財政門參)  
今般各府各藩各縣所部ニ屬スル社家寺院已來其向之可爲支配旨於太政官被 仰出候ニ付而者舊幕府ヨリ受封之判物差出方之儀者各其領主地頭へ差出可申候尤是マテ元寺社奉行所直支配受來候向ハ社寺裁判所へ可差出候事  
別紙之通被 仰出候ニ付而者各其所部ニ屬スル社家寺院舊幕府ヨリ受封之判物早早取集社寺裁判所へ可差出候事

- 知藩事へ達節錄 二年六月十七日(全文ハ官職門地方)
- 一社寺領其外從前祿扶持米等遺候人員并高取調可申出事
- 地方藏米ノ諸家へ達
- 一社寺領其外云云
- 藏米ノ諸家へ達
- 一社寺從前云云

布告節錄 四年正月五日(全文ハ財政門參)  
諸國社寺由緒ノ有無ニ不拘米印地除地等從前之通被下置候處各藩版籍奉還ノ末社寺ノミ土地人民私有ノ姿ニ相成不相當ノ事ニ付今度社寺現在ノ境内ヲ除ク外一般上知被 仰付追テ相當祿制被相定更ニ廩米ヲ以テ可下賜事

達節錄 四年七月四日(全文ハ財政門參)  
一諸國社寺領現在ノ境内ヲ除ク外一般上知被 仰付候云云去庚午十二月御布告相成候處猶又今般會

庚午十二月御布告ハ四年正月五日發布ニ係ル社寺領一般上知ノ件ニ係ル社寺領物成五分ヲ以テ米額納付シム(傳ノ目ニ載ス)末ハ土地門ニ錄上セシム  
五年七月大藏省達第九十三號ヲ以テ社寺人居屋敷拜借地ハ低價ヲ以テ拂下ケル

社寺領上知ニ付社寺人ノ宅地ハ低價ヲ以テ買下ケル許ス  
八年四月内務省達乙第四十九號ヲ以テ社寺宅地處分方ヲ定ム

東京府下ノ社寺境内ハ姑ク地券發行ヲ停ム  
地券發行ハ四年十二月二十七日ニ在リ土地門土地諸則ニ載ス  
八年十一月十九日府下社寺境内上知處分濟ノ分ハ地券ヲ渡サシム

議ノ筋有之境内地ト雖モ總テ社納仕來候物成六箇年平均シテ祭典社用且社家人名家祿ノ仕譯等巨細取調管轄地方官へ可差出事  
布告節錄 四年七月四日(全文ハ財政門參)  
今般神社祿制別紙ノ通被定候ニ付テハ境内地ヲ不論本社及建物等現今ノ地景ニヨツテ相除其他總テ上地可致尤社家居宅地ハ拜借ト爲相心得且祭典社用社家家祿ノ區別并林取調ノ分等相添別紙雜形ニ倣ヒ往返ノ外日數三十日ヲ限可差出事  
大藏省達 五年七月二十五日(土地門土地)  
先般社寺領上地被 仰出候節舊社人居屋敷ノ儀ハ拜借地ト相心得有之候處今般更ニ低價ヲ以當人へ拂下候間左ニ照準實地取調繪圖面相添可申出候事  
低價ハ其地ノ賣買直段ノ半數ト可相心得事  
拜借ノ儀上地ノ内へ孕リ候分ノミ拂下ケ境内ニ有之分ハ是迄ノ通タルヘキ事  
拜領ノ當人若シ其地所望ニ無之候ハ、入札ヲ以拂下ケ可申事  
拂下ケ候上近傍地位ニ比較シ稅額取調可申事

東京府へ達 五年七月二十九日  
當今府下地券發行中ニ有之候處社寺境内ノ儀ハ御證議ノ次第有之候條姑ク見合可申候也

教部省上申 五年七月二十九日  
社寺境内上地ノ儀兼テ御布告有之候處本社及建物等現今ノ地景ニ依テ相除其他總テ上地致シ候テハ實地不都合ノ次第モ有之候ニ付稿ト取調ノ上更ニ可相心得候處東京府下諸地券渡方今明日ニ相追リ速モ取調付兼候就テハ社寺地ノ分丈ク暫時猶豫致シ候様同府へ相達申度存候此段相伺候條至急御指揮有之度候也  
指令 五年七月二十九日  
伺ノ通及達候事  
(備考)



内務省伺 八年七月七日  
 去ル壬申七月二十九日附ヲ以テ東京府へ御達相成候御達面左ニ  
 當今府下地券發行中ニ有之候處社寺境内ノ備御詮議ノ次第有之候條始相見合可申候也  
 右地券發行中云云姑ク相見合可申ト有之候ハ庚午十二月御布告中社寺領現在ノ境内外區別取調及ヒ辛  
 未五月御布告中從前寺院へ收納有之分ハ六箇年平均取調可差出旨御達相成候取調方等姑ク相見合可申  
 トノ儀ニハ萬有之間敷ト存候左スレハ庚午十二月御布告相成候社寺領現在ノ境内外區別相立全ク現  
 境内地ノ分ノミ地券發行ノ儀ヲ姑ク相見合可申トノ儀歟或ハ現在境内ヲ除ノ外上地ニ屬スヘキ分ノミ  
 姑ク相見合可申トノ儀歟或ハ現在境内外ヲ不問總テ從前舊境内ノ分ハ其儘姑ク相見合可申トノ儀歟  
 右御達面ノ趣ニテハ何レヲ指シ候哉其邊不明瞭ニ付一應相伺候ニ付テハ至急取調ノ儀有之候間速ニ御  
 指揮被下度候也  
 指令 八年八月二十三日  
 伺ノ趣ハ壬申七月中府下地券發行ニ臨ミ候折柄社寺境内外區域調査未整ニ付社寺境内外ノ分ハ地券發  
 行ノ儀姑ク見合可申トノ旨趣ニ候事  
 内務課議案 八年八月二十二日  
 別紙内務省伺 壬申七月中東京府へ御達面ノ備致審査候處右ハ該府下地券發行ノ際ニ當リ社寺境内外區  
 域判然不致候ニ付充分調査行届候迄社寺境内地ノ分ニ限リ暫時地券發行ノ儀見合候トノ御旨趣ニ可有  
 之候條左ノ通御指令相成可然哉參照書附呈仰高裁候也

布告節錄 第六年三月二十五日(全文ハ土地門土地)

今般地券發行ニ附地所ノ名稱區別共左ノ通更正候條此旨相達候事  
 神地 宗廟山陵及ヒ官國幣社  
 以上ノ地所ハ地券ヲ發スルニ及ハス唯其坪數ノ廣狹ヲ檢シ地方官ノ帳簿ニ記載シ置クヘシ  
 除稅地 市街郡村ノ屬スル埋葬地制札場刑場道  
 路堤塘及ヒ郷社寺院ノ類當分此部ニ入ル  
 右地所ハ地券ヲ發セサルモノトナシ其地方廳ニ於テ坪數ヲ檢シ其帳簿ニ記載スルノミトス

教部省達 第六年七月十八日

其社境内繪圖面至急入用之儀有之候條建物之結構山林之景象新舊境内及附屬地之區別坪數等明細填寫  
 記載致シ相副來ル八月二十日ヲ限リ 宇佐ハ八月 差出可申事 三十一日限

地券發行ニ付神地除稅  
 地ノ名稱ヲ改正ス  
 七年十一月布告第百二十  
 號ヲ以テ改正ス

官幣社境内ノ繪圖ヲ述  
 呈セム

神社境内外ノ區別ヲ  
 表候條上セム  
 七年五月内務省達乙第百三  
 十四號ヲ以テ境内外區別  
 取調ヲ督促ス

辛未五月中公布ハ寺院境  
 内區別調査ノ件佛寺ノ目  
 ニ載ス

布告 第六年八月八日 府縣  
 神社境内外ノ區別ニ付去ル辛未七月中布告候處于今處分不申立或ハ猥リニ周圍ノ林木ヲ伐拂候向モ有之  
 哉ニ相聞不都合之事ニ候條兼テ相達候通境内外ノ區別速ニ取調舊境内ハ田畑ヲ除之外平地山林共凡テ  
 官有地ニ相定伐木拂下等不相成候最今後取調候分ハ勿論既往處置濟之分タリ其境内狹隘祭祀等ニ差支  
 候分ハ更ニ改正之見込相立境内外ニ可引分區畫反別等詳細取調繪圖面相添至急大藏省へ申立且處分濟  
 之上ハ教部省へ可届出此旨相達候事

教部省伺 第六年二月二十二日

一昨辛未七月中神社祓禊制定候ニ付テハ境内地ヲ不諭本社及ヒ建物等現今ノ地形ニ依テ相除キ其他總  
 テ上地可致云云被 仰出候處往住誤解ノ向有之建物敷地ヲ限リ雨零外悉皆上知致シ本殿周圍ノ森木等  
 モ斬伐候哉ニ相聞候付テハ社地境内ノ狹隘ハ勿論隨テ古來神社ノ體裁亡失候段甚不都合ノ筋ニ付今般  
 更ニ別紙ノ通被 仰出候條致度昨壬申七月中東京府下地券發行ノ節何處候處モ有之候條何分共至急御  
 決裁有之度此段相伺候也  
 退テ寺院境内ノ儀ハ辛未五月中公布ノ趣ニテハ敢テ指支ノ筋無之儀ト存候也  
 指令 六年八月九日  
 伺ノ趣不被及御沙汰候條第百九十一號公布之通可相心得事  
 御達案  
 神社地ノ儀ニ就テハ去ル辛未七月中公布ノ趣モ有之候處今般別紙之通更ニ改正被 仰出候條未タ處分  
 無之向ハ右ニ照準シ速ニ境内外ノ區分可相立就中既往ノ處分ニ候共境内狹隘區分不都合ノ向等ハ是亦  
 速ニ復調ノ上凡テ往返日數ノ外六十日ヲ限リ大藏教部兩省へ夫夫無遲滯可届出候事  
 史官ヨリ教部省へ通牒 六年三月三十日  
 神社境内處分ノ儀ニ付先般御伺出相成候處右ハ此程地方官員會同ノ砌可達協議旨ヲ以大藏省へ御下談  
 相成候條同省へ御合議有之度此段申入候也  
 大藏省回答 六年七月二十八日  
 神社境内外區別ノ儀教部省伺書御差添御下問ノ趣致承知候右ハ辛未七月元神祓官元民部省協議ノ上相  
 伺公布相成候儀ニテ地方官ニ於テモ事務多端ノ際一層勉勵取調既ニ過半處分濟ニモ相成然ルヲ今更改  
 正ヲ要シ復調ノ御發令有之候節ハ既ニ調濟ノ地方官ハ許多ノ辛苦忽諸水泡ニ歸シ不易手戻ニ相成事  
 務遷延ノ地方ハ却テ僥倖ヲ得煩勞ヲ免レ可申尤辛未年中ノ調方ニテ弊害有之候ハ、不服改正候へ共左  
 程指支ノ儀モ有之間敷然ルニ政令屢變更相成候テハ將來地方ニ於テ狐疑ヲ抱キ諸般ノ事務取調方遷延  
 致スノミナラス人民ニ信義ヲ失ヒ頗ル不都合ヲ生シ可申且一先上知相成候舊境内今又一社附屬地ノ地



券相渡候儀ハ本年百十四號御布告ニ相戻リ不盡裁ニ付當省見込ヲ以別段公布案取調御同答勞致進達候也  
 法制課議案六年八月三日  
 別紙取部省申請社寺境内區畫ノ儀大藏省上申ノ趣審案候處辛未七月御布告ノ趣ヲ誤解シ社殿雨落外ヲ上地ニ取計ヒ伐木等致シ候儀ハ多有之筋ニモ候ハス且其誤解ノ實官ニ於テ之ニ任シ候譯ハ案ヨリ無之其之ヲ誤解致シ候者ノ過チニ候ヘハ今更ニ取部省申請ノ如キ御布達有之筋ニハ有間敷且大藏省上陳ノ通り今ニ至リ猶取調出來兼居候向モ有之候ニ付テハ同省答議御達案御採用相成此節御發令相成可然仍テ諸案取調仰高裁候也

內務省達 乙卯五月九日府縣

社寺境内外區分取調之儀去辛未五月同七月中公布有之候處今以テ不申立向モ有之士族授産官林存置拂下取調等ニ差支不都合ニ付可成取急キ差出可申且社寺境内樹木伐採之儀ハ昨癸酉二百三十五號并二百九十一號公布モ有之猥リニ伐木不相成筈ニ候處往往寺院境内之樹木其堂宇修繕等ニ托シ伐採致候向モ有之哉ニ相聞以之外之事ニ候以後右公布ニ照準シ嚴重取締心得違無之様可致此旨相達候事

布告節錄 第七百一十七號(全文ハ土地門土地)

明治六年三月第十四號布告地所名稱區別左ノ通改定候條此旨布告候事

- 官有地
- 第一種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス區入費ヲ賦セサルナ法トス  
 一 神地 伊勢神宮山陵官國幣社府縣社及ヒ民有ニアラサル社地ヲ云
  - 第二種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス區入費ヲ賦セサルナ法トス  
 一 民有地ニアラサル堂宇及墳墓地
  - 第四種 地券ヲ發セス地租ヲ課シ區入費ヲ賦スルナ法トス  
 一 寺院大中小學校說教場病院貧院等民有地ニアラサルモノ

同上ノ實狀ヲ併シ併セテ伐木ヲ嚴禁ス  
 辛未五月ノ公布ハ寺院境内區別ノ件(佛寺ノ部ニ載)七月ノ公布ハ神社境内區別ノ件上ニ載ス  
 癸酉二百三十五號并二百九十一號公布ハ伐木ノ條ニ載ス

十二年九月布告第三十四號ヲ以テ區入費ノ三字ヲ地方稅ト改メ租稅門地租ノ目ニ載ス  
 同上區入費ノ三字ヲ地方稅ト改メ借地料以下十三字ヲ借地料ヲ納ム(ヘント)改メ

民有地

第一種 地券ヲ發シ地租ヲ課シ區入費ヲ賦スルナ法トス

第二種

一 人民數人或ハ一村或ハ數村所有ノ確證アル學校病院倉牧場秣場社寺等官有地ニアラサル土地ヲ云  
 但此地賣買ハ其所有者一般自由ニ任スト雖モ潰地或ハ開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フナ法トス

(備考)

度會縣ヨリ地租改正事務局(同節錄七年月日)

第十九條 地券發行地所名稱區別御規則并ニ明治六年第五百三十三號租稅察日報濱田縣御指令ニ照準社以上ハ除稅地ニ組入素ヨリ稅法改正ニ於テモ同様ノ儀ト相心得候得共其他式内神社并ニ舊蹟有之社祠當縣下ノ儀ハ是迄大體除稅ノ地ニ候得共若シヤ有稅地等有之區區ニ相成候テハ改正ノ際不都合ト存候間右等ノ類悉皆除稅ノ權取計不苦候哉

地租改正事務局指令七年六月二十二日  
 第十九條 村社ノ儀ハ除稅地ノ權取調ヘ其以下ハ從前ノ儘據置ヘシ

地籍編製ハ七年十二月內務省達乙卯八月十四號ヲ以テ今スル所文書門地籍志表ニ載ス

- 今般地籍編製ニ付テハ土地ノ種類名稱都テ明治七年第二百二十號布告ニ因ル可シト雖モ右布告ハ特ニ其大綱ヲ揭ケタルカ故ニ各地ニ至テハ種類名稱遺漏ナキ能ハス且二百二十號布告ニ揭クル所ト雖モ往往各地方ノ京問ヲ來セリ由テ之ヲ詳解シ左ニ細目ヲ掲ク
- 一 山陵ト稱スルモノハ歷代天皇及ヒ皇后ノ兆域ナリ
  - 一 皇太子以下皇子皇女等ノ墓モ此内ニ編入ス
  - 一 官幣社地ト稱スルモノハ官幣社境内地ナリ國幣社以下之ニ倣ヘ但シ官國社ニハ大中小ノ別アリトス
  - 一 小社地ト稱スルモノハ村社ニ列セサル其以下神社ノ境内地ナリ
  - 一 堂宇敷地ト稱スルモノハ寺院境内ト稱スルニ足ラサル狹小ノ地ニ屋宇ヲ構ヘ佛像等ヲ設置セルモノヲ云ナリ
  - 一 寺院境内地ト稱スルモノハ法用必用ノ爲一區當チナシタル地ナリ
  - 一 說教所敷地ト稱スルモノハ神道及宗教ヲ説クノ場所ナリ







被スモノトス境內使用ノ部ニ載ス

九年二月十四日社寺境內休息所ノ新貸借期限ヲ定ム

社寺門 神社一

二百三十四

シ漸次引拂ノ積年季ヲ定メ繪圖面相添可伺出候事  
 一從前官營又ハ社費ヲ以テ社務所等取設ケ有之神官奉職中住居致居候分ハ境內地ニ据置可申事  
 一神社境內一時便利ノ爲メ休息所等取設ケ日日出稼差許差支無之場處ハ豫メ繪圖面ヲ以伺出候上三箇月以內ノ期限ヲ定メ貸渡相當借地料收入可致事  
 但官有ノ寺院境內ノ儀モ本條同様可相心得候事  
 右ノ外都テ境內へ新規人家ヲ取設ケ或ハ社人居屋敷等取廣ケ候儀ハ素ヨリ不相成儀ニ付不取締無之樣可致候此旨相達候事

(備考)

- 足柄縣ヨリ内務省へ伺八年六月五日  
 本年御省第四十九號神社境內舊社人居屋敷ノ儀ニ付條款御達ノ趣有之即取調其他件處分方左ニ相伺候
- 第一條 寺院ノ内住職自費ヲ以現境內へ家屋營築致シ敷地引ニ相成居候類境外ニ引分ケ不差支場所ハ御達第一條御達第一條御拂下ノ手續ニ準シ可然哉
  - 第二條 右家屋引分ケノ儀不都合ノ場所ハ御達第二條ニ準シ可然哉
  - 第三條 社寺現境內空地ノ内ヲ居民假借從來家屋私營致居候場所境外ニ引分ケ不差支分ハ御達第一條ニ照準難引分向ハ第二條ニ準シ可然哉
  - 第四條 同上境內空地有之堂宇屋舎ニ建繼又ハ家屋建築有之場所何レモ公立小學校ニ假用致來候分ハ全ク急務ノ教育上ニ關シ且民費多端建學草創ノ際校堂新築等民費ニ堪兼不得己一時學校ニ假借致候儀ニ付特別ノ譯ヲ以借地料ヲ賦セス追テ新築致候マテ假用差許置候積リ取調可然哉
  - 第五條 同上境外ニ引分ケ無差支分ハ學校地へ御下渡ノ積リ取調可然哉
  - 第六條 新規人家ヲ取設ケ或ハ社人居屋敷等取廣ケ候儀ハ不相成旨今般御達ノ處學校ノ儀社寺境內ニハ空地有之候得共該村町驛中ニハ適當ノ地處無之因テ右空地假用校堂新築又ハ社殿堂宇ニ建繼致度學區內人民ヨリ神官氏子又ハ住職中ニハ熱誠ノ未出願故障無之向ハ當分假用ノ積リ取調可然哉
  - 第七條 社寺參詣者ノメ境外ニ屬スル道敷引ノ内適宜ノ地ハ休息所取設ケ出稼ノ儀願出差支無之場所ハ御達第四條ニ準シ可然哉
  - 第八條 從來取設有之休息所借地料ノ儀ハ貸渡何齊ノ月ヨリ向三箇月限ト相心得相當ノ借地料收入可然哉
  - 第九條 休息所取設ノ儀伺ノ末三箇月以內ノ期限ヲ定メ貸渡滿期ニ及更ニ借地追願候向ハ豫メ繪圖面差出置候儀ニ付期限借地料等最前ノ處分ニ準シ取計置其旨開申可然哉
- 右件件相伺候也

舊朱印除地ノ社寺ニシテ廢合セシ者ヲ註上セシム

内務省指令八年七月三十一日  
 書面申出ノ趣左ノ通可相心得事  
 第一二箇條該寺境內へ家屋營築致敷地引ニ相成居候トハ從前高內引等ニテ名受ノ者有之候儀又ハ高外除地等ニ候儀不明ニテ何分詮議差支候條詳細尙取調可申出事  
 第三箇條社寺現境內空地ノ内ヲ居民假借從來家屋私營居住候場所境外ニ引分ケ不差支候分ハ相當代價ヲ以拂下ノ積給圖面相添可申出尤難引分ハ申出ノ通  
 第八箇條借地料ノ儀ハ借主へ相達候月ヨリ取立候儀ト可相心得事  
 第九箇條申出ノ通尤寬等築立永住等ノ儀無之樣可致事  
 第四五六七箇條申出ノ通尤箇條所限リ繪圖面相添尙可申出事

大藏省達 乙卯八月二十四日

各府縣管内元朱印除地有之社寺ノ内去ル明治元年ヨリ當八年五月迄廢合相成候分別紙雜形ノ通取調往復日數ヲ除ノ外六十日ヲ限無遷延可指出且今後廢合社寺有之候ハ、其都度都度可届出此旨相達候事

一社寺限調方

- 雜形 △社寺限リ調方ハ朱黑印除地之無差別合帳ニ取調合計ニテ朱黑印除地及廢合社寺之區別引分ケ記載スヘシ用紙美濃界紙ヲ用
- 朱黑印地 除地 歟
  - 何國何郡何村 歟
  - 何 何 寺社
  - 一高別 何程
  - 但何年何月幾日廢止
  - 但高反別之外貫高大繩場境內坪數等之分有之候ハ、本文同様調出スヘシ
  - 何國何郡何村 歟
  - 何 何 寺社
  - 朱黑印地 除地 歟
  - 何國何郡何村 歟
  - 何 何 寺社
  - 一高別 何程
  - 但何年何月幾日廢止
  - 但高反別之外貫高大繩場境內坪數等之分有之候ハ、本文同様調出スヘシ
  - 何國何郡何村 歟
  - 何 何 寺社
  - 一高別 何程
  - 但何年何月幾日廢止
  - 但高反別之外貫高大繩場境內坪數等之分有之候ハ、本文同様調出スヘシ
  - 何國何郡何村 歟
  - 何 何 寺社

但前同上  
 但何年何月幾日何國何郡何村何何社へ合併  
 右寄

社寺門 神社一

二百三十五



合高反別何程  
此譯  
朱黑印地歟  
反高反別何程  
△但高反別之外其高大繩場境內坪畝等之分有之候ハ、本文同様記載スヘシ  
廢社何十何社  
廢寺何十何寺

內譯  
朱黑印地歟  
反高反別何程  
△但前同上  
廢社何十何社

朱黑印地歟  
反高反別何程  
△但前同上  
廢寺何十何寺

內譯  
朱黑印地歟  
反高反別何程  
△但前同上  
合併社何十何社

朱黑印地歟  
反高反別何程  
△但前同上  
合併寺何十何寺

右之通相違無之候也

明治八年何月幾日

何府知事 縣令事 印

社寺境内外區畫取調規則  
則ヲ定ム

十四年六月迄第五十九號  
ヲ以テ地租改正事務局  
廢シ發務ヲ大藏省ニ屬ス  
七年内務省乙第七十一號  
達ハ境内取調官自派出ノ  
件上ニ載ス

八年十月地租改正事務局  
達乙第六號ヲ以テ但書ヲ  
更正ス

九年五月地租改正事務局  
達乙第六號ヲ以テ第六條  
ヘ但書ヲ追加ス

地租改正事務局達 乙四年六月二十九日  
社寺境内外區別取調之儀ニ付明治七年内務省乙第七十一號達之趣モ有之候所今般本局被開一般地租改  
正ニ際シ土地ノ名稱ヲ區別シ其所有ヲ定メ候ニ就テハ右境内外ノ區域判然不致テハ諸般差支候條別紙  
規則ニ照準至急取調可差出此旨相違候事

社寺境内外區畫取調規則

- 第一條 社寺境内之儀ハ祭典法用ニ必需之場所ヲ區畫シ更ニ新境内ト定其餘悉皆上地之積取調ヘキ事  
但シ民有地ノ社寺ハ從前ノ通心得ヘキ事
- 第二條 新ニ經界ヲ定ムルニハ溝澗堤塙又者道路等之地形ニ據リ判然區域取調標示建置クヘキ事
- 第三條 從前境内ニ多少未社法堂等星散シ實地難引離分ハ本地一枚ニ取調飛地之分及ヒ區域ヲナシタ  
ル子院等ハ一箇所限并埋墓地者夫夫別廉ニ取調フヘキ事  
但シ現境内トスヘキ地内ニ瑣瑣タル墓地散在シ區域引分カタキ分ハ現境内ニ据置クヘキ事
- 第四條 社堂燒失之後假設之分再建之見込アルモノハ舊建物吟味之上相當之敷地ヲ現境内ト定其餘上  
地之積尤假設之儘据置クヘキ分ハ現在建物之景況ニヨリ處分可致事
- 第五條 事故アリテ無稅地ヨリ有稅地ヘ移轉セシ分現今ノ敷地貢租上納致シ從前之敷地無稅之儘所有  
致シ來ル分ハ上地セシメ拂下之積心得ヘキ事
- 第六條 左之雜形之通現境内ヲ始地種悉皆記載之帳簿差出スヘキ事

何社  
朱印地  
黑印地歟



除地

某國某郡

見捨地

何村町

一舊境内

此反別

内

現境内

此反別

是者現境内ニ存置候見込之分

共有墓地

此反別

是者墓地トシテ存置候見込之分

私墾地田畑

此反別

是者何年月何何ニテ伺ノ上某へ御拂下御許可又者伺中之分

神官居住地

此反別

是者何年月何何ニ付伺之上某へ低價又ハ相當拂之分

山岳反別

此木數

但目通一尺以上

林反別

此木數

内譯同上 但同上

竹林反別

此竹數

但目通何寸廻ヨリ

荒蕪地

此反別

是者甲戌内務省甲第十六號布達ニヨリ還祿士族へ拂下見込之分

右之通相違無之候也

年月日

某府縣長官印

第七條 神社境内舊社人居屋敷等處分ノ儀ハ本年内務省乙第四十九號達ノ通心得ヘキ事

第八條 境内外ノ區別取調ノ上ハ繪圖面相添伺ヒ出ツヘキ事

以上

(備考)

宮城縣ヨリ内務省へ伺八年十二月十五日  
社寺院境内外區別ノ儀ハ取調濟即今伺中ナルニ右ノ外築師觀音等ノ佛堂境内ト稱シ民有ニアラサレト  
モ右ハ社寺院境内外調査ノ際同シク現存堂宇建物ノ景況ニヨリ更ニ敷地ヲ區畫シ其餘悉皆上地ノ積取調  
メリ右ノ内社寺院舊境内ニ從來建立ノ佛堂モ有之該地ハ今般調查ノ上境外ニ屬スル地内ナレトモ右佛  
堂ハ村民等ノ信仰モアリテ目今廢却ニモアラサル分ハ前同様現存ノ景況ニヨリ敷地取調度  
内務省指令九年一月二十三日  
堂宇境内外區別取調ノ儀伺ノ通聞届ク

布告節錄 八年七月二日(全文ハ土地門主)

明治七年十一月 第二百二十號布告地所名稱區別ノ内官有地第二種及ヒ民有地第三種ノ條左ノ通改正候條此

旨布告候事

民有地

社寺門 神社一

二百三十九

社寺地名稱區別ノ内民  
有地第三種ノ條ヲ改正  
ス  
九年六月布告第八十八號  
ヲ以テ第三種ヲ第二種ト  
改メ十二年九月布告三十



四級ヲ以テ區入費ヲ地方  
稅ト改メ租稅門地租ノ目  
ニ載ス

### 第二種地券ヲ發シテ地租區入費ヲ賦セサルナ法トス

一官有ニアラサル鄉村社地及ヒ墳墓地等ヲ云  
內務省令八年五月二十三日  
鄉村社地有稅ノ分除稅ノ儀ニ付大藏省令ノ御指令ノ趣又ハ四月二十七日御達ノ趣致承知候右ハ舊稅法  
存在中ハ從前ノ通據置地租改正後除稅相成候儀ト相心得候就テハ昨七年第百二十號御布告以來人民所  
有ノ證アル社地ハスヘテ民有地第二種又ハ第一種ニ組入來候處今般御達ノ趣ニ付テハ鄉村社ニ限民有  
地第三種ニ編入不致テハ名稱區別不相立候間左案ノ通り御布告相成度且右御布告ノ上ハ當省ヨリモ別  
紙ノ通り府縣ニ心得方相達可申ト存候間至急御裁可相成度此段相伺候也  
指令八年七月二日  
內務課議案八年五月四日  
別紙內務省令鄉村社地除稅ノ件右ハ當然ノ儀ニ付左ノ通御指令等有之可然哉仰高裁候也

### 地租改正事務局達

八年七月二十三日

社寺境内外區別取調トシテ官員可令派出旨昨七年內務省乙第七十一號ヲ以相達置候處今般當局乙第四  
號達ノ趣ニ照準於各地方取調可差出答ニ付而ハ右派出之儀ハ取消候條此旨相達候事

### 大藏省ヨリ開拓使ヘ達

八年七月二十九日

別紙內務省令社寺境内外區別分ノ儀朱書ノ通及指令候條爲心得此旨相達候事  
內務省令八年七月二日  
社寺領上地處分ノ儀ニ付昨七年中何濟ノ上當省乙第七十二號ヲ以相達候社寺及ヒ神官僧侶トノ間所屬  
定方規則中第五條舊神官ノ祖先僧侶ノ先住等私金買得及ヒ自費開墾ノ確證有之分ト雖モ其子孫或ハ後  
住ノ者ハ讓渡ノ證左無之分ハ悉皆該社寺ヘ可令附屬管ノ處眞宗僧徒ノ如キハ從來世襲ニ付自費買得開  
墾ノ地所共儘子孫ニ遺傳ノ實跡有之候ヘトモ該社寺ノ只相續及讓受ノ明證無之故ヲ以他僧侶ノ例ニ據リ一  
概ニ其所有ヲ離絶候テハ少シク情理ノ當ヲ得サルニ似且失產ノ者出來惘然ノ次第往往各地方ヨリ伺出  
事實無餘儀相開墾ニ付テハ假令境内社寺堂宇敷地ト雖モ水帳等ニ祖先ノ名受明瞭ナルモノハ一般人民  
ニ準シ檢地帳等人民古來遺傳及ヒ讓受ノ明證有之候ヘトモ該社寺ノ只相續及讓受ノ明證無之故ヲ以他僧侶ノ例ニ據リ一  
限リ其所有ト相定度右ハ規則上明文無之儀ニ付別紙甲號白川縣申候條相添一應相伺候間至急御決裁有  
之度候也

社寺世襲相傳ノ地所處  
分方ヲ定ム  
七年中何濟及乙第七十二  
號達書ハ社寺土地所屬分  
規則ナリ土地門土地所屬  
ニ載ス

社寺境内外區別取調ノ  
官員派出ヲ特ム

社寺境内外區別取調ノ官員派出旨昨七年內務省乙第七十一號ヲ以相達置候處今般當局乙第四  
號達ノ趣ニ照準於各地方取調可差出答ニ付而ハ右派出之儀ハ取消候條此旨相達候事  
內務省令八年七月二十九日  
白川縣ヨリ內務省ヘ伺八年四月十八日  
甲號  
僧侶身分族籍定ノ儀ニ付明治七年太政官第八號第七十四號御布告相成候處眞宗ノ如キ是迄世襲ノ者モ  
七十四號第二條ニ據リ別ニ本籍相定ヘキ儀ハ勿論ノ儀ト存候然ルニ同宗ノ者共儀從來世襲且同宗ニ限  
リ有稅地ニテ水帳ニモ住職ノ名前記載有之候ニ付自然其寺院ヲ以テ私所有物ト心得族籍ヲ定ムルノ際別  
ニ籍ヲ設ケルヲ嫌ヒ境内中ニ一戸ヲ設ケルカ或ハ庫裏等ヲ以テ籍ヲ定度等種種苦情申立候ヘトモ其寺  
院ヘ住職中ハ一般職分同様タルヘキ旨御達ノ通りニ付後住ノ儀ハ學識德行ナケレハ子孫ヲシテ寺門ヲ  
私シ恣ニ繼承セシムヘキ儀難出來ハ勿論ニ付其寺院内ニ於テ籍ヲ定ムル儀ハ決シテ不相成ト心得可然  
然ル處當縣下眞宗ノ儀ハ前條ニモ陳述ノ通り孰レモ有稅地ニテ水帳ニモ住職ノ名前記載有之間無  
稅ノ分モ右眞宗ニ限リ庚午年藩政改革ノ際ヨリ地稅收入仕來候ヘトモ一般寺院ノ儀ハ住職ノ私存スヘ  
キ儀ハ有之間數且以後世襲スヘカラサル儀ニ付旁以テ別ニ本籍爲相定有寺院敷地ノ内藩政改革ノ際ヨ  
リ地稅收入ノ別途免除ノ儀相伺官有地第四種ニ組入レ從前有稅ノ分ハ民有地第二種ニ組入可然儀ニ御  
達候哉此段相伺候也  
內務省令七年七月二十日  
別紙內務省令社寺境内外區別分ノ件審查候處眞宗僧徒ノ如キハ從前寺職世襲ニシテ亦同シク自費買得開墾  
ノ地所共子孫ニ遺傳ノ實跡アルモ相續讓渡ノ確證無之故ヲ以他宗僧侶ノ例ニ據リ處分候テハ情理當ヲ  
得サルノミナラス忽チ子孫遺傳ノ所有物ニ離レ次ヲ生産ヲ失スルモノモ可有之左候テハ事實惘然ノ次  
第ニ付讓渡ノ趣意ニ據リ處分爲致候方穩當ノ儀ト存候因テ諸案左ノ通取調仰高裁候也  
(備考)  
小田縣ヨリ內務省ヘ伺七年四月十六日  
眞宗ハ素ト實子孫綿綿相續致候儀ニ付先住買得ノ地所ハ平民私有地同一ニ相心得代替ノ節ハ勞證書替  
授與不苦候哉其他諸宗ノ儀ハ從前血統相續ノ儀無之候得共先般妻帶差許サレ尙又編籍相成候ニ付テハ  
以來諸宗ノ寺院住僧其嫡子又ハ養子等イダシ其寺院住職ヲ相續候節買得ノ地所ハ是亦眞宗同様取計可  
然哉  
內務省令七年十一月十三日  
眞宗ハ伺ノ通他宗ハ後住ノモノ等ハ讓渡ス旨遺證アラハ其者ヘ附屬シ遺證ナキハ妻子等アル者ハ其妻  
子并相續ノモノヘ附屬セシノ妻子并相續ノモノナキ上ハ入札拂取計フヘシ

### 內務省達

八年八月二日  
乙第一號



九年六月布告第八十八號  
ヲ以テ三種ノ第二種ニ  
改メ租稅門地租ノ日ニ載  
ス

神社境内地名稱區別ノ儀ハ明治七年第百二十號及ヒ本年第百十四號布告之通官民有之區別被相定候處  
民有地分ハ從前地稅相納來候處地租改正後ハ鄉村社以上之社地ニ限リ除稅相成候條右布告之通民有地  
第二種ニ編入可致尤鄉村社以上ニアラサル民有之社地ハ民有地第一種一人持又ハ第二種ニ二人以上編  
入シ成規之通取計候儀ト可相心得此旨相達候事

内務省議定 地租局發議 八年八月十日決刊

本年當省乙第百一號ヲ以テ民有地ニ有之鄉村社以上社地從前地稅相納來候處地租改正後ハ除稅ノ上民  
有地第三種ニ編入可致旨御達ノ趣モ有之ニ付テハ向後鄉村社以上ノ社地都合ニ據リ交換ノ儀申出候砌  
處分方左ノ通相定ム

第一條 民有地ヨリ民有地へ交換スルトキハ從前ノ社地即チ現境ニ當ル坪數ノミ民有地第三種ニ組入  
内ナリ其他超過ノ坪數ハ該社附屬地ト相定メ同第二種ニ組入ヘシ

第二條 官有地ヨリ民有地へ交換スルトキハ第一條ノ通取計從前ノ社地ハ上地セシム  
第二條 官有地ヨリ官有地へ交換スルトキハ從前ノ社地即チ現境ニ當ル坪數ノミ官有地第一種ニ組入  
内ナリ其他超過ノ坪數ハ第一條ノ通取計從前ノ社地ハ上地セシム

第四條 民有地ヨリ官有地へ交換スルトキハ第三條ノ通取計フヘシ

(備考)  
三重縣ヨリ内務省ヘ伺九年九月八日  
昨八年貴省乙第百一號達中民有ノ社地從前收稅ノ處地租改正後ハ鄉村以上ノ社地ニ限リ除稅民有地第  
三種へ編入スヘシトアリ又同年太政官第百十四號地所名稱區別更正布告ノ趣モアルニ依リ鄉村社地ハ  
淨テ除稅ノ積リ調查既濟ノ處福岡縣ヘ云云指令ニヨリ本年六月中念ノ爲メ杏寮セシニ乙第百一號達ノ  
主意ハ該社ノ名受地ニシテ福岡縣何ノ如キ人民ノ名受ナルモノハ民有地一種ニ編入スヘキ旨指令アリ  
キ然ルニ前項地所名稱區別別民有地第三種ノ部ニ官有ニアラサル鄉村社地及墳墓地等ヲ云フトアリ鄉村  
社地ト墳墓地トハ一向除稅ノ姿ニ記載アルニヨリ巴ニ墓地ハ其所有ヲ問ハス除稅ノ積リ調查既濟ナレ  
ハ該社地ノミ今日ニ至リ引直サントスルモ或ハ人民ニ於テ其除稅ノ地種墓地ノ除稅ト同一ニ出ルニ似  
テ其所有主ニヨリ區別アルノ疑團ヲ生スルハ必然ニシテ實際施行シ難ケレハ鄉村社以上ノ社地除稅ノ

社寺境内外區畫取調規則  
則第一條ヲ改正ス

教部官吏ノ社寺境内初  
査出候テ停ノ現境内ノ  
坪數及ヒ區面等ヲ錄上  
セシム

社寺領ノ外神官僧侶等  
一合謀トシテ先行テ等  
特別ノ朱印ヲ有スル  
者家祿給與方

境内區畫ノ査核ヲ了ス  
ルヲ以テ社寺新建并ニ  
移轉ニ際シ其坪數ノ制  
ヲ定ム

儀今一應御證讀相成度  
内務省指令九年十月五日  
鄉村社以上ノ社地一般民有地第二種へ編入ハ難聞屆最前指令ノ通心得ヘシ

地租改正事務局達 乙第八十月十五  
本年當局乙第四號ヲ以相達候社寺境内外區畫取調規則第一條但書左ノ通更正候條此旨相達候事

社寺境内外區畫取調規則  
第一條云云  
但鄉村社以上民有ノ社地ハ渾而本條ニ做ヒ境内ヲ定メ其他民有ノ社寺ハ從前ノ通可心得事

教部省達 八年十月二十五日  
社寺境内外區畫取調之儀本年(三)當省第六號同(四)十號ヲ以相達置候處右ハ差停候條諸社寺院共渾  
テ處分濟之上ハ現境内坪數及繪圖面等相添當省へ可届出此旨更ニ相達候事  
但延喜式内神社等境内外取調方之儀ハ本年(四)當省第九號達之通可相心得事

達九年一月二十日  
第四號府縣  
各管内社寺ノ内舊幕府及古普武將等ヨリ附與致シ候朱黑印地ノ内其神官僧侶等へ食祿トシテ社寺領ノ  
外充行候特名ノ別朱印有之分ハ詮議ノ上家祿給與方ノ儀何分ノ可及沙汰候得共社寺へ附與ノ一紙狀面  
中ニ神官僧侶ノ名前又ハ堪忍分社僧神主料等各種ノ名唱ヲ書載有之分ニテ從前其物成ヲ所有罷在候共  
右ハ全該社領ノ内ヨリ配當ノ儀ニ付家祿ハ不賜候條此旨朱黑印有之社寺へ布告スヘキ事

教部省へ達 九年二月二十八日



別紙内務省伺神社新建并移轉等ノ節境内坪數ノ儀朱書ノ通及指令候條爲心得此旨相達候事

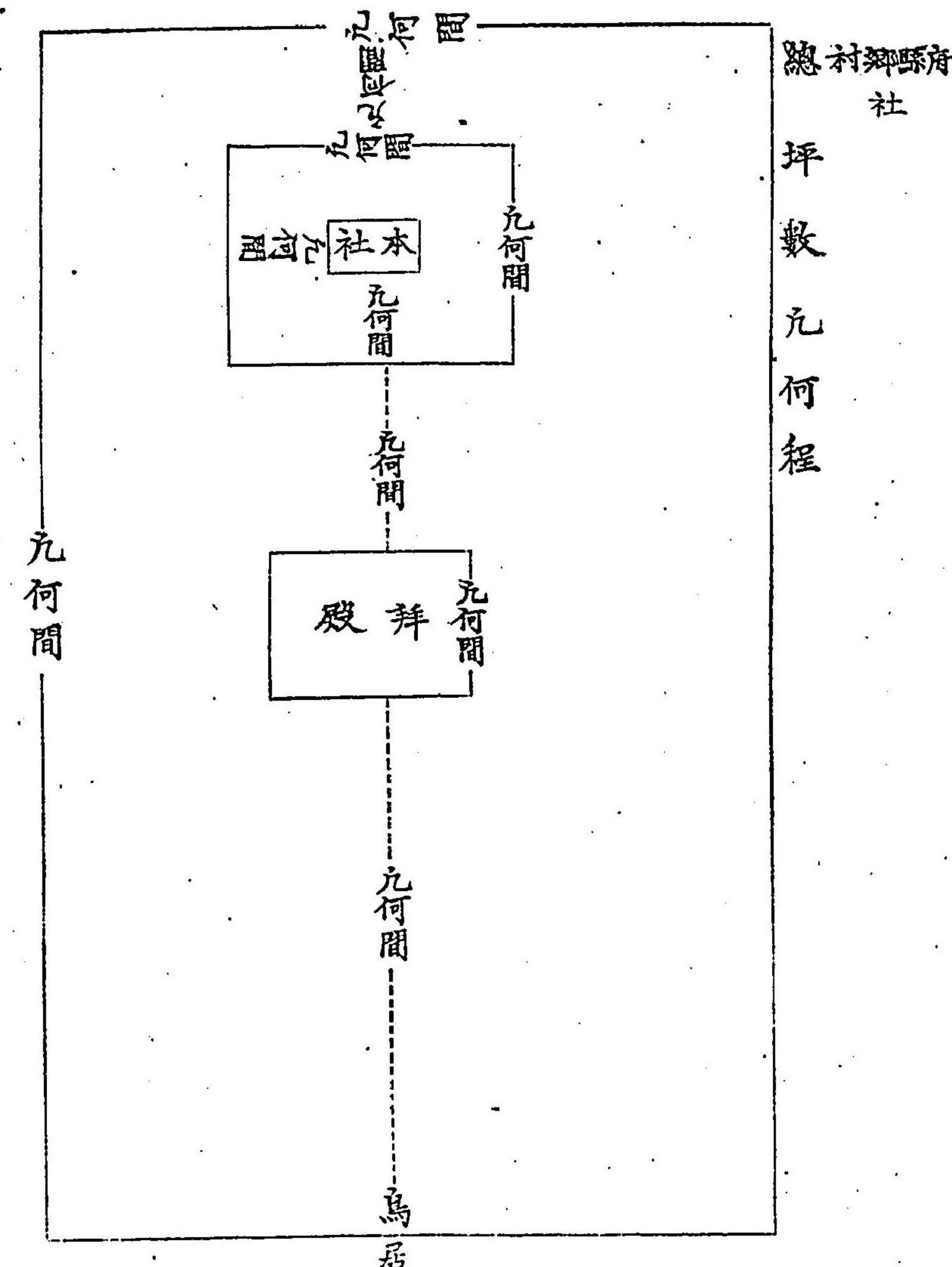
内務省伺九年二月十二日

在來神社境内外區畫御改定相成候ニ祭祀必需ノ地等相殘差支無之分ハ夫夫上地申付候ニ付テハ爾後府縣社以下新建并移轉等願出候節申出次第ノ坪數相届候テハ在來神社ノ境内ト抵觸イタシ前後不都合ニ付豫メ境内坪數制限御治定不相成候テハ差支候ニ付敷部省ハ及照會候處別紙ノ通回答有之候ニ付篤ト檢考候處繪圖而上玉垣内ニテ祭祀等差支ハ有之間敷併火災豫備ノ爲メ餘地ヲ要シ候儀ニテ玉垣内相應ノ餘地有之候ヘトモ周圍人家稠密ノ場所又ハ實地ノ景況ニ寄分裂難致地所等一概右玉垣内制限ヲ以テ確定候テハ差支候向モ可有之ニ付右等斟酌府縣社ハ玉垣内四百五十坪ノ一倍郷社ハ同斷二百九十坪ノ一倍村社ハ同斷百八十四坪ノ一倍マテテ制限ト相定メ置共實地ノ景況ニ應シ取捨イタシ度依テ別紙敷部省ヘノ往復書類相添此段相同候條至急何分ノ御指揮有之度候也  
指令九年二月二十八日

(別紙)

内務省ヨリ敷部省ヘ掛合九年二月四日

府縣社以下神社新設或ハ移轉社格昇進社地ヲ取廣ムル等之節境内取極方之儀其時宜ニヨリ處分イタシ來候處到底區區ニ相成候テハ不都合ニ付舊式ヲ履ムヘキ神社ノ外各社格ニ應シ境内地坪數概略之制限相立置度候間御省御見込之處承知イタシ度此段及御懇合候間至急御回答有之度候也  
追テ別紙畧圖ニ依ヒ夫夫御取調御申越シ有之度候也





一府縣社 境内總坪數凡二千坪  
 一鄉社 同上 凡千五百坪  
 一村社 同上 凡千坪  
 右敷地坪數并建物容圖如左

敬部省同答九年一月十日  
 府縣社以下神社新設等ニ付境内取極方地坪制限御應合之趣了承右ハ府縣社以下在來之分廣狹不同殊ニ  
 市井山野ノ別ニ有之一概ニ目算難相立候得共先ツ官國幣小社之内最小ナル境内ヲ三千坪ト看做シ左ニ  
 等差ヲ設ク別紙圖面之通り一應見込ニ相定候條猶篤ト御商議有之度此段及御報候也

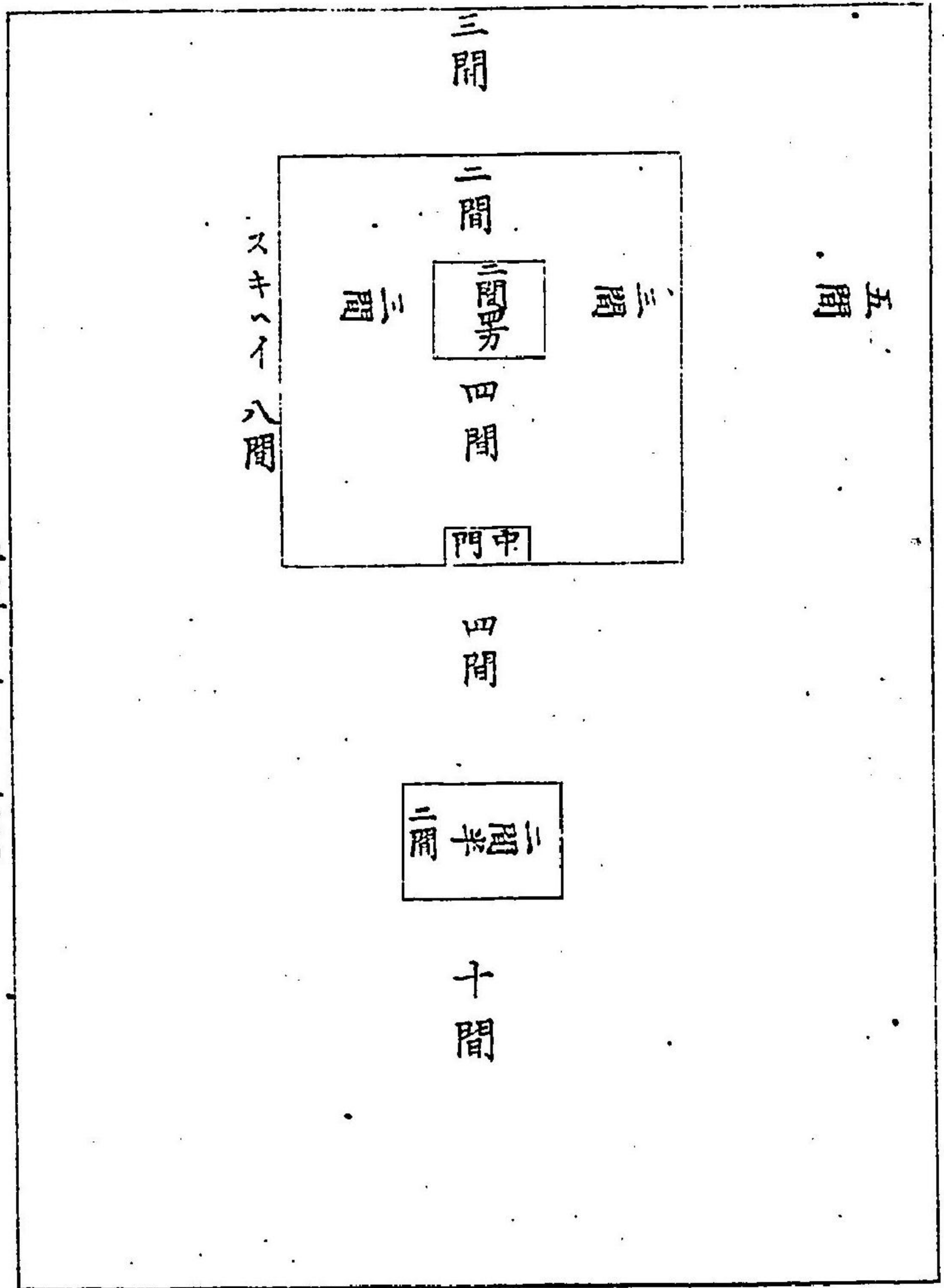
府縣社

官國幣小社ヲ二割五分減

敷地坪數四百五十坪

境内總坪  
二千坪ノ  
見込

圖ノ十餘坪

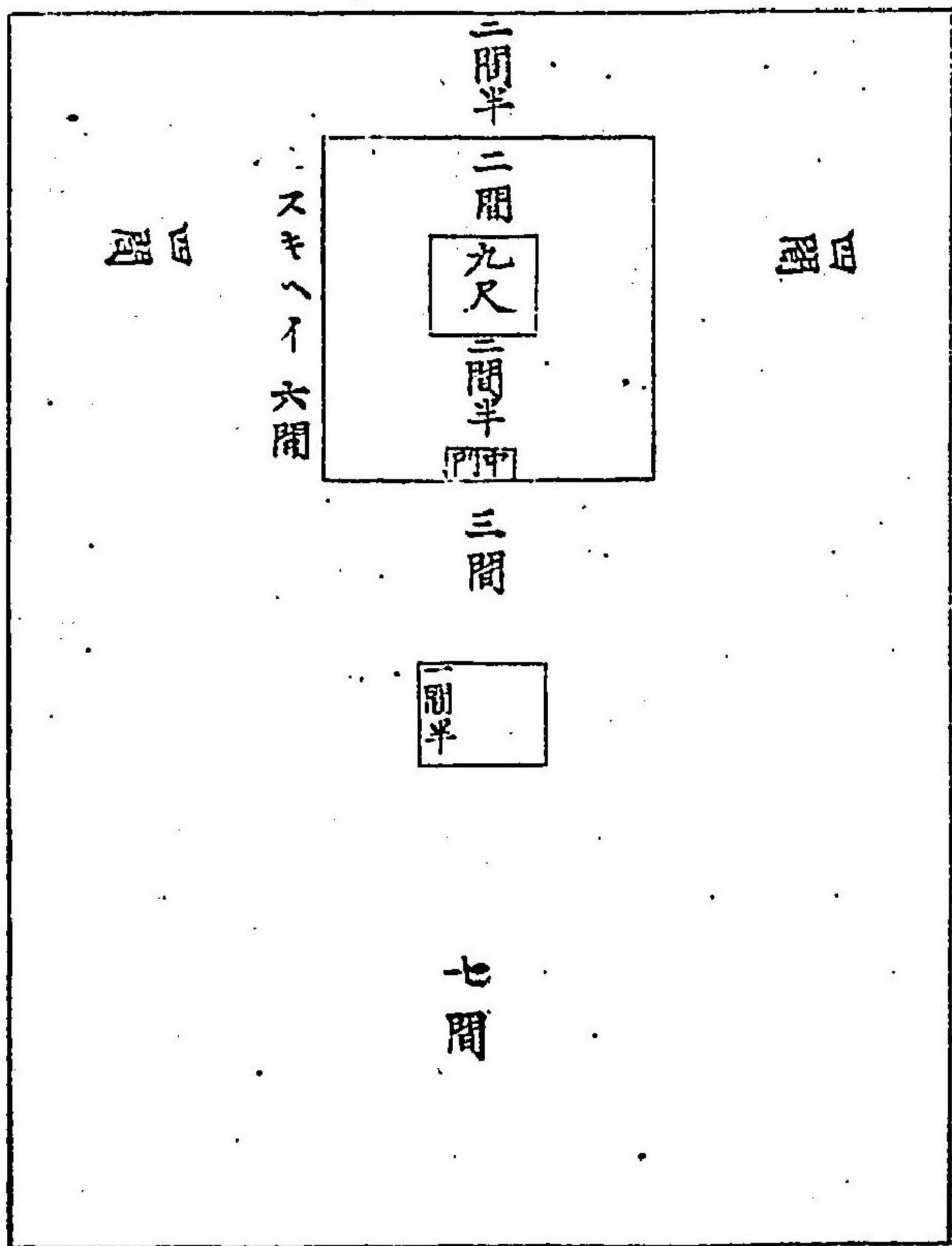




境内總坪  
千五百坪  
見込

郷社

長四日十箇以



府縣社ヨリ三割五分餘減  
敷地坪數二百九十坪

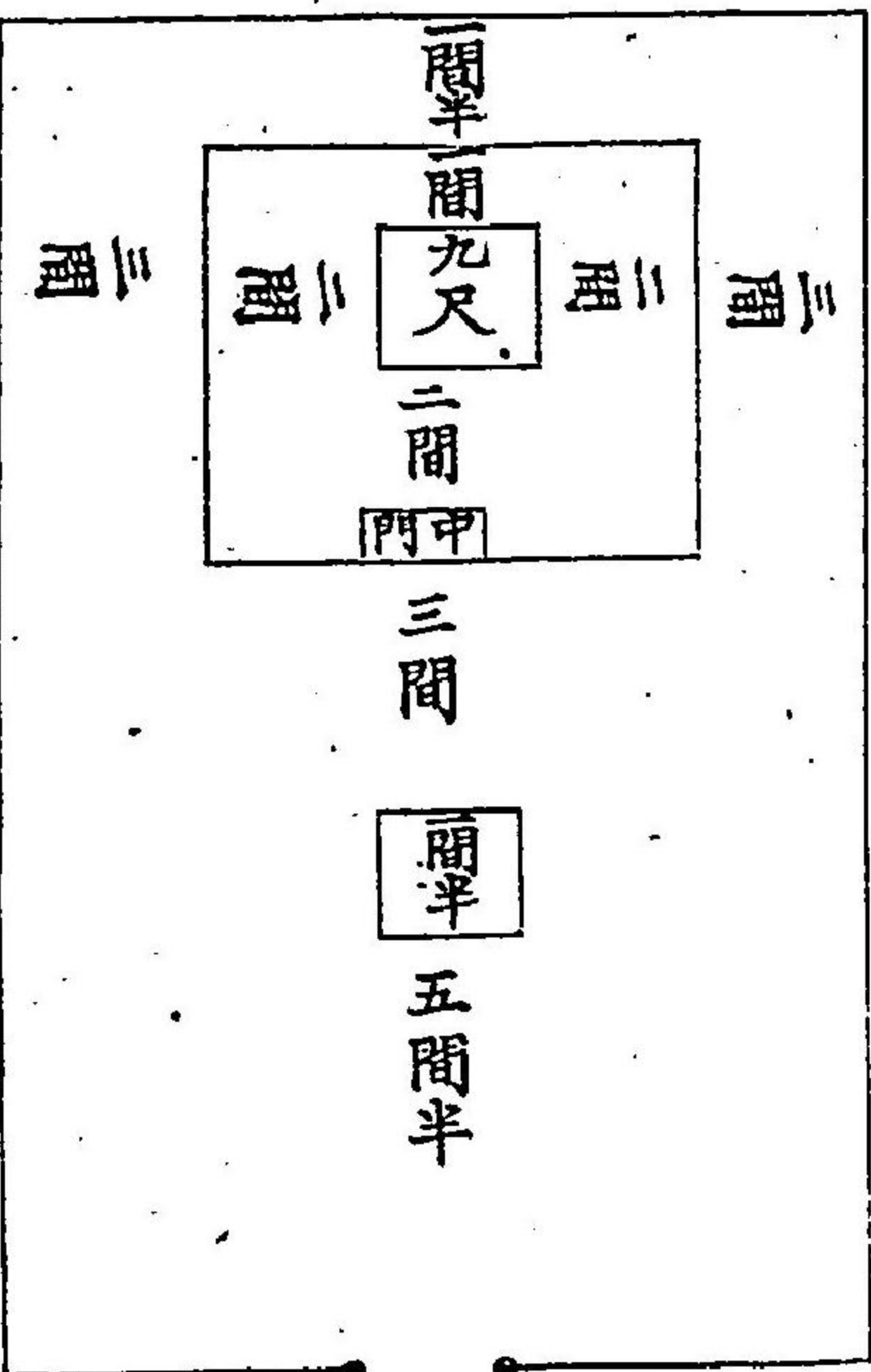
五垣二十間

村社

郷社ヨリ三割六分餘減  
敷地坪數百八十四坪

境内總坪  
千坪  
見込

長四日十箇以



五垣十六間

内務省ヨリ教部省へ再掛合九年一月十八日  
府縣社以下神社新設及ヒ社格昇進等之節境内地取極方之儀ニ付御同答之旨了承然ハニ先般及御掛合候儀ハ社格ニヨリ祭祀之都合モ可有之ニ付及御同合候儀ニ有之在來之官國幣社等ニ比較數千歩ヲ不要トモ繪圖而上玉垣内ヲ以テ境内地ニ取極可然哉ニ被存候處今一應御商議之上祭祀必要之坪數ノ御取極尙御同答有之度此段及御掛合候也

教部省同答九年一月二十二日  
府縣社以下神社新設等之節境内地取極方之儀ニ付再應御照會之趣了承右ハ御來示之通玉垣内ヲ以境内地ト取定メ祭祀上差支ハ有之間布候得共火災等豫備之爲メ相應之餘地無之ヲハ將來差支可有之尤各社實地之模様モ有之事ニテ右餘地ト雖モ一概ニ豫定イタシ兼候得共粗先查及御答議候次第ニ有之候條尙前段之趣篤ト御商量有之度右御回報如此候也

史官ヨリ内務省へ照會九年二月四日  
神社新設并移轉等之節境内坪數之儀ニ付御伺書面中府縣社ハ玉垣内四百五十坪之一倍云云記載有之右一倍ハ玉垣内外ニ於テ九百坪之御見込トハ相考候得共或ハ玉垣外ニ於テ四百五十坪之一倍則九百坪之



積リニ候哉左候得ハ内外ニ於テ總計千三百五十坪之割合ニ相成候様相見何分判然不致候間爲念一應及御照會候條至急御同答有之度候也  
 第二科續案九年二月二十日  
 別紙内務省同神社新建并移轉等ノ節境内坪數ノ儀何面中一倍云云ト記載有之文意判然不致候間一應及照會候處別格ノ通同答有之爲ト勘査候處右地所ノ儀ハ豫シテ制限相立畫尙實際ニ付斟酌取捨候方處分上ノ都合トモ被存候間申請ノ通御聽許相成可然歟御指令案左ニ取調此段相伺候也  
 内務省同答九年二月十九日  
 神社新建并移轉等ノ節境内坪數ノ儀府縣ハ玉垣内四百五十坪ノ一倍云云判然不致候間一應御照會ノ旨了承右四百五十坪ノ一倍ハ玉垣内ヲ四百五十坪玉垣外ヲ四百五十坪内外ニテ九百坪ノ見込ニ有之候此段及御同答候也

社寺地處分心得書 九年三月二十九日

第一章 境内官民有區別ノ事

第一條 社寺敷地ハ其地所ノ原由ニヨリテ官有ニ屬スルモノアリ民有ニ屬スルモノアリ然テ官有ニ屬スル神地ハ官有地第一種ヘ寺院敷地ハ同第四種ヘ編入シ民有ニ屬スル鄉村社以上ノ神地ハ民有地第一種ヘ右以下ノ小社及ヒ寺院敷地ニシテ人民一己ノ名受アルモノハ民有地第一種ヘ數人所有ノ地ハ同第二種ヘ編入スルモノトス  
 第二條 總テ民有地ヲ政府ヘ買上タル地ハ勿論從前朱印地除地舊領主審附及ヒ見捨地高内免稅地等從來無稅ノ地ニシテ民有ノ證ナキモノハ官有地ニ編入スヘキモノトス  
 第三條 從前水帳ニ何社寺ト名受アル高内引ノ分ハ其社寺ノ所有トナスヘシ其他從前貢租ヲ納メ來ル社寺ノ名受及ヒ舊神官僧侶又ハ人民ノ名受アル地ハ民有地トナスヘシ然レトモ名受人若クハ子孫トモ滅亡シ且氏子檀中ナキモノニシテ全ク所有ノ權ヲ放棄セルモノハ官有地ニ編入スヘシ  
 但氏子檀中アルモノハ民有地第二種ヘ編入スヘシ  
 第四條 境内一區ノ内官有民有兩種ノ地所ヲ合セシ社寺地ハ其經界ヲ區分シ圖上色分ケテナシ官民地種引分編入致シ帳簿記載方ノ儀官有地帳簿ハ外書ニ民有地若干民有地帳簿ハ外書ニ官有地若干ト記

社寺境内地處分心得書  
 九定ム

載スヘシ

第二章 境内外區別ノ事

第一條 官有ノ社寺及ヒ民有地鄉村社以上ノ神地ハ明治八年地租改正事務局乙第四號公達ニ準據シテ境内外ヲ區別シ其他民有ノ社寺地ハ從前ノ通タルヘシ  
 第二條 經界ヲ定ムルハ右公達第一二條ニヨリ實地適當ノ區畫ヲ判定スヘシ但大社寺ニシテ鳥居山門等突出シ右門内ノ道路ニ傍テ未社子院其人民ノ居宅地等アルモノハ鳥居山門以内ト雖モ右道敷ハ普通ノ道路トナシ境外ト定ムヘシ  
 但本條ノ如ク境外地ニ定ムルト雖モ鳥居山門等ハ取毀ニ及ハサル事  
 第三條 從前境内ニ之アル神官僧侶ノ居宅境外ニ引分ケ差支ナキ場所ハ境外トナスヘシ尤社寺地ノ風致ヲ損スルカ又ハ祠堂ノ建續或ハ一字ノ内ヲ區分シ居住セル等祭式法用必需ノ場所ハ境内ニ据置クヘシ  
 第四條 現境内ト定ムル區内ニ神官僧侶及ヒ人民ノ居宅或ハ一時便利ノ爲メ休息所等取設ケ出稼ノモノコレアル分ハ八年内務省乙第四十九號公達ニ照シ拜借地ノ處分ヲナスヘシ  
 第五條 現境内ト定ムル地内ニ存在スル樹木ハ假令神官僧侶又ハ氏子檀中ノ自費培養ニ係ルモノト雖モ社寺ノ現在スル限りハ六年太政官第二百三十五號及ヒ同年二百九十一號公布ノ通漫リニ伐木スルヲ禁ス  
 第六條 實測圖面ヘハ現境内外ノ區分ヲ判然區畫シ溝塹水路及ヒ堂宇其他ノ建物アルモノハ其位置ヲ記載シ且境外土地ノ田畑宅地藪林荒蕪及墓地等總テ其地種ヲ區分シテ色分スヘシ  
 第七條 縮圖ハ一分一間ノ割ヲ以テ美濃全紙ニ製スヘシ尤大社寺ニシテ全紙餘剩スルモノハ五釐一間以下適宜ニ縮減スヘシ  
 第三章 境外上地處分ノ事  
 第一條 境外上地ニ屬スル地所ハ七年内務省乙第七十二號公達ノ規則ニ照據シ并下條ノ例ヲ照シテ所



有テ定ムルモノトス

第二條 土地ノ田畑ハ其初メ熟地ヲ以テ政府ヨリ附與セシカ社寺費又ハ舊神官僧侶若クハ他ノ人民自費ヲ以テ荒蕪不毛地ヲ開墾セシカノ成跡ヲ篤ト取糺シ其緣故ニヨリ所有ヲ定ムヘシ

第三條 社寺費ナルカ神官僧侶ノ自費ナルカノ區別ヲ判定スルコト尤モ難事トス故ニ左ノ數條ニ照シテ調査ヲ遂ケ若シ實際疑似ニ涉ルモノハ地租改正事務局稟議ノ上處分ヲナスヘシ

第四條 社寺費ノ開墾ト申立ツルモノハ勿論舊神官ノ祖先寺院ノ先住職自費ノ開墾ニ係ルモノ從來該社寺ヘ寄附ノ姿ヲナシ又ハ氏子檀家ニテ費用ヲ出シ開墾セシ地ハ則其費用ヲ寄附セシモノニ付社寺ノ所有トナスヘシ尤後住相續人共ノ一身ヘ譲リ渡シノ確證アルカ又ハ神官或ハ眞宗舊修驗者等子孫連綿相續ノ者ハ其讓受シ者ノ所有トナスヘシ

第五條 總テ神官僧侶ノ所有ニ歸スルモノ其確證ヲシト雖モ自資買得又ハ自資開墾等事實相違ナキ旨氏子檀中總代ノ内保證スルモノハ書面ヲ差出サセ所有ヲ定ムヘシ

第六條 土地ノ内舊神官僧侶及ヒ修驗者ノ屋敷地ハ八年内務省乙第四十九號及乙第二百二十九號ノ例規ニ照シテ處分スヘシ

第七條 土地ノ内他ノ人民家作居住スルモノハ現住人ヘ相當拂ヲナスヘシ尤辛未一月社寺領上地前社寺神官僧侶ニテ荒蕪地ヲ田畑宅地ニ開墾セシ地ヲ他ノ人民ヘ貸渡シタル確證アルカ又ハ借地人ニテ保證スルモノハ無代價ヲ以テ開墾主ヘ下附スルモノトス

第八條 境外荒蕪地ヘ寺費又ハ神官僧侶ノ自費ヲ以テ木竹ヲ培植セシ確證アルモノハ立木ノミ該者ヘ無代價ニテ下附シ地所ハ官有地ヘ編入スヘシ若シ拂下願出民有地トナシ差支ナキモノハ相當代價取調内務省ヘ處分ヲ乞フヘシ

但シ神社ノ分ハ六年太政官第二百九十一號公布ノ趣ニ付伐木拂下等ニナスヘカラス

三藩縣ヨリ地租改正局ヘ何年月日開  
社寺領内外區別并上地處分方ノ儀ニ付テハ追追御達ノ趣モ有之夫夫御成規有之分ハ勿論ニ候得共實際ニ當リテハ尙異議ノ種類モ有之候ニ付彼是參酌別紙心得書ノ振合ヲ以テ一般遠調査度就テハ本年御局乙

九年一月地租改正事務局達乙第一號ノ土地門土地附ノ目ニ載ス

第一號御達ノ趣モ有之ニ付右心得書ノ通ヲ以テ照限リ處分ノ上具申仕可然候最早速業切迫ノ場合ニ付早急御指令被下度  
地租改正局指令 九年三月二十九日  
社寺地處分心得書ハ第一章第三四條第二章第五條第三章第八條ハ掛紙ノ通相改可申第三章第九十條ハ一般ノ處分詮議中ニ付退テ可相違管ニ候間除削可致其他ハ何ノ通相心得尙疑似ニ涉ルモノハ廉限リ取調伺出ツヘシ

布告 九年五月十二日太政大臣三條實美署

明治三年十二月云云ノ布告ハ四年正月五日ノ發布ニ係ル  
九年六月布告第八十三號ヲ以テ令文中更正ス

社寺領内外區畫取調規則第六條ニ但書ヲ加フ

地租改正事務局達 九年五月十六日  
明治八年當局乙第四號社寺領内外區畫取調規則第六條ヘ左ノ通但書追加候條此旨相違候事

布告 九年六月六日太政大臣三條實美署

本年五月第六十六號布告第五行中左ノ通更正候條此旨布告候事  
第五行  
無代價ニテ下渡シノ下ヘ其民有地トナシ差支アルモノ并ノ十四字ヲ加フ  
質地年限中ノ分ハノ下(請返シ)ノ三字ヲ削ル



社寺現境内坪數及繪圖面等未定ノ分ハ速ニ内務省ニ進呈セム

官國幣社式内社ヲ除クノ外社寺境内ノ民有地ニ組替ルヲ許ス  
十七年三月二十九日無代價下渡地中ニ在リ立ホモ民有ト定ムヘキヲ長野縣ニ指令ス

内務省達 乙二十年二月二十四日  
社寺現境内坪數及繪圖面等差出方八年元教部省第四十二號達書ノ件右ハ自今當省へ可差出答ニ候條  
此旨爲心得相達候事

但既ニ進達濟ノ分ハ此限ニアラス

社寺局ヨリ内務省へ伺十年二月二十三日

別紙八年元教部省第四十二號達書ノ件右繪圖面等ハ社寺局必須不可闕品ニ付更ニ御達案左ニ相伺候尤

二三縣既ニ進達ノ向キ有之候得共後合縣等ニテ書類相揃兼候ニ付但書ヲ加フ

内務省ヨリ開拓使へ通牒十年二月二十三日

別紙乙第二十四號ノ通府縣へ相達候條同様御心得有之度此段申入候也

内務省達 乙二十一年五月九日  
官國幣社式及文明十八年以前ノ創立ニ係ル社寺并公園地區畫中ノ社寺ヲ除クノ外官有地ニ在ル社寺  
ニシテ境内外區畫決定ノ分ニ限リ該社寺於テ請願候ハ、無代價下渡民有地第一種ニ組替其旨時可届  
出此旨相達候事

東京府布達 甲二十一年五月二十七日

官國幣社式及文明十八年以前ノ創立ニ係ル社寺并公園地區畫中ノ社寺ヲ除クノ外官有地ニ在ル社寺  
ニシテ境内外區畫決定ノ分ニ限リ其願ニ依リ詮議之上右境内地無代價ヲ以テ民有地ニ下渡候條請願候  
社寺ハ其創立年月及圖面等詳細取調 住職并ニ檀家 連署之上可願出此旨社寺へ布達候事

内務省伺 十一年三月二十九日

民有ニ屬セサル社寺地ノ儀ハ退却御裁可ノ通境内外ノ區畫ヲ立境内地ト雖モ官有地ニ據置候處往往右  
境内地ニ限リ民有地ニ被定度旨希望候者有之哉ニ相聞申候本來官國幣社ノ儀ハ其經營修繕總テ官費ニ  
屬シ式社ノ儀ハ數千年ノ古跡ニシテ保存ヲ要シ候故官有地ニ據置相成至當ニ候ハ其他ノ社寺ニ至テ  
ハ氏子檀越ノ維持ニ任セ官ニテ出金不致儀ニ付氏子檀越ニテ民有地ニ組替願出候ハ、區畫調査濟ノ分  
ニ限リ願旨許可致シ社寺名ノ券狀相渡候條致シ度此段請御裁可候也  
指令 十一年四月十八日  
伺之通

調査局議案 十一年四月四日

別紙内務省伺民有ニ屬セサル社寺地ノ儀ハ境内外ノ區畫ヲ立境内地ト雖モ官有地ニ據置候處往往右境  
内地ニ限リ民有地ニ被定度旨希望候者有之哉ニ付官國幣社ヲ除キ其他ノ社寺ニ至テハ氏子檀越ノ維持  
ニ任セ官ニテ出金不致儀ニ付氏子檀越ニテ民有地ニ組替願出候ハ、區畫調査濟ノ分ニ限リ許可致度旨  
別段支障ノ儀モ無之候間御願相成可哉御指令案左ニ相伺候也

内務省議定 地租局 限六月四日決刊

社寺地ノ儀此度太政官經伺ノ上乙第四十一號ヲ以テ御達ノ次第モ有之ニ付今後社寺移轉請願ノ向ハ左  
ノ條款ニ因テ處分ス  
官國幣社及延喜式内社并文明十八年以前創立ノ社寺ハ己ムコトヲ得サル特別ノ理由アルニ非サレハ  
移轉スヘカラサルモノトス  
文明十八年以後ノ創立ニ係ル社寺氏子檀中協議ノ上移轉ヲ請願スルモノハ左ノ條款ニ照準シテ處分ス  
ルモノトス

〔增價官有地ヲ拂下ノ儀官ニ於テ蓋支有之場所ハ此條款ノ限ニアラス 十一年九月七日地租局發議ニテ追加〕

一官有地ヨリ民有地ヘ移轉スルモノ地租其據置クヘシ

一民有地ヨリ官有地ニ移轉スルモノハ相當代價ヲ以拂下ノ上民有地第一種トナス

一官有地ヨリ官有地ニ移轉スルモノモ相當代價ヲ以拂下ノ上民有地第一種トナス

一社寺ヲ若シ創立スルカ或ハ既ニ廢絶ノモノヲ再興ノ場合ニ於テ其敷地官有地ハ拂下總テ民有地第一種ニ組入ルヘキモノトス

一文明十八年以後ノ創立ニ係ル社寺ト雖忠臣孝子義僕節婦ノ遺傳該寺地ニ係リ人口ニ喰食シ確實ナルモノ官有地ハ舊蹟ノ部ニ組入保存スルモノトス

〔增價創立不詳アル者ハ漫ニ移轉ヲ許サ、ルヘシ 十一年九月七日地租局發議ニテ追加〕

本年御省乙第四十一號御達而文明十八年以前ノ創立ニ係ル社寺并公園地區畫中ノ社寺ヲ除ク外官有地ニ在ル社寺ニシテ境内外區畫決定ノ分ニ限リ該社寺ニ於テ請願候ハ、無代價下渡云云ト有之右文明十八年ヲ以區分相立候儀ハ何等ノ緣由ニ出候哉爲心得此段相伺候也

内務省指令 十一年七月八日

書面之趣ハ距今概略四百年前ヲ目途トシ區分候儀ト可心得事

東京府ヨリ内務省社寺局へ照會 十一年十月二十六日

御省本年第四十一號達官國幣社式内社及文明十八年以前ノ創立云云ト有之上ハ無論新舊ノ區分ヲ以テ處分相成ル儀ニ可有之然レハ文明十八年以前ノ創立セル社寺ハ假令其後地所移轉スレトモ創始ノ年度ヨリ起算シ可然哉

内務省社寺局回答 十一年十一月二十日



御開合ノ趣了承右ハ文明十八年以前ノ創立ニ係ルトモ其後他所へ移轉シタル上ハ移轉ノ年度ヨリ起算ノ心得ヲ以テ取調相成可然但シ式内國史見在社并特別ノ由緒有之古社寺ト見込取添具申相成ル方然ル

和歌山縣ヨリ内務省へ伺十一月十二日

本年御省乙第四十一號ヲ以テ官國幣社及文明十八年以前ノ創立ニ係ル社寺中略テ除外官有地ニアル社寺ニシテ境内外區畫決定ノ分ニ限リ其願請ニ依リ無代價下渡シ民有地第一種へ組替云云御達ニ付取調心得方左ニ相伺候右ハ差懸候儀モ有之候付至急御指示相仰候也

第一 創立ノ年曆ヲ調査スルハ主トシテ該社寺ノ縁起其外舊書類ニ據リ調査スルハ無論ニ候エトモ其書タル舊來傳襲ノモノ多クハ亡失シ僅ニ其寫本ヲ存シ又或ハ荒謬無稽ニシテ全ク信憑ノ證左トナシ難キ類許多ナレハ如是類ハ本廳備置ノ紀伊國續風土記(和歌山縣)仁井田好古(命)ヲ以テ調査スルモ最

モ詳ハ正確可據モノニ付此ニ照對シ其所載ニ依テ取捨致シ可然哉

第二 寺院ハ己ニ壬申年中調査差出候寺院明細帳ニハ其創立年度モ記録シタレハ之ニ據リ可取調ハ無論ニ候ヘトモ或ハ右風土記所載ト組替シタルトモ終ニ就レカ正實ナルコトヲ調査シ難キトモ當廳

第三 於當廳信據ヲ取ルヘキ書モ無之又該社寺ヨリ差出タル縁起其外古書類ニ於テモ確實ノ證左ト視認シ難キトキハ一切採用不致儀ト相心得可然哉

右 内務省指令十一年十二月十一日 書面之趣左之通相心得地種組替之廉ハ其都度可伺出事

第一二條 伺之通 但明細帳ニ據ザルモノハ其旨記載スヘシ

第三條 創立年月古籍ニ不詳ト雖トモ土人ノ口碑ニ傳フルカ或ハ古跡ニ屬シ保存ヲ要スヘシト認ムル外ハ文明十八年以後ニ引付處分スヘシ

山形縣ヨリ内務省へ伺十二月二十日 貴省昨十一月乙第四十一號官國幣社式社及文明十八年以前創立ニ係ル社寺云云御達相成ル處右ハ堂地

地籍簿ヲモ同様無代價下與可然哉當初境内區畫調査ノ際社寺地同様區畫査定シタルニハ差別無之トハ思考スレトモ御達面明文ナク守護ノ寺院ヨリ出願ノ向モ有之ニ付相伺候

内務省指令十三年四月二十日 一寺院同様公認セシ分ハ何ノ通疑似ニ涉ル分ハ伺出ヘシ 但出願者ハ堂宇共有ハ限ルヘシ

堺縣ヨリ内務省へ伺十二年二月二十四日

十一年御省乙第四十一號達ニ官有地ニアル社寺ノ現境内ヲ請願ニヨリ無代價下渡ス分ハ民有地第一種ニ可組替ノ處社格村社以上ノモノハ八年第百十四號布告地所名稱區別更正ニ基キ民有地第二種ニ編入可然哉

内務省指令十二年三月三十一日 伺ノ通相心得其都度伺出ヘシ

熊本縣ヨリ内務省へ伺十五年六月八日 官有ノ社寺地下渡ノ儀ニ付テハ明治十一年御省乙第四十一號御達ノ趣ヨリ境内外區畫決定ノ分該社寺

ニ於テ下渡請願候ハ、府縣鄉村社トモ無代價下渡民有地第一種ニ組換其時御届及ヒ可然ヤニ相見候處地所名稱區別ニヨレハ官有ニ非サル鄉村社地ハ民有地第二種ニ編入スヘキモノニシテ彼是矛盾候

得共依請願下渡シタル分ハ右ノ明文ニ不係民有地第一種ニ可組入儀ニ有之候誤又ハ鄉村社以上ノ社地ハ不下渡御主意ニ可有之哉

内務省指令十五年七月二十二日 請願ニヨリ下渡シタル分一旦民有地第一種へ編入更ニ第二種へ組換候儀ト心得ヘシ

大分縣ヨリ内務省へ伺十二年五月二十三日 豊前國下毛郡大貞村縣社薦神社所有地同村字中ノ林山林段別七町三段八畝三步同郡大悟法村字幸無山

林段別九町七段九畝十九步同郡加來村字加來原山林段別二十三町一段九畝二十七步ハ本ト加來大悟法村ヨリ寄附セルモノトシ兩村總代ヨリ共有地券狀請願シ來レルニ因リ其源ヲ追調スルニ其地ハ元和年

中細川忠興其領内大貞一村及ヒ大悟法村ノ内ニ付テ高百石及修繕費トシテ元境内山林ヲ寄附セリ爾後小笠原與平兩氏ヲ經明治四年正月ニ至リ官令ニ遵ヒ始メテ境内ノ餘ハ悉ク還奉スルニ至リテハ空ク還減額祀ニ歸セ

寄附地ト領主ノ扶持トニ依リ祭祀經營ニ供給セルカ故ニ悉皆還奉スルニ至リテハ空ク還減額祀ニ歸セシテ應リ舊中津藩ヨリ辨官ニ要求シ更ニ再ヒ該社ヘ下與シ爾來始メテ山林地租銀札六百六十四分六

釐二毛五絲ノ上納セシメ已ニ七年地租改正後モ亦尙ホ舊ニ因レリ夫此ノ如シ決シテ兩村ヨリ請求スヘキ理ニアラサルヲ以テ直ニ却下セリ而ルニ舊藩當時處分タル成規ニ背馳スルヲ以テ更正スヘキニ似

メリト雖モ既ニ舊藩ノ處分濟且ツ爾來地租上納シ來ルヲ以テ舊藩處置ニ從ヒ該神社所有地ノ儘開クモ可然哉

内務省指令十二年六月十二日 從前ノ儘開クヘシ

東京府ヨリ内務省へ伺十二年四月二十四日 京橋區木挽町六丁目七番地先河岸稻荷社ノ儀ハ從來該河岸地ニ鎮坐有之候處此度河岸地改正ニ付十六

社寺門 神社一 二百五十七

所屬不明ノ社寺ハ從前ノ制ニ從ハシム

鄉村社以上ノ社地ハ民有地第二種ニ編入ス



坪三合二勺社地へ編入致度旨前官辻光賢并氏子總代ノ者連署ニテ出願候間別紙圖面ノ地所爾來社地ト相定メ官有地第一種ニ編入可然哉

内務省指令 十二年六月六日

地種組替ノ儀ハ難聞届候條從前ノ儘所用致サスヘシ

東京府ヨリ内務省へ伺十二年六月二十日

本年四月二十四日付ヲ以京橋區木挽町六丁目七番地河岸地ニ鎮坐ノ稻荷社河岸地改正ニ付官有地第一種社地へ編入ノ儀相伺候處本月六日地種組替ノ儀ハ難聞届候旨御指令有之候然ルニ是迄河岸地ニ有之社地ヲ官有地第一種へ編入ノ儀御聞届相成候類別紙圖面ノ通ニ有之候處甲ハ開届相成乙ハ許可不相成候ニテハ出願人共ノ疑惑ニ對シ解說モ難致ニ付該社地十六坪三合二勺ノ儀モ別紙圖面三社同様社地へ編入相成度

内務省指令 十二年十月六日

地種組替ノ儀ハ難聞届候條河岸地ノ儘其社へ使用セシメ候儀ト可相心得且從前官有地第一種ニ編入ノ分ハ更ニ組替ノ上追テ届出ヘシ

東京府ヨリ内務省へ伺十二年十一月二十六日

社寺民有地境內ノ儀ハ金穀借入等ノ爲抵當等不相成候規ニ有之候得共官用ノ爲境內ヲ分割買上ノ儀社寺ニ於テ差支無之候得ハ人民ハ買上トハ相異リ官用ノ儀ニ付別段不經伺需用處ハハ例規ノ通取調及同答境內ノ儀ニ付其旨御省へ及上申候テ可然哉此段相伺候條至急何分ノ御指揮有之度候也

内務省指令 十二年十二月十一日

書面伺ノ通

社寺局議案 十二年十一月二十九日

右ハ他ノ買上ニ異候儀ニ付伺ヲ不要方乎

社寺局官ヨリ買上候モ人民ニ於テ買受ケ候モ同シク買上ニシテ買上ニ索ヨリ區別ハ無之答ナリ然レ共持附箋添地買上ノ儀ハ人民ト雖モ不經伺許可相成局議モ有之ニ付本議ノ通りニテ可然哉

内務省指令 十二年四月七日

靜岡縣ヨリ内務省へ伺十三年四月七日

民有地ノ寺院境內地種組替ニシテノ内寺務法用ニ不差支餘地ヲ引裂キ耕地或ハ林等ニ變換致度旨該寺關係ノ者連署ヲ以願出候節ハ其地景風致ヲ損スルニ非ルヨリハ開届可然哉果シテ然ラハ十一年御省乙第四

社寺民有地境內ノ官用ニ買上ル者ハ地方官ニテ區處ノ上内務省へ申

社寺境內ト雖モ古蹟又ハ縁故ナクシテ別ニ風致ヲ損セサル場所ハ地種組替ノ上併稱スルヲ許ス

十一號御達ニ據リ官有地ノ社寺モ其境內ヲ無代下附シ民有地第一種ニ組換候上ハ前項同様相心得可然哉右ハ即今願出候向モ有之候條速ニ御指示相成度此段相伺候也

内務省指令 十三年五月一日

書面伺ノ通

但風致ヲ不損向ト雖モ古蹟若クハ別段ノ緣由アル地所ノ如キハ其都度伺出ヘシ

社寺地理兩局議案 十三年四月十二日

九年兩省內務省第十二號第五項ニ一般社寺境內地種組替ニ關スル伺ノ事トアルニ因レハ伺出ノ上處分ノ方トモ存候ヘトモ民有除稅地ノ外ハ該縣ノ見込ニ任セ然ルヘキ哉

千葉縣ヨリ内務省へ伺十四年四月十一日

官有地ニアル社寺ニシテ境内外區畫決定ノ分ニ限リ該社寺ヨリ請願セハ無代價下渡民有地第一種ニ組換其旨時時可届出旨明治十一年御省乙第四十一號御達ニ據リ出願ノモノ下渡取計候儀ニ有之然ルニ八年同乙第百一號御達ニ據レハ鄉村社以上ノ社地ハ除稅可相成候ニ候得共右四十一號御達ノ旨趣ハ從前官有ノ社地ヲ指シタルモノニシテ無代下與ノ地所ニ限リ假令鄉村社ト雖民有地第一種ニ編入可然哉

内務省指令 十四年六月九日

官有ニアラザル鄉村社境內ハ民有地第二種ニ編入スヘシ

社寺地理山林三局合議 十四年三月七日

官國幣社ノ内境内取廣方内規

官國幣社ノ内境内狹隘ニテ一社必用ノ建物神饌所社務所神樂所豐國建勸護王名和藤島相應ノ地所無之分ハ新ニ御買上ノ追小社部内ニテモ境内三千坪ノ目途ヲ以取調各別格官幣社ノ如キ類相應ノ地所無之分ハ新ニ御買上ノ儀太政官御定相成候儀ニ有之候間別紙國幣中社籠神社ノ如キ事實無據部ニテ舊境内上地地所其儘存

在ノ分ハ境内三千坪ニ滿候迄ハ取廣方内規御定メ出願御聽許相成度此段相伺候也十四年六月十五日決判

新潟縣ヨリ内務省へ伺十四年二月二十四日

從前官有ノ境内地民有地へ下付ノ儀出願候ニ付明治十一年御省乙第四十一號御達ニ據リ調査ノ末下付取計村内類地宅地地價取調可申出旨及指令候處併販ノ一小社ニシテ宅地並ノ公租諸費ヲ出スハ到底負擔ニ勝ニ可ラス將來ノ維持保存無覺東林地ノ地價ヲ以テ納稅イタル度旨出願スレトモ例規ニ悖ルガ故

官有ノ社寺境内ヲ無代價ニテ民有ニ下付スル者社寺存在中ハ官有地ニ復スルヲ許サス

國幣社ノ境内取廣方内規ヲ定ム



一許可不致候處更ニ從前ノ如ク官有ニ據置ノ儀出願セリ右ハ前後不都合ノ次第ニテ他モ亦此類ニ倣ヒ  
續出願スルトキハ一旦整頓セシ地種ノ組替賦稅ノ計查モ徒勞ニ屬シ共煩雜云フヘカラスト雖モ其請  
願ヲ許容セサルヘカラサル儀ニ可有之哉

其神社ノ存在スル以上ハ聞届ケ難シ

新潟縣ヨリ内務省ヘ伺十五年四月五日  
明治十一年御省乙第四十一號御達ニ據リ官有社寺境内無代民有地ヘ下渡來リ候分再ヒ官有地ニ復歸願  
出候者有之其神社ニ係ル者ハ已ニ昨十四年二月申中相伺同年八月其神社ノ存在スル以上ハ難聞届儀ト相  
心得ヘキ旨御指令有之ヲ推究スルニ寺院ノ儀モ同様處分致シ可然哉

内務省指令 十四年八月十日  
新潟縣ヨリ内務省ヘ伺十四年十二月十二日  
明治十一年五月九日御省乙第四十一號達ニ照シ無代下渡候社寺境内地事故アツテ他ノ民有地ト交換ヲ  
約シ移轉願出ルモノハ聞届退テ御届イタシ可然哉此段相伺候也

書面之趣ハ事實ニ就キ詳細取調其都度可伺出候事

社寺局議案十五年三月一日  
右調査候處官有之社寺境内ヲ民有地ニ下ケ渡候ハ特別之儀ニテ該社寺ニ於テハ由緒之土地ナリ然ルヲ  
他ノ民有地ト交換ヲ約スルトキハ自然無縁故者之所有ニ歸シ由緒モ湮滅ニ至ルベシ故ニ本申之如キハ  
其都度事實ヲ具申シ理由ニ寄リ御指揮可相成方ト存候依テ左ニ伺候

一人持取ハ一村共有ノ  
郷社ニハ現境内ト雖モ  
除稅セズ

大阪府ヨリ内務省ヘ伺十五年四月七日  
明治七年十一月第百二十號公布地所名稱區別中同八年七月第百十四號公布ヲ以テ改正相成候民有地第  
三種改テラニニハ單ニ官有ニアラサル郷社地及ヒ墳墓地等トアリテ其郷社地ハ該所有者ニ區別  
ナキカ如シ然ルニ明治九年十月地租改正事務局別報第五十九號大分縣第一條ニ對スル指令ニ該社所  
有ノ境内ニ限リ除稅候儀ト可相心得云ト有之就テハ民有第二種ノ郷社地トハ該所有ノ境内ニ限ル  
儀ニシテ其他一人持取ハ一村共有ノ郷社地トハ假令現境内ト雖モ除稅ノ限ニ無之儀ト相心得可然哉

内務省指令 十五年五月二日

伺ノ通

(參照)  
地租改正事務局別報第五十九號  
○明治十年十月二十七日  
大分縣伺節錄

第一條民有郷社以上敷地ノ備明治七年十一月太政官第百二十號御布告地所名稱區別中同八年第百十  
四號御布告改定民有地第二種官有ニ非サル郷社地云云同八年五月御局別報當二號岩手縣伺人民心得  
書第十四條同年九月御局別報第五號岐阜縣伺同年八月乙第百一號内務省御達等ノ旨ニヨリ民有郷社  
以上ノ境内ハ既ニ除稅ニ取調過般伺濟相成居候處八年十二月九日内務省日誌福岡縣伺御指令中乙第百  
一號達面郷社以上社地云云トハ該社ノ所有地ヲ指シ候儀ニ有之云云ニ付テハ一村又ハ一人持ノ分ハ  
假令郷社以上ト雖モ賦稅可致儀ニモ被相考了解致兼候如何相心得可然哉

右指令  
第一條詮議、次第有之ニ付退テ何分ノ儀可相達候事  
地租改正事務局別報第六十九號  
○明治十年一月十六日分  
大分縣ニ達  
昨九年十月七日附伺第一條郷社以上敷地除稅ノ儀ハ詮議中ノ旨同年第千四百四十號ヲ以及指令置候處  
右ハ該社所有ノ境内ニ限リ除稅候儀ト可相心得此旨相達候事

官有地ニ非ル郷社ヲ  
轉地シ改ハ人民ヨリ土  
地客附ノ際地種編入區  
別方

神奈川縣ヨリ内務省ヘ伺十四年九月十日  
明治八年第百十四號公布ヲ以テ更正相成候地所名稱區別別民有地第二種中ニ官有ニアラサル郷社地云  
云ト有之ニ付村社以上ノ境内地ハ新舊ヲ問ハス總テ第二種ニ編入スヘキモノト思考候處昨十三年十二  
月十日附ヲ以テ管下鎌倉郡蓋村神明社轉地之儀相伺候處本年一月十七日附ヲ以テ從前ノ敷地段別ハ第  
二種ニ編入其餘段別ハ附屬地トシテ第一種ニ可据置旨御指揮有之候然ルトキハ右郷社地云云トハ從  
前ヨリ神社所有境内地而已ヲ指シタルモノニシテ境内狄盜等ニヨリ新メニ取廣ケタル地所及ヒ人民所有地  
内ニ建設アル神社敷地ヲ更ニ該神社ニ寄附シタル境内地ノ如キハ民有地第一種ニ可据置モノニ有之候哉

内務省指令 十五年五月二十四日  
鎌倉郡蓋村神明社移轉地ノ儀ハ從前境内地坪相當ノ外ハ民有地第二種ニ編入致サ、ル儀ニ付及指令候  
尤本年三月二十七日以後ハ左ノ通心得ヘシ  
神社ノ都合ニヨリ他ニ移轉スル者及從前人民名負ノ地ニ建設スル神社ニシテ其境内ヲ人民ヨリ寄附シ  
タル者ハ郷社ハ五百八十坪村社ハ三百六十八坪ヲ極度トシ其以内地形若シクハ祭典ノ實況ニヨリ相當



ノ地所ナ境內トシテ民有地第二種ニ編入ノ積取調伺出ヘシ  
既ニ確定スル境內ヲ増加スル儀ハ許可不相成候條神社ノ都合ニヨリ其接續地ヲ祭典ノ爲メ使用スル者  
ハ境內附屬地トシテ民有地第一種ノ儘据置クヘシ

官有地ノ社寺ヲ拂下願  
出ル節取扱方

愛媛縣ヨリ内務省ヘ伺十六年三月二十二日  
官國幣社式社及ヒ文明十八年以前ノ創立ニ係ル社寺并公園地區畫中ノ社寺ヲ除ク外官有地ニアル社寺  
下渡ノ儀明治十一年五月御省御達ノ趣ニ據リ其社寺ヨリ下渡請願候モ創立年度不詳ニ付願書開届サル  
内更ニ相當代價ヲ以テ拂下出願ノ社寺モ有之候處右ノ限リ取調稟請候ハ、御詮議可相成儀ニ候哉

内務省指令 十六年四月十七日  
將來ニ保存シ置クヘキ程ノ古蹟等アラサル社寺ノ儀ハ明治十一年本省乙第四十一號達ニ準シ地所無代  
可下渡候條其積リヲ以テ廉限リ取調更ニ伺出ヘシ

高知縣ヨリ内務省ヘ伺十六年四月十二日

明治十一年乙第四十一號御達文中文明十八年以前ノ創立ニ係ル社寺并公園地區畫中ノ社寺ヲ除クノ外官  
有地ニアル社寺ニシテ境内外區畫決定ノ分ニ限リ該社寺ニ於テ請願候ハ、無代下渡云云文明ニ據レ  
ハ創立年層不詳ノモノハ無論下渡スヘキノ限リニ無之儀ト相心得可然哉

内務省指令 十六年四月二十八日  
著名ノ社寺ニアラスシテ且後來保存スヘキ程ノ古蹟等アラサルモノハ下渡苦シカラス

拂下タル社寺境內ハ其  
立木モ併テ民有ト爲ス

長野縣ヨリ内務省ヘ伺十七年三月七日  
明治十一年乙第四十一號御達ニ就キ疑似ニ涉リ候廉左ノ通  
一社寺境內ヲ該御達ニ因リ下渡ストキハ該地中ノ立木モ共ニ民有ト定ムヘキモノナルカ  
内務省指令 十七年三月二十九日  
伺ノ通

鄉村社地ノ内社ノ名  
受地ハ民有地第二種ニ  
編入ノ民有地受地ハ第  
一種ニ編入ス

岩手縣ヨリ内務省ヘ伺十七年四月二十八日  
明治八年第四百十四號公布及同年御省乙第四百一號御達ニヨレハ官有ニアラサル鄉村社地ハ一般無稅ニシ  
テ民有地第二種ニ候處客年御省乙第十六號御達地籍離形ニ據レハ民有地第一種目中ニモ府縣鄉村社ノ  
目掲載有之右ノ何様ノ點ヲ以テ一種二種ノ區別相立候儀ニ可有之哉

内務省指令 十七年六月三十日

明治八年第四百十四號公布鄉村社地トハ該社所有ノ地ニシテ人民私有ノ社地ハ民有地第一種ニ編入スヘシ

千葉縣ヨリ内務省ヘ伺錄 十七年十月二十九日(全文ハ土地門土地)

二同上民有ノ鄉村社敷地ハ同第二種トアリ然ルニ明治十一年御省乙第四十一號御達ニ據レハ假令鄉村  
社以上ト雖モ第一種ニ編入スヘキモノ、如ク相見疑義ヲ生レ候ニ付明治十四年四月十一日相伺同年  
六月九日附ニテ官有ニアラサル鄉村社境內地ハ民有地第二種ニ編入スヘキ旨御指令有之然ル處地籍  
離形中鄉村社以上ノ社敷地民有地第一種ト第二種トノ兩種ニ記載有之候得共右ノ如何ナル場合ニ於  
テ第一種ニ編入スヘキ哉  
内務省指令 十七年十二月六日  
第二項 神社ノ名受地ハ民有地第二種人民ノ名受地ハ民有地第一種ト心得ヘシ

長崎縣ヨリ内務省ヘ伺十七年七月一日

村社以上ノ社格ニシテ  
該社ノ所有境內ニ限リ  
民有地第二種ニ編入ス  
十年地租改正局ヨリ大分  
縣伺ニ對スル達ハ上ニ載  
ス

民有鄉村社地ノ儀ハ明治七年十一月第百二十號公布地所名稱區別民有地第二種中ノモノニシテ本年三  
月第七號公布地租條例第四條ニモ鄉村社地ハ地租ヲ免スト有之又八年御省乙第四百一號御達ヲ詭味スル  
ニ村社以下ノ割注ニハ一人又ハ數人ト有之候ヘ共村社以上ニハ明文無之由是觀之一人若クハ一村持ト  
フ間ハス苟モ社格ノ村社以上ナルトキハ總テ民有地第二種ノ標被相考候處十年地租改正局ヨリ大分縣  
伺ニ對スル達而ニ依レハ該社所有境內ニ限リ除稅云云ト有之疑義相生レ候ニ付此段相伺候  
内務省指令 十七年九月一日

村社以上ノ社格ニシテ該社ノ所有境內ニ限リ民有地第二種ニ編入スヘシ

地理局議定 十八年二月十九日 決刊

官用等ノ爲メ人民ヨリ地所上呈スルニ當リ其名義ニ就テハ別ニ成規ナキヨリ同一ノ地所ニシテ一ハ獻  
納トシ一ハ寄附トシ一ハ上地トス今其一例ヲ擧レハ警察署敷地ニシテ甲ハ之ヲ獻納セシト云ヒ乙ハ之  
ヲ寄附セシト云ヒ丙ハ之ヲ上地セシト云フカ如シ蓋シ斯ク取扱上區區ナルトキハ自然記帳上ニ錯雜ヲ  
生シ他日之カ統計ヲ編製スルニ當リ其實蹟ヲ視ル可ラサルノ弊害ヲ來スヤ識ルヘキナリ依テ其申出ノ  
如何ニ拘ハラス當局ニ於テハ皇室又ハ國庫經濟ニ屬スル官衙ノ爲メニ上呈スルモノヲ獻納地トシ返地



又ハ維持シ能ハサルカ爲メニ上呈スルモノナシ其他ノ類ハ總テ寄附地トシ則チ左ノ通大別ス

右ノ類ハ獻納地トシテ取扱フモノトス

社寺境内地 所用ノ自造ナキ土地

右ノ類ハ上地トシテ取扱フモノトス

府縣應用地	郡役所用地	警察署用地	監獄署用地
學校敷地	病院敷地	神社敷地	寺院敷地
堤塘敷地	道路敷地	河川敷地	溝渠敷地
並木敷地	溜池敷地		

右ノ類ハ寄附地トシテ取扱フモノトス

境内祭壇ノ神社ニ接續セル土地區分ニ際シテハ其境内民有ニシテ土地ノ引渡ヲ許ス

愛知縣ヨリ内務省へ伺十七年十一月十一日  
三河國幡豆郡志貴野村社入幡社現境内ハ矢作川堤防ニ接續致居候處追退出水ノ節川關相成堤塘危弱ニ付修繕ノ際現境内ニ有テハ及上地ノ場所一段一段ニテ堤防敷地ニ相成境内狹隘ニ付地續上地ノ箇所ニ該社現境内へ引戻出願調査スルモ境内狹隘ニテ祭典等差支候段事實相違無之新境内ハ別紙略圖面ノ如ク恐水路ニテ區域モ判然致居他ニ支障無之候間願意聞届神社境内地へ組入候テ可然哉

内務省 指令 十八年六月四日  
農商務省 聞届

郷村社ノ府縣社ニ昇ルハ其境内民有ニシテ土地スル者ノ外ハ地種ヲ以テ定ム

滋賀縣ヨリ内務省へ請訓十八年九月五日  
明治七年第二百二十號公布地所名稱區別官有地第一種第二項ニ伊勢神宮山陵官國幣社府縣社及民有ニアラサル社地ヲ云フト有之而シテ民有地第二種第一項ニ官有地ニアラサル社地云ト有之候茲ニ境

内民有地第一種ノ稱ニシテ縣社ニ昇格セルモノ有之由テ地所名稱區分ニ據ルトキハ無論其社境内ハ官有地第一種ニ變換セサルヲ得サルガ如シ然レトモ所有權ヨリ推究スレハ官國幣社ハ其經濟團體ニ屬スルヲ以テ境内社有ノ分ハ官有地第一種ニ編入シ當然ニ候得共縣社ニ至テハ其經濟團體ニ異ナルコトナキヲ以テ境内社有ニシテモ依然民有地第二種ニ據置可然據相考候得共縣社以上ハ崇敬上ヨリ其境内官有地第一種ニ編入セラルヘキ御旨趣ナル乎果シテ然ラハ自然其境内社有ニアラスシテ民有地第一種ノモノハ更ニ買上ノ儀稟請シ該地代金御下渡可相成乎

内務省訓示 十八年十月三日  
七年第二百二十號公布地所名稱區別ハ地種目ノ綱領ヲ示サレタルモノニ付郷村社ヨリ府縣社ニ昇格シタルトキ其境内民有地ニシテ之ナシ地上地スルモノハ格別否サルモノハ地種從前ノ儘据置候モ苦シカラス

地租改正ノ節際テ接續ノ道路敷地ニ組込タル神社境内ハ該社附屬トシテ無代價ヲ以テ下付ス

高知縣ヨリ内務省へ伺十八年二月十三日  
土佐國土佐郡下知村稻荷神社地狹隘ナルヲ以テ該社前堤外一畝歩自費築立ノ上本社附屬地ニ致度旨當時神官久武山城ナル者舊藩廳ノ認可ヲ得テ工事落成後玉垣石燈籠等ヲ建設シ路線ヲ隔テ附屬地ノ風致ヲ裝成セシ爾後修繕等負擔致來候ニ付地租改正ノ際右功勞ニ據リ該社へ下渡民有地ニ編入可致管ノ處地主總代共ハ畢竟本地ノ性質ヲ了知セシ且山城モ既ニ死没シ他ニ證明スヘキ者無之ニ付接續ノ道路敷地ニ調込有之處今般右山城和織人神官久武猛雄及信徒總代共ヨリ該社ノ爲メ私費築立ノ特許ヲ受ケテ原由等ヲ具シ無代價下渡ノ儀出願ニ付藩政引續ノ舊記等精細取調候處前願ノ經歷稟メテ明瞭申立ノ節不都合無之且實地ニ於テハ通路ノ線外ニ屬シ聊差支無之箇所ニ候間願ノ通無代價下渡該社附屬地トシテ民有地第一種宅地ニ編入ノ儀共御允可相成度

聞届

内務省指令 十九年二月八日

静岡縣ヨリ内務省へ伺十九年三月十八日  
駿河國有渡郡八幡村無格社秋葉神社敷地七坪ハ郷社八幡神社ノ境内末社ニ有之候處雖ニ該社境内區畫相定候節秋葉本居兩社ノ所在地ハ別ニ境内不相定候處祭事等ニ差支且取締向等不相立旨ヲ以テ更ニ本社境内へ組込願出候付客年十月相伺候處同十一月二十四日附御指令ニ依リ難聞届旨相違候處猶又別紙寫ノ通願出候右ハ兩社地共圖面淡紅色ノ部分中ニ有之候得共其米線内ハ社地ノ體ヲ構ヘ道敷ニ非サル儀ハ判然致居候ニ付各其社境内ト相定メ官有地第一種ニ組換可然哉

内務省指令 十九年四月二十九日  
社寺門 神社一







一前項官沒シタル後其社寺關係人等ヨリ何等願出サル時ハ神職又ハ住職ノ有無ニ拘ハラズ廢社寺ノ處分ヲナシテ寺院ハ其管長へ通報シ可然哉

內務省訓令 二十年十月八日

社寺境内地ト雖モ納税ノ義務ヲ果サ、リシモノハ官有地第一種又ハ第四種ニ編入スルノ限リニアラス相當ノ借地料ヲ徵收シ追テ公賣處分候様可致若シ借地料ヲ拂ハス或ハ社殿堂宇等ノ存スル故ニ買受望人無之儀ニ候ハ、該社寺關係人等ヲシテ移轉若クハ合併セシメ候儀ト心得ヘシ

東京府下ノ社寺其境内及日門前ニ町屋ヲ建テ地代地子等ヲ收入スル者ヲ錄セシム

十年四月東京府達乙第三十六號ヲ以テ社寺所有地代借規則ヲ定ム

東京府達 八年十二月二日 第五十三號 市在各區區長月長

社寺境内受領地内從前願濟ニテ門前町屋取建地代或ハ地子金等社寺へ收入致候分去ル辛未年上地後地代地子金共同年分ヨリ上納高至急取調ノ儀有之候間癸酉年迄三箇年分一箇年限リ別紙雜形ノ通明細取調各大區毎取來ル十五日迄ニ無遲滞可差出此旨相達候事

但助成地名義ノ分ハ差出スニ不及事

(雜形) 但半紙堅紙ニ認メ一箇年 每別冊ニ仕立可申事

境内受領地内 願濟門前町地

第何大區 何小區

一何坪

何社 何寺院

此地代カ

金何圓

内

何程

何程

引去リ何年上納高

金何圓

區入費 手數料

右之通相違無御座候

右區戸長

何之某印

社寺境内ニ休息所ノ類敷地貸渡シ期限ヲ定ム

內務省議定節錄 九年二月十四日 決到全文ハ土地門土地(諸則ノ目ニ載ス)

貸渡年季規則

一三箇月以内 社寺境内休息所ノ類

是ハ神社境内官有ノ寺院境内一時便利ノ爲メ取設ケノ分本文ノ通一定ノ積

但是ハ昨八年四月乙第四十九號達ニ據ル

右ノ通り定ムト雖モ政府ニ於テ差支之レナキ土地ハ滿季ニ至リ更ニ繼年季ヲ許スモノトス

社寺領及境外土地并廢社寺跡地等官有ノ分拂下處分方

內務省達 九年三月二十五日 乙第三十八號

社寺領或同境外土地并廢社寺跡地等官有ノ分從來住居又ハ使用セル者相當代價ヲ以テ拂下ヲ請求致シ候節地所處分方左ノ通相定候條此旨相達候事

但森林公園道路堤塘外ニ關スル地及ヒ學校病院地等ハ此限ニ無之候事

第一條

從來舊神官僧侶ト他ノ人民トナ不問自費建營居住シ又ハ自身居住セサルト雖モ所有スル家屋ノ敷地

但舊神官僧侶低價拂ノ成規其他別段ノ契約アルモノ、外ヲ云

第二條

舊神官僧侶從來直作致シ來リ候田畑

第三條

從來ノ平民ト舊神官僧侶トナ不問永小作致シ來リ候田畑



但永小作ノ確證無之トモ二十箇年以上小作仕來リ候成跡有之分ハ永小作ニ準スルヲ得ルモノトス  
右本人ノ請求ニ應シ相當代價ヲ收入シ拂下ヲ得ルト雖モ企望無之歟或ハ右條款ニ照準スヘカラサル分  
ハ一般公ノ入札法ヲ用フルモノトス

社寺境内貸渡及ヒ使用  
料收入ノ内規則ヲ定ム

内務省議定節録九年十一月二日決判(全文ハ土地門土地)  
從前官地ヲ使用セシ者ニテ即今所有ヲ定メ或ハ更ニ貸渡ストキハ前年ニ遡リ使用料ヲ收入スルト否ト  
ノ分界未タ一定ノ成規ヲキニ付已後其處分ヲシテ一途ニ歸セシメンカ爲メ左ノ内規則ヲ定ム  
一官有ノ社寺現境内ノ部  
一現境内ニ從來居住スル宅地

是ハ八年四月乙第四十九號達ニ據リ成規ヲ定メタルモノニ付從來其社寺ヘ米金ヲ納メ來ルモノト雖  
モ即今改メテ貸渡ストキハ七年迄ハ總テ不問ニ措クモノトス右ノ通定ムルト雖モ畢竟特別ノ處分ナ  
レハ村方又ハ小作人ニ於テ作徳ヲ預リ置キタル旨ヲ申出ル類ハ總テ收入可致答ノ事

(備考)

伊豆國三島宿官幣大社三島神社外十箇所官有社寺境内ニ於テ一時便宜ノ爲メ休息所取設日日出稼ノモ  
ノ或ハ角力劇場等興行ノ爲メ官地使用ノ備明治八年御省乙第四十九號達第四項ニ依リ將來興行可致地  
トシ別紙圖面ニ通據メ區畫相定メ祭典法用等ハ勿論其他無差支場所ニ付使用御差許相成度然ル上ハ  
拜借出願ノ時三箇月以内ノ期限ヲ定メ貸渡相當ノ借地料收入上納可致候  
三島宿官幣三島大社境内ハ新ニ貸渡不相成牧ノ鄉村社境内ハ何ノ通其他ハ都テ現境内十分ノ三以内  
ノ坪數ニテ本社本堂ノ正面ヲ遮ラサル樣區畫相立貸渡ノ積更ニ取調伺出ヘシ

東京府達十年四月十四日  
別紙丙第九十三號ノ通社寺ヘ相達候條豫メ帳簿ヲ製シ置キ與印申出ルトキハ成規ニ照シ取扱フヘシ此  
旨相達候事

社寺所有ノ稅地貸借規則  
則ヲ定ム  
十二年七月東京府達丙第  
八十六號ヲ以テ貸借上風  
致テ損セサル様注意セシ

(別紙)

丙第九十三號

住 神  
職 官

社寺所有ノ稅地貸借規則左ノ通相定候條將來不都合無之様可相心得此旨相達候事

明治十年四月十四日

- 第一條 社寺所有ノ稅地ヲ人民ヘ貸與フルトキハ其期限及ヒ借地料ヲ詳記シタル約定書ヲ交換スヘシ
- 第二條 田畑等ヲ小作セシムルモ亦第一條ノ如ク約定書ヲ交換スヘシ
- 第三條 約定書ヘ社寺於テハ氏子重立タル者二名以上及ヒ住職連署シ人民ニ於テハ確タル保證人ヲ立  
テ之ニ連署セシムヘシ
- 第四條 但現住職借地人ナレハ氏子二名以上ト約定書ヲ交換スヘシ其保證人ヲ立ツルハ本條ニ同シ
- 第五條 約定書ヘハ必ス該區務所ノ與印ヲ受クヘシ
- 第六條 該社寺ノ貯金ヲ以テ家屋等建築ノ爲メ使用スルトキハ其趣旨ヲ帳簿ニ詳記シ住職連署ノ  
上區務所ノ與印ヲ受ケ備ヘ置クヘシ
- 第七條 返地スルトキハ必ス其旨ヲ該區務所ヘ届出ツヘシ
- 第八條 借地料及ヒ作徳等ハ第九十四號達ニ依リ之ヲ領置シ其出納ヲ詳記スヘシ

神官住職ノ遊學中社  
寺境内ニ住居スル者ハ  
借地料ヲ免ス  
十一年三月十三日東京府  
料ニ對シ屋外陸屋ノ借地  
料ハ收入スベキヲ指令シ  
更ニ其旨ヲ兵庫縣ニ令ス

兵庫縣ヨリ内務省ヘ同十年八月四日  
社寺境内地貸渡ノ儀ニ付テハ兼テ御達ノ趣モ有之候處神官住職ノ者奉職中其境内ニ於テ奉務ノ爲メ居  
住スル屋宇ハ勿論土藏納屋等ノ類モ其儘差置借地料徴收不致儀ニ候ヘ共境内中別ニ隱室等ヲ設ケ全ク  
自用ノ建物ニ屬スル分ハ八年御省乙第四十九號御達第四條ニ基キ三箇月ヲ一期トシ更ニ貸渡ノ手順ニ  
取計相當ノ借地料取立可然哉相伺候也  
内務省指令 十年十一月八日



書面自用ノ建物敷地借地料ハ不及收入候事

社寺ノ祭典開闢等ニ際シ境内ニ露店同業等ノ外小屋掛ヲ爲ス者ハ借地料ヲ徴ス

滋賀縣ヨリ内務省ヘ伺十年四月二十四日  
社寺敷地境内ニ於テ神祭或開扉開帳等ニテ老幼群參ノ際ニ限リ一時小屋掛ヲ設ケ諸興行致度旨願出ル者比比有之右ハ御省明治八年乙第四十九號御達第四條ニ比準シ差支無之場所ハ差許シ且其日數一箇月ニモ滿テサルモノハ別段借地料收入ニ及ハス可然哉相伺候也  
但木文ノ趣ハ借地差支無之場所豫メ取調相伺候ハ勿論ノ處管下無敷ノ社寺一時調査難行屆然ルニ諸興行ノ如キハ一時機會モ有之隨時相伺居候テハ願人ノ難澁不違ニ付篤ト調査ノ上差支無之場所ト認ムルモノハ當縣限リ聽届ケ若シ借地料收入ニ涉ル分ハ其時時御届仕候様致度候

内務省指令 十年五月八日

書面地所貸渡方ハ伺ノ通借地料ノ儀ハ露店同様天幕葎簀等蓋ヒ候ノミノ分ハ收入ニ不及右等ニ無之小屋掛致候分ハ收入ノ儀ト可相心得事

東京府達 丙二十一年一月十七日

社寺現境内ヘ従前家屋建設或ハ掛茶屋等取設日日出稼ノ者ハ更ニ地所拜借出願可致旨八年十月中相達候末出願遅延夫爲ノ地料收入モ亦相後レ居候處右ハ八年十一月ヨリ起算シ悉皆收入可致旨ニ付同月ヨリ更ニ拜借出願候迄之分毎小區無遺漏取調來ル二月二十日限リ別紙書式ニ倣ヒ明細書正副相添上納方取計ヘシ此旨相達候事

但拜借地價之儀ハ現今收入ノ坪當リナ以テ調査スヘシ

第何大區何小區某町何番地  
某社境内

拜借人

第何大區何小區

某町何番地

何 某

一何坪

此地料何程 但一坪ニ付一箇月金何程

右ハ何年何月中ヨリ 家屋建設 罷在何年何月中地所拜借願濟ニ付八年十一月ヨリ何年何月迄

何箇月分地料

合金何程

以下做之數人アルモ亦一紙ニ記載スヘシ

總計

金何程

右取立上納候也

年月

戶長 何 某

神官住職ト雖モ住宅ノ外別ニ境内ニ隱室等ヲ設ル者ハ借地料ヲ徴ス

東京府ヨリ内務省ヘ伺十一年二月十五日  
明治十年御省日誌第四十五號兵庫縣何神官借地料云云ヘノ御指令ニ依レハ奉務ノ爲メ居住スル屋宇ハ勿論土藏納屋隱室等モ借地料收入ニ及ハサル趣ニ候處明治八年御省乙第四十九號御達ノ旨モ有之且隱室等全ク自用ノ建物ニ屬スルモノハ借地料ヲ收入シテ至當ニ可有之且公園内ニ係ル社寺等ハ別ニ境内外ノ區域モ無之ニ付奉職ノ有無ニ拘ハラズ一般人民同様取扱可然儀ト存候得共該縣ヘ御指令ノ旨モ有之ニ付相伺候也

内務省指令 十一年三月十三日

書面伺之趣ハ兵庫縣ヘ別紙ノ通相達候條此旨相心得ヘク尤公園内奉職中住居致シ候從來ノ建物敷地ハ借地料收入ニ及ハサル儀ト可相心得事

(別紙)

内務省ヨリ兵庫縣ヘ達十一年三月十三日

社寺境内ヘ神官住職奉職中住居致シ候家屋ノ外別ニ隱室ヲ設クル者等借地料收入ノ儀客歲八月四日附伺出ノ節同歲十一月八日附ヲ以テ指令ニ及置候次第モ有之候處居屋敷外ニ於テ隱室等取設有之分ハ以來借地料收入候儀ト可相心得此旨更ニ相達候事

十年十一月八日内務省ヨリ兵庫縣ヘ指令及神官奉職中借地料ノ件ハ上ニ載ス







東京府達 丙第六年十二月二十五日 警部區役所戸長役場小笠原島出所伊豆七島役所伊豆七島村役場  
別紙丙第二百一號之通り神官住職へ相達候條爲心得此旨相達候事

社寺境内ノ借地料ハ其  
社寺ニ付シテ修繕費ニ  
充テシム

地理局通知 北海道廳府縣  
十九年六月十七日

社寺境内一時貸下料ノ儀ニ付別紙ノ通山梨縣へ指令相成候條爲御心得此段及御通牒候也

追テ社寺境内貸下ノ儀ハ社寺ノ不利不便ヲ來シ就中火災雜沓汗穢ノ弊ナキヲ要スル旨本年二月十二日訓令ニモ有之兼テ御承知ノ儀ニハ候得共後來殊ニ御注意相成候様致度爲念申添候也

(別紙)

山梨縣ヨリ内務大藏兩省へ何十九年五月十七日

官有地ニ係ル社寺境内ノ枯損木拂下代價ハ營繕費官國幣社本付與トシテ其社寺へ下渡明治九年六月内而  
シテ該地所貸渡シタルトキハ其借地料ハ他ノ官地貸渡料ト同様國庫ニ和納メ來候處抑社寺ノ境内ハ即  
チ社殿堂宇ノ敷地ニシテ其修繕ハ勿論樹木ノ保護掃除等一切ノ費用ニ至ルマテ總テ其社寺ノ負擔ニ係  
ルヲ以テ獨リ枯損木拂下代價ニ止ラス尙モ其地ヨリ生スル諸收入ハ之ヲ其社寺へ下渡可然様被相考殊  
ニ近來管下社寺ノ狀況ヲ視察スルニ一年ヨリ疲弊ヲ極メ爲メニ社殿堂宇ノ修理ヲ加フル能ハスシテ  
額破ニ至ルモノ比有之是レ畢竟社寺ノ收入薄キニ因由候儀ニ可有之且枯損木拂下代ト云ヒ借地料ト  
云フモ其名異ナルマテニ其實境内ヨリ生スル收入ニ至テハ彼是敢テ異ナルコト無之儀ニ付自今借地  
料ノ儀モ枯損木拂下代同様該社寺へ下渡候様致度  
内務大藏兩省指令十九年六月十日

聞届

兵庫縣ヨリ内務省へ何十九年七月二日

社寺境内一時貸下料ノ儀ニ付山梨縣同へ御指令ノ趣地發第一七三號ヲ以テ地理局長ヨリ心得ノ爲メ通  
牒有之候ニ付考案候處事理適當ノ儀ト存候儀ニ付當縣ノ儀モ同様其社寺へ下渡候様致度  
退申本文ハ明治十九年度則本年四月分ヨリ實行致度且料金ノ儀ハ官國幣社モ他ノ神社寺院同様苗木  
植付及該社ノ費用ニ充ツヘキ名義ヲ以テ下付スヘキ乎  
内務省指令十九年七月十五日

退申ノ趣共同ノ通  
神奈川縣ヨリ内務省へ上申十九年七月六日

管下社寺境内貸下料該社寺へ下付ノ儀本月一日御裁可相成候ニ付テハ本月分ヨリ下付スヘキ處已ニ料  
金徴收済ノ分モ行ノ候ニ付月貸ノ分ハ來ル八月ヨリ舊神官居住地ニシテ他へ移轉候マテ年期ニテ貸下

地發第一七三號ハ前文地  
理局通知ヲ指ス

アル境内貸下料ハ本月徴收ノ分ヨリ下付候様致度  
内務省指令十九年八月六日  
聞届

官有地ニ係ル社寺修繕  
ノ爲メ一時境内貸下料  
處分方

東京府達 十九年七月十日 (土地門土地部)  
官有地ニ係ル社寺境内一時貸下料ノ儀今後社殿堂宇修繕費トシテ該社寺へ下渡候條借地人アル社寺へ  
相達スヘシ

東京府達 十九年七月十日  
第百六號郡區役所

官有地ニ係ル社寺境内一時貸下料徴收方委任候ニ付テハ徴收ノ上該社寺へ下渡方取計處分濟左ノ雛形  
ニ照準翌月十日限り届出ツヘシ

明治何年 官有社寺境内貸下料徴收仕譯書

何月	何年	地 名	社 寺 名	月 日	數 徴 收 額	住 所	氏 名
		何町何番地	境何社	何月何日	分 金 何 圓	何町何番地	何 某
		小計金				每社寺小計	
		合計金					
		右之通候也					
		明治何年何月何日					郡區長氏名印



東京府知事某殿

明治何年 官有社寺境内貸下料下渡仕譯書

下渡金額	月日	數	地	名	社	寺	名
金	何	圓	何箇月(何日)分	何町何番地	何	社	寺
、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、
、	、	、	、	、	、	、	、

合計金、  
右之通候也

明治何年何月何日

東京府知事某殿

郡區長氏名印

社寺ノ境内ヲ譲テ人民ノ宅地ニ使用スル者ハ更ニ土地ヲ用ヒシ其儘据置キ借地料ヲ納ム

富山縣ヨリ内務省へ伺十九年十二月二十七日  
越中國射水郡串田村楠田神社祠官宮川葛太郎ヨリ同社境内地一町四段九ノ内一段八畝十四歩拜借ノ儀願出取調候處神官居屋敷地拜借ノ儀據テ布告ノ旨モ有之ヲ心付カス今日マテ無願使用致來候趣不都合ニ付夫夫可及處置候得共元來神社境内地ヨリ已ニ貸渡有之候分モ漸次可爲取拂等ニ付新ニ貸渡ノ儀ハ到底難及詮議ト致存候乍去該神社境内地ハ別紙圖面ノ通土地廣潤ニ付前記ノ地所及鼠茶各色ノ地所境外ハ引分ケ鼠色ノ地所ハ更ニ官有地第三種道敷地ニ組替他ハ拂下候モ該社ニ於テ祭典等ニ差支ノ儀ハ勿論風致ニモ聊差障無之ト見認申候儀一同上地等處分方可相候等ニ候得共實地丈量等急遽取調候廉モ有之ニ付先以前記地所上地更ニ相當代價ノ半額ヲ以テ同人へ拂下可然哉

内務省指令二十年一月十七日

上地スルニ及ハス境内地ノ儘据置貸渡候儀ト心得ヘシ

(備考)  
新潟縣ヨリ内務省へ伺二十年五月二十六日

越後國北蒲原郡中曾根村延命寺境内地<sup>第四段</sup>ノ内へ家屋建築致置候ニ付上地ノ上相當代價御拂下相成度旨願出取調候處接續民有地内ト誤明治十七年十一月中家作候處今般地押調ノ爲メ發見ノ趣申立不都合ニハ候得共既ニ家作候儀ニ付御允可相成度  
但本文御允可相成場合ニ於テハ將來地押調ノ爲メ右等ノ類發見祭典法用ニ差支ナキ趣ヲ以テ拂下ノ儀出願スル時ハ本年四月二十二日貴省及農商務省訓令第三七五號ニ照シ縣限拂下處分濟報告ト可然哉

内務省指令二十年六月二日

上地スルニ及ハス境内地ノ儘据置貸渡候儀ト心得ヘシ

社寺境内祭典法用等ニ差支ナキ場所ニ限り人民ノ居住ヲ許シ賃地料ヲ徴シテ其社寺ノ修繕費ニ充テム

神官僧侶ノ其社寺内ニ中小學校ヲ開クヲ許ス  
六年九月文部省布達第百二十二號ヲ以テ學制第百五十四章以下八章ヲ廢ス  
學政司學制ニ載ス

貸下差支アルモノハ前段伺ノ通其差支ナキモノハ後段伺ノ通取計フヘシ

文部省布達<sup>第六年三月日</sup>  
教化ノ儀ハ至急ノ要務ニ候ヘハ各地方ニ於テ夫夫著手可相成ハ勿論ニ候就テハ神官僧侶ニ於テモ有志ノ輩ハ其社寺内ニ中小學校相關候儀不苦候條此段相達候也  
但中小學校相關候者ハ學制ニ準據可有之事  
學制節錄<sup>六年三月十五日(全文ハ學政司)</sup>

神官僧侶學校ノ事  
第五百五十四章 神官僧侶大中小學科免狀ヲ得其神社寺院ニ於テ學校ヲ開キ一般ノ生徒ヲ教育スルコトアルトキハ都テ學制ニ準シ教則ニ從ヒ學科ノ順序ヲ踏シムルハ言ヲ不待而シテ其教旨ハ便宜ヲ以テ講說スト雖モ之カ爲メ學科時間ヲ減スルコト一周間<sup>四日</sup>一時ノ外アルヘカラス  
宗教ノ爲メニノミ設ル學校ハ此限リニアラス



但教旨ヲ講説スル爲メ學科時間ノ外便宜ニヨリテ更ニ幾時ヲ増スハ妨ケナシトス

第五百五十五章 神官僧侶神社寺院ニ於テ變則學校ヲ開クモ前條ノ例ニ準スヘシ

第五百五十六章 神社寺院ヲ以テ學校ニ用ヒ或ハ他ノ人假リテ之ヲ私學ニ用ヒ

其教師ハ神官僧侶又ハ他ノ人タリトモ教旨ヲ講説スルハ前條ノ例ニ準スヘシ

第五百五十七章 (略)

第五百五十八章 神社寺院ニ於テ開ク學校ハ私宅ニアラサルヲ以テ總テ學校ト稱スルヲ得ヘシ

文部省布達 第六十號 第六十號

神官僧侶學校設立ノ儀學制第五百五十四章ノ通及公布候處不待許可私ニ致開業候者往往有之哉ニ相聞不都合ノ事ニ候學制第四十三章同第四百七十九章ノ通其管轄廳ノ許可ヲ受ケ可致開業候事

神社境内半借地料ヲ定メ小學校ヲ設ルヲ許ス

青森縣ヨリ内務省へ伺十一月二十九日  
小學校設置ノ爲メ郷社境内不差間箇所一段一步餘拜借願出タリ外ニ設置ノ真地無之ニ付貸渡度  
内務省指令 十二年二月十六日

伺ノ趣聞届ク五箇年季ヲ以テ相當ノ借地料收入貸渡シ届出ヘシ

新潟縣ヨリ内務省へ伺十四年三月十一日

官有社地境内ニ小學校ヲ建設スルハ府縣限リ之ヲ許セシ社堂ニ建シテ分ハ部テ内務省ニ伺出シム

越後國中浦原郡小須戸村設立小須戸小學校組合三村ノ學童ハ本校へ通路遠隔ニ付三村民等協議ノ上小須戸村郷社官有境内地拜借小學校場敷地ノ爲メヨリ設置イテ度旨連署出願更ニ差間ノ筋無之ニ届相成度  
付八年内務省日誌第三十六號中足柄縣ヨリ伺タル類例ニ據リ本年ヨリ向五箇年間借地料ヲ課セス御聞届相成度  
内務省指令 十四年五月十六日

聞届ク

新潟縣ヨリ内務省へ伺十六年八月十八日  
管下中浦原郡小須戸村郷社境内ノ内段別一畝二十二步上地ノ儀本年七月十一日附ヲ以テ相伺候處伺ノ趣聞届候條學校敷地ニ適當ノ箇所無之不得止場合ニ於テハ境内ノ儘無料使用差許云云本月六日附

御指揮相成公立學校敷地ノ儀ハ無代下渡候成規ニ有之殊ニ上地ノ儀ニ付テハ十四年三月二十六日附ヲ以テ地理局長照會之次第モ有之又西頸城郡能生小泊村御聞届候處同月二十六日伺ノ通御聞届相成居候儀ニ付スヘキ目的ヲ以テ上地ノ儀客歲十月四日附ヲ以テ相伺候處同月二十六日伺ノ通御聞届相成居候儀ニ付上地ノ手續ヲ運ヒ相伺候儀ニ有之右ハ將來社寺境内ハ總テ上地御聞届相成モノナルヤ又ハ今般相伺候小向村御聞届境内ニ限リ他ニ御聞届相成理由有之候哉前後ノ御指令疑義ヲ生レ相伺候但今般御指令ノ如ク境内ノ儘無料使用差許候トキハ年期ヲ定メ候ニ不及義ト相心得可然哉  
指令 十六年九月二十四日  
八月六日附指令ハ可成既定ノ社寺境内ヲ増損セサル趣旨ニ候但貸渡ニ年期ヲ附スルト否トハ社寺ト學校ノ都合ニ任スヘシ

長野縣ヨリ内務省へ伺十六年七月十七日

長野縣ヨリ内務省へ伺十六年七月十七日  
公立小學校建設ニ際シ右敷地無代下與ノ儀ニ付テハ明治七年第三百三十一號公達及ヒ八年御省乙第六十九號達ノ旨モ有之候處當縣下町村ノ内ニハ當初設置適當ノ地所無之ヨリ官民有社寺現境内空地へ假ニ建設或ハ堂宇屋舎等假用シ授業致來候處概近就學日ニ付右空地假用學校新築或ハ社殿堂宇へ建繼等致無之且該社寺地ハ學區内中央ニシテ新築適當ノ位置ニ付右空地假用學校新築或ハ社殿堂宇へ建繼等致度旨出願有之節ハ學區内人民ヨリ神社氏子寺院住職檀中等へ熟識ヲ逐ク故障ハ勿論其他何等支障無之ト祝認候上ハ民有社寺境内へ新設ノ分ハ開置官有地ノ方ハ借地料ヲ附セス願意聞届候上繪圖面相添共時時及御届可然哉

内務省指令 十六年九月二十六日

民有ノ分ハ伺ノ通官有ノ分ハ其時時經伺ノ上處分可致但社堂へ建繼ノ分ハ官民有地ヲ問ハス其時時伺出處分スヘシ

民有社地境内ニ學校ヲ設ル者ハ其區域ヲ定メシム

福井縣ヨリ内務省へ伺十七年六月二十三日  
神社以下 境内ニ於テ其町村公立小學校ヲ設立セント欲スル者有之候處右ハ境内ノ混雜ヲナシ神威ヲ衰減スルノ恐アルヲ以テ設立セシメサル方可然哉將タ混雜ヲ爲サル様區域ヲ立テ境内ノ風致ヲ傷ハサルモノハ差支ヘサル儀ニ候哉  
内務省指令 十七年八月二十日

民有ノ社地ニシテ其社關係人協議濟ノ上ハ后半伺ノ通但官有地ハ其都度伺出ヘシ



官有社寺境内ハ小學校ト雖モ借地料ヲ課ス

栃木縣ヨリ内務省へ伺二十年七月二十八日  
官有社寺境内小學校敷地ニ貸下ノ儀ハ十六年一月三十日附御指令ニ依ルヘキハ勿論ニ候得共十九年度已降社寺境内貸下料ハ悉皆其社寺へ下渡相成候ニ付獨リ小學校敷地用ニ限り無料ニテ貸下候ハ都合ト存候間休息所使用等ト同様相付料金ヲ付シ年限ヲ定メ貸下可然哉  
内務省指令二十年八月四日

伺ノ通

布告 第六十六號府令(土地門) 土地門 土地法 第三條ノ下ニテ

三府ヲ始人民輻湊ノ地ニシテ古來ノ勝區名人ノ舊跡等は迄群集遊觀ノ場所 東京ニ於テハ金龍山淺草寺ニ於テハ八坂社清水ノ境内嵐山ノ類 從前高外除地ニ屬スル分ハ永ク萬人借樂ノ地トシ公園ト可被相定ニ付府縣ニ於テ右地所ヲ擇ヒ其景況巨細取調圖面相添大藏省へ可伺出事

社寺其他ノ名勝勝跡ヲ公園ト定ムルハ可ス

京都府ヨリ内務省へ伺十四年十一月二十四日  
府下山城國久世郡佐山村淨安寺境内ノ儀ハ路傍ニ接スルヲ以テ二坪拜借同村協議費ニテ揭示場建設致度旨願出右ハ無年期無料ニテ貸渡可然哉  
内務省指令十四年十二月二十八日

伺ノ通

愛知縣ヨリ内務省へ伺十五年十月二十日  
道路敷官有民有地トモ尤民有地ノ片隅へ巡査二三名ヲ入ルニ足ルヘキ狹隘ナル交番所ヲ建設セントスルニハ該地種ヲ官有地第二種ニ變換ノ上ナラテハ不相成儀ニ可之哉又ハ右交番所タル他ノ廳舎ノ如ク永世不換ヲ期シ其位置ハ建設スルモノニ無之時トシテハ他ノ地へ轉換ヲモナサシムル見込ノニ付道路之儘ニテ地種變換ニハ不及儀ニ候哉且官有地社寺境内ニ設置スルモ同様心得可然哉  
但本文地種ヲ組替ルモノトモハ民有地ニ變換スルモノトモ同様心得可然哉  
キハ公用土地買上規則ニ據リ處分イタル可然ヤ又道路敷ノ僅使用スルトキハ所有主於テ之レヲ拒ムノ權無之モノト心得可然哉  
内務省指令十五年十二月九日

伺ノ通

但シ道路敷ノ僅交番所へ使用スルニ當リ所有主ニ於テ之レヲ拒ムノ權無之モノト心得ベシ

社寺境内ニ遊査在勤所月長役場等ヲ建設スル者ハ時時申出セシム

千葉縣ヨリ内務省へ伺十七年九月十一日  
社寺境内空地へ學校等建設ノ儀ハ縣限開屆追テ箇所限へ給圖面相添及御届候類例比有之候へ共右境内へ遊査在勤所月長役場其他官廳或ハ公會所等建設ノ儀モ地種ノ官民ヲ問ハス該社寺ノ體面ヲ損セシム且差支無之向ハ前條ニ準シ開屆可然哉  
但本文敷地貸與ノ期限及借地料等ハ適宜相定メ尤モ民有ニ係ル分ハ總テ該社寺トノ協議ニ任セ可然哉  
内務省指令十七年十一月一日

伺ノ通

社寺境内ハ他ニ使用スヘカラサル筈ニ候條若シ使用セサル場合ニ於テハ其事由取調時伺出ヘシ但民有第一種ノ社寺境内ハ伺ノ通  
(備考)  
千葉縣ヨリ内務省へ伺十七年十二月二十日  
社寺境内へ家屋建設ノ儀ハ不相成儀ニ有之候得共當縣下總國東葛飾郡貓實村眞言宗華藏院境内官有偏隅へ前願巡査在勤所設置致度旨願係町村民總代及該寺住職其他連署ヲ以テ願出候ニ付取調候處右猫實村ノ儀ハ前願巡査配置アル當代島村堀江村ノ中央ニシテ巡査在勤所ヲ設置スルニ至極適當ノ地ニ有之然ルニ本村ハ人家頗ル稠密ニシテ餘地無之又充用スヘキ相當ノ家屋モ無之去迎之ヲ設ケ置カサルヲ得ス且ツ在勤所ノ儀ハ普通ノ人家ト異ナリ人民保護上必要ノモノニ付社寺境内へ學校建設ノ例ニ準シ前書華藏院境内中別紙圖面相添ノ箇所在勤所敷地トシテ當分使用ノ儀開屆候様致度  
内務省指令十八年一月十九日

社寺境内ノ一隅ニ駐車場標示場等ヲ設ルモ地種ノ變換ヲ要セス

和歌山縣ヨリ地理社寺兩局へ照會二十年九月十四日  
當縣營業人方車取縮規則ニ依リ定ムヘキ公設駐車場ハ警察署又ハ分署ニ於テ之ヲ定メ標示スルモノニ有之候處地方ニ依リ右公設駐車場ニ充ツヘキ地所無之時ハ祭典等ニ差支ナキ官有地第一種神社境内地ノ邊隅ヲ以テ之ニ充テ該地種ハ其儘差置候モ差支無之哉  
地理局ヨリ和歌山縣へ回答二十年九月二十四日  
神官氏子ニ於テ故障無之候ハ、御意見ノ通



官有社寺境内ノ借リ郡役所ノ支庫ヲ立ルヲ許ス  
八年内務省乙第四十九號  
送ハ社境内一時貸下ノ件ナリ上ニ載ス

千葉縣ヨリ内務省へ伺十五年十月二十六日  
社寺官有地境内家屋建設ノ儀ハ明治八年御省乙第四十九號御達ノ趣モ有之不相成筋ニ候處人家稠密ノ土地ニ設置有之郡役所於テ逐次緊要ノ書類相増シ常ニ紛亂ヲ恐ル、ノミナラス火災ニ罹ル處ナシトモス相當ノ文庫無之テハ保存上差支候ヨリ郡内人民協議ノ上ニテ建設セントスルニ前條ノ如ク人家稠密ノ土地ニシテ社寺境内ヲ除クノ外適當ノ場所無之ニ付境内ニテ社寺ノ體面ニ損害ナキ場所區域相立借受設置致シ度官郡内人民其他關係者熟議ヲ遂ケ出願有之向ハ借地料ヲ付セス本年三月十五日附ヲ以テ相伺候官有地社寺境内へ學校建設方御指令ニ準據シ願意聞届可然哉  
内務省指令 十六年二月七日

官有社寺ノ鐵道敷地ニ係ル者ハ移轉料ヲ支給ス

新潟縣ヨリ内務省へ伺十八年七月二十二日  
鐵道敷地官有社寺境内ニ係リ移轉ヲ要スル分アリ相當代地買上ケ下渡シ跡地土地取計工部省用地トナシ處分濟御届可致哉  
内務省指令 十八年七月三十日

鐵道敷地ニ係ル官有社寺境内ノ儀ハ伺ノ通尤移轉料ヲ支給スヘシ但國幣社ニ係ルトキハ伺出ツヘシ

(備考)

神奈川縣ヨリ内務省へ伺二十年五月二十日  
官用ノ爲メ官有社寺境内ヲ必要ト認ル場合ニ於テハ建物移轉料ヲ下付シ跡地ハ土地セシメ代地購入代金及ヒ境内ニ在ル樹木等ハ下付スヘキ限リニ無之ト存候得共東海道鐵道線路中右境内ニ係ル箇所有之候ニ付御指示相成度  
内務省指令 二十年六月三日  
移轉料ヲ下付シ且相當代地ヲ下渡ス儀ト可心得但官國幣社ニ係ルトキハ移轉前伺出ヘシ  
神奈川縣ヨリ地理局へ照會二十年六月九日  
官用ノ爲メ社寺境内需用ノ件ニ付本月三日御指令ノ趣モ有之候處位置及ヒ段別共恰當ノ官地無之トキハ該社寺於テ指定致サセ買收ノ上代地トシテ下付候儀ニ有之候哉且伺面ニ在ル樹木ノ儀ハ御指令無之候得共右ハ下付セサル儀ニ有之候哉  
地理局回答 二十年六月十八日  
官地無之トキハ相當代地買收御下付相成可然樹木ノ儀ハ堂宇移轉建營用材トシテ下與願出ルニ於テハ是亦御下付相成可然

道路修繕ノ爲メ官有社寺境内ノ砂石ヲ採掘スルヲ許ス

神奈川縣ヨリ内務省へ伺十三年五月四日  
爰ニ官有ノ社寺境内ノ地質砂石ヲ含有スルヲ以テ道路修繕ニ際シ其砂石ヲ採掘セント願フモノアリ右ハ一時ノ採掘ニ止マルモノナラハ社寺境内ノ風致ヲ損セス其他ニ支障ナシト見認ムル上ハ官地砂利料ヲ徵收シ縣限處分可然哉  
但其徵收スル處ノ金額ハ該社修繕費ノ内へ備置可然哉  
内務省指令 十三年五月二十二日

砂利掘取ノ儀ハ其縣限り處分シ届出ヘシ  
但料金ハ大藏省へ納ムヘシ

社寺境内ニ於テ廢物ヲ移其借區開闢ヲ願出ル者ハ其都度伺出シム

長野縣ヨリ工部省へ伺十七年二月二十九日  
社寺境内ニ於テ諸廢物發見借區開闢出願スルモノ有之トキ實地支障無之分ハ許可相成ヘキ哉果シテ然ルトキハ該坑築ニ關シ必需ノ場所官有地ハ成規ニヨリ貸渡シ民有地ハ使用差許可然哉  
工部省指令 十七年四月四日

其都度伺出ヘシ

神社ノ境内ヲ權斷シテ道路ヲ設クルヲ許ス

茨城縣ヨリ内務農商務兩省へ伺十九年六月十一日  
常陸國久慈郡大子村ヨリ下野宮村間里道ノ儀ハ福島縣下東白川郡柳倉地方へノ道路ニシテ管下久慈郡ノ物産ヲ與羽地方へ輸送シ又柳倉白川等ヨリ管内久慈郡地内へ輸送シ來ルノ一線路ニシテ都テ此線路ニ據ラサルハナク常ニ人馬ノ通行繁ク然ルニ該線路ハ屈曲ノミナラス坂路多ク殊ニ下野宮村字七曲リト稱スル坂路ハ峻峻最甚シク車馬ノ通行危險ノ場所ニシテ運送ノ不便不協今同地方有志者職金ヲ以テ改修ノ儀備願有之實地調査候處坂路ヲ省キ屈曲ヲ直線トナス最至當ノ工事ト認定シ然ルニ該線路ヲ下野宮村郷社近津社境内ヲ橫斷境外官林中へ取ラサレハ他ニ好線路ヲ求ムルノ場所無之爲メニ不得止ムノニ有之且境内ノ隔離スル場所ニ百歩ハ官有第三種草地ニ租換ノ積尤境内ノ裝飾ニ關シ敢テ風致ヲ損スルノ憂モ無之候條線路變換ノ儀御聞届相成度  
内務農商務兩省指令 十九年七月二十九日

道路新設ノ儀ハ聞届但境内地ノ内百坪ハ草地ニ租換フルニ及ハス從前ノ儘差置クヘシ



鐵道兩側ノ際ニ限リ官  
國幣社寺ヲ除クノ  
外其社寺ト爲ルノ上境  
内ノ土石ヲ採掘スルヲ  
許ス

栃木縣ヨリ内務省へ伺二十年六月二十八日  
官有社寺境内ノ砂石ヲ鐵道工事に用ノ爲メ採掘致度向ハ實地取調風致其他ニ於テ何等差支無之分ハ當處  
限許可シ可然哉  
内務省指令二十年七月九日

社寺境内土石採掘ノ件ハ官國幣社寺ヲ除クノ外神官僧侶氏子檀徒ニ於テ異存ナキモノハ伺ノ通

栃木縣ヨリ内務省へ伺二十年七月十二日  
兩毛鐵道會社鐵道工事漸ク起工ニ際シ同線路近接ノ地ニハ適當ノ石材無之ニ付下都賀郡真弓村社殿  
前神社境内ニ於テ切採致度官鐵道技師ヨリ談判有之候處該社ノ備ハ古昔創立ノ舊社ニ付通日伺御指令  
ノ趣ニ依リ實地ニ就キ篤ト取調候處右切取ノ場所タル該社境内ノ片隅ニシテ祭典ハ勿論風致等ニ關係  
候儀毫モ無之且神官等ニ於テモ異議無之候間實地區畫相立不都合無之様注意切採爲致右代價ハ修繕費  
トシテ該社へ下付シ可然哉  
内務省指令二十年七月二十五日  
石材採掘ノ儀ハ開屆共代價ハ國庫へ納付候儀ト可心得但跡地ノ備ハ不體裁無之様鐵道會社ヲシテ修繕  
セシムヘシ

神社境内ニ礦泉湧出  
者ハ其地ヲ貸シテ料金  
ヲ徴收スルヲ許ス

新潟縣ヨリ内務省へ伺二十年十月十八日  
越後國西蒲原郡卷村地内神雜社境内地九畝中ニ於テ礦泉涌出場發見ニ付本年ヨリ向五箇年間拜借  
地三歩使用一畝致度旨同村久我正直ヨリ願出踏査セシメ候處申立ノ趣相違無之社頭ノ風致ハ勿論祭典  
其他總テ支障無之候條御允可相成度御裁可ノ上ハ料金徴收該社修繕費ニ下渡可然哉  
内務省指令二十年十一月十八日

伺ノ通

神社境内ニ風氣警報  
機ヲ立ツルヲ許ス

岐阜縣ヨリ内務省へ伺十九年十一月二十六日  
暴風警報信號柱ノ儀當縣ニ於テモ設置致度ニ付建設方等御省地理局へ協議ノ未夫準備相整候儀ニ有  
之然ルニ本縣測候所ノ儀ハ市街低下ノ場所ニ假設有之標柱建設適當ノ位置ニ無之候間市街ノ東面ニ兀  
立セル宇宿山ノ山嶺ニ有之候縣社伊奈波神社攝社官有第一種本宮境内ニ取設候標柱ヲ以テ及實測  
候處海面ヨリ直立八十間餘モ有之至極適當ノ場所ト存候間社地境内ノ儘右標柱設置ノ爲メ使用致度尤  
祭典等ニ差支無之候條御開屆相成度  
内務省指令二十年十二月十一日

聞届

官有社地ニ非常警報機  
時鐘及ヒ番小屋ヲ建  
テ許ス

神奈川縣ヨリ内務省へ伺十九年七月六日  
非常警報機及時報鐘并右番小屋等建設ノ爲メ官有社地ヲ使用ノ儀出願スルモノ有之右ハ公共ノ用ニ供ス  
ルモノニ付祭典等ニ差支無之上ハ借地料ヲ徴セヌ無年期使用許可シ可然哉  
内務省指令十九年七月十六日

伺ノ通但相當年期ヲ以テ使用セシムヘシ

布告節錄 四年正月五日(全文ハ財政門參)

一領知ノ外ニ舊政府并舊領主等ヨリ米金密附ノ分依舊貫當年迄被下候向モ有之候處來未年ヨリ被止  
候事

但家祿ノ内ヲ以テ寄附致候儀ハ別段ノ事

一上知ノ田畑百姓持地ニ無之社寺ニテ直作或ハ小作ニ預ケ有之分年貢諸役百姓並相勤ルニ於テハ從前  
ノ通社寺ニテ所持致シ不苦候事

但地所ニ關係ノ事務ハ村役人差圖可致事

大藏省達節錄 四年九月十三日(全文ハ土地門參)

庚午十二月社寺領上知被仰出候御布告書ノ内三箇條目上知ノ田畑百姓持地ニ無之社寺ニテ直作云云從  
前ノ通所持致シ不苦ト有之候ハ朱印地除地ノ田畑元來百姓持ノ地ヲ其社寺ニテ讓受所持致シ候ヲ直作  
或ハ小作ニ預置候田畑ノ儀ニテ最初寄附ノ節百姓ヲ放シ貢稅作德共一切附與有之分ハ都テ御拂下ノ上  
更ニ地主ヲ定メ候儀ト相心得地代金遂吟味可相回事

内務省達 七年六月十二日(全文ハ土地門參)

第一條 舊社寺領除地上知ノ内元來百姓地ヲ其社寺ニテ讓受又ハ出金買得致シ候地ヲ其儘寄附相成候



七年十一月内務省達乙第  
七十二號ヲ以テ土地附屬  
分規則ヲ定メ社寺ノ資金  
ヲ以テ開墾セシ土地ハ其  
社寺ニ附スルモノトス

分ハ其貢租ノミ改テ寄附相成候儀ニ付其土地ハ其儘下ケ渡貢租ノミ收入其五分通被下候事  
第二條 同斷百姓持地ノ儘寄附相成候分ハ貢租ノミ寄附相成候儀ニ付貢租ノミ收入其五分通被下候  
事

第三條 同斷百姓ヲ離シ貢租作徳共一切寄附相成候分ハ其土地ヲ官有地トシ貢租作徳ノ合計ヲ收入シ  
其五分通被下候事

右ノ通ニ候處第三條ノ分ト雖モ地方ニ因第一條第二條ノ通同様取調無謂作徳米ヲ小作人ニ所務爲致  
貢租ノミ官ニ收入其五分通渡方取計候向モ有之趣不都合ニ候條右様取計來候分ハ前條ニ照準作徳米  
小作人ヨリ取立方并社寺ヘ五分通被下方等引直シ方取調兩省宛ニテ可伺出此旨相違候事

但社寺上知ノ地所所有主定方處分相濟候迄ハ從前ノ小作人ヘ預ケ置貢租作徳ノ合計收納致スヘキ  
積取調内務省ヘ可伺出事

社寺資金ヲ以テ開墾セ  
シ土地ハ其社寺ニ附ス

内務省達節錄乙第七十一號 九月二十九日全文ハ土地門土地  
舊社寺領上地處分之儀ニ付テハ逐逐布告ノ旨モ候處開墾ノ田畑買得ノ地所等ニ至テハ其社寺或ハ舊神  
官僧侶ニ可屬種類モ可有之處其區別判然不相立ヨリ舊神官僧侶トモ私有ノ產ヲ失ヒ候向モ有之哉ニ相  
聞憫然之儀ニ付今般社寺上地跡處分規則別紙ノ通相定候條從前ノ處分此規則ニ抵觸候分ハ改正可致積  
ヲ以原由詳細取調來明治八年二月ヲ限リ當省ヘ可伺出此旨相違候事

社寺領上地跡處分規則  
第一條  
一社寺ノ資金ヲ以テ荒蕪不毛地ヲ田畑宅地ニ開墾種藝セシ確證アルモノハ其社寺ノ所有地トナスヘシ

第四條  
一舊神官ノ祖先寺院ノ先住職自己ノ資金ヲ以テ荒蕪不毛地ヲ開拓シ或ハ出金買得ノ田畑宅地共其社寺  
ヘ寄附ノ姿ヲ成セシ分ハ從來舊神官僧侶ニ於テ所有セシト雖モ其社寺ノ所有地トナスヘシ

内務省達乙第八年三月二十八日(本改ハ土地門土地)  
昨明治七年十一月當省乙第七十二號達ノ趣意ハ社寺ニ屬スヘキモノト舊神官僧侶ニ屬スヘキモノトノ間  
ニ於テ從前ノ處分同號規則ニ抵觸候分ハ改正可致トノ儀ニ有之還祿ノ士族并其他一般ヘ拂下等處分濟  
ニハ關係不致儀ニ有之候條此旨相違候事

内務省達乙第八年五月五日(土地門土地)  
昨七年十一月當省乙第七十二號ヲ以テ舊社寺領上地ノ内開墾ノ田畑買得ノ地所等其社寺或ハ舊神官僧  
侶ニ可屬種類ヲ分ケ夫夫取調本年二月ヲ限リ可伺出旨右處分規則相添相違置候處今以テ取調方行屆兼  
候向モ有之ヤニ相聞候ニ付當八月三十一日迄延期致シ右期限後ニ至リ差出シ候分ハ採用不致候條精精  
注意致シ期限中詳悉取調可伺出此旨相違候事

地租改正事務局達節錄乙第九年五月十六日(全文ハ土地門土地)  
明治七年十一月内務省乙第七十二號社寺領上地跡處分規則中第一條第二條自今左之通更正候條此旨相違  
候事

社寺領上地跡處分規則  
第一條  
一社寺ノ資金ヲ以テ荒蕪不毛地ヲ田畑宅地ニ開墾セシ確證アルモノ此更正達以前ニ係リ民有地トナシ  
差支ナキモノハ其社寺ヘ無代價ニテ下ケ渡シ以後ニ係ルハ律ニ照シ處分スヘキモノトス

内務省達乙第九年七月二十八日(地租改正事務局總裁達)土地門土地  
社寺領上地處分ノ儀ニ付明治七年内務省乙第七十二號及ヒ本年地租改正事務局乙第七號達ノ旨モ有之  
開墾ノ確證有之分ニ限リ無代其者ヘ可下渡旨相違置候處其事業ニ關リ候乎或ハ現場目擊候者歟其他事  
情實跡疑シキコトナク確ト保證相立モノ有之候ハ、是以確證ト看做シ無代下渡可申此旨相違候事  
但此達到達已前既ニ處分濟ノ分ハ引直シニ不及候事



社寺領上地處分ノ儀ニ付本年內務省乙第八十七號ヲ以テ相違置候處右ハ本年十二月二十五日ヲ限り無  
遲滞取調可申出右期限ヲ過キ申出候分ハ假令何等ノ事故及ヒ確證等有之候トモ一切採用不相成候條右  
之趣管下へ可觸示此旨相違候事

內務省何十年八月十一日(本交ハ土地門土地)  
社寺領上地ノ田畑宅地等ハ夫夫成法例規ニ據リ及處分候儀ニ有之候處往往他へ拂下等處分濟ノ分社寺  
及舊神官僧侶ヨリ最前開墾買得ノ證左アリテ趣ヲ以テ明治七年當省乙第七十二號同九年地租改正事務  
局乙第七號同年當省乙第八十七號ノ證左ニ憑リ其地ノ所有ヲ挽回附求スルモノ有之候處右七年七十二  
號發達前他へ拂下等處分濟ノ分引戻スヘカヲサハル事ハ八年當省乙第四十四號達ノ正條モ有之又七十二  
號發達後ノ分ト雖モ一旦拂下他人ノ所有ト相定候者ハ亦引戻得可ラサハル筋ニ有之候得共業ト右第七十  
二號第七號第八十七號等ノ證左ニ該ル者若シ處分未濟ノ時其人ノ請求スルアルハ其所有ヲ認可スルハ  
勿論ニ有之候處其儀ナクシテ他へ拂下ノ處分ニ及ヒタルハ皆是當時實地調理ノ不十分ナル者及ヒ其請  
求ヲ爲シ得ヘキモノ、無念等ニ由テ其所有ヲ得ル能ハス却テ無關係ノ土地トシテ他人ノ所有ト爲シタ  
ルモノナリ然ルチ今日ニ至リ開墾買得ノ證憑アリトテ該地引戻シテ請求イタル候ハ言フヘクシテ行フ  
ヘカヲサハル儀ニ有之候ヘトモ熟熟其事情ヲ察シ其原理ヲ推究スレハ素地ハ官有タリトイヘトモ其熟  
地ト爲スニ付テハ多少ノ勞費ヲ掛ケ成功候儀ニ付素地ハ上地トシテ其勞費ハ不得不償筋ニ有之  
候間是等ハ其素地ノ價值ヲ除キ當時開墾買得ノ勞費ニ報ニヘキ積ヲ以テ其地拂下代價ノ百分ノ九十九  
分ニ當ル金額ヲ下渡候條イタル度右ハ追追調査中ノ儀モ有之候間至急仰何分ノ上裁候也  
指令十年十二月十日

伺之趣左ノ通

荒蕪地不毛地ヲ開墾種藝セシ證據アルヲ誤テ他へ拂ヒ下ケタルハ更ニ其拂下代價ノ全額ヲ下ケ與フ  
ヘク買得地ヲ前同様ノ處分ニ及ヒタル節ハ更ニ其土地ヲ買上之ヲ該社寺等へ還付スヘシ  
但既ニ訴訟ニ涉リタル者ハ裁判上ノ處分ニ任ヌヘシ

有社寺ニ寄附ノ土地ハ  
該社ノ附屬地トシテ民  
有第一種ニ據置カシム

愛知縣ヨリ內務省へ何十二年七月二十二日  
尾張國愛知郡名古屋屋澤井町寄廣井村  
六十番地  
一村社淺間社境内五十坪五合  
同所六十四番地  
官有地

一同八十二坪二合

民有地 持主 同所 森喜多江

右民有地之儀官有地之分手狹ニテ祭事等ニ差支從來境内ニ致來候處今般地主ヨリ寄附之上官有地ニ編  
入相成度旨願出候右ハ官有地ニ地種變換之儀ハ御許可難相成旨豫テ御指令之趣モ有之候處寄附之儀ハ  
願之通開屆地券狀該社名受ニ書換之上除稅取計可然哉此段相伺候條至急御指令有之度候也  
內務省指令十二年八月十五日

書面寄附之儀ハ伺之通尤除稅之儀ハ難聞屆候條民有地第一種ノマ、該社附屬地ト相定可申事

(別紙)

村社境内地上ケ地願

尾張國愛知郡廣井村

六十四番

一宅地八十二坪二合

持主 森喜多江

右地所從前村氏神境内官有地之續貢地ニテ境内ニ御座候處今般地主ヨリ村社へ寄附致度旨申出候右  
願之通相濟候上ハ官有地ニ被下置度仍社内繪圖面相添氏子中協議之上連署ヲ以此段奉願候也(圖面)

明治十二年七月

祠掌 中島友文 外二名

愛知縣令安場保和殿

前書之趣願出候也

澤井町戶長

早川德太郎

名古屋區長

吉田祿在

(備考)

社寺門 神社一



長野縣ヨリ内務省へ伺十四年四月六日  
 神社民有地境内狹隘ニシテ祭典等ノ節差支候旨ヲ以接續ノ地ヲ境内ニ寄附致度旨申出候者有之右ハ當  
 應限リ附届境内ニ組入候上村社以上ハ右寄附地ノ分除稅ノ儀取調御省へ相伺可然哉又ハ從前ノ境内地  
 ト區分シ取扱候儀ト相心得可然哉且又現境内民有地第一種ニテ地種ニ關係セサル分ハ境内増坪ノ儀聞  
 届候上及上申可然哉差掛リ候儀ニ付至急御指揮相成度此旨相伺候也  
 内務省指令十四年四月二十五日

書面ノ趣有格社へ寄附ノ分ハ該社附屬地トシテ民有地第一種ニ據置候儀ト可心得其他ハ伺ノ通  
 岩手縣ヨリ内務省へ伺十六年七月十日  
 管下稗貫郡黒川口北萬町目雨村社鳥谷崎神社境内地ノ如キハ邊隅ニシテ衆庶參拜等甚タ不便ノ場所ニ  
 付氏子協識ノ上黒川口村宇本城段別二段五畝歩ノ地所買受同社境内ニ取据移轉致度旨客年六月中願出  
 ニ付附届右地所ノ内三百六十八坪ハ本殿及拜殿神樂殿神輿殿未社ニ至ル迄新築ノ種トニ據置クヘキ旨  
 指令ニ及ヒ候處同社境内地狹隘ニシテ祭典等ノ際シ不便ノ趣ヲ以テ殘リ三百八十二坪トモ候得ハ現今ノ  
 境内三百六十八坪ニテハ狹隘ニシテ祭典等ノ際シ不便ノ趣ヲ以テ殘リ三百八十二坪トモ候得ハ現今ノ  
 同社境内ニ寄附致度旨今同社關係ノ者連署出願取調候處事情無餘儀次第ニ付願意聽許致度  
 内務省指令十八年九月二十六日  
 三百八十二坪民有地第二種ニ編入ノ儀ハ附届ケ難シ但寄附ノ上境内附屬地トシ民有地第一種ノ據置  
 境内續地ニ使用ハ若シカラス  
 熊本縣ヨリ内務省へ伺十九年七月二日  
 肥後國託摩郡出仲間村社出仲間神社ニテ祭典等ニ差支候趣ヲ以テ接續民有地地種ニ改メ寄  
 附官有地第一種ニ編入ノ儀出願候ニ付實地調査セシタルニ該社境内外區畫ハ別紙第一印圖面ノ如クナ  
 ルモ明治十三年中改築方第二印ノ如ク願出許可候處社殿ノ増築ト方位ノ變更ヨリ自然狹隘ヲ來シ實際  
 祭典等差支候條願意御許容相成度  
 内務省指令十九年七月十四日  
 民有地ノ儘境内附屬地トシテ使用スヘシ

無格社ニ寄附ノ土地同  
 上ノ件

大阪府ヨリ内務省へ伺十五年十一月二十日  
 當宗神社ハ延喜式ニ並大月次新嘗ト見エテ河内國志紀郡ニ有之往古ハ殊ニ重ク祭ラセ給ヒシ事古書ニモ  
 見ヘタルヲ中古沿革ニ現今古市郡桑田村宇水鹽野林藏ナルモノ、所有畑地ニ聊カ小祠ヲ存在シ私邸  
 内神祠ノ姿ニテ如此衰頹ニ及ヒタルハ歎歎次第ニ有之候然ルヲ今般右敷地トシテ別紙附圖中附屬ノ  
 地所三坪寄附ノ儀本人ヨリ願出殊勝ノ儀ニ付附届官有地第一種ニ編入致可然哉  
 内務省指令十六年五月十二日  
 該社ハ無格社ナルヲ以テ敷地ヲ寄附スト雖モ民有地第一種ノ儘差置ヘシ

人民寄附ノ地種境内ニ  
 シテ地種換ノ期ヲ定  
 ル者ハ寄附ノ年度ニ遡  
 リ民有地第二種ニ編入ス

高知縣ヨリ内務省へ伺十五年十一月九日  
 土佐國長岡郡比江村郷社日吉神社現境内地段別一段六畝二十九歩ノ儀ハ過ル明治十年九月持主氏子共  
 協議ノ上該社へ寄附致候ヲ以テ社地ニ更正相成度願出候ニ付寄附ノ儀附届ノ指令ニ及タルヲ以テ  
 其際直ニ地種組換ノ儀可相伺答ニ候處取扱主任死歿致候ニ由リ行違ヲ生シ竟ニ共手續ヲ爲サス經過  
 致シ候儀ニテ右ノ年月寄附セシ事實相違無之元來現在ノ境内地段別ニ於テモ相當ニ有之他ニ何等支障ノ  
 筋モ無之ニ付數年前ニ遡リ不都合ニハ候得共特別ノ御評議ヲ以テ明治十年九月ヨリ民有地第二種神社  
 持地ニ編入ノ儀御許可相成候儀致度  
 但本文減租ノ儀ハ別途大藏省へ開申ニ可及候  
 内務省指令十六年二月十五日

聞届寄附ノ年度ニ遡ラス當省許可ノ月ヨリ地種組換ヘシ

高知縣ヨリ内務省へ伺十六年二月二日  
 土佐國長岡郡比江村郷社日吉神社現境内一段六畝二十九歩民有地第一種ノ地ハ明治十年九月中土  
 岐登龜馬ヨリ該社へ寄附致候際直ニ地種組換ノ儀申可致答ニ候處當時ノ主任者死歿致シ行違ヲ生  
 シ終ニ今日ニ立至リ候儀不都合ニハ候得共數年ニ遡リ地種組換ノ儀御允許相成度客年十一月九日附  
 相伺候處寄附ノ年度ニ遡ラス御省御許可ノ月ヨリ地種組換候儀ト可相心得旨本年一月十五日附ヲ以テ  
 御指揮ノ趣謹承致候然ルニ最先ノ伺面ニモ具申及候通明治十年九月中寄附致度旨申出願意採用致候ニ  
 付本人ニ於テハ全ク免租相成候モノト確信セリ然ルヲ管應ノ疎漏ニヨリ其手續ヲ爲サ、ルヲハ既往ニ  
 遡リ賦稅セントスルモ實際難執行筋ニ付特別ノ御評議ヲ以テ寄附ノ年度ニ遡リ民有地第二種ニ編入ノ  
 儀御允許相成度  
 但本文減租ノ儀ハ別途大藏省へ稟申可及候  
 内務省指令十六年三月十四日

民有地第二種ニ屬スル地  
 村社ノ境内ニ添フル爲  
 マニ第一種ニ屬スル民  
 有地ヲ寄附スル者地種  
 ハ其務ニ仍ル

民有地第一種ノマ、据置ヘシ

社寺門 神社一

京都府ヨリ内務省へ伺十六年二月十九日  
 明治七年第百二十號地所名稱區別公達ニヨレハ鄉村社地ニシテ其社名受ノモノハ民有地第二種ノ處茲  
 ニ社境内狹隘ニ付地種民有地第一種ノ地ヲ該社へ買入レ又ハ民有地第一種ノ地ヲ該社へ寄附ノ上更ニ境内  
 取廣候モノハ地所名稱區別公達ノ如ク民有地第二種ニ變換可致儀ニ候哉果シテ然ラハ其坪數等ノ制限  
 御指示相成度  
 内務省指令十六年三月十日



村社境内ノ民有ニ係ル者ハ改テ該社ニ寄附スル者ハ民有第二種ニ變換セシム

徳島縣ヨリ内務省へ伺十九年六月二十五日  
阿波國那賀郡豐浦濱村豐浦神社村ハ同村巨川橋郎一己ノ所有地ニ段三畝九歩ニ有之候處本年三月該社  
へ寄附候ニ付地種民有地第二種ニ組換ノ儀氏子總代并受持祠官連署出願ニ依リ實地調査爲致候處申立  
ノ事實相違ナク且他ニ何等ノ支障モ無之候間右御聞届相成度  
内務省指令 十九年七月七日

聞届

三重縣ヨリ内務省へ伺二十年九月十三日  
伊勢國員辨郡石榑東村八阪神社境内地七畝二及稻荷神社境内地六畝八元ト同村共有地ニ候處本年四月  
中村會ノ決議ヲ以テ該社所有ニ寄附候ニ付民有地第二種へ編入可然乎  
但本件ノ如キ地種變換ハ自今縣限處分シ可然哉  
内務省指令 二十年九月二十六日

總テ伺ノ通但地種組換ノ上ハ報告例ニ據リ報告スヘシ

郷社附近ノ不要溝渠ヲ境内ニ加ヘント請フ者相當ノ代價ヲ以テ拂下ク民有第二種ニ編入ス

滋賀縣ヨリ内務省へ伺二十年九月二十日  
管下坂田郡長濱神前町郷社八幡社官有地社殿ノ位此狹隘ニレテ祭典ニ差支居候處該社殿臺ニ火災ニ罹  
リ今再建ニ際シ境内ノ背部ニ在ル溝渠ハ八十四ハ現今乾燥シ溝渠ノ用ヲ爲ササルモ境内ニ編入ノ儀  
願出實地調査ヲ遂ルニ申立ノ如ク全ク不用ニ屬シ居候ニ付溝渠ノ地目ヲ廣シ社地官有地ニ編入ノ儀  
無代ニテ社地ニ編入スルヲ得サル儀ニ候ハ、相當代價ヲ以テ拂下官有社地ニ寄附セシムルカ或ハ該社  
附屬地トシ民有地第一種ニ編入致度  
内務省指令 二十年十月四日

相當代價ヲ以テ拂下民有地第一種ニ編入スヘシ

東京府下社寺境内ノ伐木ヲ禁ス

東京府達 第六年四月十九日 第五十八號 區區戶長  
社寺境内ノ樹木ノ儀ハ培養方注意可致答ノ處却テ僅ノ修繕筋ニ事寄伐木致シ候ノミナラス甚敷ニ至テハ  
願出モ無之自己ノ取計致シ候向モ有之哉ニ相聞エ以ノ外ノ事ニ候自今願濟ニ無之候テハ一切伐採不相  
成候萬一不心得之所爲於有之テハ吃ト可申付候條此旨相達候事

右之趣市在區區社寺無洩可相觸者也

布告 第六年七月二日 (土地門土地諸則)

社寺境内ノ樹木ハ假令其社寺修繕等ニ相用ヒ候共猥ニ伐木不相成候若シ難止事情有之節ハ其地方廳へ  
願出許可ヲ可受事  
大藏省伺 第六年六月二十三日  
社寺境内ノ立木ハ第一社景ヲ助ケ隨テ田畑方位ノ標準ト相成從前猥ニ伐採候儀ハ禁止有之候へ共此末  
郷社社修繕等ニ附會自儘ニ伐木致シ候様ノ儀有之候テハ不都合ニ付旁以社寺境内無願伐木御禁止有  
之度依之御布告案取調相添此段相伺候也  
指令 第六年七月三日

大藏省伺 第六年六月二十三日  
社寺境内ノ立木ハ第一社景ヲ助ケ隨テ田畑方位ノ標準ト相成從前猥ニ伐採候儀ハ禁止有之候へ共此末  
郷社社修繕等ニ附會自儘ニ伐木致シ候様ノ儀有之候テハ不都合ニ付旁以社寺境内無願伐木御禁止有  
之度依之御布告案取調相添此段相伺候也  
指令 第六年七月三日

布告 第六年十月二十二日 (右大臣岩倉具親署)

官國幣社ヨリ伐木願出  
社寺境内ノ伐木ノ儀ニ付本年七月第二百三十五號布告候所官國幣社ヨリ若シ難止事情有之伐木願出候節  
ハ該廳ニ於テ篤ト取調教部省へ伺出處分可致此旨更ニ相達候事  
大藏省へ達 第六年十月二十二日

官國幣社境内伐木ノ儀ニ付別紙ノ通開拓使府縣へ相達候條此旨可相心得事

教部省伺 第六年十月五日  
本年二百三十五號ヲ以テ社寺境内樹木ノ儀公布有之候處官國幣社ハ當省直管ノ儀ニ付向後於右一社難  
止事情有之伐木願出候節ハ地方官ヨリ一應當省へ伺出候上及處分候様致度仍テ公布案相添此段相伺候  
也  
指令 第六年十月二十二日  
伺之趣第三百五十四號ヲ以テ開拓使府縣へ相達候事  
庶務課議案 第六年十月八日  
教部省上申官國幣社境内樹木伐採ノ儀審議候處既ニ御頒布ノ趣モ有之候へ共官國幣社ノ分是迄御布告  
面ニ相洩居候ニ付伺ノ趣ヲ以テ府縣へ御達相成可然仍テ御達案取調此段相伺候

社寺境内ノ樹木ヲ伐採スルコトヲ禁止ス

官國幣社ヨリ伐木願出  
社寺境内ノ伐木ノ儀ニ付本年七月第二百三十五號布告候所官國幣社ヨリ若シ難止事情有之伐木願出候節  
ハ該廳ニ於テ篤ト取調教部省へ伺出處分可致此旨更ニ相達候事  
大藏省へ達 第六年十月二十二日



電信社ノ用ニ元ル爲メ  
ニ社木ヲ伐採スル者ハ  
内務省ノ許可ヲ受ケル

九年三月熊谷縣上申書ハ  
學政司學校ノ目ニ載ス

内務省伺 七年八月十七日  
靜岡縣下敷河國有渡郡彌勒町安倍川電信路改築ニ付杉九太長七丈五尺末口八寸一本必用ノ處近傍官林  
及私有地ニモ所屬ノ立木無之九子宿地内宇泉谷稻荷社境内樹木ノ内ニ用材可相成分有之趣電信寮出  
張官員ヨリ所轄處ヘ掛合有之然ルニ之ハ現境内社木ノ旨相答候處同寮於テ下方談判ノ上用材ニ買上候  
積宿方ヨリハ右代金ヲ以テ社修繕入費ニ相用度段願出自餘ノ儀ト述ヒ一般便利ノタメ且差向候儀ニ付  
伐採開届候趣申立候右ハ明治六年七月二日第二十三號同八月八日第二十九號公布ノ趣ニ據リ  
大藏省ヨリ海陸軍并工部其他諸省御用材ノ儀ハ人民私用材ノ比ニアラヌ且所需ノ木品モ普通ノ木材ト  
相違何レノ官林ニモ有之ト申譯ニモ無之自然社寺境内ニ生立候樹木必需ノ材ト相違代價ヲ以テ拂渡  
ノ中熊谷縣ヨリ小學校設立ノタメ神社境内ニ上知ノ分并立木トモ拂下ノ儀申立候其外故障モ無之殊  
ニ小學校設立ノ儀ニモ有之候間特別開届且今後右等ノ類及慈惠ノ建設ニ係リ候分ハ其實境ノ可否精細  
查察ノ上開届可申旨相伺候處同九月九日伺ノ通允許相成候就テハ前顯電信線ノ如キ須臾不可開國用材ニ  
差支伐採イタシ候儀ニ付開届可申存候依之此段相伺候也  
附本文御許可ノ上ハ右類似ノ事件將來常省限處分イタシ度此段モ併テ相伺置候也  
指令 七年九月八日

伺ノ通

左院議案八月二十八日

別紙内務省伺靜岡縣下社木伐採ノ儀審考候處電信柱ノ所需用ニ相應ノ良材ナキヲ以テ夫夫示談ノ未該  
境内ニ於テ伐採候ハ實際不得止次第ト存候且向後右類似ノ事體同省限處分イタシ度トノ趣ハ固ヨリ山  
林保存ノ幹理ハ同省ノ主任ニ候ヘハ敢テ疎忽ノ措置有之間敷候ニ付申請ノ通御許可可然ト存候因テ左  
案取調上陳候也  
(備考)

大藏省伺 六年九月十二日

神社境内ノ儀ニ付舊境内者田畑ヲ除之外平地山林共凡テ官有地ニ相定メ伐木拂下等不相成旨第二  
九十一號公布ヲ以御達相成候處海陸軍并工部其他諸省御用材之儀者人民私用材之比ニアラヌ且所需之  
木品モ普通之木材ト相違何レノ官林ニモ有之候ト申譯無之ニ付自然舊境内ニ生立候樹木必需ノ材ト相  
當代價ヲ以拂渡ノ積當省限處分致シ度存候仍テ此段相伺候也  
指令 六年九月二十二日  
伺之趣難開届候事

内務省布達 七年十二月十日  
甲部三十一號府縣

社寺私有ノ境内ニ於テ  
樹木ヲ伐採スル者ハ其  
管轄ノ許可ヲ受ケル

社寺境内樹木之儀ハ昨六年第二十三十五號公布之通可相心得答ニ候得共社寺之私有タル確證有之有稅  
地ニ係候モノ及ヒ其村町之買得候確證有之候有稅地ニ係リ候モノニ限リ無餘儀入用有之伐木致度節ハ  
所有主ヨリ其事故管轄廳ヘ申立事實取札相達ナキニ於テハ可開届候此旨布達候事

内務省伺 七年七月十五日

社寺境内ノ儀多クハ無稅地ニ有之候處中ニハ神官僧侶或ハ村方ヨリ地租收納イタシ來候分モ有之樹木  
伐採取計方ノ儀伺出候向モ有之ニ付致勤考候處地租收納イタシ來候上ハ假令現境内ト相定メ候共私有  
地公有地中ニ可加儀ニ有之然上ハ樹木ノ儀モ其自由ニ任セ相當ノ儀ト存候乍社寺境内樹木ノ儀ハ假  
令其社寺修繕等ニ相用候共擬リニ伐木不相成旨癸酉七月第二十三十五號御布告モ有之候ヘトモ有稅ノ  
分前顯見込ノ通御開届相成候ハ、各府縣區區心得候テハ不都合ニ付右ノ趣當省ヨリ布達可致ト存候依  
之布達案相添此段相伺候也  
指令 七年八月二十八日

伺ノ趣難開届候條掛紙ノ通布達可致候事

布達案

社寺境内ノ儀多分官有公有等ニテ無稅地ニ有之候處中ニハ私有有稅地ニテ其社寺又ハ村町ヨリ從來  
地租收納致來候向モ有之趣右ハ即今現境内ト相定候共地租收納有之上ハ私有地公有地中ニ可加儀ニ  
付樹木ノ儀モ其自由ニ可任候條此旨相達候事  
但私有地ヨリトモ社寺廢立ノ儀ハ政部省ヘ可伺出

掛紙

社寺境内ト雖モ地租相納來候分ハ私有地共有地ノ部類ニ候條樹木ノ儀私用共用ノ爲伐採候儀不苦候  
但無餘儀入用ノ外假ニ伐採不相成儀ハ昨年第二十三十五號布告ノ通ナルハ、事

内務省地理寮ヨリ左院ヘ上申七年八月八日

社寺境内樹木伐採ノ儀云云地理少屬種田邁ヘ御訊問且御談示ノ趣モ有之ニ付猶差審議候處社寺境内ノ  
儀多クハ無稅地ニ候處中ニハ檢地帳ノ而社寺名請ノ分有之或ハ神官僧侶或ハ村町并氏子檀家等名受ノ  
紙第一號ノ通御達相成所有ノ權御定無之官公私有ノ別有稅無稅ノ分無之ニ付租稅寮ニ於テハ從前ノ例  
ノ地ハ舊貫ニ從ヒ賦稅罷在候ヘトモ左候テハ右御布告ニ悖戻イタシ且社寺境内伐木ノ儀ニ付御達ノ節  
別紙第二號ノ通御達相成是又官公私有ノ別有稅無稅ノ分無之候一體官有無稅地ニ候ハ官ニ於テ如何様  
ニ付官ノ便宜ノミヲ謀ル方御設相成候儀筋ニモ有之間敷然ルニ強テ官ニテ束縛ノ方法取設候上ハ有稅  
社寺ノ敷地ハ一切買上方取計官有地中ニ編入シ租稅免除イタシ候外有之間敷ト存候況ヤ社寺ノ儀ハ混  
淆最甚シク舊幕ノ節ハ寺社奉行ノ一職ヲ置候位ニ有之此砌明瞭區分不致候テハ土地ノ所有ハ勿論定議

社寺門 神社一







百三十五號公布ハ其地ヘ生立候樹木處分ノ備區別無之候間以七月十五日附相候儀ニ有之然レニ今般御附箋本文地租納來候分云トノミ有之私有ノ文字無之候一體土地ノ所有ハ稅ノ有無ニ不關儀ニテ私

有地ト有稅地トハ似テ而シテ相異リ候儀ニ有之候間右邊書ニ私有ノ二字相存シ申度且社寺私有地ト村

町私有地トノ分無之テハ後來不都合ノ儀相生シ申問敷ニモ無之旁以別紙ノ通相違申度此段更ニ相候儀

也 指令七年十一月十九日

左院議案七年十一月十四日

別紙內務省何社寺境內伐木ノ儀ニ付本年七月御指令相成候處右境內地ニハ間官有ノ稅地社寺境內ノ無

寺ヲ遺立セルモ其社寺區ノ植立候樹木ハ人民ノ自居地ニ伐採ヲ不許ノ類モ有之ニ付自然官私地混雜ヲ生シ

候認レモ可有之由テハ更ニ別紙ノ通相違度趣審査候處別ニ差支モ無之ニ付上請通御聽許相成可然存候

依テ御指令案左ニ上申候也

內務省達 乙第七十五號府縣

社寺現境外上地相成候山林ハ外官林同様可相心得現境內ニ屬シ上地不相成場所ハ太政官昨六年二百二

十五號同二百九十一號公布之通可相心得處萬一舊社人僧侶之族心得違ニテ樹木伐採致シ刑典ニ罹リ候

モノ有之候テハ不都合ニ候條各地方於テ厚注意可致此旨相違候事

司法省布達節錄 第七年十二月二十日 各府縣(全文ハ刑法門刑)

官林及ヒ社寺境內ノ官有ニ係ル竹木ヲ擅伐シテ民費ニ係ル橋梁及ヒ社寺修繕等ニ用フル者ハ違令輕重

ニ問ヒテ代價ヲ追徵ス

(備考)

長野縣ヨリ內務省ヘ何十二年五月二十日

社寺境內ノ樹木ハ私有ノ確證アル有稅地ニ係リ候者ニ限り無餘儀入用有之伐木致度節ハ其事故管轄處

ヘ申立事實無相違ニ於テハ可開屆旨七年御省甲第三十一號御布達ノ旨モ有之處同年司法省第三十號達

ノ趣ニテハ社寺境內官有ニ係ル竹木ヲ擅伐ノ者違令輕重ニ問テ處斷シ境內民有ニ係ル者ハ措テ問ハサ

ル者ト被認候右司法省達ノ旨趣ハ處刑ノ有無ニ止リ伐採ノ儀ハ官有民有共津テ地方廳ヘ爲申立候上聞

屆候儀ト相心得可然裁至急御指揮相成度此旨相候也

內務省指令十二年五月二十七日

式內并ニ國史所載社

寺ノ境內ニ於テ伐木スル

者ハ教部省ノ許可ヲ受

シム

十年一月內務省丁第一號

ヲ以テ教部省ニ依リ社

寺及官國幣社ノ願何ハ內

務省ヘ進達セシム社寺指

區ノ目ニ載ス

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一

社寺門 神社一



教部省再伺八年十一月二十八日  
 延喜式内并國史現在神社境内伐木代價ヲ以修繕ノ儀十月二十五日附相伺候處御開届難相成旨去ル十五  
 日御指令有之候處右伐木他ノ費却ノ儀ハ往往弊害ヲ可生ニ難量ニ付堅差止可申候ヘ共現材ヲ以テ社頭  
 ノ營繕ニ相用度旨ヲ以枯木頗木或ハ樹林稠密ニテ風景ヲ不損儀伐採ノ儀地方官逐調査願出候ハ、其都  
 度内務省ヘ照會ノ上開届申度候條今一應厚御詮議有之度此段更ニ相伺候也  
 追テ最前相伺候通神宮并官國幣社ハ定額金有之候ニ付伐木代價上納爲致候共可然存候此段申上添候也  
 指令八年十二月十二日

但退書ノ儀ハ上申ノ通上納候儀ト可相心得事  
 第二科議案八年十二月二日  
 別紙教部省再伺神社伐木ノ儀右ノ最前伺出候節ハ神社境内ノ樹木伐採賣却シ右代價ヲ以テ修繕費ニ相  
 充テ度トノ趣ニ付御開届不相成儀ニ有之候ヘ共現在相用候儀ハ不都合無之ト存候條左ノ通指令相成可  
 然哉相伺候也

教部省伺八年十月二十五日  
 延喜式内并國史見在神社之儀ニ付テハ昨年四月中神名帳編纂本年三月社地境界并同五月境内伐木之儀  
 等夫夫伺之通御指令有之候得共中古衰頽之神社ニ至テハ修繕之目途不相立隨テ保存之道ヲ失ヒ候向モ  
 不少候ヨリ中ニハ境内樹木稠密之趣ニテ景況ヲ不損儀又ハ風入之爲メ致伐木右代價ヲ以テ修繕相加度  
 旨願出候向追進有之候處右様之分開届不申候ヲハ遂ニ保存之廉難相立候條其時内務省ヘ照會之上開  
 届申度存候尤神宮并官國幣社ハ定額金有之事ニ付此分伐木代價ハ上納爲致可然存候仍テ別紙石川縣伺  
 書相添此段相伺候也  
 指令八年十一月十五日

伺之趣難開届候事  
 但石川縣申時之趣ハ本年五月其省伺書ヘ指令但書之通可相心得事  
 石川縣ヨリ教部省ヘ伺八年九月二十四日  
 當縣下延喜式内社之儀ハ即今伺中ニ候ヘ共加賀國第一區石川郡笠間村笠間神社者雖乎タル式社ニテ郷  
 社ニモ相立居候處境内支道東西兩入口ヘ從來鳥居無之ニ付今度氏子協議之上鳥居新築致シ度就テハ境  
 内樹木ノ内杉木四本爲用材伐採致シ度旨別紙之通願出候ニ付爲逐檢査候處樹木繁殖之社地ニテ右立木  
 伐採候共致テ風致ニ關係不致候間開届不苦候哉別紙并繪圖相添此段相伺申候以上

笠間神社氏子總代并神官掌ヨリ石川縣ヘ願八年八月二十二日  
 一杉 日通り二尺一寸計 二本  
 一杉 日通り一尺六寸五分計 二本  
 右笠間神社社地東西ヘ鳥居建築用トシテ社木之内四本社頭ヘ御下渡伐木許可相成候條奉願候以上  
 地理寮ヨリ史官ヘ回答八年十一月四日

神社境内伐木代金ノ  
 處分方定ム

大藏省ヘ達 九年三月二十五日  
 別紙内務省伺神社境内立木伐採ノ儀朱書ノ通及指令候條此旨爲心得相達候事

内務省伺九年二月二十七日  
 工部省所轄長崎製作所在來マストボツク一昨七年風災ノ節及破損新規可取立處右材幹多方逐搜索候ヘ  
 共通宜ノ真木無之折柄長崎縣下松浦郡志岐村志岐社境内ニ於テ適當ノ松立木二本ハ長十八間  
 八尺三寸計有之候ニ付相當代價ヲ以テ買取度旨同省ヨリ掛合有之依テ其社格并故障有無等該縣ヘ及  
 諮訊候處右ノ延喜式内國史見在ノ神社ニ候ヘ共公用木伐採候トテ社景ノ風致ヲ損害セサル旨申出則教  
 部省ヘ及照會候處同省ニ於テモ異存無之ニ付相當代價ヲ以テ工部省ヘ賣渡右代金ハ該社修繕費ニ爲充候  
 ナ可然哉尤向後右等ノ如キ國家必要ノ木材外場所ニ於テ難得無餘儀神社境内ニ於テ伐採ノ儀其都度  
 經伺取計候テハ時日遷延差支不少候間官國幣社及延喜式内國史見在神社ノ分ハ六年第三百五十四號及  
 八年第七號御達ニ照準教部省ヘ照會ノ上處分ヲ其他ノ分ハ當省限リ取計候條致度此段併テ相伺候至  
 急御指揮有之度候也  
 指令九年三月十五日

伺ノ趣開届候事  
 但官國幣社境内ノ樹木伐採賣却候節ハ共代金社別ニ年度ヲ區分シ大藏省ヘ通知可致事  
 第二科議案九年三月十日  
 別紙内務省伺神社境内立木伐採ノ儀ハ右ノ伐採候樹木ノ代價直チニ該社修繕費ニ充用候儀大藏省ヘ一  
 應及照會候處別格回答ノ趣モ有之候間左ノ通御指令相成可然哉此段相伺候也

大藏省回答九年三月五日  
 内務省伺神社境内立木伐採ノ儀ニ付御照會ノ趣致承知候右ノ内延喜式内神社其他ノ分ハ御意見ノ通ニ  
 ナ異存無之候ヘ共官國幣社境内ノ分伐採ノ節該代金營繕費ニ充用候儀ハ府縣營繕費ニ關係有之候間賣  
 拂代金ハ社別ニ年度ヲ區分シ當省ヘ通知候條御指令相成度則別紙返進此段及御回答候也



官國幣社境内ノ立枯風  
損木ノ處分ヲ定ム

大藏省へ達 九年四月十三日  
別紙内務省伺官國幣社境内損木代金ノ儀朱書ノ通及指令候條此旨相達候事

内務省伺 九年四月四日

官國幣社ノ儀ハ官費修繕ニ付境内樹木立枯損木ノ代金ハ是迄大藏省へ上納致來候處境内へ樹木植付度  
旨申出ノ向ニ有之損木代金官納仕來候上ハ右植付費モ官ヨリ支給可致等ニ相當リ且又致部省ヨリ掛合  
ノ趣モ有之ニ付已來ハ境内損木代金ハ其社へ付與シ新規植付費ニ爲充不足ハ社入金ヲ以テ爲補候ハ  
便利ノ儀ト存候依テ大藏省へモ及照會候處異存無之旨回答有之候間以來右ノ趣旨ヲ以テ處分可致存候  
此段相候儀也  
指令九年四月十三日

第二科議案 九年四月六日

別紙内務省伺官國幣社境内損木代金ノ儀右ハ其社へ付與シ植付費ニ爲充候得ハ便利筋ト相見ニ且大藏  
省於テモ異議無之趣ニ付御聞届相成可然誠仍テ御指令及御達案取調此段候儀也

三重縣ヨリ内務省へ伺 十年四月九日

管下村官有地鄉村社以下ノ境内外樹木繁茂耕地ノ障得ヲオシ難避ノ趣ヲ以テ枝葉伐採出願ノ分ハ遂  
検査全ク障得ヲナレ且枝葉ノ伐採ニ止リ風致ニ關セサルモノハ縣限開届度

内務省指令 十年四月二十四日

社地境内外ノ風致ニ關セサルモノニテ全ク耕地ノ界線内ヲ侵ス枝葉ノ部分ニ限リ伐採ヲ許ス

社寺境内ノ伐木權等  
地方官限リ處分スル者  
ト主務省ニ照申サレ  
者ノ區別ヲ定ム

山梨縣ヨリ内務省へ伺 九年六月二十九日

社寺境内伐木ノ儀ハ明治六年第二百三十五號公布ノ趣モ有之ニ付右心得方同年租稅察日報第四十三號  
足柄縣伺指令并昨八年内務省日誌第四十二號和歌山縣指令等ニ據リ其社寺營繕ノ爲メ伐木正用品ヲ用  
ル分ハ事實相違無之ニ於テハ當縣限リ開届且立枯風損等有之節ハ入札ヲ以テ拂下代價ハ祠官住職或ハ  
適宜ニヨリ區戸長等へ預置後來其社寺營繕ノ節費用ニ充サスル積取計來タル處本年御兩省教部第十二號  
ヲ以テ達セラレタル諸伺届兩省宛可差出條件中第六條ニ一般社寺境内伐木種樹伺ノ事ト有之右縣限開  
届クル者ト兩省へ伺出モノト區別ハ如何相心得可然誠

内務省指令 十年十月二十六日

無稅地社寺伐木ノ儀ハ伺出ツヘシ尤枯損木ハ其縣限リ伐採入札拂ニ取計ヒ賣拂代價ハ官國幣社ハ苗木

植繼費ニ相充サセ其他社寺ノ分ハ修繕等ノ爲メ正用品又ハ代價付與致シ置追テ取繼メ可届出尤有稅地社  
寺伐木ノ儀ハ七年當省甲第三十一號布達ニ照準取計フヘシ

○租稅察改正局日報 明治六年  
八月二十四日 第四十三號

足柄縣伺 大意

本月二日第二百三十五號ヲ以テ社寺境内ノ樹木ハ假令其社寺修繕等ニ相用候共根ニ伐木不相成候若難止  
事情有之節ハ其地方應へ願出許可ヲ受旨御布告有之候ニ付以來ノ心得方左ニ相候旨  
一社寺境内樹木社堂修繕ノ爲メ伐木則正用品相用或ハ賣拂代金相用ヒ度段願出候節官員又ハ戸長副等ノ  
一内檢査情實無相違外故障モ不相聞上ハ縣限開届不苦候哉  
一同斷ノ内立枯風折木等有之届出候節同様に相心得裁尤差向社堂入用無之候ハハ神官又ハ住僧其所  
一戸長副爲立會最寄入札觸ノ上賣拂落札人ヨリ代金銷取神官又ハ住僧并其所ノ戸長ハ其儘相預リ置追  
テ修繕ノ節入費ニ爲充可然誠  
一同斷ノ内社堂ニ接近空入等モ相見萬一風折根返相成候節ハ社堂大破ハ勿論其次第ニ寄人命ニモ拘候  
由ヲ以伐木則修繕ニ相用ヒ度段願出候節ハ初箇條同様相心得尤差向社堂入用無之候ハハ二箇條目同  
様ノ處分ニテ可然誠  
一右廉廉出願ノ節其木品ニ寄自然造船等ノ御用ニモ可相立見込ノ分ハ巨細取調其見込ノ趣上申可仕  
哉

右ノ通兼テ處分振御指令被下度旨

右指令  
書面初箇條樹木伐採全ク社寺修繕用ニ充候儀情實無相違候ハ、木數寸間等詳細取調其縣限開届置不苦  
候尤樹木賣拂代金相用候儀ハ難開届候事  
但境内社堂ノ風致損敗不致様注意可致候事  
二箇條以下申立ノ通可相心得事

内務省日誌 第四十二號

和歌山縣ヨリ内務省へ伺 八年六月二十日

官國幣社境内伐木ノ儀ハ明治六年十月太政官第三百五十四號公達ノ趣モ有之候處立枯風折根覆リ倒レ  
木等ノ分御供米焚木ニ御下ノ儀願出候節ハ實地檢査相違無之候ハ、縣限リ開届下渡可然又ハ兼テ經  
費定額モ有之儀ニ付木品入札拂ノ上外官林倒木同様代價上納可致ハ縣鄉村社以下并寺院有稅ノ境内樹  
木伐採ノ儀ハ昨七年十二月御省甲第三十一號御布達ノ旨モ有之就テハ無稅ノ社寺修繕ノ爲メ其境内ニ  
テ樹木伐採正用品相用度段願出候節ハ事實取調修繕ニ托シ濫伐等ノ弊無之分ハ明治六年租稅察日報第四  
十三號足柄縣伺御指令ニ照シ縣限リ開届可然又相候儀也  
内務省指令 八年八月三十日



書面官國幣社境内立枯損木風折根返ノ類ハ外官林損木同様汎入札拂ノ上本年當省乙第十八號達ニ照準  
代金上納可致且無稅社寺境内ノ樹木其社寺堂宇修繕ノ爲メ伐採正品相用候儀ハ事實篤ト取糺於無相違  
テハ縣限開屆迄テ可届出儀ト可相心得事  
内務省日誌第八號

栃木縣ヨリ内務省ヘ伺九年一月二十九日

社寺境内ノ樹木ハ明治六年第二百三十五號同三百五十四號公布ノ趣モ有之候處其村町買得ノ確證有  
之有稅地ニ係リ候者ニ限リ無餘儀入用ニテ伐木致度段願出候節ハ事實取糾ノ上可開屆旨明治七年御省  
甲第三十一號ヲ以御達相成然ルニ明治六年租稅寮改正局日報第四十三號足柄縣御指令ニ樹木伐採全  
ク社寺ノ修繕用ニ充候儀情實無相違候ハ、木數寸間等詳細取調其縣限開屆不苦尤樹木賣拂代金相用候  
儀ハ難開屆云ト有之右ハ有稅地無稅地ニ不拘一般社寺樹木取扱心得方ト被存候得共前件甲第三十一  
號御達ノ次第モ有之候ニ付心得方左ニ候  
第一條 官國幣社及國史見在ノ社頭ハ兼テ公布モ有之候得共縣郷社ノ儀モ無稅地ノ分ハ其時時伺ノ上  
取計可然哉  
第二條 村社以下小社ハ有稅無稅ヲ問ハス共事實相違ナキ上ハ縣限開屆不苦哉  
第三條 寺院ノ儀モ末寺坊跡等ノ小寺院ノ分ハ前同様取計可然哉  
内務省指令九年二月十日  
書面第一二條官國幣社國史見在ノ社頭ヲ除ノ外縣社郷社ヲリトモ境内ノ樹木不得已伐採願出候節ハ  
第二百三十五號公布ニ照準縣限取計可申去他用ニ供シ候ハ勿論樹木賣拂右代金ヲ以社頭修繕用等ニ  
充候儀ハ不相成且有稅地ノ分ハ甲第三十一號達ノ通納稅者ニ於テ餘儀ナキ入用有之伐木願出候節ハ  
許可候テ不苦儀ト可相心得事  
第三條本寺末寺ノ論ナク第二百三十五號公布ニ照準縣限可取計事

社寺ノ資金ヲ以テ裁種  
キシ樹木處分方ヲ定ム

内務省伺十年十二月七日  
社寺上地朱黒印地除地ノ内社寺費又ハ舊神官僧侶自費ヲ以テ裁種セシ樹木下渡ノ儀ニ付伺出ノ向モ不  
也候處案スルニ舊神官僧侶自費植付ニ係ルモノハ勿論下渡可申筋ニ候ハ其該社寺資金ヲ以テ裁種セシ  
分ハ則舊藩藩於テ其領内ノ森林ヲ裁種培養セシト同一ニテ營ヘハ其裁種培養ニ費資金ヲ以テ裁種セシ  
ヨリ舊領主ノ私費ニテアラズシテ一藩ノ公費ニ屬ス共一藩ノ公費ニ係ルモノハ舊領主ノ得テ私スヘキ金ハ  
ラス故ニ社寺領地ニ係ル分モ上地後ハ一般官林ノ名稱ヲ以保存相成候モ當然有之今ヤ大小多寡ノ別  
アリト雖モ社寺ノ境内ヲ區畫シ又ハ遞減祿ヲ付與スルハ舊藩主祿高十分一ヲ下賜スルト差異無之然ラ  
ハ大小多寡ノ別ヲ以テ處分異ニスルハ條理上甚妥當ヲ失ヒタル儀ニテ之ヲ爲メ往弊害ヲ生シ候  
ハシモ難計且ツ此端一々星霜ノ経歴シ製體其他必需ノ良材ハ他林ニ得カダキモノ有之就テハ其社人僧  
侶ノ全ク私金ニ出ルルモノハ格別該社寺ノ公費ヲ以植立シモノハ都テ下付致サ、ル儀ト相心得可然哉右

伺之通

ハ方今申出ノ向モ有之ニ付至急御裁可有之度此段相伺候也  
指令 十年十二月二十五日

調査局議案十年十二月十七日  
別紙内務省伺社寺ノ資金ヲ以裁種セシ樹木處分方ノ儀審案候處社人僧侶ノ私金ニ出ルモノヲ除クノ外  
該社寺ノ公費ヲ以裁種セシ分ハ舊藩山林ノ處分ニ引當テ候ハ允當ナラサル哉ニ候ハ其抑社寺領上地ハ  
庚午年間ノ事ニシテ其地ニアル立木ニ付云云ノ次第アレハ其節可申立處既ニ數年ヲ經過シ今日ニ至申  
出候ハ甚不都合ノ儀ニ有之若社寺ノ請願ニ依リ一ト度下付セラルハアラフヘカラサル弊害ヲ引起  
スヘキモ難計候間該省伺ノ通御允裁相成可然哉御指令案ヲ附シ相伺候也

長野縣ヨリ内務省ヘ伺十年十二月十三日  
電氣線架設之際社寺境内之立木障碍ニ屬スル時ハ府縣事務章程下款第四十六條ニ照シ直チニ伐採シ其  
木材ハ公之入票拂ニ附シ代價上納可然哉又ハ明治六年太政官第二百三十五號公布ニ準據差向修繕需用  
之目的無之トモ將來ノ修繕用ニ供スル爲メ該社寺ヘ備置可然哉此旨相伺申候方今差掛候儀モ有之候條  
至急御指令有之度候也

内務省指令十一年一月十八日

書面電線障碍木ハ其縣ニ於テ伐採取計木材ハ該社寺ヘ下付シ苗木植付費ニ充用セシムヘシ尤官國幣社  
ヲ除ノ外ハ修繕費ニ相充候共不苦候事  
但伐採候ハ、追テ可届出事

地理局ヨリ社寺局ヘ照會十一年一月十五日  
本職汎ク社寺境内ト有之上ハ官國幣社之分モ自ラ相範リ居候様相見候ニ付御指令文中左之通御取直シ  
相成候而ハ如何尙御再考ヲ乞フ  
、、、、、木材ハ該社寺ヘ下付シ苗木植付費ニ充用セシムヘシ尤官國幣社ヲ除ノ外ハ修繕費ニ相  
充候共不苦候事  
社寺局ヨリ地理局ヘ回答十一年一月十五日  
御意見之趣御同意ニ付則指令文取直シ更ニ御廻シ及候也

島根縣ヨリ内務省ヘ伺十年九月二十八日  
社寺境内樹木伐採ノ儀ハ明治六年太政官第二百三十五號公布及御省同七年甲第三十一號ヲ以テ布達有

范信縣政ノ際社寺境  
内ニ於テ伐採セル際皆  
水ハ該社寺ニ付ス

官國幣社以下境内伐木  
ノ處分手續ヲ定ム



之其後各縣御指令ノ趣日誌上往往散見罷在候處追追地種官民有ノ區別相立候ニ付テハ尙以來處分心得方左ニ相伺候

一官國幣社境内樹木立枯根覆等出來其旨神官區戶長等ヨリ届出候ハ、外官林損木同様地方應限リ況ク入札拂取計代金ハ大藏省出納局へ上納可致哉尤該社修繕ニ際シ難止事情有之生木伐採願出候節ハ明治六年太政官第三百五十四號御達ニ據リ處分方御省へ相伺候

一縣郷社境内樹木立枯根覆等出來其旨神官區戶長等ヨリ届出候ハ、外官林損木同様地方應限リ況ク入札拂取計代金ハ大藏省出納局へ上納可致哉尤該社修繕ニ際シ難止事情有之生木伐採願出候節ハ明治六年太政官第三百五十四號御達ニ據リ處分方御省へ相伺候

書面ノ趣左之通可相心得事

第一條 官國幣社枯損木入札拂ノ儀ハ其縣限リ處分及ヒ追テ可届出尤代價大藏省へ上納ニ不及苗木植

第二條 生木伐採ハ九年元教部省第十二號當省連署ノ達書ニ準シ其都度伺出ヘシ枯損木ハ其縣限リ聞

第三條 其都度伺出ヘシ

但地主ノ迷惑無之様注意スヘシ  
社寺地理兩局議案十一年三月二十六日  
右書面第三條ハ是迄類例無之候得共七年甲第三十一號及九年元教部省第十二號達書ノ趣ニテハ爲伺出候方

宜有ノ社寺境内ノ樹木  
止ムラ得サル事故アリ  
テ伐採ヲ願フ者ハ何チ  
テ伐採分セシメ立枯損  
損木ハ地方官ニ委シテ  
處分セシム

鹿兒島縣ヨリ内務省へ伺十一年三月二十二日  
社寺境内伐木之儀ニ付テハ御省七年甲第三十一號御達之通社寺或ハ其村町ノ私有タル確證有之有稅地  
ニ限リ無餘儀致伐採度節ハ所有主ヨリ願出管轄廳ニ於テハ事實取調之上相違無之節ハ可届候儀ニ候處  
官有地ニ有之社寺ニシテ若シ無餘儀事故有之伐採願出候節ハ相當代價取納之上届候可然儀ニ候哉將  
府縣社以下之神社或ハ寺院ニシテ官有地ニ有之モノハ悉皆不届候儀ニ候哉掛リ人民ヨリ願出候者有  
之ニ付至急御指揮相成度此段相伺候也  
但官有地ニ有之社寺境内ノ枯損木等社堂修繕用ニ供スル分ハ無代價拂下修繕用ニ供セサルモノハ  
入札拂ノ上修繕資本ノ爲代金其社寺へ預ケ置キ可然儀此段添テ相伺候也  
内務省指令 十一年五月六日

書面官有地社寺境内伐木願出候ハ、事實詳細取糺其都度當省へ可伺出尤枯損木之儀ハ其縣限リ聞届修繕用ニ供スルモノハ無代價下渡供セサルモノハ入札拂ノ上代金下渡苗木植付費ニ爲相充候儀ト可心得事

但枯損木剪伐聞届候ハ、追テ可届出事

愛知縣ヨリ内務省へ伺十二年八月二十一日  
一社寺境内伐木之儀明治六年第二百三十五號同第三百五十四號同八百七十七號公布同七年御省甲第三十一號御達之趣有之然ルニ同九年一月栃木縣御指令ニ神社ハ官國幣社國史在ノ神社ヲ除之外寺院ハ本寺末寺ノ論ナク不得止伐採願出候節ハ六年第二百三十五號公布ニ照準照限取計可申云云ト有之候處本年御省乙第三十三號ヲ以テ御達相成候社寺官有地境内木竹伐採員數表取調方心得書ニ據レハ右御指令之趣ハ自然消滅縣社以下ノ神社及寺院境内トモ官有地之分ハ障礙枯損木ヲ除之外渾テ經伺儀ハ渾テ該社寺へ附與修繕又ハ苗木植付費ニ爲相充可然儀  
一延喜式内神社之内民有地境内之分モ有之候處右ハ障礙枯損木ニ限ラス明治七年御省甲第三十一號ニ照準處分取計可然儀  
右二箇條相伺候條至急御指令有之度候也  
内務省指令十二年九月四日  
書面之趣總テ伺之通取計不苦候事

大阪府ヨリ内務省へ伺十一年十月三日  
當府管内官社以下境内へ敷費豫備金ノ爲メ桐苗木培養ノ儀神道事務分局長戸田玄成外五名ヨリ別紙ノ通

神社境内除稅地ノ分ハ  
桐苗木栽培スルヲ許サ  
ズ



出願候付開届可然書面相副此段相伺候也

内務省指令 十一年十一月八日

書面ノ趣官國幣社ハ勿論縣社以下ト雖モ除稅地ノ分ハ難關届其他有稅地ノ分ハ該社神官氏子及信徒等協議願出候ハ、開届不苦候事

(別紙)

神道事務局局長戸田玄成外五名ヨリ大阪府へ願去ル明治五年秋郡省ヲ置レ全國神官僧侶ヲ敬導職ニ被補布教ノ御發令以降神官一同奮勵總シテ其職ヲ盡スモ其數費ノ如キ社入ノ幾分ヲ割キ銘銘配當ノ額ヲ減シ加之創業ノ際タルヲ以テ教會ノ設ヲナスヤ必ス多少ノ出財ヲシテ夙夜勤勞スルモ人民ニ於テハ只茫乎トシテ來聽スルノミ實ニ全國教會ノ備ヲサル皆然リ此於テ往任其出費ノ策ヲ論スル人アリト雖モ亦拙策ノ實ヲ免ル、ヲ得ス方今立テ全更ノ備法ヲ設ケテ此ヲ維持シテ以テ國教ノ策ヲ論スル人アリト雖モ亦拙策ノ實ヲ免ル、ヲ得ス方今立テ全更ノ備七百有餘社ノ内市中并狹少ノ境內ヲ除ク外祭祀且參詣ノ往返等妨害セサル境地ヲ撰桐苗三萬株以上ヲ培發シテ三箇年或ハ五箇年目ヨリ毎年三分ノ一宛是ヲ伐木シ賣拂代價ノ内半額ヲ以テ分局費用豫備金ニ供シ其半額ヲ以テ該社ニ附與シ其最寄支局并社頭ノ敬導費ニ供ス尤神官ノ私利スヘカヲサレ爲メ各支局長副是ヲ監督シ其基礎ヲ確立セハ後來布教盛大ヲナシ傍ヲ國產繁殖ノ一端ヲ起シ聊愛國ノ微衷ヲ示ト職中協辭懇厚ノ志情難默止則別紙法方概略書ヲ附シ以テ諸願ス宜ク前件ノ旨趣ヲ洞察セラレ速ニ許可ヲ賜ハラン事ヲ伏テ庶幾スル處也

法方概略

一府下官社以下雜社ヲ合テ凡七百有餘社ノ内市中并狹少ノ場所ヲ除ク外境內中ニ於テ祭祀且參詣ノ往來ヲ妨ケサル境界等ノ地ヲトシ桐苗三萬株以上ヲ培植シ向フ三年或ハ五箇年目ヨリ毎年三分ノ一宛是ヲ伐木シ此賣拂代價ノ内半額ヲ以テ分局費用豫備金方法ニ供シ殘半額ヲ以テ其地方支局并該社敬導費ニ附與ス尤神官ノ私利ス可カラサルヲ待ス關係支局長副是ヲ監督ス  
一桐苗一株代價凡一錢宛ノ見込此金額三百圓各神官并有志輩ノ寄贈ヲ催スト雖總テハ分局費トス  
一三箇年目ヨリ凡一萬本宛伐木ノ代價平均一本十錢ト相見込此代金千圓ノ内半額ヲ該地ニ附與ス  
一分局ヨリ桐苗幾株ヲ培植セハ該社神官或ハ受持ノ者是ヲ監督シ總テハ分局費トス  
セハ其社頭受持ノ者必ス代木ヲ植付可シ若徒ラニ差置ハ伐木ノ際該社附與ノ金額ヲ以テ減ス可シ右各社神官兼テ盟約ス  
社寺地理兩局議案十一年十月十五日  
官社境內へ生植ノ樹木ハ之ヲ伐採シテ該社中官費ニ立テサル箇所ノ營繕用ニ充テヘレ民祭社ト雖モ除地ノ分ハ是亦其社ノ修繕費等ニ充用スヘシ獨有稅地ニ在ルモノハ人民ノ協議ニ任スヘケレハ受持神官及氏子信徒ノ協議情願ニ聽クヘキナリ

神社境內ノ神木皮ヲ剝取ルコトヲ許ス

岐阜縣ヨリ内務省へ再伺十一年十二月七日

美濃國加茂郡上峰屋村  
村社加茂神社境內官有地

立木五百七十三本ノ内  
一 檢木百八十七本 目通一尺徑ヨリ 此木數上ハ皮剝取  
右ハ該社本殿修繕ノ爲メ前書木數檢皮剝取願ノ儀本年十月十五日相伺候處同十一月十四日附ヲ以書面檢皮剝取ノ儀ハ難關届旨御指令相成奉敬承候然ルニ前加茂神社ハ本殿方一丈四尺有之右屋根檢皮剝取ノ處從前修繕ノ節ハ境內檢木上ハ皮ヲ以テ其葺用品ニ相宛候儀ニ有之尤右檢皮剝取方ハ該木ノ上ハ皮一片ヲ去候而已ニテ毫モ生木ニ損害無之却而生木ノ爲ニ宜敷實際上下全ノ趣ニ相聞依テ當社ニ限ラス該件ノ如キハ舊來當國諸神社於テ專取計候儀ニ有之既ニ昨十年四月九日管下各務郡岩田村社式內伊波乃西神社境內檢皮剝取等ノ件御省へ相伺候處御取調ノ上同年七月十一日右御開届相成候儀モ有之候間宜御諒評ノ上相願ノ趣御允許相成候様致度此段再相伺候至急御指揮被下度候也

内務省指令 十一年十二月十七日

書面上皮剝取ノ儀ハ伺ノ通

但生木ヲ損害セサル様篤ト注意致サスヘシ

社寺地理兩局議案十一年十二月十一日

官有地神社境內檢皮剝取之儀再伺  
右審案候處情實尤ニ相聞候間最初立案ノ通御聽許相成可然哉

岐阜縣ヨリ内務省へ伺十一年十月十五日

村社加茂神社境內官有地  
一 檢立木五百七十三本

檢木百八十七本 但目通一尺徑ヨリ

右ハ管管下美濃國加茂郡上峰屋村村社加茂神社殿屋根修繕ノ爲右境內檢皮剝取度旨願出候付取調候處事實相違無之且該木生長ノ爲ニモ宜敷趣ニ付願ノ通開届候様致度相伺候條御指揮被降度候也

内務省指令

社寺局議案十一年十月十九日

神社境內檢皮剝取ノ儀

右ハ從前許可セサル例規ニ有之候處實際許可スルモ障害アルニアラズ却テ生木ノ媒介ヲ爲シ且ツ該皮ヲ屋根修繕等ニ相用候上ハ伐木シテ該用ニ供スルモ同理ニ付御聽許相成可然左ニ御指令案相伺候也



地理局ヨリ社寺局へ照會十一月二十一日  
 該木生長ノ爲云トノ申立ニハ候得共右ハ大ニ樹木ノ生成ヲ妨ケ大ニ嫌忌スヘキ儀ニ有之瑣少ノ樹皮  
 ヲ利センカ爲多數ノ立木ヲ損傷スルハ其風致ニモ相關シ伐木修繕用ニ供スルト同一視シカタキ儀ニハ  
 有之間敷哉一應乞高考  
 社寺局ヨリ地理局へ協議十一月十一日  
 御附箋ノ旨モ有之ニ付猶再考候處檢木ニ限リ皮ヲ剝取候儀ハ甚ク成長力ヲ助ケ大ヒニ可然儀ニ有之候  
 得共其剝取リ方ニ因リ却ツテ損傷ヲ來サスト往有之ヨリ寧ロ許可セサル方ヲ以テ内規ト相定メ候  
 儀ニ付其内規ヲ踏ミ許可セサルモ可然併現在之ヲ許可セサルトキハ該社修繕ニ差支ヲ生シ候儀ニ付  
 境内ノ風致ヲ害セサル部分ヲ伐採シテ該費用ニ充テシメ度存候ニ付議案更正御協議ニオヒ候也  
 内務省指令十一月十四日  
 書面檢皮剝取ノ儀ハ難聞届尤境内ノ風致ヲ害セサル部分ヲ伐採シテ該社修繕ニ相充候儀ハ不苦候條取  
 調更ニ可伺出申

神社境内ニ木苗ヲ植栽  
 スルハ其社費ヲ以テ支  
 辨セシム

静岡縣ヨリ内務省へ上申十二月五日九日  
 管下遠江國國幣小社小國神社境内風雨水火等非常ニ依リ水種植込費支辨方ノ儀ニ付該社宮司代理禰宜  
 小國重友ヨリ別紙ノ通伺書差出候間則及進達候也  
 内務省指令十二月三十一日

書面後半伺之通

但著手ノ節ハ更ニ可伺出儀ト心得ヘシ

(別紙)

一社現境内風雨水火等非常ニ依テ水種植込ノ儀相願候節ハ官費ヲ以テ別途御支給相成候御事柄ニ候哉  
 社費ニテ支辨仕候儀ト相心得可然哉此段相伺候也  
 小國神社宮司安食助宣中教院詰ニ付

明治十二年五月五日

内務卿伊藤博文殿

代理 禰宜 小國重友

兵衛三郎ノ社殿新築ノ  
 爲メ境内ノ樹木ヲ賣却  
 シ北費ニ充ルノ請ヲ許  
 ス

鹿兒島縣ヨリ内務省へ伺十二年六月四日  
 社寺境内樹木ノ儀ニ付テハ明治六年第二百三十五號同三百五十四號公布ノ趣モ有之然ルニ神社境内樹  
 木伐採ノ儀ニ付柄木縣ヨリ相伺候趣モ有之候處官國幣社國史見在ノ神社ヲ除クノ外縣社郷村社ヨリト

九年内務省日野第八號ハ  
 九年二月十日柄木縣へ指  
 令ヲ指ス上ニ載ス

モ境内ノ樹木不得止伐採願出候節ハ第二百三十五號公布ニ照準照限取計可申去他用ニ供シ候ハ勿論  
 有之然ルニ當縣下ノ儀ニ付テハ社頭修繕等ニ充テ候儀ハ不相成云云御指令ノ趣明治九年御省日誌第八號ニ掲載  
 職金難致ヲ以テ境内樹木ヲ賣却右代金ヲ以テ建築費用ヲ補ヒ度旨出願ノモノ有之爲メ熟考スルニ兵衛  
 後日尙淺ク漸ク各自生活致シ居職金ノミヲ以テ社宇建築難致ハ勿論ニシテ願ノ趣無餘儀相聞候間官國  
 幣社國史見在ノ神社ヲ除クノ外社寺堂宇建築ニ限リ境内樹木ヲ賣却其費用ヲ補ヒ候ハ相聞不苦候乎至急  
 何分ノ御指揮有之度此段相伺候也  
 内務省指令十二年六月二十七日

書面伺ノ通

但官有地ニ係ル社寺境内伐木ハ其都度當省へ伺出處分候儀ト心得ヘシ

内務省達節錄十二年六月三十日(全文及表面ハ神社)  
 社寺官有地境内木竹伐採員數表取調方心得

- 一 造修伐トハ社殿堂宇ヲ造營修繕スル爲メ内務省ノ許可ヲ經テ伐採スルモノナ云フ
  - 一 障礙伐トハ電線ヲ犯シ道路ヲ妨ケル等ニ因リ伐採スルナ云フ
  - 一 枯損伐トハ朽枯風損等ニ因リ伐採スルナ云フ
  - 一 盜私伐トハ其筋ノ許可ヲ經スシテ擅伐スルモノ若クハ其所有ニ屬セサルモノヲ盜伐スルノ類ナ云フ
- 十一月ヨリ六月マテテ前期トシ七月ヨリ十二月マテテ後期トシ翌月三十一日限り差出スヘシ

茨城縣ヨリ内務省へ伺十二年八月九日

社寺境内ノ樹木ハ假令其社寺修繕ノ爲ト雖モ猥リニ伐採不相成旨兼テ公布及ヒ御省御達等ノ趣モ有之  
 候ニ付是迄出願ノ向ハ其都度經伺ノ上及處分來候得共太政官客歲第三十二號府縣官職制中主務ノ省へ  
 稟請ノ後處分スヘキ條件ニ右境内立木處分ニ關スル明文無之ニ付今後官有ノ境内地ニ於テ修繕用材ノ  
 爲メ伐採スル儀ハ縣限リ及處分可然哉尤御省本年乙第三十三號御達中境内木竹伐採員數表取調方心得  
 第一條ニ修繕スル爲メ内務省ノ許可ヲ經テ伐採云云ト有之候ニ付テハ最前御達ノ通經伺ノ末處分スル  
 儀ト相心得可然哉旁差問候儀モ有之候間至急御指揮有之度此段相伺候也  
 内務省指令十二年八月十六日



書面後半伺之通

國幣社以下境内ノ立枯  
風損木ノ伐採ハ社格ノ  
木ノ伐採等ハ郡區長ニ  
委シテ處分セシム  
十一年第三十二號公達郡  
長官署條件ハ官廳門地方  
官制ノ目ニ載ス

長野縣ヨリ内務省へ伺十二年七月二十八日  
社寺官有境内伐木ハ其事由開陳可經伺候得共明治十一年第三十二號公達郡長官署條件中第五項官有地  
木ヲ賣却第六項官有地樹木伐採ノノコトハ國幣社并延喜式内國史見在神社其他社寺官有境内ヲモ合  
審候儀ト相心得可然哉又ハ社寺官有境内ニ關涉セシ普通官有地ニ限リタル儀ニ候哉此段相伺候條急速  
御指揮被下度候也

内務省指令 十二年八月十八日

書面社寺官有境内障碍及枯損木ハ其縣限り處分不苦尤公賣代價ハ該社寺修繕或ハ苗木植付費ニ下付シ  
木數等取調可申出事

社寺山林兩局議案十二年八月七日  
第五項六項へ含蓄スルト否サルトハ立法精神ニ關スルニ付措テ不言只左之通御開示可然乎

内務省書記官ヨリ京都府へ通達 十二年十月二十八日

一般社寺境内伐木ノ儀ニ付テハ是迄一定ノ成規無之候處九年四月當省及舊教部省第十二號達有之上ハ  
官有地ニ係ル分ハ社格ノ有無ニ拘ハラヌ御伺出可相成答ニ有之尤モ枯損障碍伐木ハ別段成規無之候得  
共府縣限り處分ノ儀伺濟ノ向モ有之ニ付御府限り御許可相成不苦儀ト存候此段爲念及御通達候也 同月  
五日決列

社寺局議案

該府ヨリ境内伐木ノ件ニ付テハ伺出無之儀ニ存候右ハ九年第十二號達ヲ了知無之ヨリ不經伺處分候儀  
ト被考候間今度柄木縣へ御通達相成候例ニ倣ヒ更ニ御通達相成可然哉左案相伺候也

福島縣ヨリ内務省へ伺十二年十月十四日

本年四月七日附テ以テ府縣官職制郡區長專任條件第五六項不了解ノ廉ヲ伺ヒシ指揮ニ主管タル官廳ニ  
テ支配スル地ヲ除クノ外ハ郡區長ニ於テ處分シ得ヘシト依テ再ヒ其支配スル地ノ指別ヲ伺フニ諸  
官廳用地或ハ存城郭内ノ如キ地方廳ニ於テ直チニ處分シ能ハサル類ヲ指シテ指令タリ然ルトキハ官廳  
幣社境内ノ如キモ直チニ處分シ得サルモノ乎

内務省指令 十二年十一月二十四日

官國幣社境内ノ如キ縣廳ニテ支配スル地内ニアル倒木枯木ノ賣却障碍木ノ伐採等ハ郡區長ニ於テ處  
分シ得ヘシ

(備考)

京都府ヨリ内務省へ伺十五年十一月二日  
官有ノ損竹枯竹障害竹ハ府縣官職制中郡區長事務處分件第五項第六項外ト相心得可然哉  
農商務省指令十八年四月二日  
官有地ノ枯倒竹并障害竹ハ郡區長ニ委任スヘキ條件第五項第六項ニ據リ處分爲致若シカラヌ  
埼玉縣ヨリ内務省へ伺十八年二月十七日  
府縣官職制中郡區長ニ於テ處分スヘキ條件第六項電線道路田畑水利ニ障碍アル官有樹木ヲ伐採スル事ト有  
之候右ハ官林木并社寺境内等ノ樹木ヲ問ハス直接ノ障害トナルヘキモノハ郡區長ニ於テ伐採ノ處分ヲナ  
シ其拂下代金ハ夫夫成規ノ通収入可致儀ニ可有之然ルニ伐採スヘキ枝葉拂下ノ如キハ立木ト違ヒ伐採  
候上ナラテハ東數等ノ調査不行届公賣ノ處分方差支候故ニ人夫ヲ雇揚ケ伐採爲致候儀ニ有之候處該費  
用ハ電線道路田畑等ノ障害ニ不拘並木ニ係ルモノハ地方稅及協議費ヲ以テ支辨シ其他ハ別途御渡方大  
藏省へ稟請致シ可然哉  
大藏省指令十八年四月四日  
伺ノ通

東京府ヨリ内務省へ伺十四年四月二十九日

社寺境内樹木之儀ハ該社寺ニ於テ栽培セシモノト雖モ其地種官有地タル上ハ樹木モ亦官木ト見做可然  
哉至急伺分ノ御指揮有之度此段相伺候也

内務省指令 十四年五月三十一日

書面之趣社寺境内樹木之儀ハ別段之取扱ニ屬スルモノニ付普通官木ト難同視尤社寺ニテ植付タルモノ  
ハ社寺之所有ト可心得事  
但伐採之儀ハ成規ニ從フヘシ

農商務省ヨリ内務省へ照會十四年七月十一日

社寺境内立木社殿堂宇等修繕ノ爲メ伐木願出ニ際シ是迄逸逸費省社寺局ヨリ當省山林局ニ合議相成來  
候慣行ニ候處當省山林局ニ於テ社寺境内立木伐採之儀ニ就而ハ何等整理スヘキ事項モ無之徒ニ合議之

件ハ官廳門地方官制ノ目  
ニ載ス

社寺境内ノ官有ニ係ル  
部分ト雖モ社寺ニテ裁  
培セシ樹木ハ其社寺ノ  
所有トシラシム

社寺境内伐木ノ際山林  
局ニ合議スルヲ廢シ社  
寺局ニ於テ專決セシム



手數ヲ經候而已ニ付事務整理上幾分之遲滯ヲ生シ可申候間社寺境内立木伐採之儀ハ爾來貴省限リ御處分相成候様致度此段及御照會候也

内務省同答 十四年七月二十一日

社寺境内立木伐採出願ニ際シ是迄貴省山林局へ當省社寺局ヨリ合議仕來候處右ハ貴省山林局ニ於テ別段査理之事項モ無之ニ付當省限リ處分方云云御照會之趣致承知候此段及御同答候也

社寺境内伐木取扱規則

内務省示達 十五年八月二日

社寺境内樹木伐採之儀ハ明治六年第二百三十五號公布并八年第七號公布并九年當省并教部省第十二號達十二年當省乙第三十三號達之趣有之官有地ニ係ルモノハ當省へ伺出處分之筈ニ候處近來修繕之爲メ多分之伐木願出候向モ有之然ルニ社寺境内ハ修繕用材培植之地ニ無之數百年來之古木一朝地ヲ拂ヒ遂ニ風致ヲ毀損スル向モ不少候條自今請願之節ハ不得止分ニ限リ別紙條規ニ照ラシ取扱候條右廉廉調査之上可伺出此旨爲心得示達候事

但縣限リ處分ニ係ル民有地第二種ハ勿論民有地第一種ニアル社寺境内樹木ト雖モ本文之振合ヲ取扱フヘシ

(別紙)

社寺境内伐木取扱規則

第一條 社寺境内木ヲ五類ニ分チ風致木目通寸間ニテ第一類トシ目通り一丈以上ヲ第二類トシ同五尺以上ヲ第三類トシ同一尺以上ヲ第四類トシ同一尺未満ヲ第五類トス

第二條 第一類第二類之木ハ伐採ヲ許サス

第三條 第三類ハ總木數十分之一付一本ニ第四類ハ同十分之二付二本ニ以內伐採ヲ許スコトアルヘシ

第四條 第五類ハ別ニ分通ヲ定メス生立ノ爲メ拔伐ノ外伐採ヲ許ササルモノトス

第五條 社ハ本殿拜殿寺ハ本堂庫裏之修用材ト限リ第三條ニ據ルモノトス

但必ス仕様書具申セシム

官有社寺境内ノ伐木及ヒ生産物處分方ヲ定ム

鳥取縣ヨリ内務省へ伺節 十五年三月十七日

一 官有地ノ枯損木官林ノ地方費ニ支出スヘキ官客年内務大藏兩省乙第二十七號御達中第六節ニ掲載有之候處社寺境内枯損木ノ儀ハ是マテ其社寺官園修繕費トシテ都テ下渡求リ候分モ有之右御達ニ合著セサルモノト心得可然哉

二 官有地内ノ障礙木其他生産物拂下モ社寺境内代金ノ儀ハ別段明文モ無之候得共右御達ノ第六節ニ準シ處分シ可然哉

内務省指令 十六年一月十七日

農商務省指令 十六年一月十七日

第一項 伺ノ通第二項 官林及社寺 第四項 ハ都テ大藏省へ納付スヘシ

社寺官有境内ノ伐木處分方ヲ定ム

栃木縣ヨリ内務省へ伺 十六年十一月二十九日

一 公園地中風致眺望上ニ關シ及ヒ園内道路ノ模樣替等ニテ從來生立セル樹木中ノ障礙木伐採ヲ欲スルトキハ實査ノ上縣限リ許可シ其伐採樹木ヲ以テ園内道路橋梁普請等ニモ相用ヒ或ハ公賣シタル共金

四ハ公園保護ノ經濟ニ租入園内樹木植栽キ其他ノ費用ニ仕拂ハセ可然哉

二 社寺官有地境内中ノ風損木ハ公賣ノ上其代金ハ社寺ノ修繕及ヒ樹木植栽等ノタメ該社寺へ下渡來候處公園地ノ如キハ其社寺へ下渡サスニテ前條後段ノ旨趣同様相心得可然哉

三 公園地内社寺修繕用ノ爲メ止ムヲ得ス園内樹木伐採ヲ請求スル場合ニ於テハ普通官有社寺境内地同様相心得可然哉

四 客年十月十日伺定ノ公園地出稼假條中ハ第七條出稼常任人ノ外一切宿泊相成ラサル儀ニ有之然ル處當管内下都賀郡平井村公園地内ハ神社參詣人便利ノタメ從來借地ノ上旅店宿泊ヲ營業候者有之且

同園内大平神社祭典ノ節信徒ノ者終夜徹切リ居候儀モ有之候就テハ前條假條例第七條ニ差支キ實際差支候ニ付右平井村公園地ニ限リ第七條へ園内ノ旅店へ宿泊シ及ヒ神社信徒ノ者徹夜スル等ノ儀ハ

此限リニアラスノ但書ヲ追加致シ可然哉

内務省指令 十六年十二月二十六日

第一項 第二項 第四項 ハ伺ノ通第三項 ハ事實ヲ具シ伺出ヘシ

鐵道測量ノ爲メ社寺境内ノ障礙木ヲ伐リ或ハ建物ヲ移入如キ事至急

岐阜縣ヨリ内務省へ伺 十七年七月二十二日

當管下美濃國安八郡大垣ヨリ厚見郡加納間鐵道測量ノ爲メ社寺境内障礙相成候竹木伐採或ハ境内地官有



ヲ要スル者ハ特ニ處分  
シテ後ニ上申スルコト  
ヲ許ス

道敷ニ係リ建物移轉不致候ハテハ難相成場合ニテ殊ニ至急ヲ要シ經伺スヘキ日間モ無之節ハ縣限リ處  
分ノ上追テ其段上申致可然哉  
内務省指令 十七年十月二日  
伺ノ通

社寺境内ニ桐栢桑等  
ノ樹木ヲ植ニ期ニ至テ  
研伐シ社寺永固ノ致ニ  
供セント請フ者ハ之ヲ  
許ス

栃木縣ヨリ内務省社寺局ヘ照會十八年八月十八日  
社寺境内立木伐採ノ儀ニ付テハ明治十五年八月御省番外御示達ノ次第モ有之候處氏子及檀信徒ノ者協  
議ノ上地味ニ相應シタル桐栢及桑等ノ諸木ヲ境内適宜ノ場ニ植付ケ期ニ至リテ之ヲ伐研シ其價金ヲ  
蓄積シ將來社寺永固ノ資本ト致度趣願出候向モ有之候處右鄉村社已下ノ社祠及小寺院ノ如キハ別ニ取  
入モ無之永續ノ方法等相立チ居候モハ甚々僅少ノ儀ニ付右等出願ノ向ハ許可致可然見込ニ有之就テ  
ハ桐ノ如キハ五年乃至七年ヲ期トシ伐採スルモ栢桑等ニ至テハ期限アリテ年所取候モノ且固ヨリ風  
致等ニ關係アルモノニ無之ニ付其都度實地ノ検査ヲ要セス當初植付出願ノ節其場所等實檢指示致シ伐  
採ノ節ハ届出サレ候ノミ且本數等モ成規ニ準據致サス候テモ可然被存候得共例規モ無之儀ニ付爲念及  
御打合候

社寺局回答 十八年九月十九日

社寺境内ノ儀ハ本來收入ヲ計ルノ地ニ無之ニ付田畑様ノ所爲ハ可成制止致度儀ニ有之然レトモ片隅等  
ノ餘地ニシテ實際風致等ニ關係セサル箇所ニ候ハ、強テ不都合無之様存候得共是トテモ栢桑ノ類ハ可  
成御許可不相成様致度

官有社寺境内ノ落葉柴  
草及口糞糞等ノ料  
金ヲ收ムル者ハ修繕費  
トシテ差控セシム

鳥取縣ヨリ内務省ヘ伺十八年十二月四日  
官有地ニ係ル社寺境内ノ落葉柴草樹實固等ノ類ヲ該社寺ニ於テ採收ノ儀願出ルトキハ無代價下與致可  
然相考候處他ノ人民ニ於テ採收ノ儀願出タルトキ多少共收益アルモノ、如キハ如何致處分可然哉  
内務省指令 十八年十二月二十三日

該社寺ニ於テ支障無之上ハ相當ノ料金ヲ徴シ差許其料金ハ該社寺修繕費トシテ付與スヘシ

内務省訓令 二十年一月二十七日  
第四號 北海道廳 府 廳  
明治十二年六月 内務省乙第三十三號達中社寺官有地境内木竹伐採員數表及同十九年九月内務省令第十七號

社寺境内木竹伐採員數ノ  
作リ組織ノ部ニ載ス

内務報告例中年報第六十六項ノ事項ハ自今報告ニ及ハス

布告 六年七月十七日 大政大臣 三條實美 署

神社佛寺共古來所傳ノ什物聚庶寄附ノ諸器并ニ祠堂金等ノ類ハ神官僧侶ハ勿論氏子檀家ノモノタリト  
モ自儘ニ處分可致筋無之候條若不得已儀有之候ハ、委詳具狀ヲ以テ教部省ヘ可申立候此旨布告候事

教部省伺 六年六月二十三日

無用ノ物ヲ以テ國家有益ノ資ニ供シ候儀ハ當然ニハ候ヘトモ寺院中佛器什物ノ儀ハ古來ノ所傳或ハ衆  
庶ノ信賴ヨリ寄附スル所ノモノニテ土地人民ノ關係不少寺院被立置候上ハ假令無用ノ長物タリトモ人  
心ノ歸背ヲ問ハスシテ強テ處分可致條理ハ有之問敷候處各地方ニ於テ往往管内諸寺院所有ノ銅佛又ハ  
梵鐘ノ類ヲ以テ學校建設等ノ費用ニ爲相充甚シキニ至テハ祠堂金迄モ爲差出候モノ有之寺院中ヨリ苦情  
申出候向不少如何ニモ不都合ノ次第ニ被存候仰寺院ノ儀ハ衆庶ヲ教誨スル教院ニシテ方今僧侶  
一般教導職ニ被補鼓舞作新專ラ其職ニ盡力セシメ候折柄前件ノ通り立至リ候テハ忽ニ方今僧侶  
哀歎其所ヲ得サル様相成候處ハ教儀上ニ差障リ候ノミナラス人民御保護ノ御仁旨ニ悞悟可致ニ付今  
寺院什器ノ儀ハ地方官限リ處分致シ候儀ハ不相成儀御布告有之度依テ御布告案并別紙書類相添此段相  
伺申候儀御評議有之度候也  
一指令 六年七月十九日

伺之趣 第二百四十九號布告候事

寺住僧大教正 大谷光勝ヨリ 教部省ヘ伺 六年六月十二日  
別紙ノ通申出候ニ付如何指揮可仕哉至急何分ノ御指令奉伺候也

今般福島縣管轄須賀川支廳下第六大區小三區白河郡當白河驛ニ於テ學校建築ノ儀ニ付同所取締所深水  
頼寛宮本五三郎兩名ヨリ驛内ノ寺院ヘ各寺ノ大鐘并龍藏寺兼帶西光寺西蓮寺兩所ノ地藏菩薩等法却致  
シ之ヲ以テ校費ノ基礎金ト可致旨強請御座候處各寺一點ノ異議巨障不申出私一人不承知折柄取締  
所ニ於テ各寺檀家ノ世話方ヲ呼出シ梵鐘等法却ノ願書ヘ窮談證印ヲ爲致私檀家總代トシテ驛内ノ者北  
村常七ハ中波シ願印ヲ取リ置候ニ右常七ヨリ私ヘ一應ノ通達モ之ナキ仕合尙復役元ヨリ右ノ事件ニ付  
驛内一人タリトモ巨障箇間敷淨脫決シテ致間敷旨公布布達モ有之殆ント驛内ノ人心信佛ノ機縁ヲ失ヒ  
種種仕候然處取締所ヨリ各寺住職ヲ呼寄セ檀家ノ願件ニ同心致シ與印ニ及候ヤフ手詰ノ談事ニ相成各  
寺一言ノ異議ナク右願書ヘ與印候ヘトモ私儀廢佛ノ取締所又佛祖ノ恩波ニ浴スル身トシテ自廢自毀ノ  
者ニ與ミシ同心與印ノ儀ハ決シテ不相成事ト毎度懇ト集談ヘ闕席代人ヲ差出シ置直チニ大教院ノ御指  
揮ヲ受度存シ萬方言端ヲ改メ類日與印ヲ扣居候ニ折恐ク私母儀九死一生ノ病ニ罹リ看病旁大教院ヘ伺



ノ爲出度モ相成兼危ノ迷感ノ場合中去五月二十九日マテ連日ノ強談深水願宮本五三郎戸長荒井治郎右衛門等當寺へ推寄私一人ヲ相手取百般手ヲ替究追ノ強談素ヨリ廢佛ノ旨趣ニ候ハハ容易ニ正論ヲ極難ク唯唯論ノミニテ詮方ナク私ヨリ一策ヲ設ケ各寺ノ梵鐘并地藏菩薩諸佛ノ代價且學校造營ノ金高ヲ積リ候處基礎金五千圓此利五百圓ノヲ一年ノ校費ト致シ内千五百圓ハ梵鐘等ノ見込ニ學校造營ノ金ヲ詳記仕取籍所ノ胸臆ヲ得候ニヨリ與印仕候各寺へ談事候ハハ各寺諸法ノ忠節ヲ抽クテ千五百圓ノ金謀候ハハ各地ノ梵鐘等果シテ沽却ノ難ヲ斷除スルコト抽引受可申右謀金如何ノ和談ニ及候ハトモ一寺トシテ協力ノ色ナク再ヒ取籍所へ代價ノ金謀相届候ハ、連印ノ願書引下與候ヤ否和談ヲ乞候ニ一向ニ承引不申私備彌彌策途ヲ失ヒ應接行迫重テ宮本五三郎申候ハ今般ノ急事異議巨障候ハ、此上ハ福島縣廳へ引出シ其趣旨糾問セシテ杯ト役威ヲ振ヒ切迫ノ強談如何共當感仕餘儀ナク福島縣廳合議所事務掛關川寺吉岡玄虎へ別紙ノ如ク伺出公然差圖ヲ以テ右願書へ與印仕候乍併完クテ隨喜ノ禮ト相見候段悲歎ニ忍ホ最モ昨壬申年教部省ヨリ佛器什物等ハ簿記調印ノ上其寺へ備置可申旨謹承罷在候ニ對シ恐縮謝罪ノ旨略モ無御座候依之此度出府前件ノ體裁寫置ノ別紙奉差上候間御仁恤ヲモツテ万般御汲量ノ上當寺ノ大鐘沽却不相成様御取計ノ段泣血決死奉懇願候也

十二箇寺檀家總代ノ者願  
學校御建設ノ儀ニ付テハ兼テ御趣意ノ次第モ拜承罷在候於私共モ如何卒丹精不仕而難相成奉存候ヘトモ御見分被爲在候通リ連年ノ疲弊尙存積金等速ニ成功ノ見込モ無之苦心罷在候依之一同談合仕候ハ從來松那寺へ寄附仕置候鐘類并金地藏等格別有益モ無之事ニ付此節賣却仕是ヲ當所學校ノ基礎金ト被成下候ハ、無此上雖有仕合ニ奉存候間此旨奉懇願度則書付テ以一同奉申上候五月

今般當學校費基礎金トシテ寺院梵鐘賣却ノ儀ニ付各寺檀中ヨリノ書面ニ御連印ノ儀及示談候處各寺ヨリ教部省へ伺フ經不申テハ不安意ノ趣尤ノ儀ニ致承知候右ハ僕等手元ニテ致決議候譯ニ之ナク夫夫長

片岡遊園會合議所事務掛  
今般當學校費基礎金トシテ寺院梵鐘賣却ノ儀ニ付各寺檀中ヨリノ書面ニ御連印ノ儀及示談候處各寺ヨリ教部省へ伺フ經不申テハ不安意ノ趣尤ノ儀ニ致承知候右ハ僕等手元ニテ致決議候譯ニ之ナク夫夫長

五月二十九日  
今般當學校費基礎金トシテ寺院梵鐘賣却ノ儀ニ付各寺檀中ヨリノ書面ニ御連印ノ儀及示談候處各寺ヨリ教部省へ伺フ經不申テハ不安意ノ趣尤ノ儀ニ致承知候右ハ僕等手元ニテ致決議候譯ニ之ナク夫夫長

書面ノ趣檀中ヨリ差上候見込書へ住職ノ者同意ノ與印ニテ尤モ至急ノ事ニ付不伺共不苦筋候事  
二候事  
同上伺  
今般當學校費基礎金トシテ寺院梵鐘賣却ノ儀ニ付各寺檀中ヨリノ書面ニ御連印ノ儀及示談候處各寺ヨリ教部省へ伺フ經不申テハ不安意ノ趣尤ノ儀ニ致承知候右ハ僕等手元ニテ致決議候譯ニ之ナク夫夫長

今般當學校費基礎金トシテ寺院梵鐘賣却ノ儀ニ付各寺檀中ヨリノ書面ニ御連印ノ儀及示談候處各寺ヨリ教部省へ伺フ經不申テハ不安意ノ趣尤ノ儀ニ致承知候右ハ僕等手元ニテ致決議候譯ニ之ナク夫夫長

今般當學校費基礎金トシテ寺院梵鐘賣却ノ儀ニ付各寺檀中ヨリノ書面ニ御連印ノ儀及示談候處各寺ヨリ教部省へ伺フ經不申テハ不安意ノ趣尤ノ儀ニ致承知候右ハ僕等手元ニテ致決議候譯ニ之ナク夫夫長

官ヨリ何ヲ經候コトニ付別段各寺ヨリ不伺トモ可然旨及差圖候段相違之ナク万一右ニ付各寺越度ニ成儀モ有之候ハ、僕等請合御迷感申間敷此旨爲御安心一書差出世候也五月三十日

片岡遊園會外一名願眞宗管長大谷大教正知  
去月中福嶋縣下須賀川支廳ニ於テ學校建設ニ付白河郡中寺院ノ梵鐘等賣却シテ以テ學校ノ費用ニ充テント各寺院ニ對シ履展強談ニ及ヒ利ハ各寺檀那ノ肝煎共テ呼出シ梵鐘沽却ノ願書へ強テ印致サセ候次第別紙詳細書ノ通ニ御座候右ニ付テハ不日管内一般同様置相成可申ト慈歎罷在候尤方今ノ御時勢大教院等教費御多端ノ折柄教費被充候儀ニ候ハハ必用ノ什器ヲ除ク外ハ特ニ梵鐘ニ不限御召上相成候トモ檀信共始ノ門徒ノ者共モ稅服仕候ヘトモ何分前件ノ次第ニテハ門徒ノ人心モ折合不申候條何卒區區ノ情實御洞察ノ上宜御指揮ノ程奉懇願候也六月十日

鈴木清了伺 豐山代院宛  
今般文部省ヨリ學校設立被仰出候ニ付テハ縣廳ヨリ學校掛ノ役員當地へ出張ノ上近隣ノ僧侶ヲ招集シ有無住ヲ不論梵鐘又ハ祠堂金ヲ學校設立ノ用費ニ可差出旨被申候間梵鐘ノ儀ハ佛家必用ノ什器祠堂金モ亦堂宇修營ノ爲蓄積致シ執モ關ク可カラサルノ品然ルニ學校ノ御用費ニ差出候テハ自然寺蹟顯廢ノ姿ニ成行且教部省ノ御布令モ有之趣等種種申立仕候ヘトモ嚴重ノ蒙御達不得止拙僧儀ハ爲梵鐘代料金十圓可相納旨申上梵鐘ノ儀ハ從前ノ通御差置ノ程願上候乍然大教院等御開置ニ相成被遊布教候折柄近隣ノ寺院右様ノ儀ニ從事仕候ヲ傍觀致シ居候テモ却テ恐入候間蠢愚ノ至情難默止不取敢此段奉伺候也四月二十七日

安國寺住職 戶田隨江 根生院宛  
第一大區九ノ小區野州河内郡藥師寺村安國寺  
右奉申上候今般當縣ヨリ學校御設立ニ付梵鐘并祠堂金四十圓獻金可致様御沙汰ニ付差上申候間此段御届奉申上候以上四月

庶務課議案 六年六月二十八日  
別紙教部省伺諸寺院佛器什物處分ノ儀及懇議候處地方官右器物ノ類ヲ學校建設ノ資ニ充候ハ人才教育知識ヲ開發スル現今緊要ノ急務ニ於テ種種方策ヲ用ヒ無用ニ屬スル品ヲ以テ之ニ供スルノ主意ニ可地之候ヘトモ右器物ハ古來ノ所傳或ハ衆庶信賴ノ寄附ニテ寺院設立置候上ハ假令緊要ノ事件ニ付テモ地方官限リ強テ致處分候筋ハ固ヨリ無之尤僧侶ノ内間ニハ無用ノ器物ヲ差出候輩モ有之候ヲ右若情申出候者ヨリ佛祖ノ恩波ニ浴スル身トシテ自廢自毀スル杯申立候趣ハ依然タル桑門頭陀ノ舊癖學校育才ノ教ヲ度外ニ置候儀不都合ニ候ヘトモ根元地方官強談ニ及候ハ條理ヲ得不申其上懇訴哀歎スルニ至リ候處置ノ宜キヲ得ルトモ難申且右等ノ儀相重リ候ハ、此末不爾弊害可生モ難計旁以何之趣適當ニ被存候然有之ハ再度御布告無之テ不叶候間此節社寺一齊ニ御布告相成可然設依之御指令案取調并別紙公布案相改此段相伺候也

(備考)  
山梨縣伺 六年八月二日



神社佛寺什物祠堂金處分ノ儀ニ付本年第二百四十九號御布告書結文致部省へ具狀云云ノ儀ハ地方官ヲ經テ具狀スヘキ儀トハ相心得候へ共御文面上判然不致候間如何相心得可然哉此段奉候候也  
 指令六年八月十四日  
 庶務課議案六年八月九日  
 山梨縣御神社佛寺什物祠堂金處分ノ儀御布告面判然地方官ヲ經ヘキ文無之候ヘトモ素ヨリ地方官ヲ經候ハ當然ノ儀ニ付左之通御指令相成可然哉仍テ相候候也

致部省達 九年二月二日

神社佛寺共古來所傳之什物等處分之儀明治六年七月第二百四十九號公布之趣有之ニ付テハ持添之田畑山林并寄附金又ハ古文書類共總テ右公布ニ照準シ處分可致ハ勿論ニ候條此旨爲心得相達候事

(備考)

千葉縣ヨリ内務省へ何十一年四月九日  
 明治九年元月致部省達書第三號ヲ以テ神社佛寺持添ノ田畑山林并寄附金又ハ古文書類共總テ明治六年七月第二百四十九號公布ニ照準處分可致ハ勿論ニ有之旨被相達候處明治九年本省日誌第四十六號中大分縣ヨリ耕地其他寺院ノ所有堂宇修繕ノ爲メ賣却致度寺社協賛ノ上連署出願候節事實無相違ニ於テハ願ノ通開届不苦哉ノ何ヘ通御指令相成候仍テハ社殿堂宇修繕ノ爲メ田畑ハ勿論山林又ハ古文書類等賣却寄附金等ヲ費消スルモ亦神官氏子寺院植家等ニテ大分縣何ノ手續ヲ履ミ願出候分ハ管廳限開届可然哉此段相候候也  
 内務省指令十二年五月二十一日  
 書面ノ趣ハ從前ノ通御出候儀ト可相心得事  
 社寺局議案十二年五月十九日  
 寺院持添田畑等處分ノ儀何  
 右客歲何出爾後兩回催促等有之候得共御詮議中ニ付留置候處過般愛媛縣へ御指令有之候ニ付如左取調候也

布告 九年四月十八日(民法門契約)

社寺學校病院等へ寄附候土地建物其他物品等別段ノ契約無之分ハ寄附主ニ於テ其所有ヲ離シタルモノトシ一般ノ讓渡ヲ以テ處分候條此旨布告候事

社寺ノ持添田畑山林及寄附金古文書類等ノ類同  
 上ノ事  
 十年五月布告第四十三號ヲ以テ社寺ニ於テ金穀借入ノ爲メ地所建物什物等ヲ抵當ト爲ス心持方々

社寺等へ寄附ノ土地建物ノ類特別ノ契約ヲキ者ハ一般ノ讓渡ヲ以テ處分ス

致部省達 九年十二月十八日

各社共從來ノ習慣ヲ以テ募提燈之類平生晝夜共門外等戸締リ無之場所へ掲ケ置候向モ有之趣候處自今夫夫締方相立容易ニ持運可相成物品ハ別テ注意可致此旨相達候事

東京府達 十年四月十四日

社寺遞減祿ヲ始メ諸金錢出納ノ儀是迄奉祀ノ住職限リ取扱來候處自今戸長及ヒ檀家總代へ合議ノ上出納ヲ明了ニシ將來不都合不生様可致置此旨相達候事

東京府達 十年四月十四日

別紙丙第九十四號ノ通社寺へ相達候條社寺ノ金穀出納ノ儀不都合無之様注意スヘシ此旨相達候事

布告 十年五月十六日(大臣告示具見)

神社并寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ルルトキ若クハ金穀ヲ借入ルル爲メ社寺附地所除稅地ヲ建  
 物什器ヲ除ク外書類等ヲ抵當ト爲ストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ若シ  
 此連署ナキトキハ總テ該社寺神官僧侶ノ私債ト看做シ縱令右ノ抵當アルモ其效ナキ者ト爲スヘシ此旨  
 布告候事

内務省何十年四月十三日

神社寺院ニ屬スル借財神官僧侶ノ私借ト分別判然ナラサルヨリ遂ニ一己ノ私債ヲ以テ社寺共有ノ財產  
 ヲ損害スルノ弊不少發者元致部省九年第四十號達書別紙供之趣モ候ヘトモ獨寺院へノ布達ニテ一般ノ  
 定則ト難相成右ハ固ヨリ人民へ關涉有之儀ニテ往差問不少依テハ九年十月第三百三十號區町村金穀公  
 借共有物取扱方御布告ノ旨ニ準シ更ニ左之通公布相成度即草案取添此段仰御指揮候也元老院議定  
 退テ右ハ方今差向候事情モ有之ニ付速ニ御裁下有之度候也  
 法制局議案十年四月二十八日  
 別紙丙務省何社寺借財ノ節抵當物書入方ノ儀看詳候處御布告案左ノ通り修正ノ上御發令相成可然哉仰  
 高裁候也

社寺等國幣社務提燈等ノ取調方々

十年六月十五日内務省番外達ヲ以テ神宮官國幣社ニ於テ諸提燈管守方々

東京府下ノ社寺遞減祿及ヒ金穀出納等ハ戸長及總代ニ合議セシム

社寺ニ於テ金穀借入ノ爲メ地所建物什物等ヲ抵當ト爲ス心持方々  
 十年十月内務省達丁第十  
 二號ヲ以テ官國幣社ニ於テ社用ト雖モ金穀借入ルル事ヲ禁ス



(備考) 内務省 何十年九月日附

本年五月第四十三號公布中社寺附地所建物ハ社寺附屬ノ地所建物ニシテ其社寺ノ本體タル地所建物即  
本社本堂其境内地等ヲ指スニ非ラス(本年四月十三日何嘗寫供參看然ルニ往往誤認シ既ニ別紙千葉縣伺  
ノ如キアリ指合寫トモ供參看因テ改正セサルヲ得ス  
尙社寺所在地戸長ノ公證ヲ得ヘキハ勿論ナリト雖モ擬者公布ヲ讀スルノ日未ダ神社什物牒ノ設クナキ  
ヲ以テ姑ク缺ク什物牒ヲ編セサルノ日ニ當テハ村吏公證ノ標準ナシ尤寺院什物牒ハ六年第八十九號公  
達アリ然ルニ神社什物牒ハ本年七月當省甲第十三號ヲ以テ布達ス因テ今増補セシコトヲ要ス  
前二條ノ旨趣ニヨリ左ニ改正案ヲ附シ仰御裁定候也  
指令十年十月二十四日

何ノ趣ハ特ニ公布ヲ要セサル儀ニ付左ノ通其省ヨリ布達スヘシ  
社寺ニ於テ借財抵當ノ儀ニ付本年五月第四十三號布告相成候處其地所建物ニ係ルトキハ明治六年一月  
第十八號布告地所賃入書入規則及同八年九月第四百四十八號布告建物賃入書入規則ニ照準シ戸長ノ與印  
ヲ受ク可キハ勿論ノ儀ト心得ヘシ此旨布達候事  
公布案  
本年五月第四十三號公布左ノ通改正候條此旨布告候事  
年月日

太政大臣

(社寺附ノ下(屬ノ)ノ)二字ヲ加ヘ(除稅地云云)ノ分注ヲ刪ル  
(連署ノ)三字ヲ刪リ更ニ(連署尙該地戸長ノ公證)ノ十字ヲ加ヘ(此連署ノ下(公證)ノ)二字ヲ補フ  
(別紙)

千葉縣ヨリ内務省ヘ何十年六月九日  
神社并寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ルルトキ社寺附地所建物什器等ヲ抵當ト爲ストキハ云云本  
年太政官第四十三號ヲ以テ公布相成候處建物トハ社殿并本堂庫裏其他附屬建物ノ總稱ト相心得可然哉  
從テ右建物引當ノ証文ハ戸長ノ與審判印ヲ受クル等其取扱手續ハ都テ八年太政官第四百四十八號諸建物  
賃入賃入規則ニ準據取扱可申哉將又社殿本堂等ヲ抵當トシ金穀ヲ借入ルルノ後期限ヲ過キ返濟不致債  
主ヨリ訟訴ニ及ヒ候テモ其建物ヲ賣買ノ處分又ハ債主ニテ其建物ヲ引取候共其定約ニ任セ候儀ト相心  
得可然哉  
右條件管下ヨリ伺出モ有之候條至急御指令被下度候也  
内務省指令十年八月二十七日  
書面ノ趣元來社寺ノ負債ニ係ルモノハ即其社寺ノ永續ヲ謀ルモノニテ公布中社寺附地所建物云云ハ本  
社本堂等ニ差除キ附屬ノ地所建物ニ限リ候儀ト可心得其抵當手續ハ何ノ通  
法制局議案十年十月四日  
別紙内務省伺社寺借財抵當物書入ノ件公布改正ノ儀取調候處右公布ハ充分其意ヲ盡ササル迄ニテ決シ  
テ他ニ矛盾ヲ爲ス等ノ事アルニ非ス因テ主管ノ省ヨリ之ヲ義解シ其不備ヲ補フ方可然御指令案及同省

布達案共取調仰高裁候也

内務省達

十年六月十五日  
番外神宮并官國幣社神官  
器品管守方々令ス

近來社頭諸器品等紛失申出候向不尠元來一社神官注意ノ洽カラサルニ由ル儀ニテ不都合ノ次第ニ候條  
自今神殿社務所倉庫等ヲ始メ渾テ境内取締向嚴重相立諸器品取片付方逐一注意可致此旨相達候事

内務省達

十年六月十五日  
番外府縣

社頭取締向ノ儀ニ付別紙ノ通神宮并官國幣社神官ヘ相達候條此旨爲心得相達候事  
内務省ヨリ開拓使ヘ通牒十年六月日附  
社頭取締向ノ儀ニ付別紙ノ通神宮并官國幣社神官ヘ相達候條爲御心得此段申入候也  
社寺局議案十年五月二十八日  
近來各社社頭諸器品紛失ノ儀類ニ申出ノ處昨年平野神社門外幕被盜ノ節京都府ヨリ別段申立候趣モ有  
之ニ依リ別紙ノ通舊教部省番外達シ有之然ルニ該社ノ如キ未タ一歲ニ滿タステ又又同品被盜ノ儀屆  
出該府ヨリモ再應ノ申立有之此儀御差置相成候テハ滋不都合出來候様存候ニ付左案取調相伺候也

内務省布達

十年七月五日  
第十號

府縣社以下神社什物ノ儀自今左ノ通相心得取締可致此旨布達候事  
一 什物ハ各部類ヲ分チ其品柄員數等詳細牒簿ニ記載シ尙ホ他ノ寄附ニ係ルモノハ其年月姓名等ヲモ  
記入スヘシ

第一類

寶物古文書

第二類 祭具什器并持添ノ田畝附屬ノ建物等  
右牒簿二部ツ、編製神官并氏子 氏子無之向ノ總代二名以上尙ホ該地ノ區戸長連署調印一部ハ區戸長役  
所ヘ一部ハ其社ヘ藏メ置ヘシ  
内務省ヨリ開拓使ヘ通牒十年七月五日  
別紙甲第十三號ノ通各府縣ヘ布達候條同様御心得有之度此段申入候也  
内務省伺十年五月二十四日



寺院寄附物什物帳ノ儀ハ六年三月第八十九號公達ノ趣候處從來府縣社以下神社ニハ什物帳編製ノ定式無之依テハ共有物品沽却讓與等其管處へ出願候節村吏ニ於テ保證ノ目的モ無之到底取締相立兼候條左ノ旨趣ヲ以テ公布相成候様致度即草案取調此段仰御指摩候也  
再申官幣社古文書資物什器等ハ既ニ舊教部省ニ於テ調査相濟居候條此段爲念申添候也  
指令十年六月二十一日  
伺ノ趣ハ布告ヲ要セサル儀ニ付其省ヨリ直ニ可相違事  
法制局議案十年六月七日  
別紙内務省上申神社什物取締方ノ儀取調候處是迄府縣社以下ノ神社什物帳編製ノ式ハ無之候ヘトモ去ル六年第二百四十九號ヲ以テ社寺所傳ノ什物及寄附ノ諸器祠堂金等ノ類ハ總テ自儘ニ處分可致筋ニ無之旨公布有之右什物帳編製等ノ儀ハ畢竟該公布ノ注釋ニ屬シテ單ニ政府ヨリ公布セラレハキモ、ニ無之ト存候間疑ニ舊教部省ヨリ官幣社へ相違候什器取調ノ振合ヲ以テ同省ヨリ直ニ相違候方可然哉御指令案取調仰高裁候也

内務省達 十年十月二十九日 官幣社并官幣社神官(民法門契約) 金穀借入候儀ハ不相成答ニ付此旨相違候事  
各社社用タリト雖モ氏子及ヒ其他ヨリ金穀借入候儀ハ不相成答ニ付此旨相違候事  
内務省達 十年十月二十九日

別紙第十二號ノ通神官并官幣社神官へ相違候條此旨爲心得相違候事

司法省民法課長ヨリ内務省書記官へ照會 十一年五月二十二日  
昨十年第四十三號布告ニハ神社并ニ寺院ニ於テ其社寺ノ爲メ金穀ヲ借入ルル時中必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上連署ヲ要スヘシ云云トアリ又同年御省乙第百一號ニハ各社社用タリトモ氏子及ヒ其他ヨリ金穀借入候儀不相成答云云トアリ要スルニ御省達ハ神官并ニ官幣社神官ニ限リ右御布告ノ限外ナルコトヲ示サレタルモ、有之候ニ付至急何分ノ御回答被下度此段御照會及ヒ候也  
内務省書記官ヨリ司法省書記官へ同答 十一年五月三十日  
客歲第四十三號公布并當省乙第百一號達書之旨趣前後懸隔云云御照會之趣丁承右官幣社ハ即チ官有神社之儀ニ付萬般之取扱總テ府縣社以下即民祭之神社トハ差異有之依テ公布中單ニ神社ト稱スルハ通常府縣社以下ヲ指示セルモノト被存候就テハ第四十三號公布ハ勿論官幣社ニ關涉無之尤乙第百一號達書ハ全ク公布ノ限外ナル意味ヲ示シタルモノニアラス元來官幣社ニテ金穀私借可致儀ハ無之答ニ候得共往往心得違之者モ有之趣ニ付特ニ當省ヨリ相違候次第ニ有之候此段及御答候也  
長野縣ヨリ内務省へ伺 十一年三月二十七日

社寺ニ於テ金穀ヲ借入又ハ借入ルル爲地所等ヲ抵當ト爲ス時氏子檀家連署之儀ニ付明治十年第四十三號公布相成候處右公布以前氏子檀家ニ無之者連署シテ社寺附地所ヲ抵當ト爲シタル者ハ證書中該社寺ノ爲ニスル廉明瞭ナルニ於テハ社寺ノ負債ト見做シ可然哉方今伺出候者有之差掛リ候儀ニ付至急御指摩相成度此旨相伺候也四月八日決判  
内務省指令 十一年四月十一日  
書面伺之通

社寺所有ノ田畑モ一般家産ト同シテ取扱ハシム

神奈川縣ヨリ内務省へ伺 十一年六月二十九日  
公立學校之儀ハ人民共力ヲ以テ維持スル者ニ付其地協議ノ上適宜ノ方法ヲ設ケ集金即チ貧富割口持地等ニ依リ定ム又ハ戶別人口等ニ割合候儀ニ付衆議一決ノ上ハ假令一二ノ不満足者アリトモ公議ニ從ヒ一村一市ノ義務ニ可與儀ニ可有之然ルニ其地神官僧侶等ノ内或ハ教導職務上ニ付テノ出金有之或ハ其徒弟普通小學ノ教授ヲ受ケサル等ノ故ヲ以テ村市ノ公議ニ從フヲ欲セサルモノモ有之右ハ神官僧侶私有家産ニ屬スル歟或ハ人口ニ係ルモノハ一般人民ト曾テ殊別無之儀ト存候得共神社寺院所有田畑ノ如キモ家産ト見据ヘ一般同軌ノ取扱ニ及ヒ不苦儀ニ有之候哉此段爲心得相伺候也  
内務省指令 十一年十月一日

書面之趣ハ本年太政官第十九號御布告第三條之末項ニ各町村限及ヒ區限ノ入費云云ト有之即其町村公費ニ付神社寺院所有田畑ノ如キモ家産ト見据ヘ出金可致儀ト可相心得事

社寺局議案 十一年九月二日  
右調査候處府縣立學校費及小學校補助費ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目中ノモノニ付社寺所有田畑モ地方官意見之通他ノ家産同様取扱可然哉存候即指令案左ニ  
指令案  
書面之趣ハ本年第十九號公布費目中掲載ノ件ニ付伺ノ通取扱可申事  
取調局議案 十一年九月十三日  
本件ハ協議ヲ以テ學校費ヲ支辨スル處分伺ニシテ地方稅ニ關涉無之依テ指令案ハ全ク本件之問題外ニ涉リ候者ト存候ニ付左之通御指令相成可然存候  
社寺局再議案 十一年九月十三日  
右ハ別紙取調局見込之通御指令可然哉

愛媛縣ヨリ内務省へ伺 十年八月三日  
社寺所有地賣却ノ儀ハ明治六年第二百四十九號公布及ヒ九年ニ元教部省達第三號ノ趣ニ依ルトキハ共不



得止ノ事由委詳具狀ヲ以御省經何ノ上處分可致管ニ有之然ル處九年ハ御省日誌第四十六號大分縣耕地其他寺院ノ所有地堂宇修繕ノタメ賣却致度寺檀協議ノ上進署出願候節ハ事實無相違ニ於テハ願ノ通開届不苦限ノ伺ヘ伺ノ通ト御指令相成前件公布達等ニハ抵觸候得共右ハ全ク該社殿堂宇等修繕ノ爲メ賣却ノ分ニ限リ經何ヲ要セス縣限リ開届苦レカラサルノ譯ニ候哉至急御指令有之度此段相伺候也

内務省指令 十二年四月二十八日

書面持添地賣却ノ儀ハ其都度伺出候儀ト可心得事

社寺局職案 十二年四月二十四日  
社寺所有地賣却方之儀ニ付伺  
右ハ御詮議中留置候處三重縣伺(前一年)ニ依リ御決議ニ付即左案相伺候也

内務省達 十二年五月十九日

社寺ノ寶物古文書等保  
護ノ爲メ其目ヲ録上  
セシム  
十二年七月内務省達乙第  
三十九號ヲ以テ社寺ノ寶  
物目錄ニ記載スル者ハ  
概テ爲メテ詳ヤス

社寺寶物古文書等ノ儀ハ各管廳ニ於テ取締相立厚ク保護可致管ニ有之就テハ各管内府縣社以下神社并ニ寺院共所藏ノ寶物古器物古文書等別紙書式ニ照準取調目錄帳爲差出調査ノ上本年十月限り取纏當省ヘ可届出此旨相達候事

(別紙)

書式

某神社 寶物古器物古文書目錄

一 緣起書

幾卷

撰者及ヒ筆者ノ姓名并ニ其年月ヲ記ス

一文書

幾通

百年以上若クハ名家ノ筆ニ係ルモノニテ文書ト稱スヘキ者ハ一一其目ヲ掲ケ撰者筆者年月寄附人并ニ傳來ノ所由ヲ記ス(以下扁額ニ至ルマテ)

一 書畫 或ハ繪卷物

幾幅 或ハ幾卷

絹地紙地形色墨畫等ノ別ヲ記シ繪詞等記載方都テ前ニ準ス

一 寫本 或ハ寫經

幾本

格別貴重ナルモノハ行數紙數等ヲモ詳細ニ記載スヘシ

一 扁額

一面

寸法ヲモ記ス

一 棟札

一枚

年月及ヒ人名ヲ記ス

一 鏡

一面

銘(若クハ)寸法 形 鑄文 重量 年月寄附人傳來ノ所由等ヲ記ス(以下記載方(無銘)ハ) 一箇

一 劍

一口

熨斗裝具ノ地金模樣(銘アラハ)等ヲモ記ス

一 古金

一枚

一 古錢

一枚

一 古印

一顆

印文鈕形等ヲモ記ス

一 甲冑

一副

札威シ毛等ヲモ記ス

一 琴

一張

一 笛

一管

此他古書籍(百年以上若クハ名家古法帖(明朝摺以上)武器具樂器珠玉石劍等ニ至ル迄各部ヲ分ケ類ヲ推シ書式ニ照ラシテ記載スヘシ且其金銀銅器ニ係ルモノハ其重量等詳細ニ記センヲ要ス 右ノ通御座候也

年月日



右調査候處相違無之候也

年月日

何 縣府 印

何縣管下  
何國何郡何村  
何神社何官掌  
何宗派何寺院住職

右神社氏子或ハ崇敬人  
寺院檀家信徒或ハ法類總代

姓名印  
姓名印  
姓名印  
姓名印

右町戸長  
姓名印

社寺什物并持添地ノ儀ニ就テハ六年第二四十九號公布及ヒ九年敎部省第三號達書ノ趣モ有之候處實  
物古文書等取締ノ儀ハ今日ニ於テ最モ注意スヘキ儀ニ有之且別紙丙號ノ如キ先般文部省ヨリ照會ノ儀  
モ有之候間文庫經藏儲蓄共此際取調方別紙朱書甲乙號ノ通夫夫御達相成可然乎文案取調相伺候也

內務省達

乙十二年七月十四日

本年當省乙第二十二號ヲ以テ社寺寶物古文書保護ノ儀相違候ニ就テハ今般調製スヘキ目錄帳中ヘ記載  
ノ物品ハ明治十年第四十三號公布ノ通り抵當ト爲スヘカラサル筋ニ有之依テ自今社寺ニ於テスル抵當  
ハ氏子檀家協議ノ書面ヲ以テ一應管應ヘ申出サセ調査ノ上全ク寶物古文書ニアラサル分ニ限り認可ス  
ヘシ此旨相違候事

但目錄帳ヘ記載セスト雖モ該社寺ニ別段ノ由緒アル地所建物等ハ寶物古文書ニ準スヘク且社寺ノ物  
件不得已儀有之處分候節ハ明治六年第二百四十九號公布同九年敎部省第三號達書ノ通り心得ヘシ

社寺ノ寶物目錄帳ニ記  
載スル者ハ抵當ト爲ス  
ナザルナ

十七年十月內務省達乙第  
三十七號ヲ以テ社寺附屬  
ノ地所建物什物抵當費目  
其他寶物古文書等財産ニ

備考

京都府ヨリ內務省ヘ伺十一月五日

社寺什物之儀ニ付再三上申ノ末昨十月六月戸第八百三十九號ヲ以別紙寫之通伺出置候處今以御指令無  
之既ニ先年泉涌寺僧侶數多之什物ヲ抵當ニ致シ候處分方未全ク相濟マス又候今般大覺寺之僧侶什物數  
十點ヲ抵當典賣等ニ致シ候儀相違レ何分先般申立之通嚴制之道不相立候ハテハ往々取締方無之管下諸  
社寺有名之什器隨テ散失候儀實以慨歎之至ニ不勝何卒速ニ最前伺之廉御詮議相成候様重テ致上申候也  
京都府ヨリ內務省ヘ再三伺十月六月八日

舊敎部省昨九年第四十號達書之儀ニ付再三相伺候處本年第四十三號公布之通可相心得御指令之旨致承  
知候然レ處去明治六年太政官第二四十九號之公布ニ神社佛寺共古來所傳之什物衆庶寄附ノ諸器并祠  
堂金等ノ類ハ神官僧侶ハ勿論氏子檀家ノモノヨリトモ自儘ニ處分可致筋ノ無之儀條若シテ於テ社寺  
候ハ、委詳具狀ヲ以テ敎部省ヘ可申立候事ト有之又本年第四十三號之公布ニ神社佛寺附屬ノ地所建物  
ノ爲メ金銀ヲ借入ルルハ、トキ若クハ金銀ヲ借入ルルハ、爲メ社寺附屬ノ地所建物ノ爲メ借入ルルハ、爲メ  
抵當ト爲ストキハ必ス氏子檀家ト協議シ總代二名以上ノ連署ヲ要スヘシ云ト有之候就テハ去六年之  
公布ハ、擬ニ他人ヘ買取與等爲サシメテ御主意ニテ本年公布ハ、一時抵當ニ爲スヲ得セムル儀ニ  
候處當府下數多之社寺ノ如キ當今頗ル困窮致シ居候得ハ右本年公布ニ隨ヒ來テ抵當ニ書入候儀必然ニ  
シテ一旦抵當ニ書入候上ハ借用金返濟之期ニ望ミ恐ラクハ償却相成間敷左候得ハ共抵當ニ書入品金  
主ヘ可引渡ハ當然之事ニテ府廳ニ於テハ某社寺何等之品ヲ抵當ニ書入候儀去六年ノ公布ハ、相成候儀更  
ニ之ヲ知ルヘカラス然ルニ府廳ニ於テハ其價ハ實却ノ姿ニ相當リ去六年ノ公布ハ、相成候儀更  
事ト相成候テ各社寺自然ニ廢沒ニ可立到ハ目前ニ候得ハ寶物古文書之類モ又隨テ紛散可致候元來去六  
年第二四十九號之公布被廢無之候得ハ什物寄附物之諸器等賣却讓與等之儀申出候節ハ矢張御省ヘ  
伺出之上御處分ヲ可仰事ニ可有之處本年第四十三號公布ニ據リ其實ハ賣却ナレトモ抵當ヲ名目ト致シ  
府廳ヘモ不申出他人ヘ現品引渡候者有之節ハ如何シテ辨知可致候哉又前六年之公布ハ、本年之公布ヲ以  
自然ニ相廢シ候儀ニ有之候ハ、以來ハ買取與モ抵當同様ニ相心得前段伺出テニモ及申間敷候儀何分  
共實同様之事ヲ或ハ御省ヘ伺之上御處分ヲ仰々或ハ府廳ヘモ不申出氏子檀中等之申合ニテ取扱候儀實  
以解シ兼候ニ付此邊明瞭ニ御指令被下度猶又伺出候也

內務省指令十二年七月十八日

書面之趣ハ本年當省乙第三十九號達之通可相心得事

福島縣ヨリ內務省ヘ伺十年四月二十四日

神社佛寺共古來所持ノ什物衆庶寄附ノ諸器并祠堂金或ハ持添ノ田畑山林寄附金古文書類等處分ノ儀神  
官僧侶ハ勿論氏子檀家ノモノヨリトモ自儘ニ處分可致筋無之若シテ不得止儀有之候ハ、本省ヘ可申立儀  
ハ明治六年第二四十九號公布同九年敎部省達書第三號例規ノ通ニ候處寺院修繕其他寺用ノ爲メ一  
時不得已借財候者有之節ハ、除却地外進物及寄附物寺附什器等抵當ニ書入候向ハ法類檀家協議ノ上檀家二  
名以上連署各本寺法類等承認ヲ受テ本寺ニ於テ右様ノ儀有之節ハ、一得止買却スルモノハ御省ノ伺ヲ經書  
敎部省達書第十一號ヲ以御達相成右前後ノ御布令ニヨリハ、一得止買却スルモノハ御省ノ伺ヲ經書



入等ニ致スモノハ法類檀家協議シテ本寺等ノ承認ヲ得レハ其儀ニ及ハサルコトニ可有之然ルニ書入レノ儀ハ借額延滞スル時ニ當リ其物件ヲ以テ辨償スヘキハ契約中債主債主等ノ目的トスル處ニ候得ハ到底借額ノ延滞ニ依リ書入レノ物件ヲ以テ辨償シ共寺院ノ財產ヲ耗費スルニ至リテ前頭直ニ買却スルモノト同一ニシテハ御省ノ伺ヲ經一ハ寺檀ノ專決ヲ以處分ス取扱上區區ニ涉リ不都合ト存候處右ニ關シ現今伺出ノ者モ有之依テ相伺候條至急御指揮相成度此段相伺候以上

書面社寺抵當物之儀ハ本年七月當省乙第三十九號達書之通可心得事

大阪府ヨリ內務省ヘ伺十月二十五日

神社并寺院ニ於其社寺之爲メ金穀借入候節抵當物之儀ニ付本年第四十三號公布相成候ニ付而者氏子檀家ト協議之上總代二名以上連署之證書差入相對ヲ以借入候トモ地方應ニ於テハ關係不致誤ニ相見候得共該社寺之取締ニモ關シ候儀ニ付其都度出願爲致候上篤ト取糺事實不得止ニ於テハ買入買却トモ地方應限リ可開屆様致度此段至急相伺候也

內務省指令十二年九月二十五日

書面社寺抵當物之儀ハ本年七月當省乙第三十九號達書之通可心得事

大阪府ヨリ內務省ヘ伺十月二十五日

神社并寺院ニ於其社寺之爲メ金穀借入候節抵當物之儀ニ付本年第四十三號公布相成候ニ付而者氏子檀家ト協議之上總代二名以上連署之證書差入相對ヲ以借入候トモ地方應ニ於テハ關係不致誤ニ相見候得共該社寺之取締ニモ關シ候儀ニ付其都度出願爲致候上篤ト取糺事實不得止ニ於テハ買入買却トモ地方應限リ可開屆様致度此段至急相伺候也

內務省指令十二年九月二十五日

書面社寺抵當物之儀ハ本年七月當省乙第三十九號達書之通可心得事

大阪府ヨリ內務省ヘ伺十月二十五日

神社并寺院ニ於其社寺之爲メ金穀借入候節抵當物之儀ニ付本年第四十三號公布相成候ニ付而者氏子檀家ト協議之上總代二名以上連署之證書差入相對ヲ以借入候トモ地方應ニ於テハ關係不致誤ニ相見候得共該社寺之取締ニモ關シ候儀ニ付其都度出願爲致候上篤ト取糺事實不得止ニ於テハ買入買却トモ地方應限リ可開屆様致度此段至急相伺候也

內務省指令十二年九月二十五日

書面社寺抵當物之儀ハ本年七月當省乙第三十九號達書之通可心得事

大阪府ヨリ內務省ヘ伺十月二十五日

神社并寺院ニ於其社寺之爲メ金穀借入候節抵當物之儀ニ付本年第四十三號公布相成候ニ付而者氏子檀家ト協議之上總代二名以上連署之證書差入相對ヲ以借入候トモ地方應ニ於テハ關係不致誤ニ相見候得共該社寺之取締ニモ關シ候儀ニ付其都度出願爲致候上篤ト取糺事實不得止ニ於テハ買入買却トモ地方應限リ可開屆様致度此段至急相伺候也

內務省指令十二年九月二十五日

書面社寺抵當物之儀ハ本年七月當省乙第三十九號達書之通可心得事

大阪府ヨリ內務省ヘ伺十月二十五日

神社并寺院ニ於其社寺之爲メ金穀借入候節抵當物之儀ニ付本年第四十三號公布相成候ニ付而者氏子檀家ト協議之上總代二名以上連署之證書差入相對ヲ以借入候トモ地方應ニ於テハ關係不致誤ニ相見候得共該社寺之取締ニモ關シ候儀ニ付其都度出願爲致候上篤ト取糺事實不得止ニ於テハ買入買却トモ地方應限リ可開屆様致度此段至急相伺候也

內務省指令十二年九月二十五日

書面社寺抵當物之儀ハ本年七月當省乙第三十九號達書之通可心得事

大阪府ヨリ內務省ヘ伺十月二十五日

神社并寺院ニ於其社寺之爲メ金穀借入候節抵當物之儀ニ付本年第四十三號公布相成候ニ付而者氏子檀家ト協議之上總代二名以上連署之證書差入相對ヲ以借入候トモ地方應ニ於テハ關係不致誤ニ相見候得共該社寺之取締ニモ關シ候儀ニ付其都度出願爲致候上篤ト取糺事實不得止ニ於テハ買入買却トモ地方應限リ可開屆様致度此段至急相伺候也

內務省指令十二年九月二十五日

書面社寺抵當物之儀ハ本年七月當省乙第三十九號達書之通可心得事

大阪府ヨリ內務省ヘ伺十月二十五日

神社并寺院ニ於其社寺之爲メ金穀借入候節抵當物之儀ニ付本年第四十三號公布相成候ニ付而者氏子檀家ト協議之上總代二名以上連署之證書差入相對ヲ以借入候トモ地方應ニ於テハ關係不致誤ニ相見候得共該社寺之取締ニモ關シ候儀ニ付其都度出願爲致候上篤ト取糺事實不得止ニ於テハ買入買却トモ地方應限リ可開屆様致度此段至急相伺候也

內務省指令十二年九月二十五日

書面社寺抵當物之儀ハ本年七月當省乙第三十九號達書之通可心得事

大阪府ヨリ內務省ヘ伺十月二十五日

神社并寺院ニ於其社寺之爲メ金穀借入候節抵當物之儀ニ付本年第四十三號公布相成候ニ付而者氏子檀家ト協議之上總代二名以上連署之證書差入相對ヲ以借入候トモ地方應ニ於テハ關係不致誤ニ相見候得共該社寺之取締ニモ關シ候儀ニ付其都度出願爲致候上篤ト取糺事實不得止ニ於テハ買入買却トモ地方應限リ可開屆様致度此段至急相伺候也

第一項

信徒ヲ以テ檀家ニ準スヘシ

但組寺法類等連署ノ儀ハ伺之通

第二項

取調局意見十二年二月五日

明治十年第四十三號公達總代二名以上ノ連印ヲ要ス云云ハ數多氏子檀家アル社寺ニ就テ定ムル所ナリ檀家僅ニ一名ニ止ルノ寺ノ如キハ此達ヲ適用シ難シ又強テ準檀家ヲ作ルニ及ハス因テ第一條左ノ如ク改案相成可然歟ト存候也

改案

第一項伺之通

愛媛縣ヨリ內務省ヘ伺十三年三月十二日

一明治十二年御省乙第三十九號ヲ以テ社寺寶物古文書取扱方御達相成就テハ同年御省乙第二十二號御達ニ依リ調製セシ目録帳中へ記載ノ物品ヲ抵當ト爲サント欲シ出願シ全ク寶物古文書ニアラサル分ハ地方應限リ認可可シカラサル旨ニ之アリ然ルニ右寶物古文書ト見認ルモノヲ抵當ト爲サント欲シ出願スルモノ一切認許スヘカラサル儀ニ候哉又ハ明治六年第二百四十九號公布ニ依リ取扱可然哉

一前條寶物古文書ヲ各府縣廳ヨリ博覽會ヘ陳列ノ儀掛合之アルトキハ請求ニ應シ出品致サセ可然哉

右至急御指令相成度此段相伺候也

內務省指令十三年四月十二日

書面之趣左ノ通可相心得事

第一條

十二年當省乙第二十二號達ニ因リ調製セシ目録帳ヘ記載ノ分ハ渾テ抵當ト爲ス可ラス

第二條

官國幣社ヲ除ク外ハ伺ノ通

但取調無之様注意スヘシ

愛媛縣ヨリ內務省ヘ伺十三年十一月十六日

當縣讚岐國鞆足郡長尾村鎮座村社三島神社末社山田神社本殿及ヒ拜殿トモ先年大破ニ及ヒ同社修覆田ヲ抵當トナシ借入金ヲ以テ修繕候處兩來償却方法不相立趣ヲ以テ右修覆田五段九畝二十七步賣却ノ儀別紙之通願出取調候處事實相違無之ニ付御聽許相成度願書相添此段相伺候也

追テ本土地所ノ儀ハ同村共有地ヲ修覆田ト爲シ其原由取調中ニテ先般進達ノ明細帳ニ登記無之候得共其後同社ノ附屬ト確定セシニ依リ斯ク出願候間御開置相成度此段副申仕候也

內務省指令十三年十二月二十日

書面之趣聞届候事

社寺門 神社一



社寺附屬ノ地所物品ハ  
管理ノ際可キニテ  
抵當質買ヲ許サス

東京府布達 甲第十二号七月二十八日  
社寺ニ於テ金穀借入ノ儀ニ付明治十年五月第四十三號公布ノ旨有之候處尙今般其筋ヨリ達シノ趣モ有之候ニ付自今社寺附ノ地所建物其他物品等總テ當廳ノ認可ヲ得サルモノハ抵當質買共一切爲スヘカラス此旨布達候事

社寺什器處分方ヲ定ム

東京府達 丙第十二号七月三十日  
別紙戊第六十七號ノ通神官住職ニ相達候條心得ノ爲メ此旨相達候事

(別紙)  
戊第六十七號 七月三十日

神官  
住職

社寺ノ寶物古文書等ハ當廳ニ於テ取締厚ク保護候ニ就テハ今般調製スヘキ目録帳ヘ記載ノ物品ハ勿論縱令記載セサル分ト雖モ格別ノ由緒アル地所建物等ハ明治十年第四十三號公布ノ通抵當ト爲ス可ラサル筋ニ有之依テ其他ノモノト雖モ自今其社寺ノ爲メニ抵當ニ爲サント欲スルトキハ一應氏子檀家連署ヲ以區戸長ヲ經由シ當廳ニ具狀ノ上認可ヲ請ヘキ儀ト心得ヘシ此旨相達候事

東京府達 乙第十二号七月十日

社寺永續保存其他ノ事務ハ神官住職及ヒ氏子檀家ニ於テ負擔スヘキ勿論ニ付氏子檀家中總代人選定方注意スヘキ筈ノ處等閑ノ向モ有之趣ニ付更ニ各社寺ニ於テ其氏子檀家中三名以上ノ總代人ヲ公選シ本月二十五日限リ人名届出候様取計ヘシ此旨相達候事

社寺保存ニ付氏子檀家ノ總代人ヲ公選セシム  
十九年三月東京府達丙第  
四十八號ヲ以テ社寺氏子  
檀家總代選定届及ヒ神官  
住職印鑑届出方ヲ定ム

社寺總代人選定及ヒ收  
入財産取調方ヲ定ム

内務省達 乙第十二号七月二十一日

各管内社寺總代人ノ儀氏子檀家中 氏子檀家ナキ 相應ノ財産ナ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相選ミ戸長役場ヘ届出サセ今後該社寺ノ願届等ハ渾テ連署ヲ以可爲差出且社寺收入財産ハ 田畑山林ノ所得ハ勿料等一切ノ受 其共有ニ屬スヘキモノト其神官住職ニ付スルモノト豫約毎社寺適宜相定平素混亂セサル様取調方可爲致此旨相達候事

但神官官國幣社ハ非此限

東京府布達 甲第十二号九月二日

社寺ニハ從前三名以上ノ氏子檀家若クハ信徒總代人ヲ公選シ維持保存方ヲ始メ金穀出納ニ至ル迄共議取扱ハシメ候處猶社寺ノ願届ハ總テ其總代人連署ヲ以テ差出スヘシ且社寺收入財産ハ其共有ニ屬スヘキ物ト其神官住職ニ付スヘキ物トナ毎社寺適宜ニ豫約シ平素混亂セサル様致置クヘシ此旨布達候事但シ官國幣社ハ此限ニ非ス

社寺局ヨリ内務省ヘ伺十四年六月二十七日

從來社寺ト神官住職ハ相離ル可ラサル慣習ニ付其社寺ノ盛衰ハ神官住職ノ任ト別ニ總代人ノ選定等ヲ要セサルノ所神官ハ四年七月公布ヲ以テ世襲ヲ解カレ住職ハ俗籍ヲ可定旨七年第八號公布有之爾來一變スト雖モ社寺ノ收入ハ専ラ神官住職ノ主管スルモノニ付自然從前ノ慣習ニ泥ミ其收入所得ヲ以テ私有ノ看ヲ做ス者尠カラス就テハ總代人ヲ公選セシメ收入分附ノ豫約ヲ設クル等取締不立トキハ往社寺ノ衰頹ヲ醸ス而已ナラス一旦退職死亡等ニ當テモ社寺ニ屬スルモノト否トノ紛議ヲ惹起候ニ付如左相伺候

内務省ヨリ開拓使ヘ通達十四年四月二十一日

別紙乙第三十三號之通各府縣ニ相達候條同様御心得有之度此段及御通達候也

新潟縣ヨリ内務省ヘ伺十四年十一月一日

第一條 本年七月御省乙第三十三號御達中ノ豫約ハ神官住職ト氏子檀家トノ約束ヲ云フモノト相心得可然哉  
第二條 果シテ前條ノ通ニシテ豫約上若シ紛糾ヲ生シ説諭ニ服セサル場合ニ於テハ民事ノ裁判ヲ受ケサスヘキヤ  
第三條 豫約上不當ノ約束ト見認ルニ於テハ地方廳之レカ改正ヲ命スル不苦哉  
第四條 甲社寺氏子檀家乙社寺ハ氏神或ハ寺換致候節甲社寺財産共有權ハ同時ニ消滅シ乙社寺ノ共有權ヲ有スルモノト可相心得哉



右條條差掛り候儀有之相伺候條至急御指揮相成度候也  
 內務省指令十四年十一月二十九日  
 書面ノ趣左ノ通可心得事  
 第一條 伺ノ通  
 第二條 其都度伺出ツヘシ  
 第三條 協議ニ可爲任  
 第四條 共有ハ全ク其社寺所有ト可心得依テ氏子檀家各自ニ共有ノ權ヲ得ヘキモノニアラス  
 德島縣ヨリ內務省ヘ伺十四年十一月十六日  
 御省本年乙第三十三號ヲ以テ社寺總代人選舉之儀御達相成候ハ專フ社寺ヲ保護維持セシメラル、ノ御  
 趣旨ニ出タルモノト被相考候果シテ然ラハ氏子檀家僅少信徒却テ夥多ニシテ其維持方法等總テ信徒ニ  
 依頼セザレハ維持難相成社寺ニ限リ氏子檀家并信徒之内ヨリ總代人選定爲致候儀特別ノ御詮議ヲ以被  
 差許候條致度差掛り候儀有之此段相伺候條至急何分ノ御指令有之度候也  
 內務省指令十四年十二月十二日  
 書面伺之通  
 但氏子檀家ノ協議ヲ要シ候儀ト心得ヘシ

神社へ寄附ノ物品届出  
 方ヲ定ム

內務省社寺局通達 十五年二月二十八日  
 一社へ寄附物品届出ノ節記載方區區相成疎漏之廉不少候條自今月末取纏届出之分ハ明治八年教部省甲  
 第七號達古文書寶物取調雜形ニ照準可被差出且教部省該達ニ依リ届出以後即今迄寄附ノ分同様取調本  
 年六月中ヲ限り可被差出此段及通達候也  
 追テ土地并建物等ノ寄附ハ詳細取調其都度被伺出候方ニ有之候此段申添候事

東京府下社寺へ地所物  
 品ヲ寄附スル者取扱方  
 ナ定ム

東京府達 十六年一月十三日  
 丙第五號神官官署社寺住職  
 神社寺院へ地所其他ノ物品ヲ寄附シ又ハ該社寺ノ資金ヲ以テ買得スル等ハ自今不及出願候條地所ノ寄  
 附買得ハ其時地券書換ノ儀申出他ノ物品ハ一箇年分取調翌年一月限り神社ハ神官氏子總代寺院ハ住  
 職檀家總代及ヒ本寺連署ノ上戸長ノ奥印ヲ受ケ届出ヘシ此旨相達候事

社寺ノ財産ニ關スル請  
 願手續ヲ定ム  
 十五年十二月布告第五十  
 八號請願規則ハ文書門受  
 付ノ目ニ載ス

大藏省何十六年六月十九日  
 請願規則第四條ニ其連名ヲ以テ請願スル者ハ各人自ラ署名捺印云云トアリ付テハ社寺ノ財産ノ共有物  
 ニ關シ請願者アルトキハ其神官住職并共有者各自連署捺印ヲ要スヘキ筋ニ候得共從來社寺財産ノ儀ハ  
 他會社等ノ共有物ト其性質ヲ異ニスルモノニ付實際本條ニ據ル能ハサルヲ以明治十四年內務省乙第三  
 十三號達ノ手續ニ依リ請願候者有之時ハ受理致シ可然哉此段相伺候至急御指揮有之度候也  
 指令 十六年七月二日

伺ノ通

參事院議案十六年六月二十五日  
 別紙大藏省伺請願規則ノ件審査スル處左ノ如シ  
 案スルニ社寺ノ財産取扱ニ關シテハ明治十四年內務省乙第三十三號ヲ以テ布達ニ依リ公然總代ヲ立  
 ツルモノナレハ右財産ニ關シタル請願ハ普通一般ノ人民若クハ會社等ヨリ請願スルモノト自ラ其性  
 質ヲ異ニスル場合モ有之候ニ付請願規則第四條ニ據ラス總代人ヲ以テ請願スルモノ別ニ妨クナカルヘ  
 シ依テ伺ノ通御裁可相成可然ト認定ス  
 右ニ由リ指令案左ノ通ニテ可然哉上申候也

山梨縣ヨリ司法省ヘ伺十七年六月二十四日  
 寺院ニ於テ其寺院用ノ爲メ金穀ヲ負債シ期限ニ至ルモ返償ナラス竟ニ訴訟ノ末身代限被申付タリ然ル  
 ニ寺院身代限財産取調方ハ是迄類例モ無之候得共明治六年第八十八號公布僧侶身代限規則ヲ適用調査  
 候儀ト心得可然哉  
 若シ神社ニ於テ前項ノ場合ニ遭遇スルトキ共財產ハ何等ノ手續ニ據リ調査スヘキ儀ニ候哉  
 司法省指令 十七年七月九日

社寺身代限ニ付財産取調ノ手續ハ通常ノ規則ニ準スヘク其抵償トシテ差押フヘカラサル物件ハ左ノ通  
 心得ヘシ

- 一 神體佛像及其附屬物
  - 二 社寺附除稅地
  - 三 寶物古文書類
- 但別段由緒アル地所建物ハ本文ニ準ス



四特別ノ契約アル寄附物  
五祭祀法用ニ必用ナル建物及什物

東京府下社寺氏子禮進  
總代理選定届及社官住  
職印鑑届方ニ定ム

東京府達 十九年三月二十二日  
丙第四十八號府社以下社官寺職住職印鑑字受持人  
社寺氏子禮進總代理選定届并神官住職印鑑届ノ儀ハ今後當廳へ届出ニ及ハス候條所轄區役所戸長役場  
村役場へ届出ヘシ

社寺修復ノ爲メ富興興  
行ヲ禁ス

東京府布達 元年九月四日(警察門行政費)  
近來社寺之内社堂大破ニ付普請修復之爲メ頼母子講取立候趣申觸シ其筋へ出願モ不致富興行同様之儀  
相催金銀食取候者有之趣相聞社人僧侶ニ有之間敷所業不埒ノ至ニ候若此上富興行ニ紛敷儀相催候者有  
之於テハ無用捨召捕吟味之上嚴重之咎可申付事

社寺再建等ニ托シ富興  
興行ヲ禁ス

布告 元年十二月二十三日(刑法門刑罰則)  
富興行之儀ハ兼テ御制禁ニ有之處近年諸國ニ於テ金錢融通ヲ名トシ或ハ社寺再建等ニ托シ興行致候向  
モ有之趣元來澆季之弊風僥倖之利ヲ以テ民心ヲ誘惑スルヨリ自然農工商共其職業ヲ惰リ往往之カ爲ニ  
家産ヲ破候者モ不少哉ニ相聞へ以テ外之事ニ候斯ク御一新之折柄右様之所業殊ニ御趣意ニ相戻リ候儀  
ニ付更ニ嚴禁被仰出候事

社寺修復及ヒ境内開設  
等ノ處分方

伯太藩伺節錄 四年二月二十七日  
一 式内式外ノ神社及破損候節從來瓦葺ニ有之分新規檢皮ニ替替候テ不苦候儀ニ御座候哉  
指令 四年五月二十五日  
一 藩内官員ノ内職掌ニ寄從來忌差免神事ノ外出仕爲仕來候處御一新後御規律モ御座候ニ付如何相心得  
伺ノ通

可然御座候哉

指令 同上

追テ御規則相立候迄先從前ノ通可相心得尤奏任以上ノ輩ハ無餘儀次第有之節ハ可伺出事

一 神社寺院へ舊領主ヨリ寄附ノ分昨午年限リ被止候ニ付テハ向後社寺共修復ノ手當并社人僧侶生活ノ  
爲境内不差支場所開發願出候得ハ承届候テモ不苦御座候哉

指令 同上

現在ノ姿ヲ以取調地圖相添伺ノ上可取計事

一 伯太藩伺書面中共御官關係ノ分御見込可有之候也

一 伯太藩伺節錄 四年三月五日

伯太藩ヨリ式内式外ノ神社破損ノ節ハ檢皮ニ替替不苦哉ノ儀伺ノ通第三條神社修復ノ手當トシテ開拓  
開届不苦哉ノ儀伺ノ通ニテ可然存候但民部省規則モ有之候事ニ付同省へ見込御尋問有之度存候仍テ本  
紙相添此段申進候也

一 民部省意見 四年三月四日

伯太藩伺社家根替替共外五箇條ノ内當省關係四箇條ノ件取調候處三箇條境内地ノ内開發願ノ趣舊  
冬御布告ニ基キ可然筋ニハ候得共一體社寺境内ト雖モ實地廣狹ニ隨ヒ御詮議筋モ可有之處右等開發可  
相成地ハ別段御處置モ可有之儀ニ付現在ノ姿ヲ以取調地圖相添申立候方可然其他四五六箇條伺ノ通被  
仰渡可然存候依之御附紙相添伺書返進此段申進候也

一 辨官ヨリ神祇官へ問合 四年五月十三日

伯太藩伺別紙ノ通附紙ノ上爲御打合御廻申入候間否御回答有之度申入候也

一 追テ御官見込民部省見込共今一應御廻申入候也

別紙伯太藩式内外神社破損替替并官員忌差免等ノ伺御打合ノ處右ハ於本官別段見込モ無之御附紙ノ表  
可然ト存候間此段及御回答候也

官社建坪ノ制限ヲ定ム

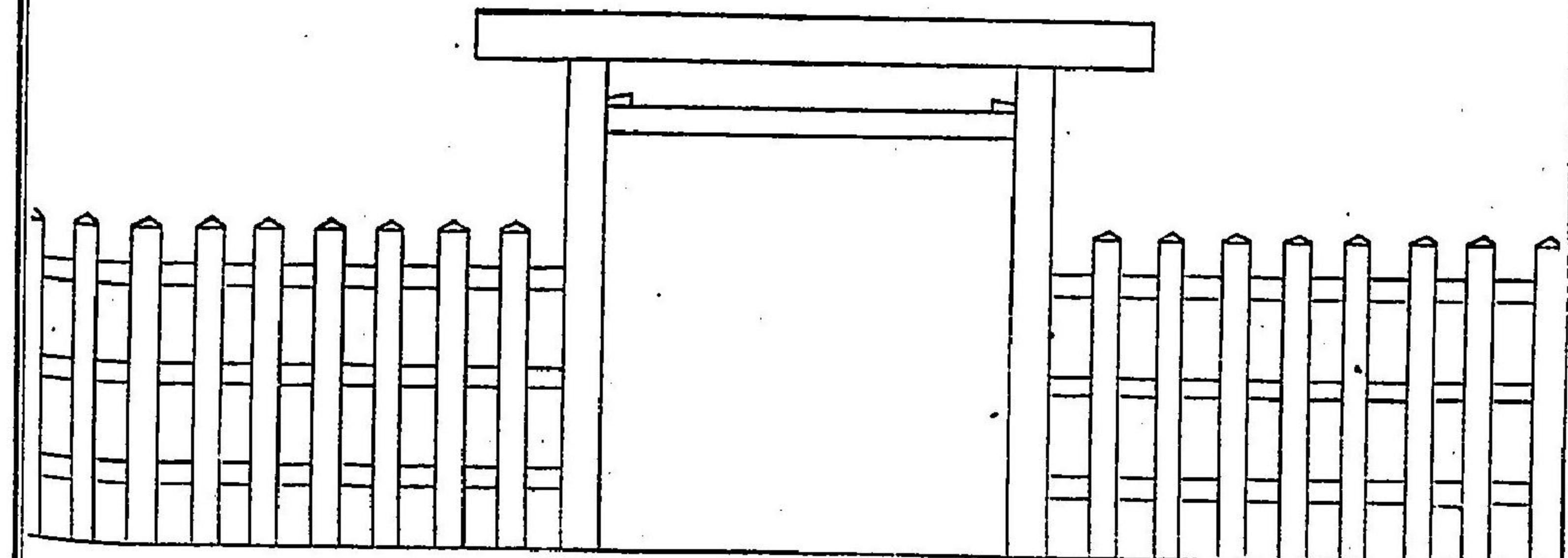
大藏省伺 五年八月十二日  
神社建坪ノ儀ハ古來ヨリ區區ノ仕成ニテ一定ノ御規則無之處先般官幣社格御定ニ相成候付テハ往往大  
破ノ分ハ官費ヲ以御造立ニモ可相成儀ニ付以後ハ社格ニ應ヒ別紙給圖面ノ通建社坪數制限御定メ相成  
度尤造リ方ノ儀ハ各社異候事ニ付建社ノ時時猶教部省取調相伺候様御達有之度此段相伺申候也  
指令 六年三月十日



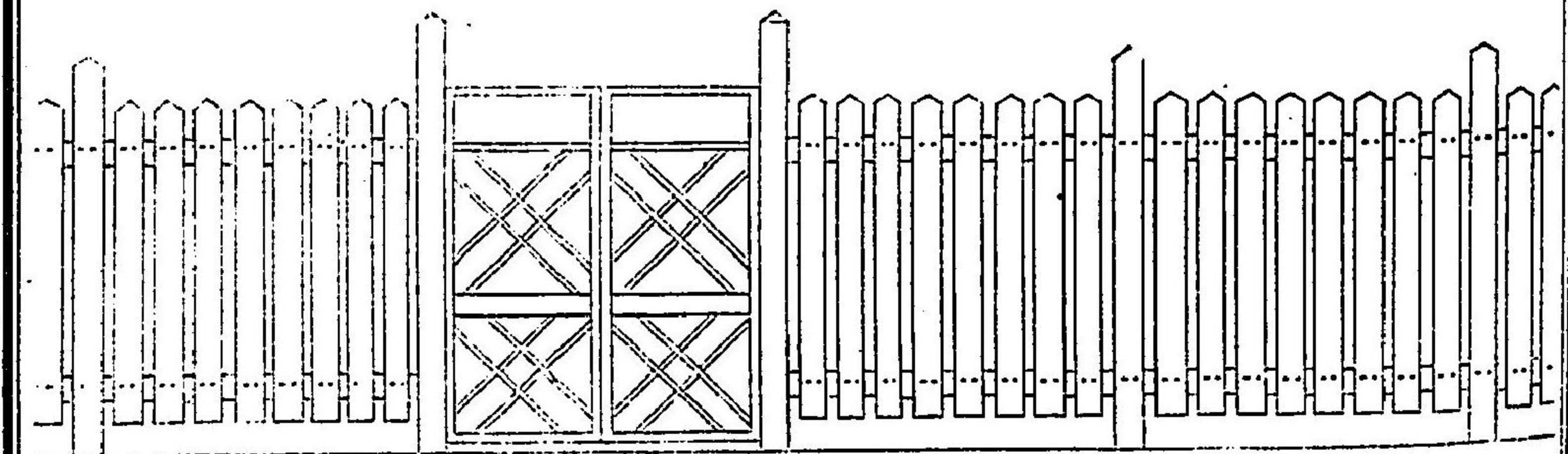
伺之通尤攝社神庫祭器庫神饌所社務所并戸等ハ別紙教部省圖面ニ  
見合セ大中小ニ差等ヲ立更ニ可伺出事  
但攝社圖中千木堅魚木ハ御採用不相成候事

大中小官社攝社造法 五十分一之圖

外玉垣鳥居 明七尺  
總高九尺



内仕切門 明五尺  
高六尺 五十分一之圖





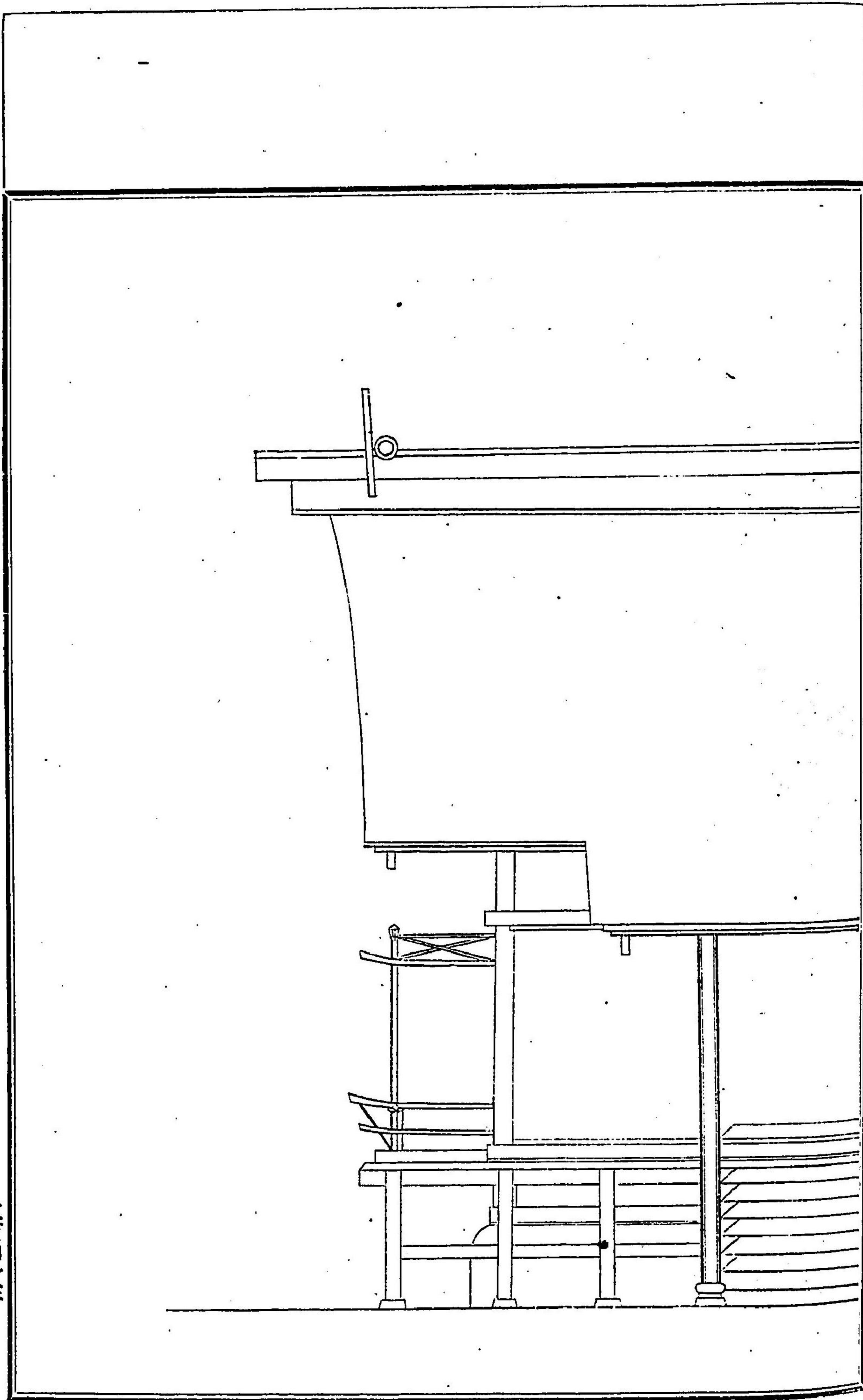
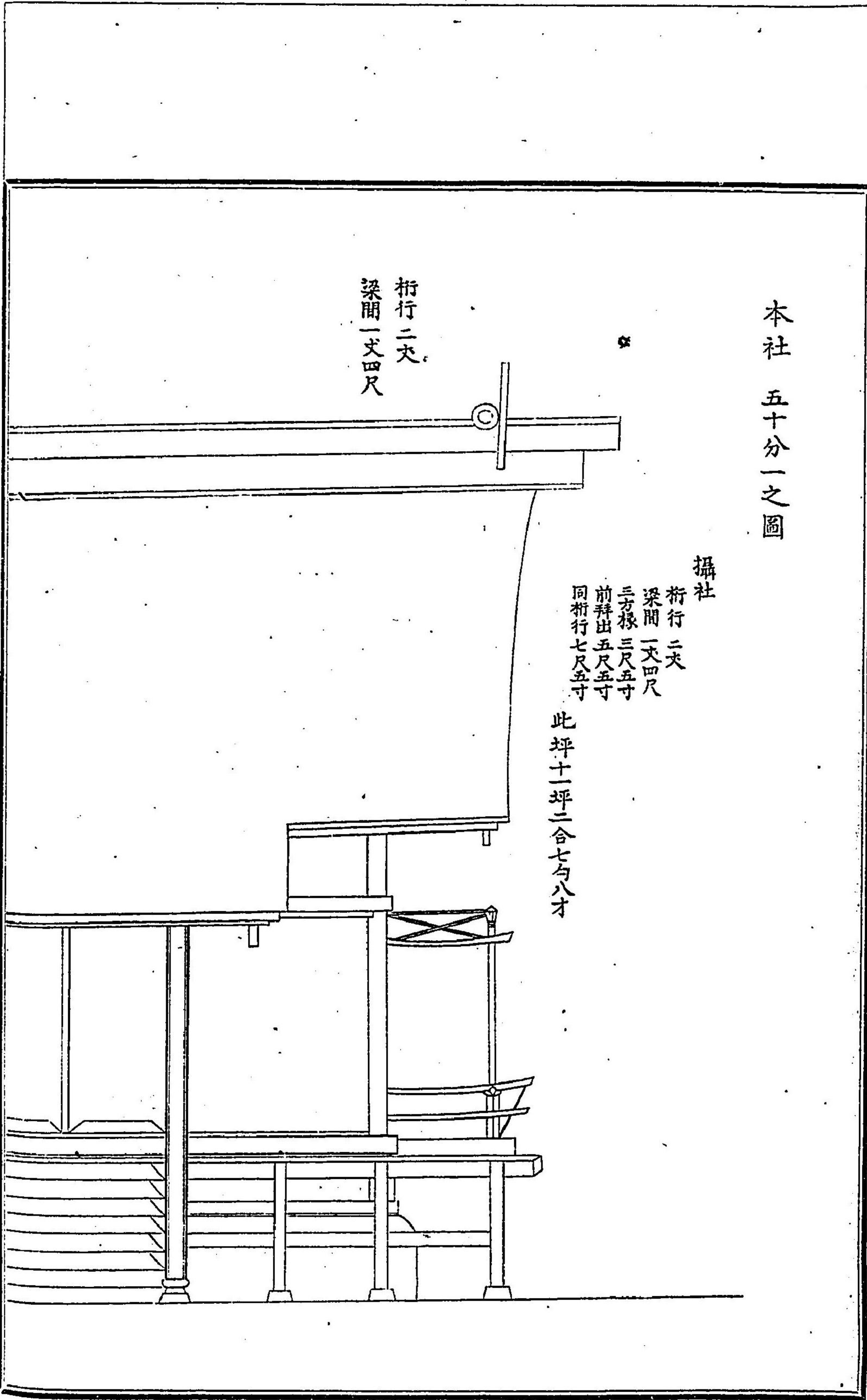
本社 五十分一之圖

攝社

桁行 二丈  
梁間 一丈四尺  
三枚椽 三尺五寸  
前拜出 五尺五寸  
同桁行 七尺五寸

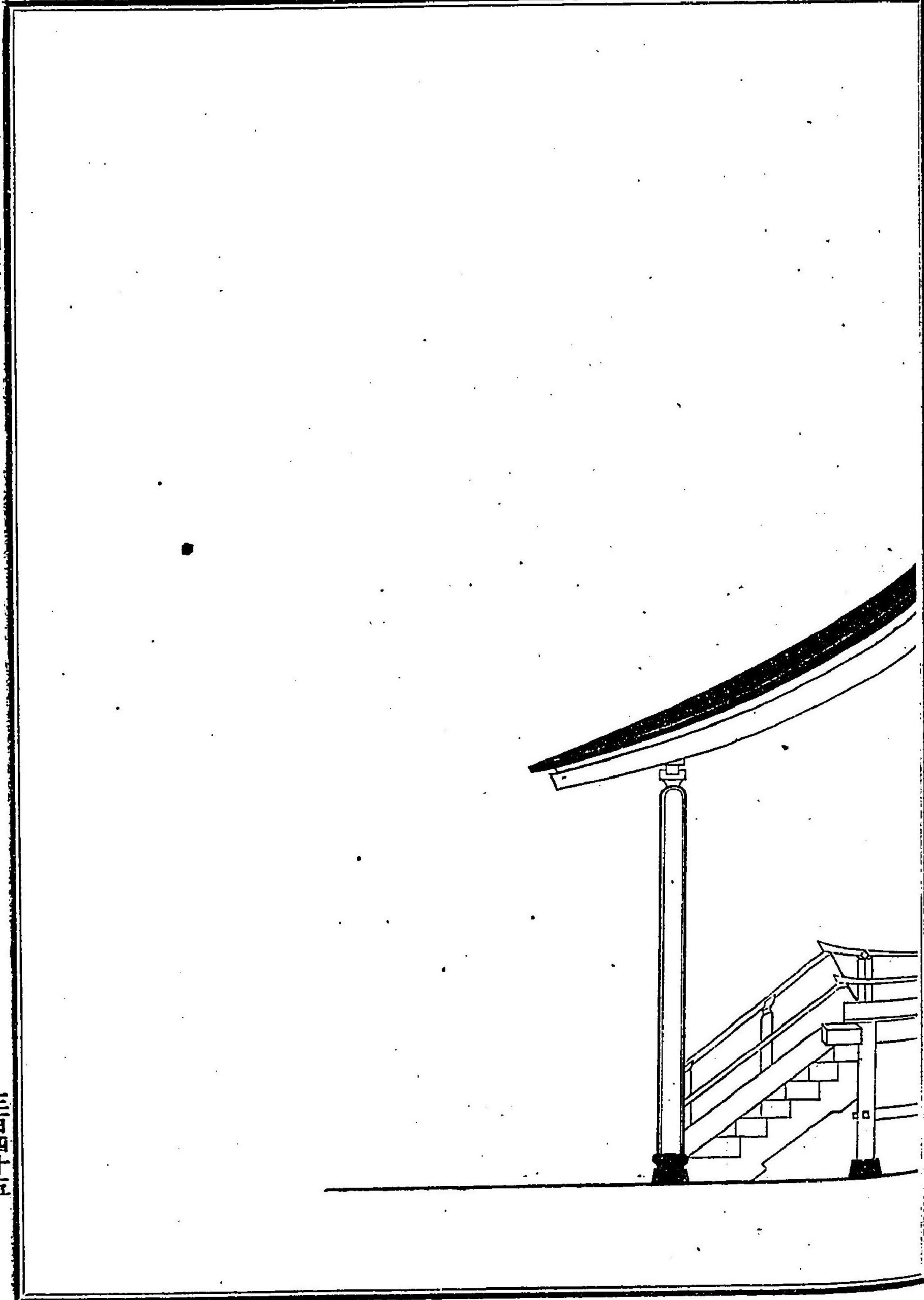
此坪十一坪二合七与八才

桁行 二丈  
梁間 一丈四尺



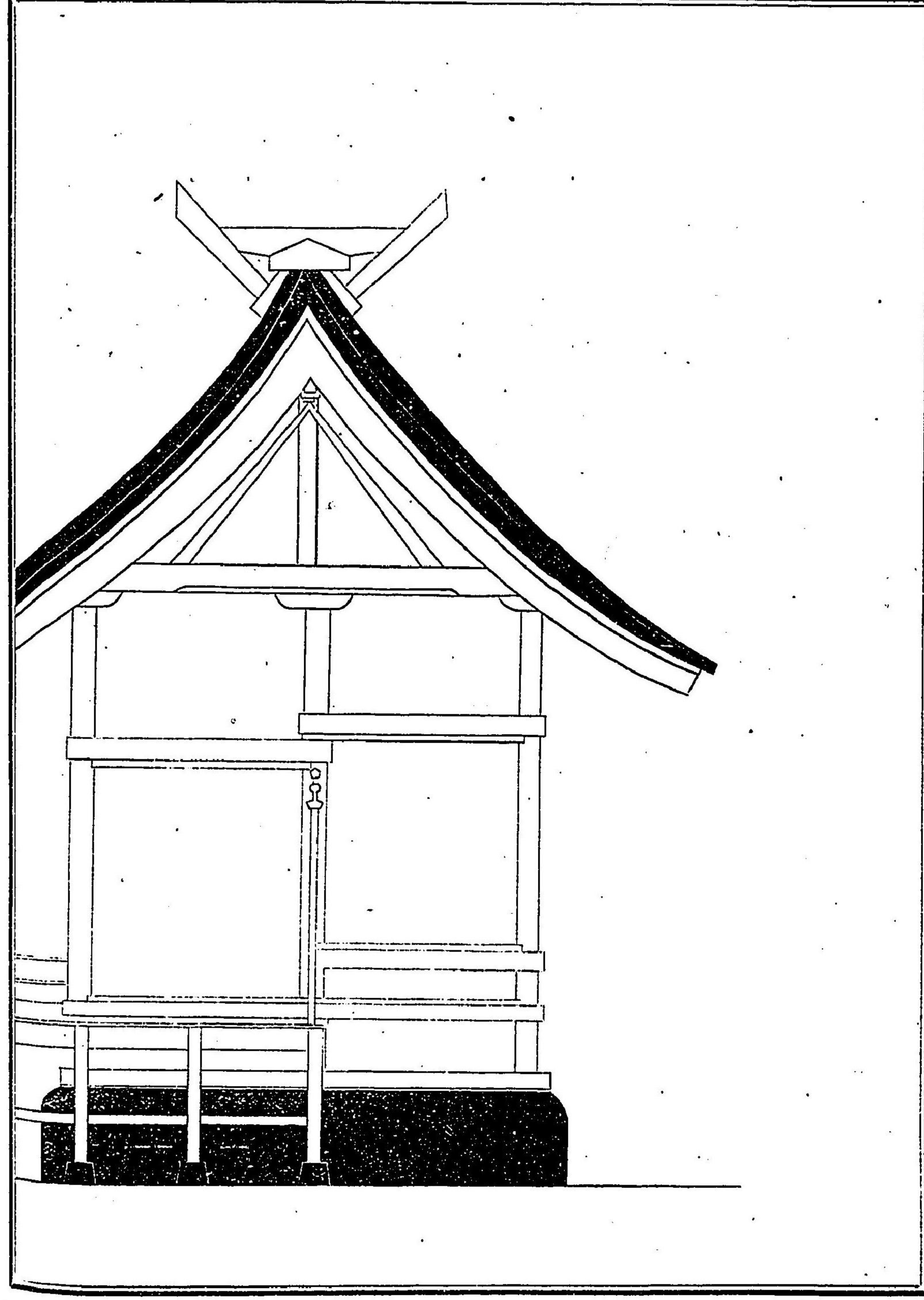


社寺門  
神社一



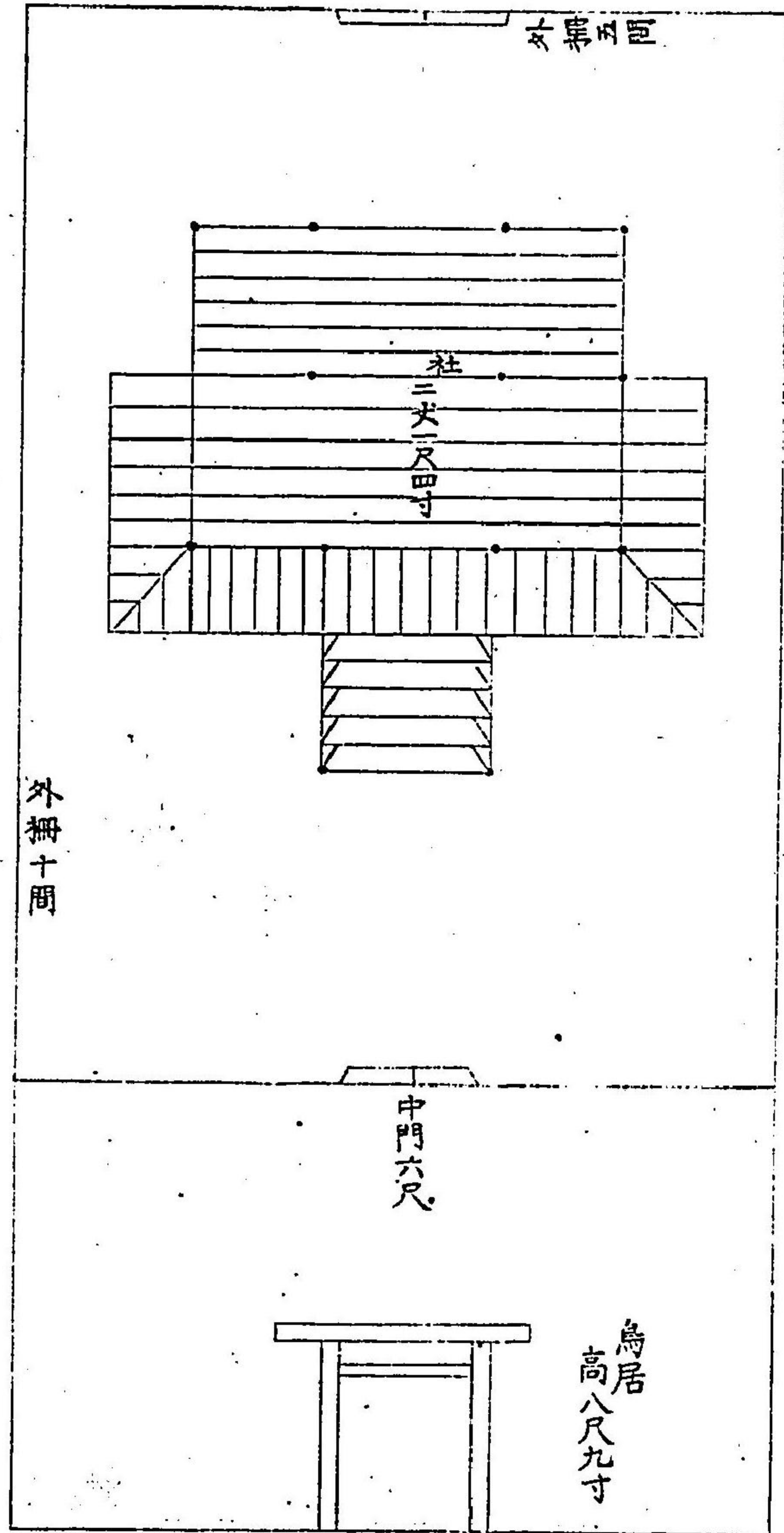
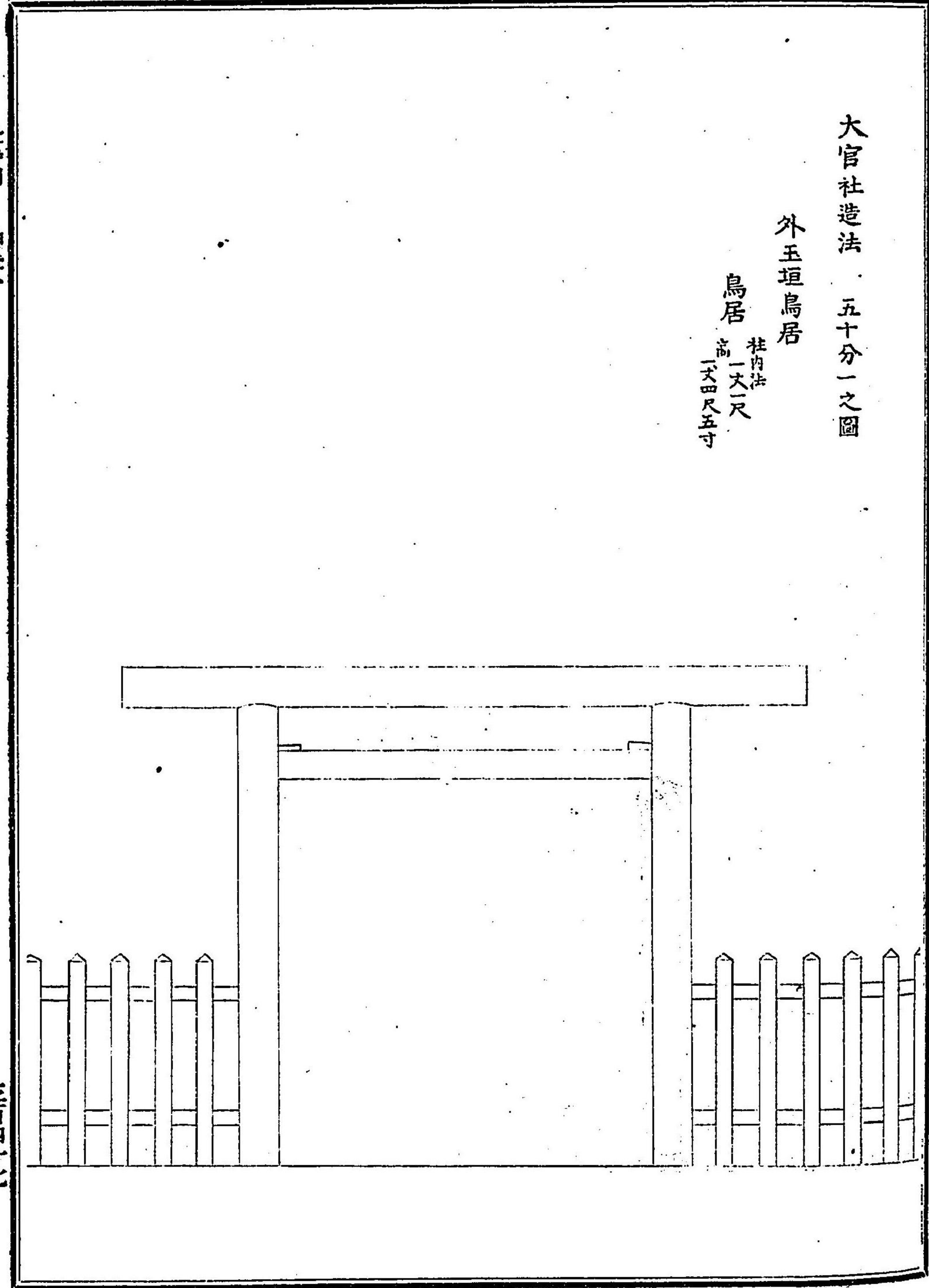
三四十五

社寺門  
神社一



三四十四

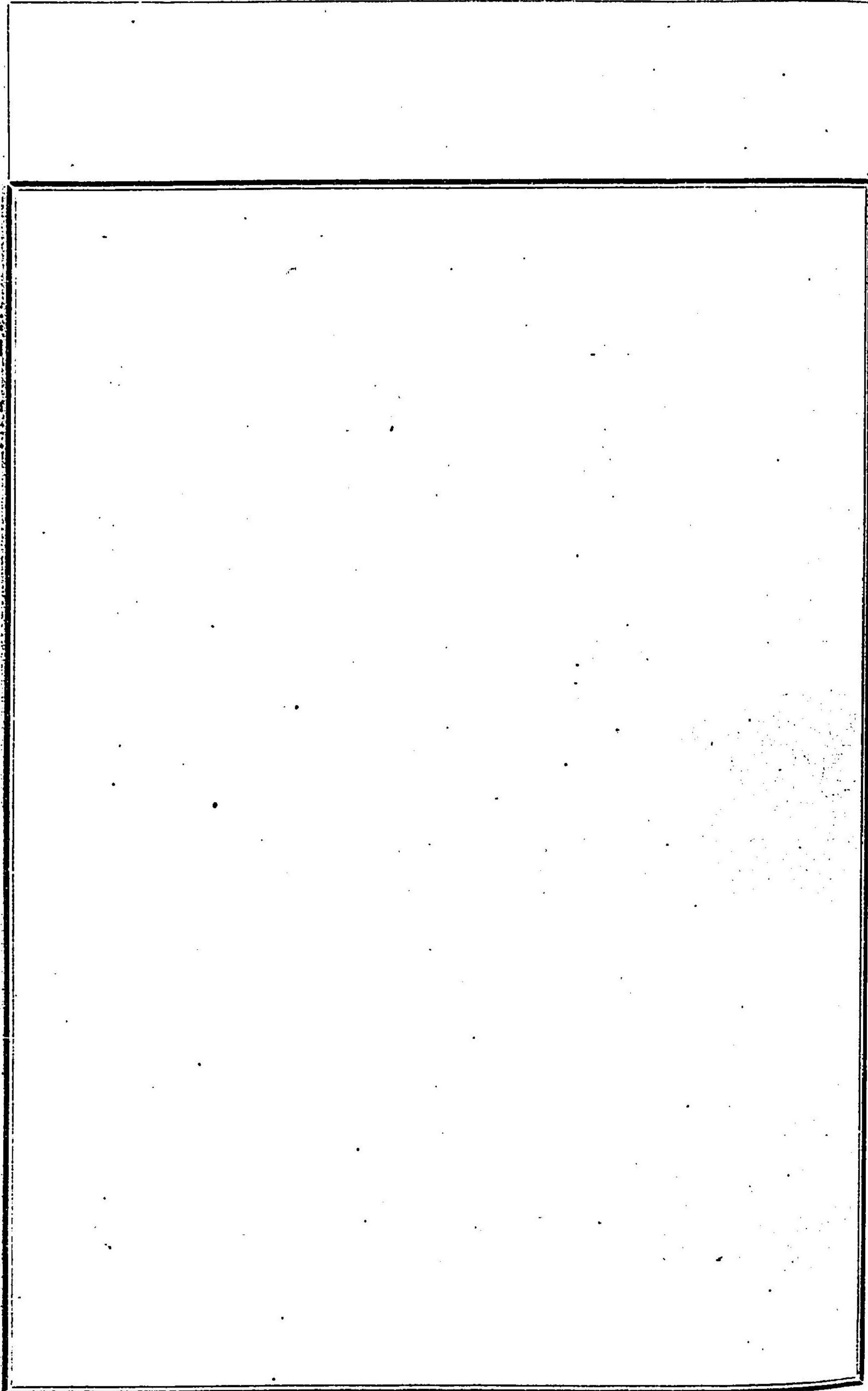






社寺門 神社一

三百四十九

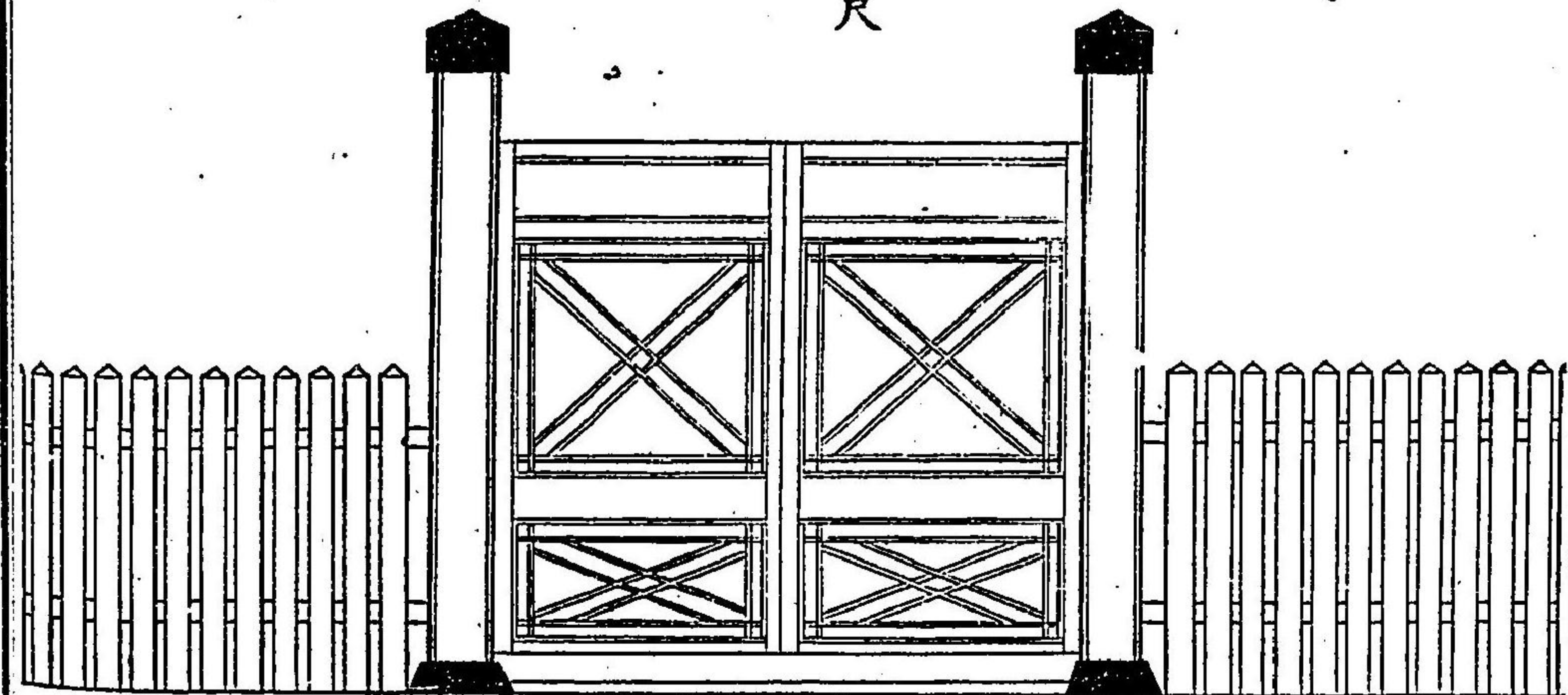


社寺門 神社一

三百四十八

内玉垣塀重門 五十分一之圖

柱内法  
高一丈  
高二丈三尺

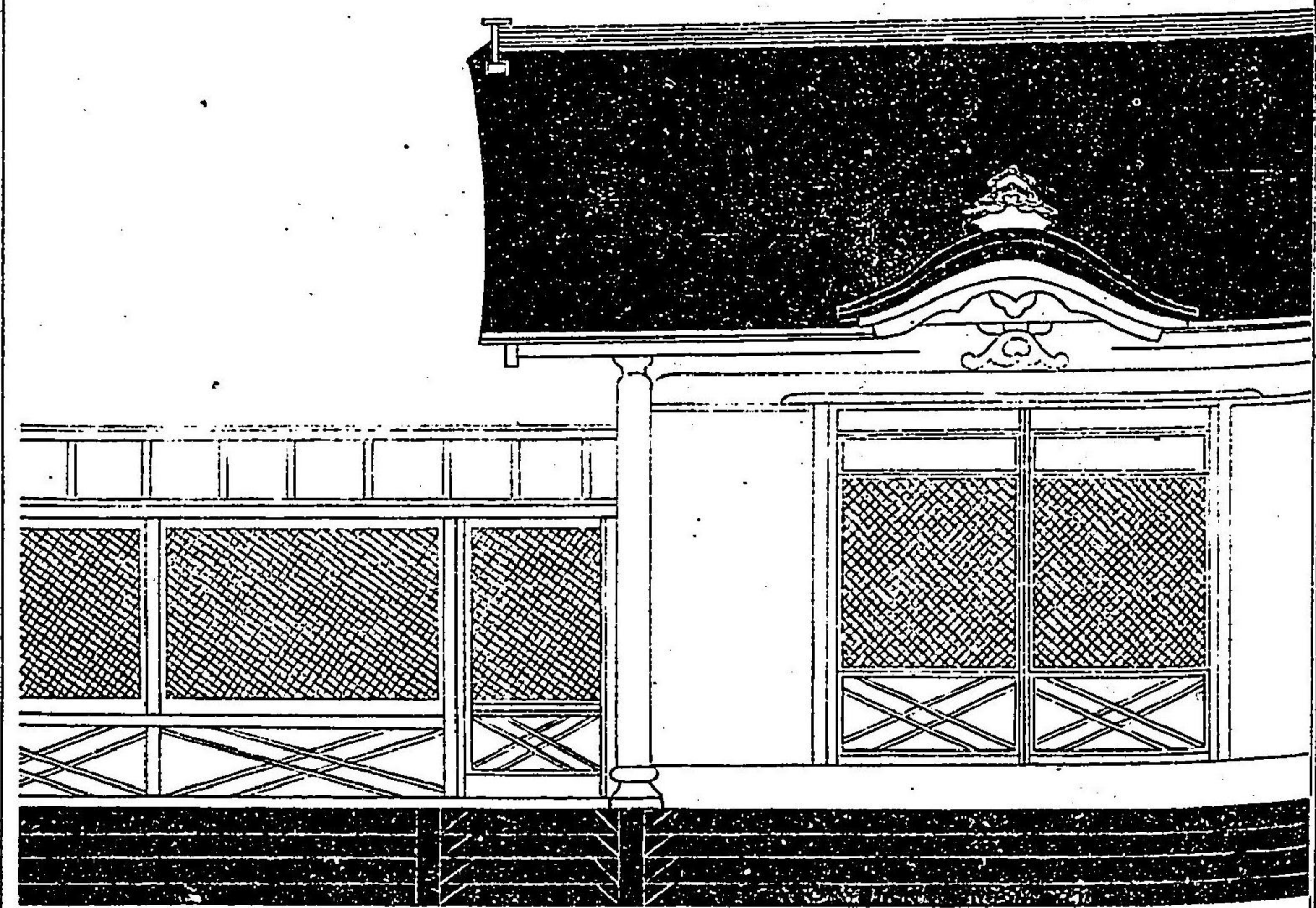




社寺門 神社一

中門  
二間半  
一間二分三釐  
此坪三坪七勺五才

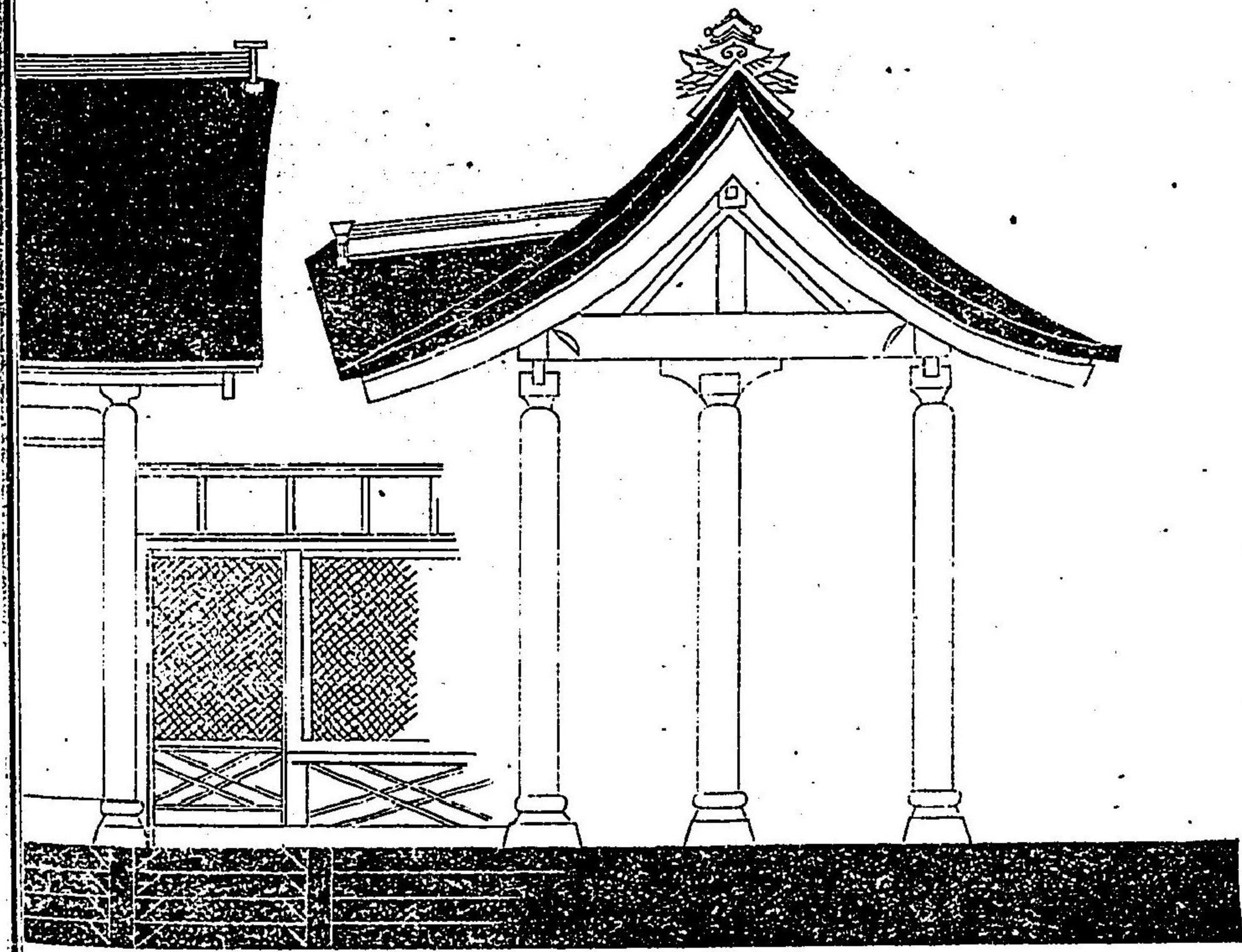
中門  
二間半  
八尺



三百五十一

社寺門 神社一

透塀中門  
五十分一之圖



三百五十二



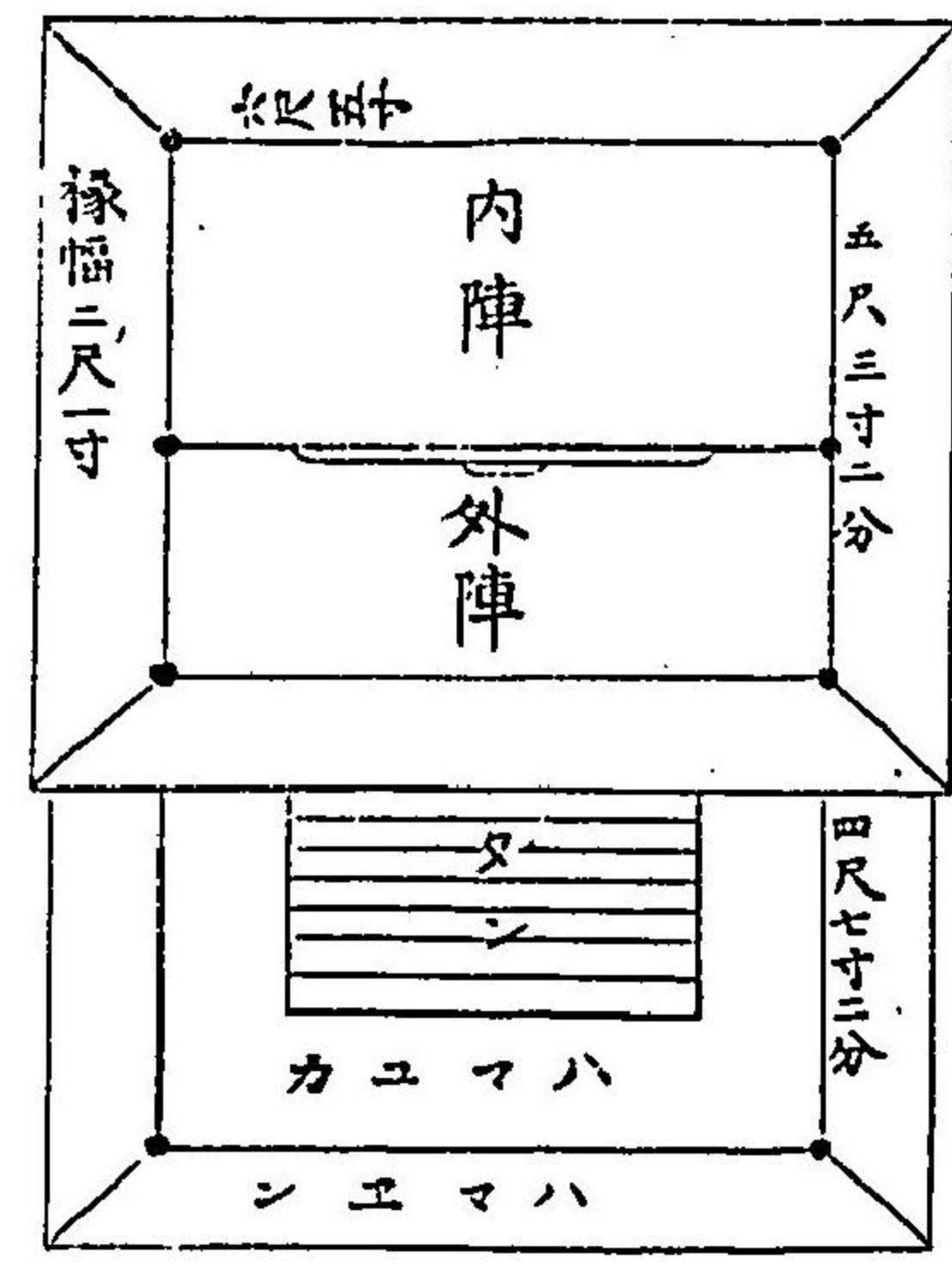
大藏省答 五年十一月十日  
 神社建坪ノ儀大藏省伺出候ニ付御打合有之候處同省見込ト異同之次第モ有之候間別紙繪圖面等取調差  
 出申候條以來新營相成候官幣社ハ右ヲ以規則ニ致シ候尤由重社ヲ始遠古ヨリ造法別格之分ハ追テ取  
 調之上建物等改正ノ圖面差出可申候依御廻答申入候也別紙圖面之ヲ略ス  
 一官幣大中小社本殿以下諸建物別紙繪圖面之通ニテ造形同形之事  
 一本殿大社ノ分桁行三丈九尺中社ハ大社ヨリ桁行凡九尺ヲ減シ小社ハ中社ヨリ桁行凡五尺ヲ減シ候事  
 一中門大社ノ分桁行一丈六尺二寸五分中社ハ大社ヨリ桁行凡二尺五寸ヲ減シ小社ハ中社ヨリ桁行凡二  
 尺五寸ヲ減シ候事  
 一扉重門大社ノ分高一丈三尺中社ハ大社ヨリ凡二尺ヲ減シ小社ハ中社ヨリ凡一尺ヲ減シ候事  
 一鳥居大社ノ分高サ一丈四尺五寸中社ハ大社ヨリ凡二尺五寸小社ハ中社ヨリ凡一尺五寸之積リニ候事  
 一神庫大社ノ分十坪五合中社ハ八坪七合五勺小社ハ六坪ノ積リニ候事  
 一祭器藏大中小社共總テ神庫立坪之通ニ候事  
 一神饌所大社ノ分凡十五坪七合五勺中社ハ十四坪小社ハ十二坪之積リニ候事  
 一社務所大社ノ分立坪凡二十坪中社ハ十五坪七合五勺小社ハ十二坪之積リニ候事  
 一但大小便所附屬之事  
 一井戸三箇所ツ、大中小社共外玉垣内へ取設之事  
 一外玉垣四箇内大社ノ分凡二千坪中社凡千八百坪小社凡千五百坪ノ積リニ候事  
 一非常口四箇所通用口一箇所大中小社トモ同様之事  
 一諸官幣社之内出雲大社ヲ始メ遠古ヨリ造法別段由緒有之分ハ造營之節節取調之上夫夫可相伺候事  
 一式部察意見六年二月八日  
 一神社造營ノ儀ニ付繪圖面及一覽候處大藏省見込ノ通御治定相成可然候併シ神饌之舍神庫等ハ效部省見  
 込之通御創立相成度此段申上候也

官社ノ攝社及ヒ神原祭  
 器庫神庫所社務所等ノ  
 制限ヲ定ム

伺之通

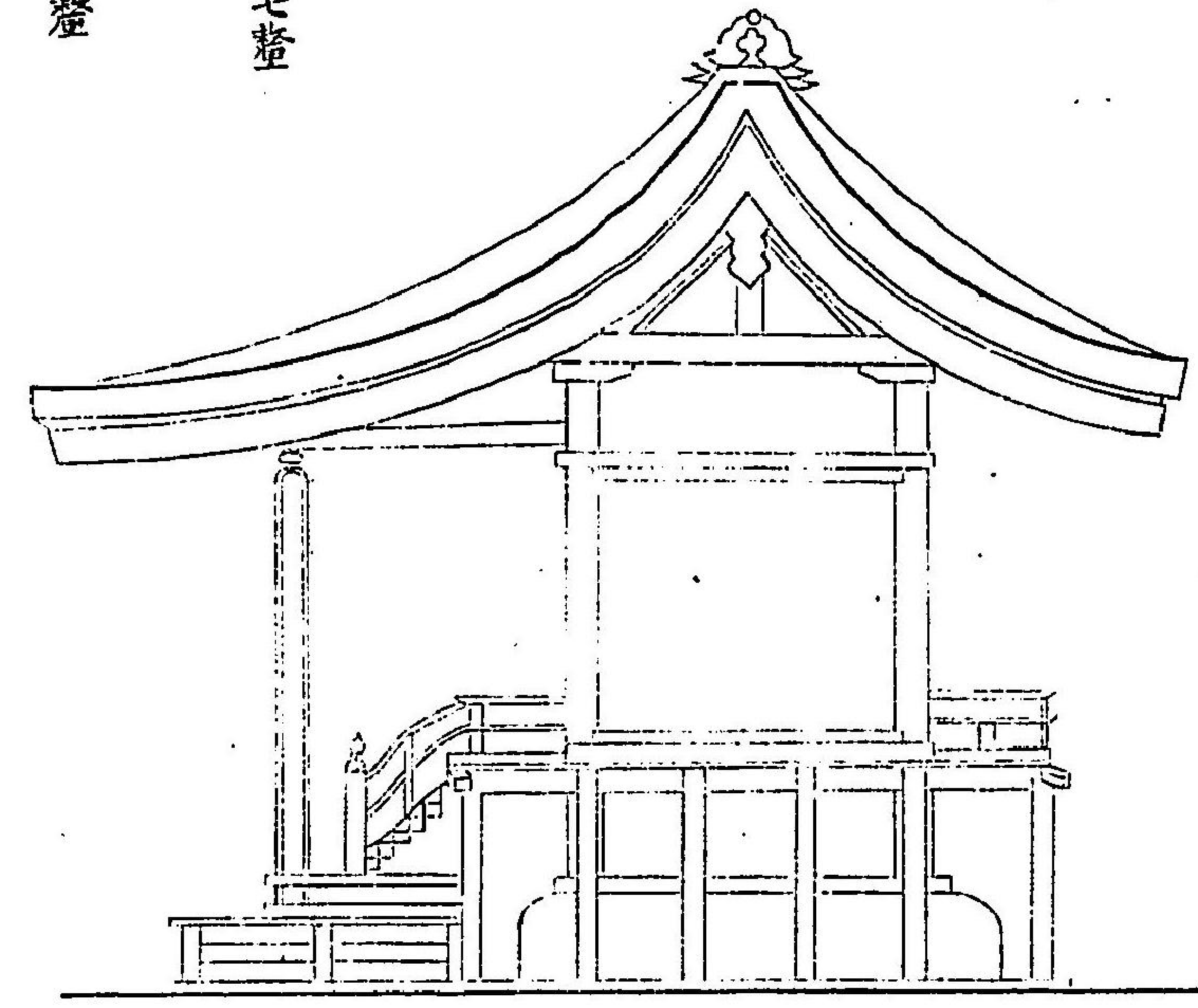
大藏省伺 六年四月二十日  
 官幣本社建坪制限之儀先般伺相濟候節攝社并神庫祭器庫神饌社務所并井戸等ノ各種效部省差出候圖面  
 ニ照シ本社ノ大小ニ準シ制限相立更ニ可伺出旨御達ニ付取調候處右之外未社并手水屋形等モ一同取極  
 メ置申度尤右等配置ノ都合ニ寄本社圖面敷部省ノ圖面トハ少シク差異ヲ生シ申候依テ一切ノ圖面相添  
 此段更ニ相伺候也  
 指令 六年四月二十二日

大社 攝社  
 攝共 坪數凡三坪六分



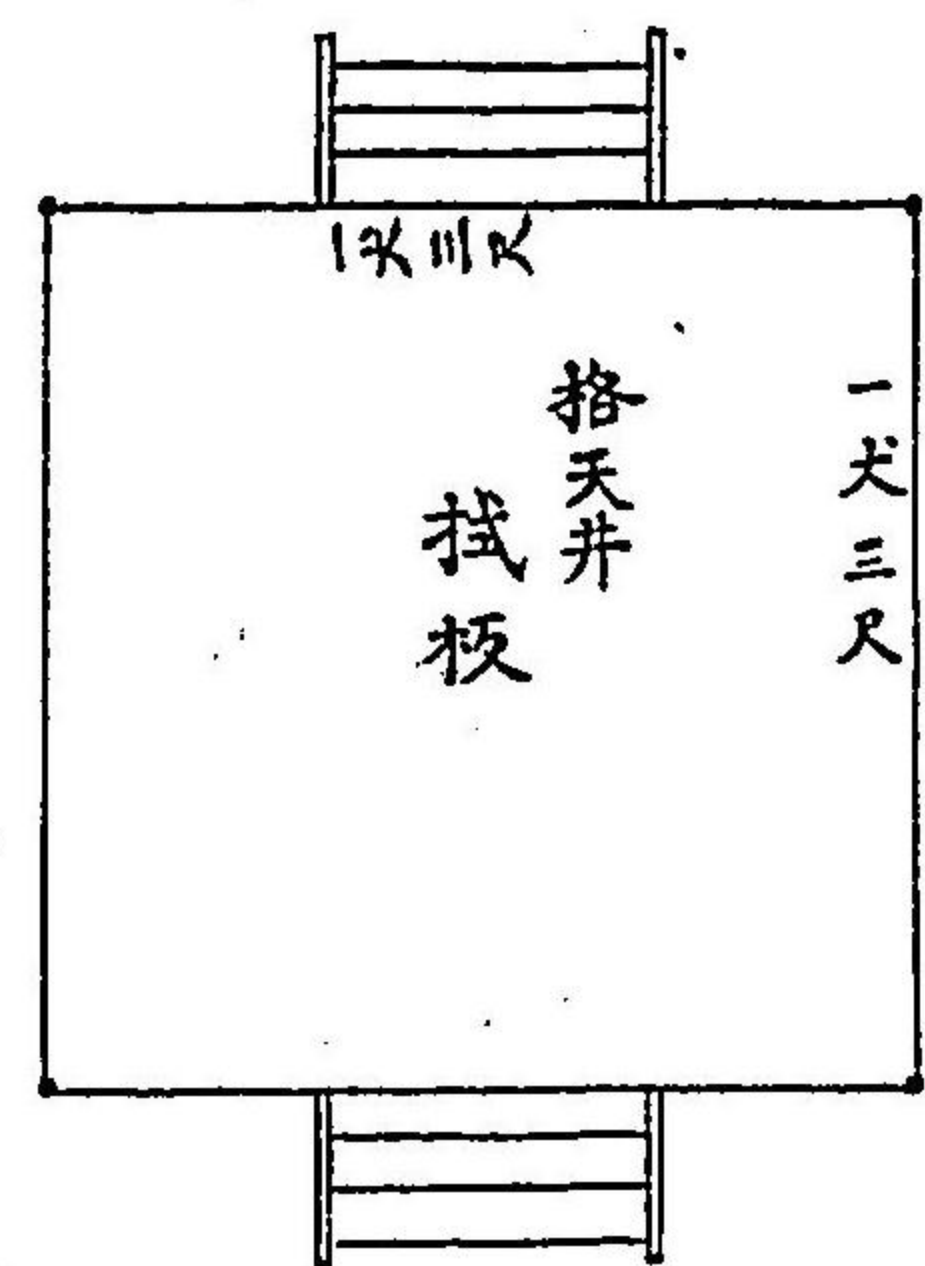
中社 攝社  
 梁行八尺八寸 桁行五尺五寸 椽共 坪數凡二坪六分七釐  
 椽幅一尺八寸

小社 攝社  
 梁行七尺二寸 桁行四尺五寸 椽共 坪數凡一坪七分七釐  
 椽幅一尺四寸五分



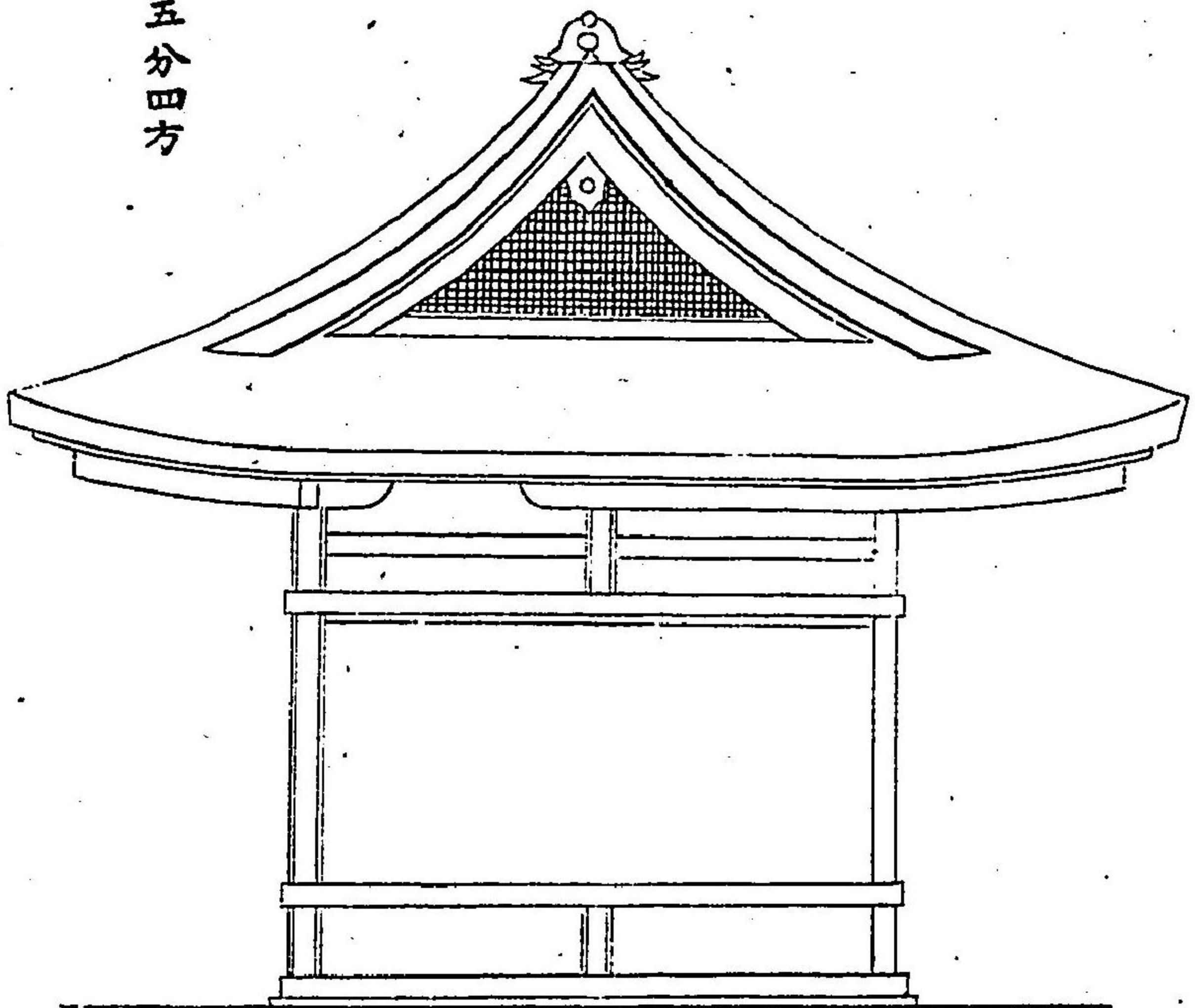


大社  
攝社拜殿



中小社  
攝社拜殿

九尺七寸五分四方



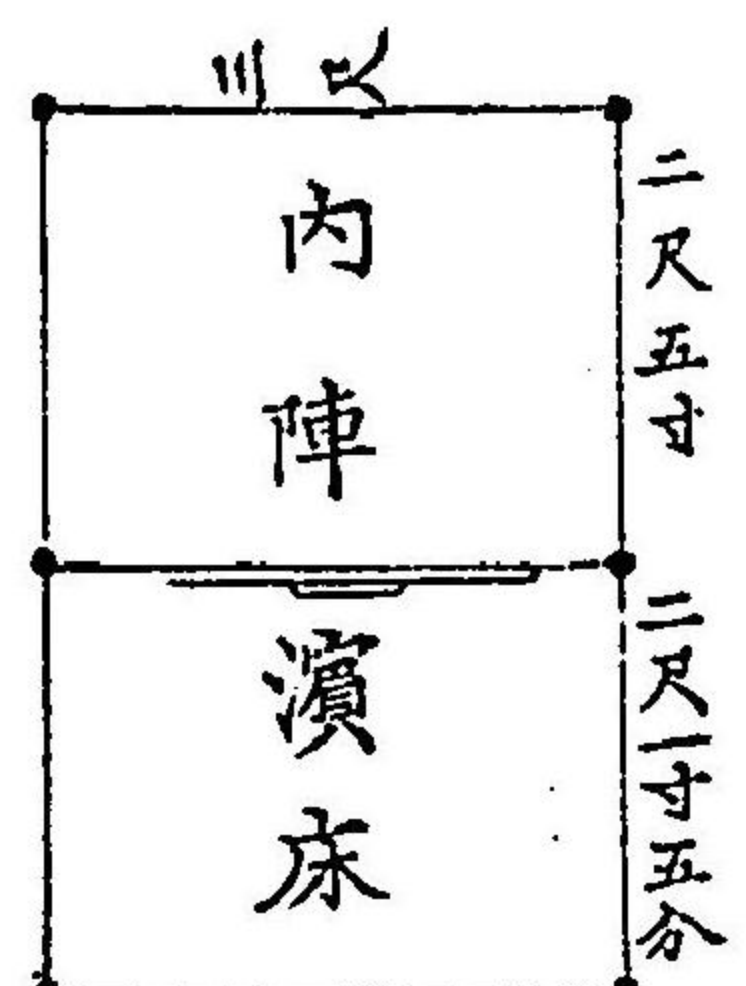
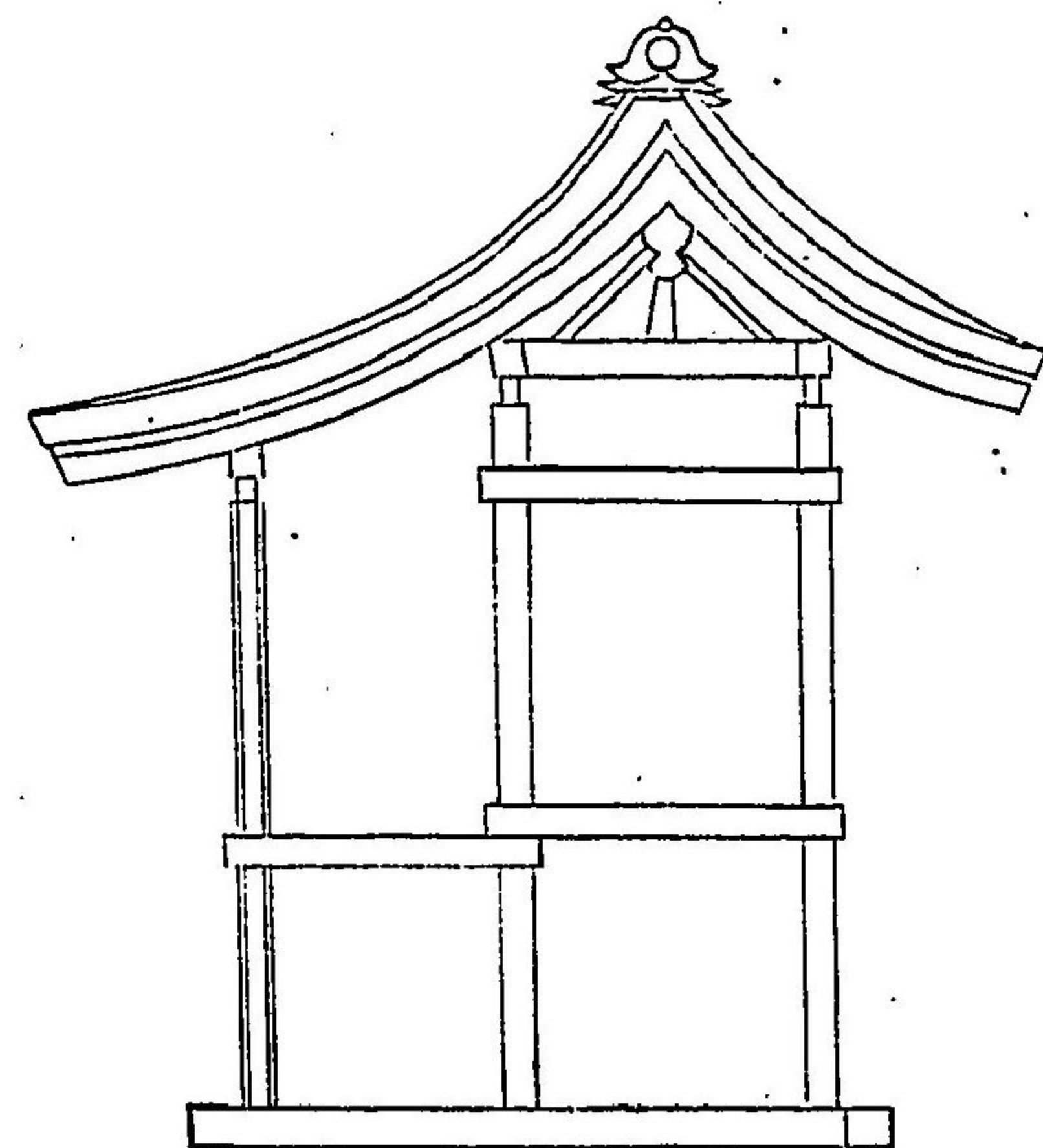
大社  
末社

中社  
末社

小社  
末社

梁行三尺九寸  
桁行二尺五寸

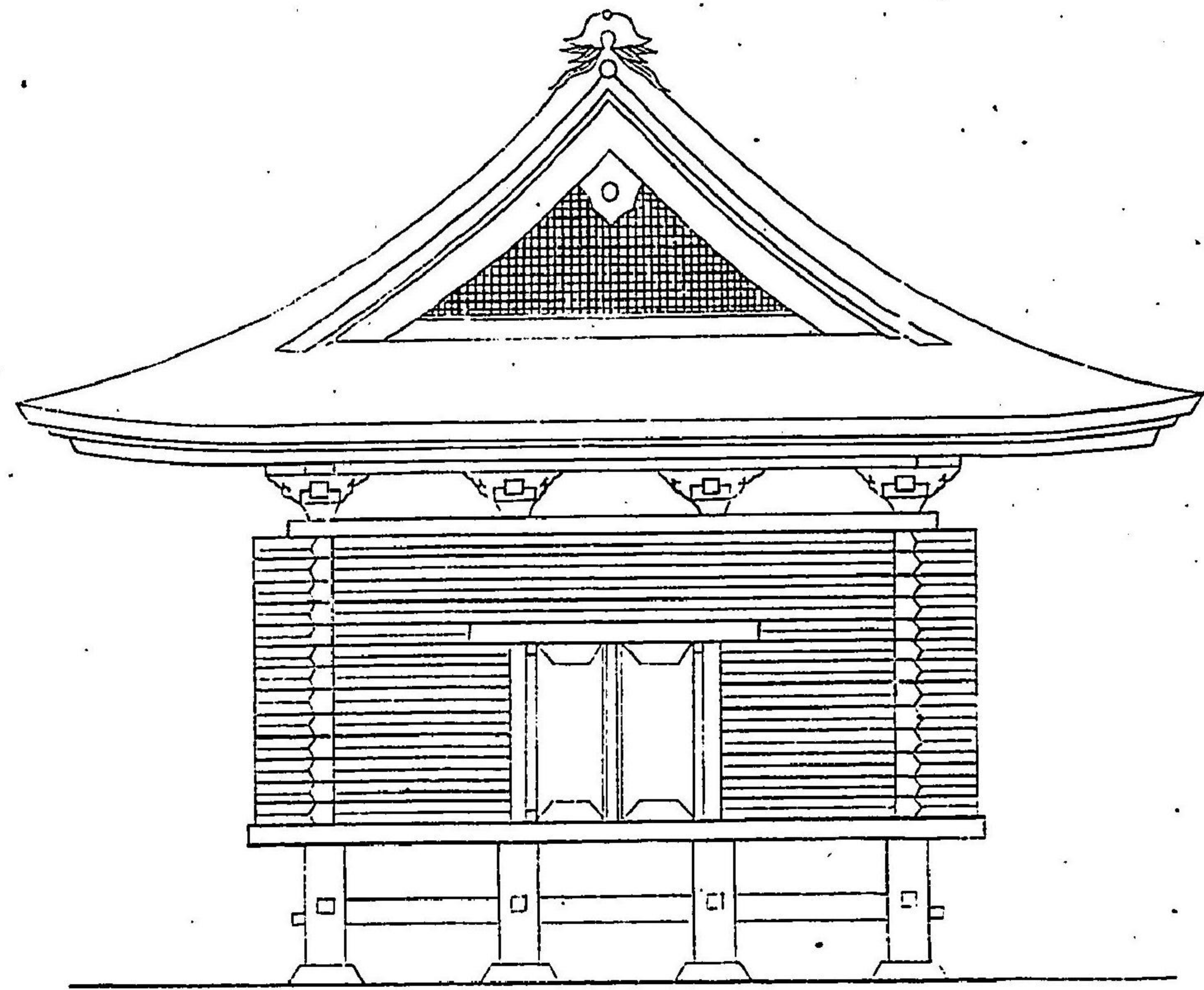
梁行三尺二寸  
桁行二尺



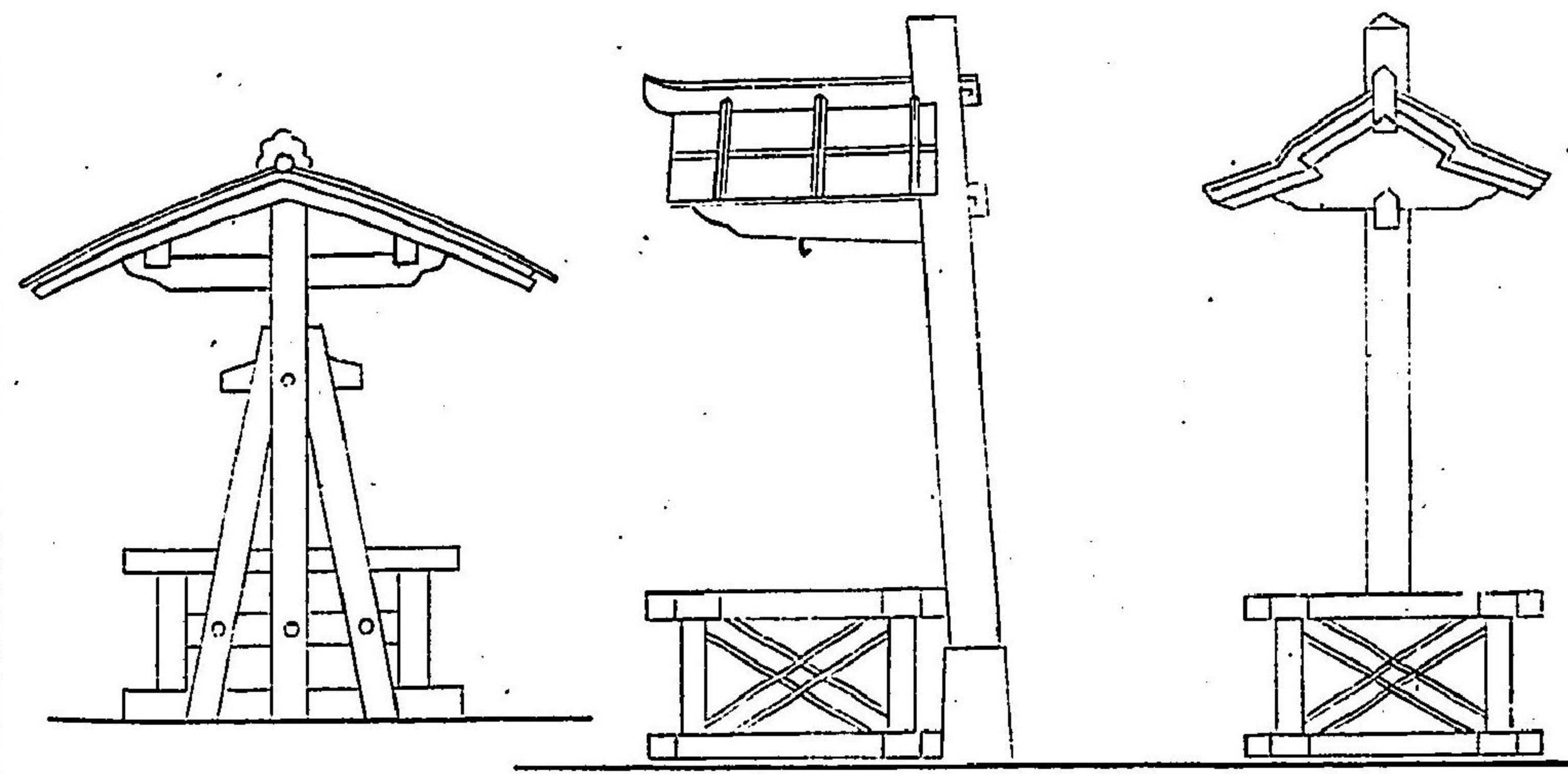
二尺五寸  
二尺一寸五分



小社 神庫	中社 神庫	大社 神庫
二間半	三間半	三間四方

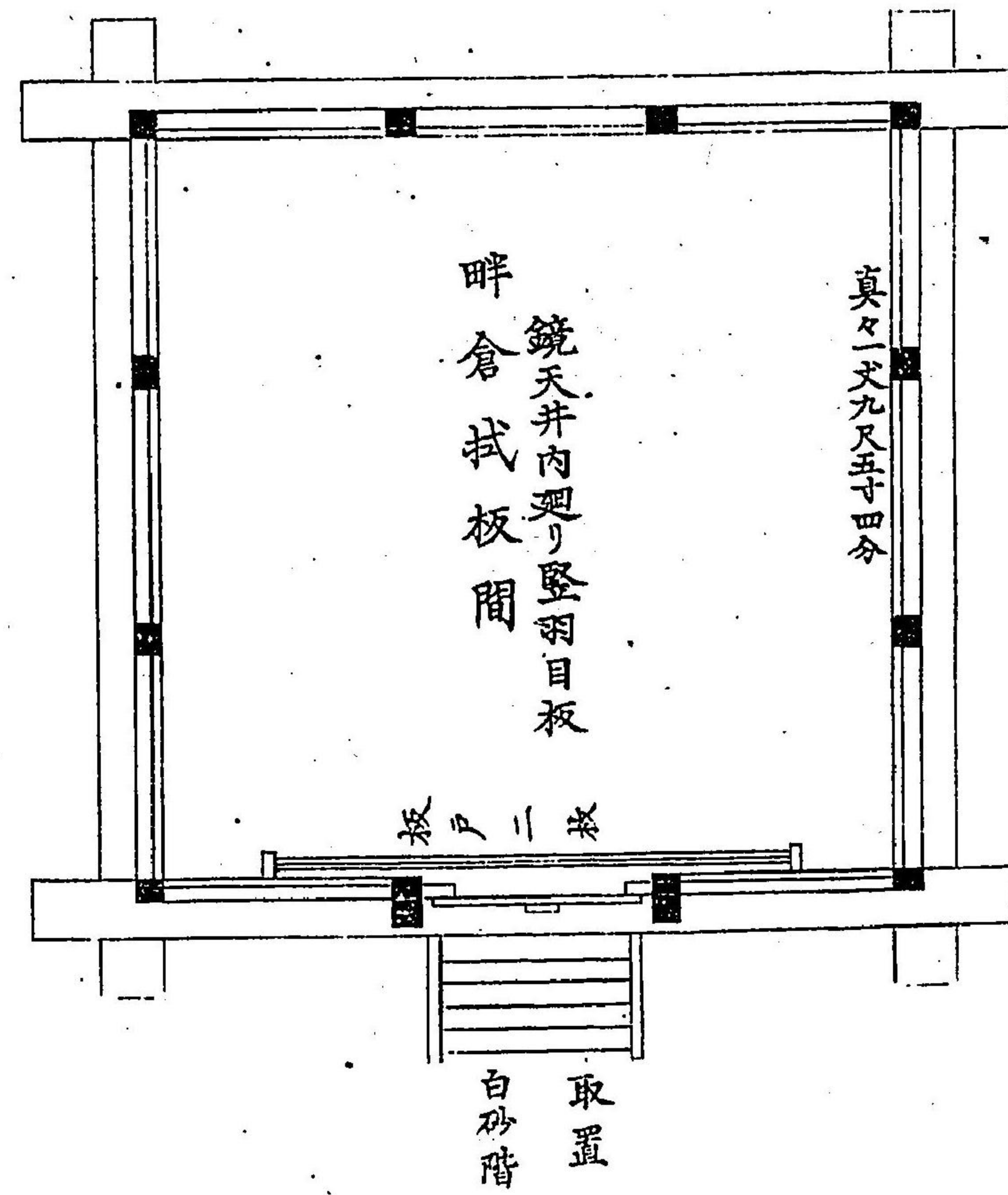
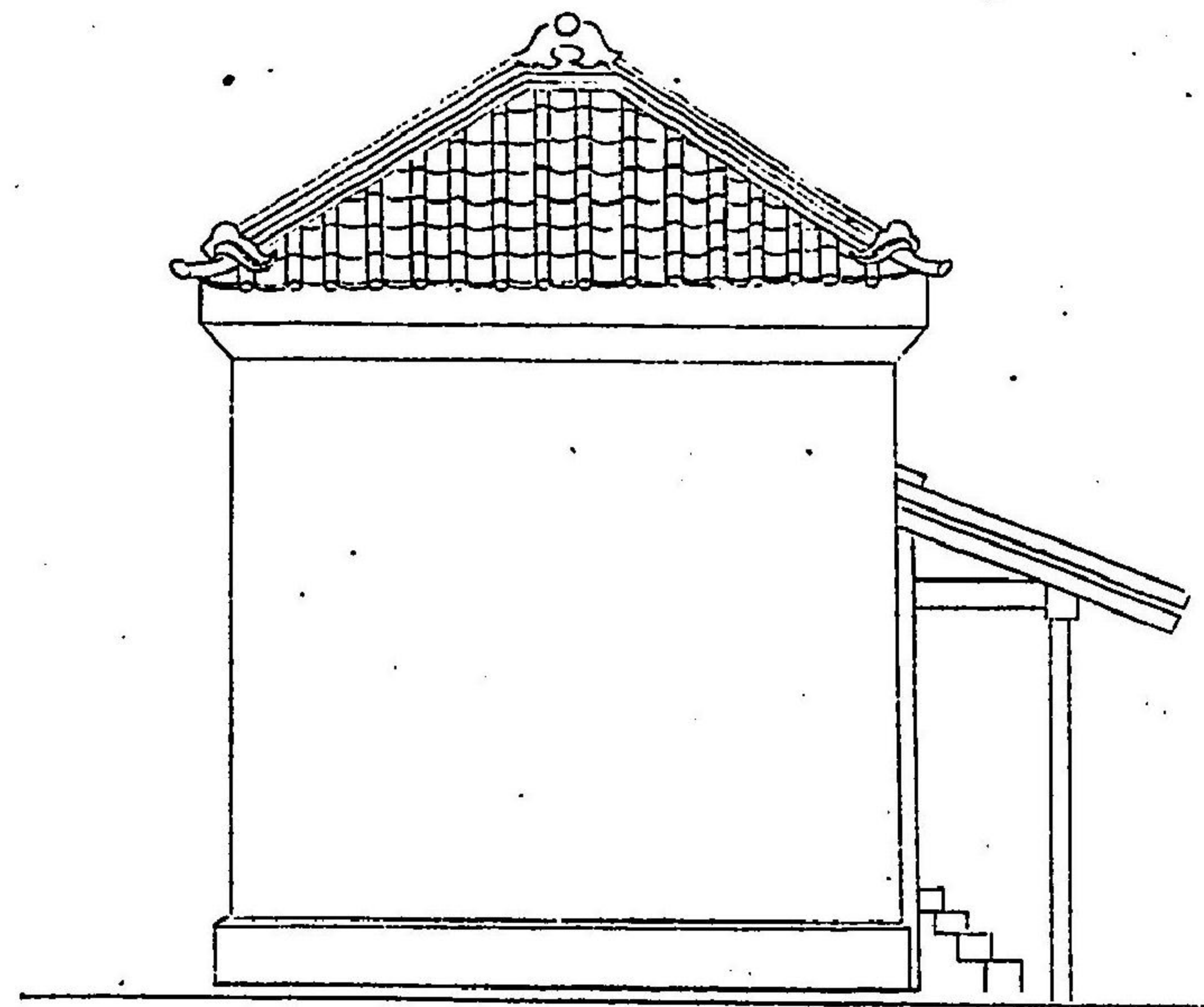


井戸屋形  
但大中小共同断



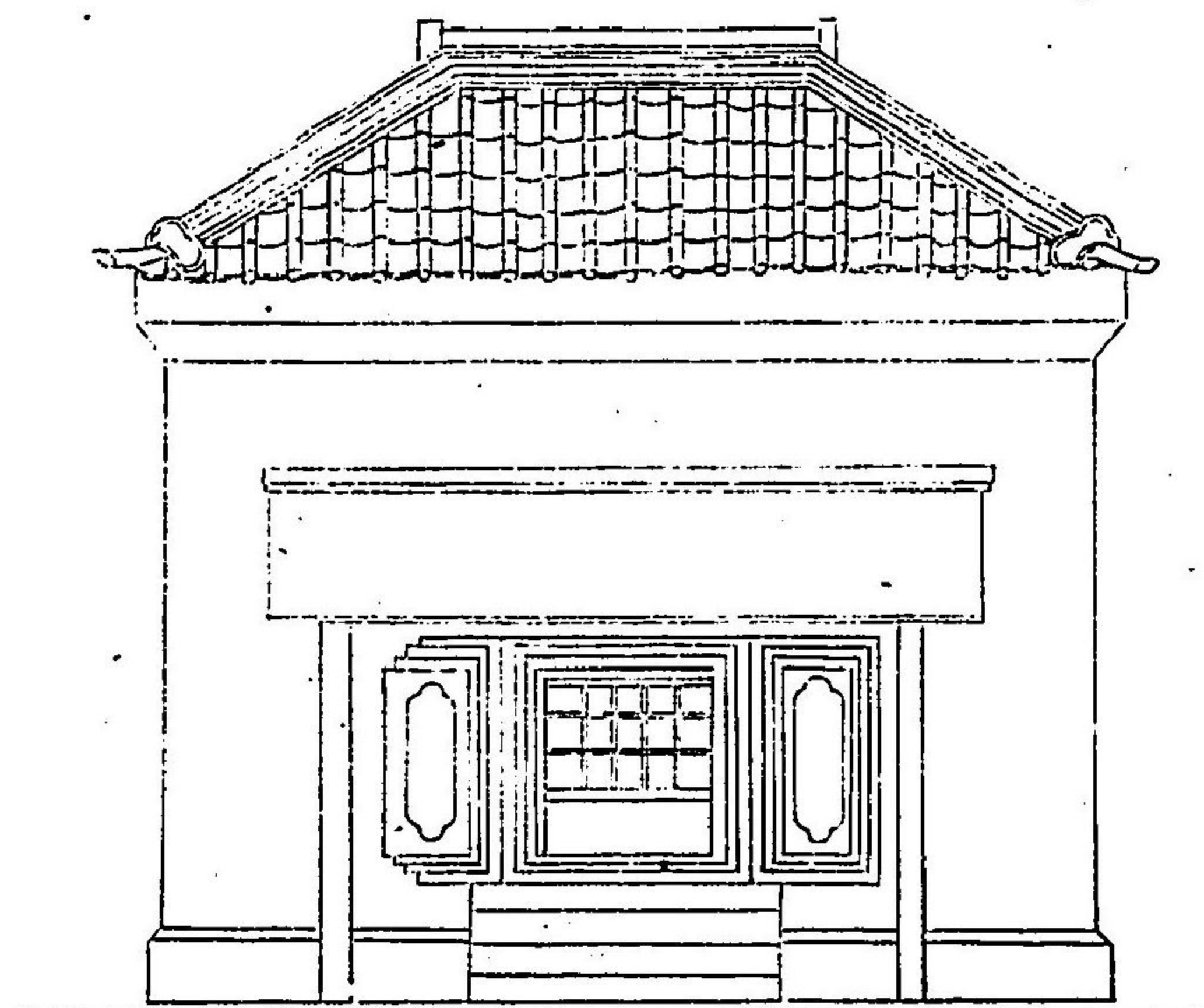
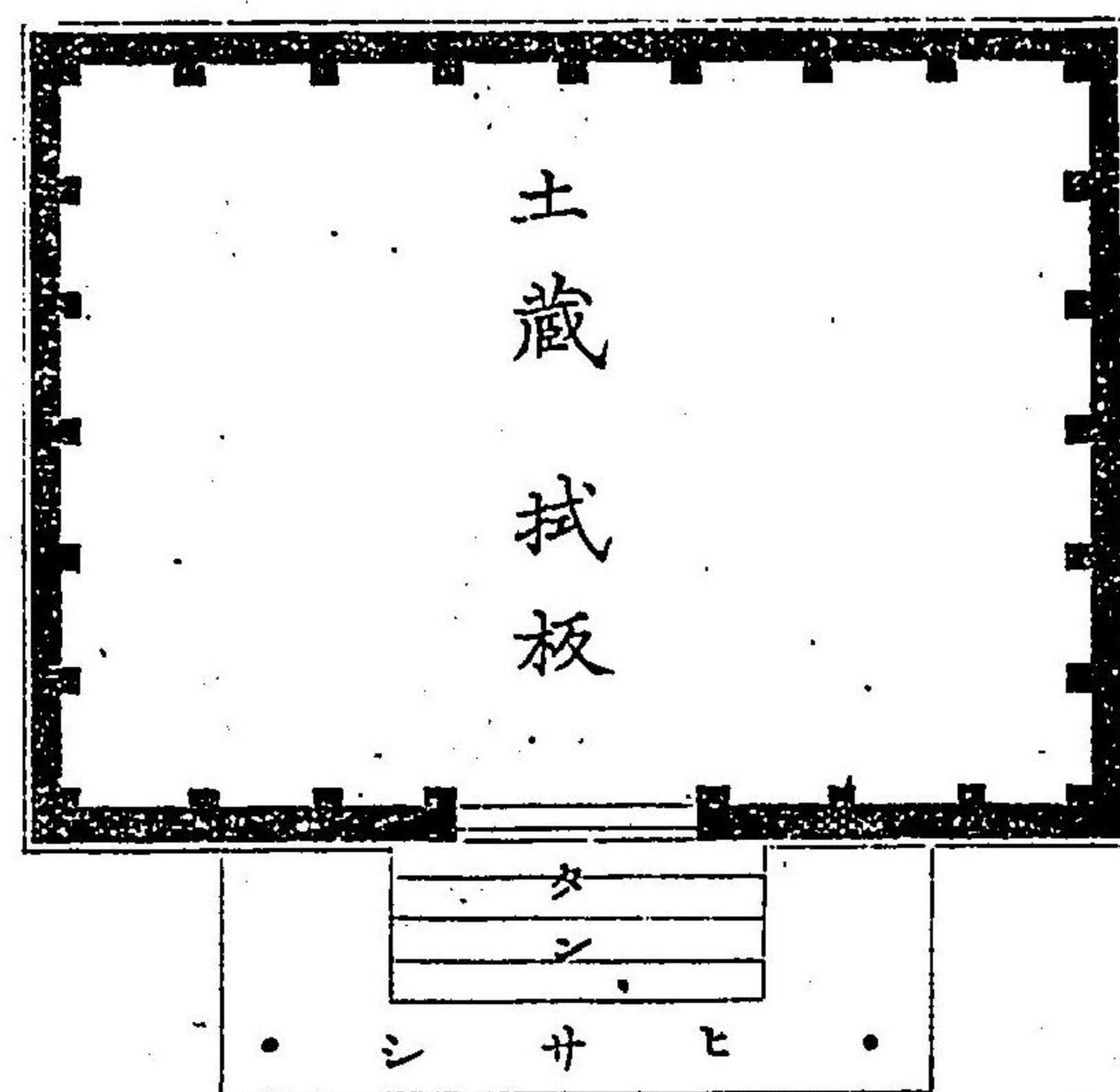
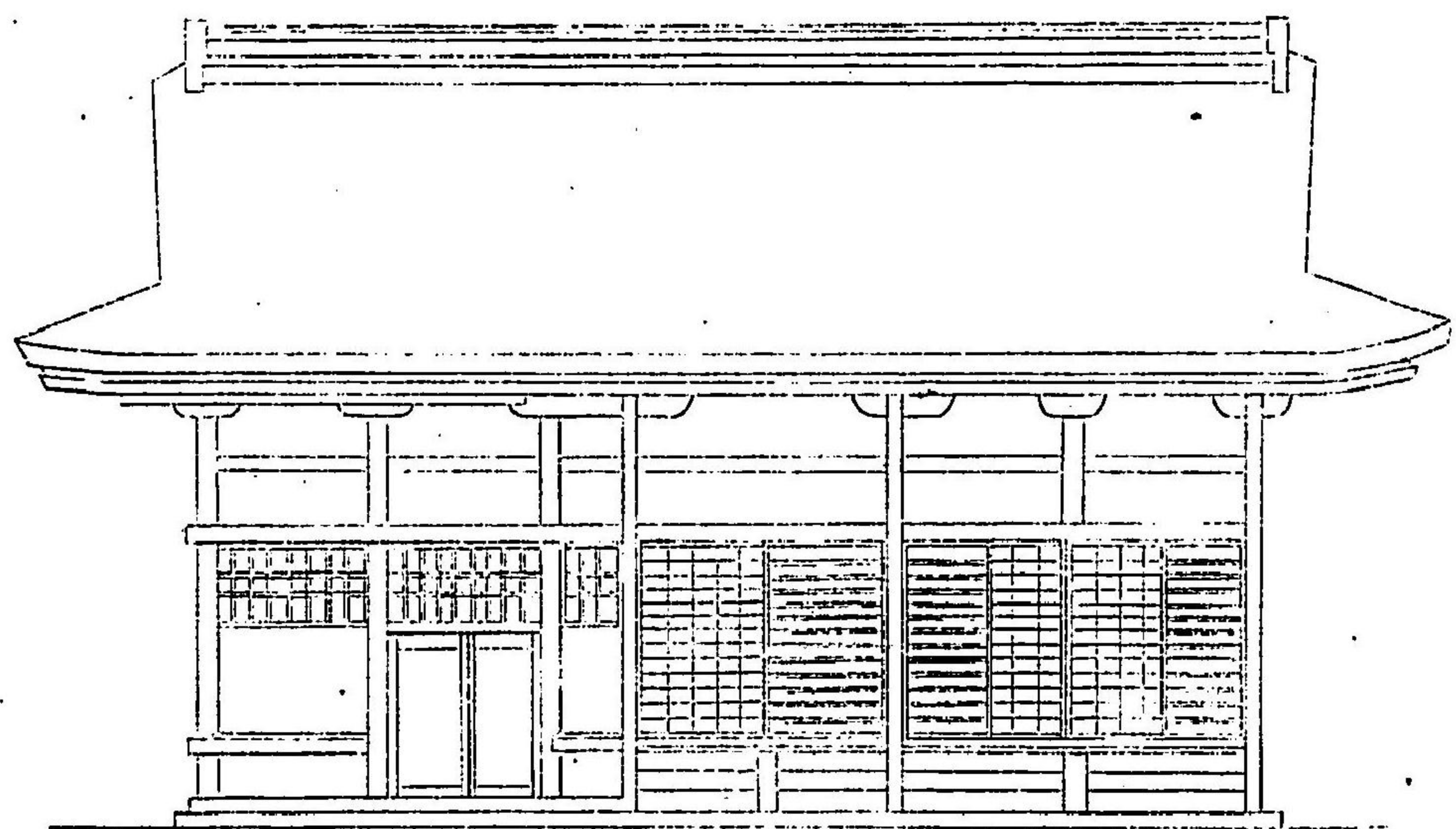
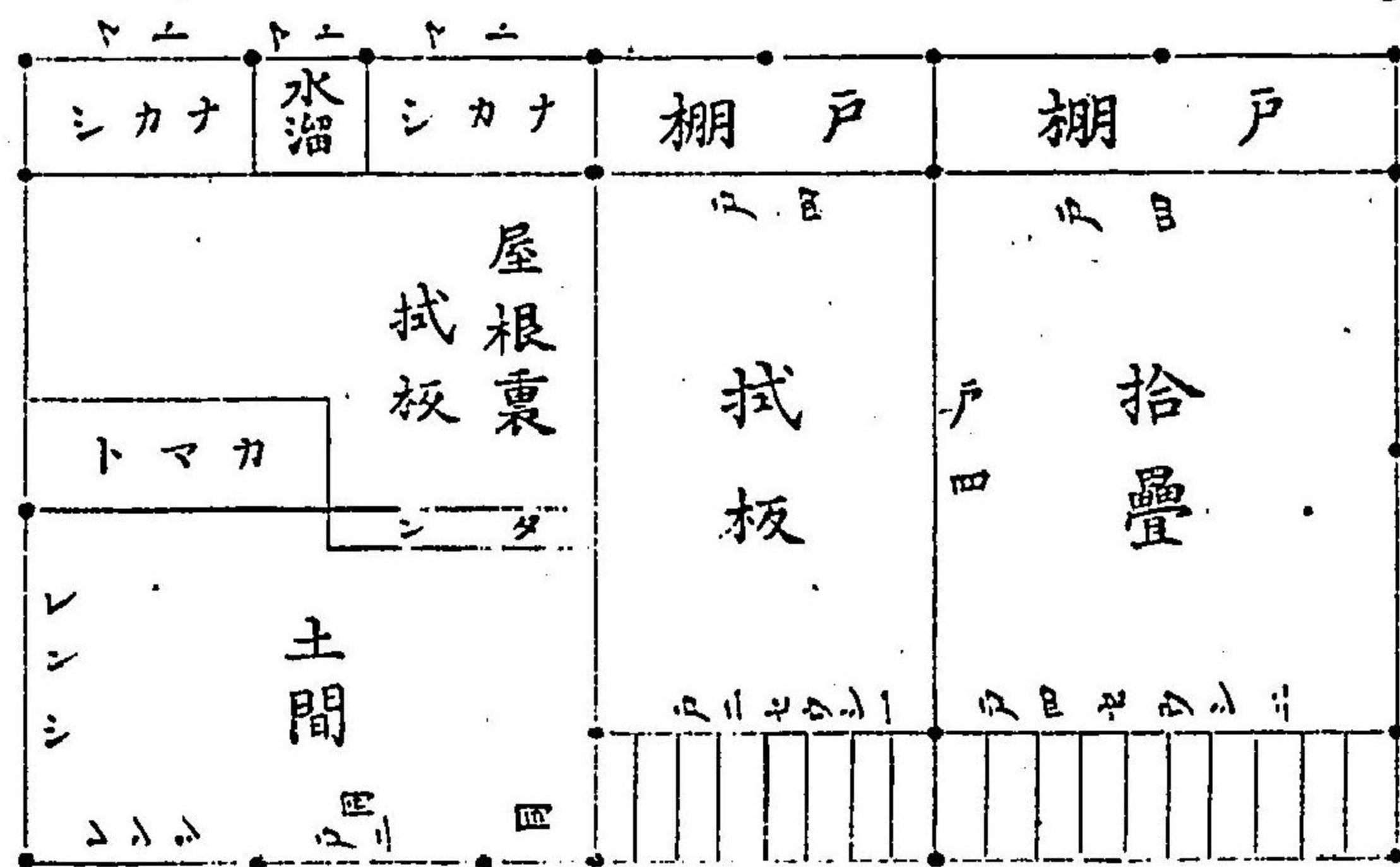


小社	中社	大社
祭器庫	祭器庫	祭器庫
三間半	四間半	四間
二間半	二間半	三間
庇	庇	庇
三間	三間	三間
一間	一間	一間





大社 神饌所 三間半 六間半  
 中社 神饌所 三間半 五間半  
 小社 神饌所 三間 五間





大社 社務所 三間半  
 中社 社務所 六間  
 小社 社務所 三間半  
 五間

